東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告

－ 平成15年度 －

2004. 3

東大阪市教育委員会

東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告

－ 平成15年度 －

2004. 3

東大阪市教育委員会

例　　言

1．本書は、東大阪市教育委員会文化財課が、東大阪市建設局下水道部の委託を受け、平成15年1月～11月末日まで実施した公共下水道管きょ築造工事などに伴う埋蔵文化財調査の概要報告である。

2．本書には出雲井遺跡群・水走氏館跡・河内寺跡・客坊山遺跡群・鬼塚遺跡・和泉遺跡・足立氏館跡・花草山古墳群・コモ田遺跡・日下遺跡・芝ヶ丘遺跡・半堂遺跡・西ノ辻遺跡・額田寺跡・馬場遺跡・鬼虎川遺跡・衣摺遺跡・上六万寺遺跡・みかん山古墳群・芝坊主山遺跡・船山遺跡・善根寺遺跡・池端遺跡・岩滝山遺跡・山畑古墳群・馬場川遺跡・北屋敷遺跡・河内寺跡・植附遺跡・段上遺跡・縄手遺跡・若宮古墳群の概要を収録した。

3．現場は才原金弘・木村健明・吉岡賢吾・福瀬哲生・川本紀子、遺物整理は現場担当者がおこない、報告の分担は各章の表に記した。

4．本書に収録した現場写真は、各担当者が撮影し、遺物は株式会社スタジオＧ．Ｆプロに委託して実施した。

5．土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準じている。

6．調査の実施にあたっては、東大阪市建設局下水道部のご協力のもと、施工業者ならびに近隣市民の方々のご協力を賜った他、現場作業および整理作業には森山太一、篠田広貴、中谷勇介、堀川敬央、安部賢治、荒井啓有、大西健吾、頭師典孝、北野行信、杉本篤志、内藤隆、野口達也、野田忠良、広瀬八郎、山口宏樹、吉川和成、岡本有子、西尾さつき、北口佳栄、重信美香が従事した。これらの方々に記して感謝いたします。

目　　次

第１章　平成15年度の下水道関係調査について …… 1
第２章　出雲井遺跡群の調査…… 4
第３章　水走氏館跡・河内寺跡・客坊山遺跡群の調査…… 9
第４章　鬼塚遺跡の調査 ……14
第５章　和泉遺跡の調査 ……16
第６章　足立氏館跡の調査 ……18
第７章　花草山古墳群の調査 ……20
第８章　コモ田遺跡の第４次調査 ……22
第９章　日下遺跡の調査 ……26
第10章　芝ヶ丘遺跡の調査 ……28
第11章　半堂遺跡の第３次調査 ……30
第12章　西ノ辻遺跡・額田寺跡の調査 ……38
第13章　馬場・芝ヶ丘遺跡の調査 ……40
第14章　鬼虎川・鬼塚・西ノ辻遺跡の調査 ……44
第15章　衣摺遺跡の調査 ……46
第16章　上六万寺遺跡の第８次調査 ……48
第17章　出雲井遺跡群・みかん山古墳群の調査 ……55
第18章　日下遺跡の調査 ……57
第19章　芝坊主山遺跡の調査 ……65
第20章　船山遺跡の第６次調査 ……67
第21章　善根寺・池端遺跡の調査 ……75
第22章　日下遺跡の調査 ……77
第23章　鬼塚遺跡・東高野街道の調査 ……79
第24章　岩滝山遺跡の第９次調査 ……81
第25章　岩滝山遺跡の調査 ……95
第26章　鬼塚遺跡の調査 ……97
第27章　山畑古墳群の調査 ……103
第28章　山畑古墳群の調査 ……105
第29章　馬場川・北屋敷遺跡の調査 ……107
第30章　鬼塚遺跡の第28次調査 ……113
第31章　河内寺跡の調査 ……121
第32章　植附遺跡の調査 ……125
第33章　山畑古墳群の調査 ……129
第34章　段上・縄手遺跡の調査 ……131
第35章　足立氏館跡の調査 ……133
第36章　若宮古墳群の調査 ……137

第１章　平成15年度の下水道関係調査について

下水道管埋設工事に伴う発掘調査を平成11年度より東大阪市教育委員会が実施しており、６年が経過した。下水道工事はほとんどが東地区を中心におこなわれた。

今年度の調査件数及び調査内容の概略は下記の調査一覧表に記した。調査にあたり下水道部と文化財課で協議したが、今年も工事は道幅の狭い旧集落内や道路の迂回路が確保できない場所が多く立会調査が中心になった。また、交通量の問題から夜間工事になり、調査を断念した遺跡もある。

今年度の調査では半堂遺跡や岩滝山遺跡から埴輪などが出土した。人物などの形象埴輪と円筒埴輪がある。当時期の古墳が存在する可能性があることが確認できたことは大きな成果である。また、船山遺跡や上六万寺遺跡からも多量の土器が出土している。

今回の収録した調査は平成15年１月１日より11月30日までに実施したものを対象とし、それ以後のものは次年度に報告することにした。

平成15年度下水道工事に伴う埋蔵文化財の調査一覧表

平成15年11月30日

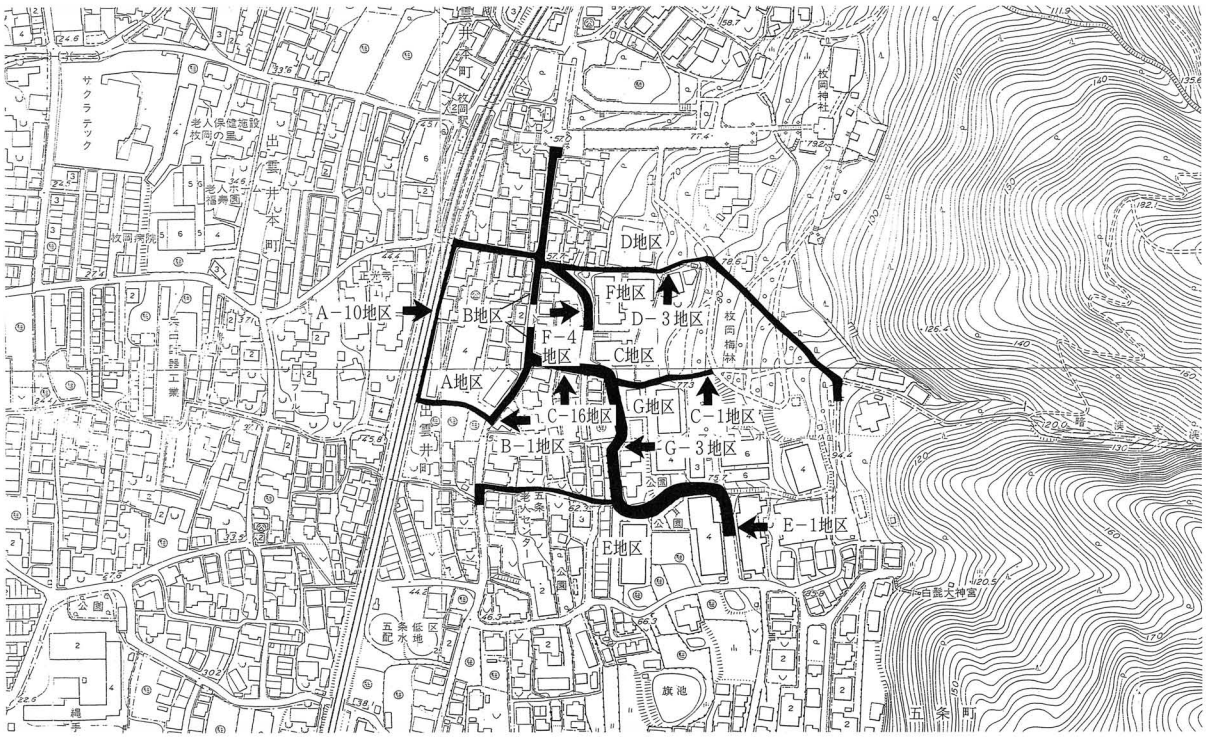
	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
1	13－115	下事68	出雲井遺跡群	平成12年度公共下水道第12－３工区管きょ築造工事	出雲井町	立会	13.9.25～15.5.1	第２章で報告。
2	13－449	下事201	水走氏館跡	平成12年度公共下水道第12－３工区管きょ築造工事	五条町1319、1213	立会	14.3.14～15.6.5	第３章で報告。
3	13－450	下事217	河内寺跡	平成12年度公共下水道第12－３工区管きょ築造工事	客坊町700地先	立会	同上	同上
4	13－451	下事216	客坊山古墳群	平成12年度公共下水道第12－３工区管きょ築造工事	客坊町1570地先	立会	同上	同上
5	14－88	下事38	鬼塚遺跡	平成13年度公共下水道第59工区管きょ築造工事	箱殿町・豊浦町	立会	14.6.19～15.1.10	第４章で報告。
6	14－201	下事73	和泉遺跡	平成13年度公共下水道第56工区管きょ築造工事	布市町2丁目567-1他	発掘	14.8.19～15.1.24	第５章で報告。
7	14－457	下事145	足立氏館跡	平成13年度公共下水道第71工区管きょ築造工事	善根寺町６丁目26・27	立会	15.1.28～15.1.29	第６章で報告。
8	14－564	下事174	花草山古墳群	平成13年度公共下水道第69工区管きょ築造工事	上四条町1202-7～1415-3	立会	14.11.27～15.1.24	第７章で報告。
9	14－567	下事180	コモ田遺跡	平成14年度公共下水道第104工区管きょ築造工事	下六万寺1丁目420-4他	立会	14.9.26～15.2.14	第８章で報告。
10	14－650	下事196	日下遺跡	平成14年度公共下水道第８工区管きょ築造工事	日下町2丁目1122-2～1421-1	立会	15.1.6～15.3.6	第９章で報告。
11	14－674	下事201	芝ヶ丘遺跡	平成14年度公共下水道第20工区管きょ築造工事	中石切町4丁目1413-9～1413-31他	立会	14.11.29～15.1.20	第10章で報告。
12	14－675	下事203	孤塚・皿池遺跡	平成14年度公共下水道第21工区管きょ築造工事	喜里川町85-1～101-9	立会		平成14年10月24受付
13	14－684	下事205	半堂遺跡	平成14年度公共下水道第12工区管きょ築造工事	六万寺町1丁目172-2他	立会	15.3.4～15.5.7	第11章で報告。
14	14－722	下事217	西ノ辻・額田寺跡	平成14年度公共下水道第11工区管きょ築造工事	東山町728他	立会	15.1.14～15.5.23	第12章で報告。
15	14－765	下事237	瓜生堂遺跡	平成14年度公共下水道第109工区管きょ築造工事	瓜生堂３丁目、若江西新町１丁目	慎重		工事実施。

	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
16	15－8	下事5	馬場・芝ヶ丘遺跡	平成14年度公共下水道第25工区管きょ築造工事	北石切町1428-7他	立会	15.4.4～15.5.16	第13章で報告。
17	15－9	下事4	鬼虎川遺跡他	平成14年度公共下水道第7工区管きょ築造工事	宝町1747-4～1767-4他	立会	15.1.31	第14章で報告。
18	15－28	下事10	衣摺遺跡	長瀬小学校貯留浸透工事	衣摺5丁目110-1、2他	確認	15.2.6	第15章で報告。
19	15－193	下事54	上六万寺遺跡	平成14年度公共下水道第16工区管きょ築造工事	上六万寺町1421-2～1429-16他	立会	15.5.1～15.11.27	第16章で報告。
20	15－194	下事70	鬼虎川遺跡	平成14年度公共下水道第50工区管きょ築造工事	弥生町1334-1～1508-4	慎重		発掘調査済の部分。工事実施。
21	15－195	下事74	芝ヶ丘遺跡	平成14年度公共下水道第46工区管きょ築造工事	北石切町1935、2214他	立会	15.4.21～	調査中。
22	15－196	下事48	出雲井遺跡群他	平成14年度公共下水道第30工区管きょ築造工事	東豊浦町443-25～931-2他	立会	15.5.13～15.10.28	第17章で報告。
23	15－209	下事82	日下遺跡	平成14年度公共下水道第51工区管きょ築造工事	日下町3丁目1410-1～1420他	立会	15.5.6～15.9.30	第18章で報告。
24	15－210	下事86	植附・神並遺跡	平成14年度公共下水道第111工区管きょ築造工事	西石切町1丁目764-10～764-13	立会		業者の事前着工のため調査できなかった。
25	15－211	下事87	芝坊主山遺跡	平成14年度公共下水道第48工区管きょ築造工事	東石切町6丁目1672-41～1672-49	立会	15.4.3～15.11.21	第19章で報告。
26	15－240	下事96	船山遺跡	平成14年度公共下水道第33工区管きょ築造工事	六万寺町3丁目599-11～603-8他	立会	15.5.27～15.11.7	第20章で報告。
27	15－241	下事97	植附遺跡	平成14年度公共下水道第52工区管きょ築造工事	西石切町2丁目	立会		工事内容の変更により取り下げ。
28	15－279	下事89	善根寺・池端遺跡	平成14年度公共下水道第59工区管きょ築造工事	善根寺町1丁目784～801	立会	15.5.9～10.6.27	第21章で報告。
29	15－280	下事103	日下遺跡	平成年14度公共下水道第26工区管きょ築造工事	日下町7丁目767-7～767-24	立会	15.6.9～15.6.27	第22章で報告。
30	15－335	下事112	鬼塚遺跡・東高野街道	平成14年度公共下水道第14－8工区管きょ築造工事	箱殿町	立会	15.9.3～15.10.9	第23章で報告。
31	15－336	下事113	岩滝山遺跡	平成14年度公共下水道第23工区管きょ築造工事	上六万寺町1519-3～1548-2他	立会	15.5.30～15.8.7	第24章で報告。
32	15－337	下事115	出雲井遺跡群	平成14年度公共下水道第14－4工区管きょ築造工事	東豊浦町844-3他	立会	15.6.4～	調査中。
33	15－354	下事125	岩滝山遺跡	平成14年度公共下水道管きょ築造工事（2－5）	上六万寺町1563-3～1569	立会	15.8.4～15.10.17	第25章で報告。
34	15－403	下事132	鬼塚遺跡	平成14年度公共下水道第24工区管きょ築造工事	箱殿町469-19～469-24他	立会	15.6.4～15.10.31	第26章で報告。
35	15－404	下事133	山畑古墳群	平成14年度公共下水道第34工区管きょ築造工事	瓢箪山町4～34	立会	15.6.9～15.8.8	第27章で報告。
36	15－405	下事134	山畑古墳群	平成14年度公共下水道第56工区管きょ築造工事	上四条町2044他	立会	15.7.2～15,7,17	第28章で報告。
37	15－406	下事136	馬場川・北屋敷遺跡	平成14年度公共下水道第27工区管きょ築造工事	横小路町3丁目125～144他	立会	15.6.9～15.10.2	第29章で報告。
38	15－407	下事135	鬼塚遺跡	平成14年度公共下水道第53工区管きょ築造工事	豊浦町635～636他	立会	15.5.27～15.10.28	第30章で報告。
39	15－455	下事152	芝ヶ丘遺跡他	平成14年度公共下水道第39工区管きょ築造工事	日下町2丁目1508	立会	15.10.9～	調査中。
40	15－456	下事156	植附遺跡	平成14年度公共下水道第45工区管きょ築造工事	中石切町1丁目449他	立会		平成15年6月23日受付

	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
41	15－457	下事153	暗峠越奈良街道	平成14年度公共下水道第43工区管きょ築造工事	豊浦町662～669、670～675	慎重		工事実施。
42	15－458	下事157	神並古墳群他	枚岡河内中央幹線(９工区)管渠築造工事	東石切町２丁目、上石切町１丁目1	立会	15.7.3～	調査中。
43	15－459	下事155	鬼虎川遺跡	平成14年度公共下水道第14－５工区管きょ築造工事	弥生町1408-6～1414-1他	慎重		工事実施。
44	15－482	下事161	正法寺山遺跡	枚岡河内北幹線(第13工区)管渠築造工事	日下町１丁目1019～1581-1	立会	15.10.7～	立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。
45	15－530	下事169	河内寺跡	平成14年度公共下水道第117工区管きょ築造工事	河内町414-7～416	立会	15.8.27～15.12.1	第31章で報告。
46	15－531	下事170	植附遺跡	平成14年度公共下水道第52工区管きょ築造工事	西石切町２丁目487-17～603	発掘	15.9.1～15.10.24	第32章で報告。
47	15－574	下事181	半堂遺跡	平成15年度公共下水道第12工区管きょ築造工事	善根寺町１丁目46～52	立会		業者の事前着工のため調査できなかった。
48	15－575	下事182	市尻遺跡・山畑古墳群	平成14年度公共下水道第27工区管きょ築造工事	瓢箪山町、四条町	立会	15.10.30～	調査中。
49	15－617	下事212	鬼塚・西ノ辻遺跡	平成15年度公共下水道第26工区管きょ築造工事	南荘町310～344他	立会	15.10.9～	調査中。
50	15－618	下事211	北鳥池遺跡	平成15年度公共下水道第13工区管きょ築造工事	池島町３丁目1034他	立会		平成15年８月13日受付
51	15－652	下事217	額田寺跡	平成15年度公共下水道第21工区管きょ築造工事	東山町784～786	立会		平成15年９月１日受付
52	15－653	下事218	楽音寺遺跡	平成14年度公共下水道第54工区管きょ築造工事	横小路町４丁目1422他	慎重		工事実施。
53	15－654	下事221	植附遺跡	平成14年度公共下水道第44工区管きょ築造工事	中石切町１丁目449他	慎重		工事実施。
54	15－682	下事223	山畑古墳群	平成14年度公共下水道管きょ築造工事(１－７)	上四条町376	立会	15.9.26～15.9.29	第33章で報告。
55	15－683	下事224	段上・縄手遺跡	平成14年度公共下水道管きょ築造工事(１－11)	六万寺町３丁目1329～1330	立会	15.10.1～15.10.17	第34章で報告。
56	15－707	下事237	足立氏館跡	平成15年度公共下水道第22工区管きょ築造工事	善根寺町６丁目9～13	立会	15.10.17～15.11.4	第35章で報告。
57	15－708	下事238	若宮古墳群	平成15年度公共下水道第27工区管きょ築造工事	箱殿町867～988	立会	15.10.30～15.11.13	第36章で報告。
58	15－709	下事239	鬼塚遺跡	平成15年度公共下水道第206工区管きょ築造工事	南荘町70～94	立会	15.11.14～	調査中。
59	15－710	下事240	千手寺山遺跡	平成14年度公共下水道管きょ築造工事(３－４)	東石切町４丁目363	立会		平成15年９月25日受付
60	15－711	下事241	花草山古墳群	平成14年度公共下水道第35工区管きょ築造工事	上四条町1077他	立会	15.10.9～	調査中。
61	15－712	下事242	市尻遺跡	平成15年度公共下水道第18工区管きょ築造工事	四条町569～570	立会		平成15年９月25日受付
62	15－713	下事243	下六万寺遺跡	平成15年度公共下水道第201工区管きょ築造工事	下六万寺町３丁目	立会		平成15年９月25日受付
63	15－739	下事246	正法寺山遺跡	平成14年度公共下水道第36工区管きょ築造工事	日下町１丁目1021～1022	立会	15.9.30～15.10.7	立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。
64	15－762	下事254	神並遺跡	東大阪市公共下水道(近鉄線近接部)管きょ築造工事のうち平成15年度(その１)工事	東石切町１丁目920-5他	立会	15.11.14～	調査中。
65	15－763	下事255	千手寺山遺跡	平成15年度公共下水道第14工区管きょ築造工事	上石切町１丁目1407他	立会		平成15年10月15日受付
66	15－764	下事256	東高野街道	平成15年度公共下水道第16工区管きょ築造工事	日下町５～６丁目	慎重		工事実施。
67	15－777	下事257	岩滝山遺跡	平成15年度公共下水道第15工区管きょ築造工事	六万寺町１丁目303他	立会	15.11.6～	調査中。
68	15－836	下事273	池端遺跡	平成15年度公共下水道第23工区管きょ築造工事	池之端町98～106	立会		平成15年11月13日受付
69	15－875	下事287	衣摺遺跡	平成15年度長瀬西小学校貯留浸透工事	衣摺５丁目110-1,2他	慎重		平成15年11月28日受付

第２章　出雲井（いずもい）遺跡群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成12年度公共下水道第12－３工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市出雲井町
3	調 査 面 積	851㎡
4	調 査 期 間	平成13年９月25日～平成15年５月１日（延べ81日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線枚岡駅の南東である。当地点は出雲井遺跡群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ983mの間であり、開削と推進工法である。



調査地点位置図（１/5000）

1. 調査の概要

A－10地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(2.5YR3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

第３層　黒褐色(2.5YR3/1)粗粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第４層　黒褐色(2.5YR3/1)大礫混じり粘質シルト。

第５層　黒褐色(2.5YR3/2)粗粒砂～大礫混じり粘質シルト。

第６層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗粒砂～中礫混じりシルト。

B－１地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(10YR3/1)粗粒砂～中礫混じりシルト。

第３層　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂～大礫混じり粘質シルト。

第４層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。

C－１地区の層序

第１層　盛土。

第２層　暗灰黄色(2.5Y4/2)中礫混じりシルト。

第３層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)小礫混じり粘質シルト。

C－16地区の層序

第１層　盛土。

第２層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)大礫混じり粘質シルト。

第３層　黒褐色(10YR3/1)小～大礫混じり粘質シルト。

第４層　暗褐色(10YR3/3)粗粒砂～大礫混じりシルト。

D－３地区の層序

第１層　盛土。

第２層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)中礫混じり粘質シルト。

第３層　暗灰黄色(2.5Y4/2)中礫混じり粘質シルト。

第４層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)大礫混じり粘質シルト。

E－１地区の層序

第１層　盛土。

第２層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)小礫混じりシルト。

第３層　オリーブ褐色(2.5Y4/6)大礫混じりシルト。

F－４地区の層序

第１層　盛土。

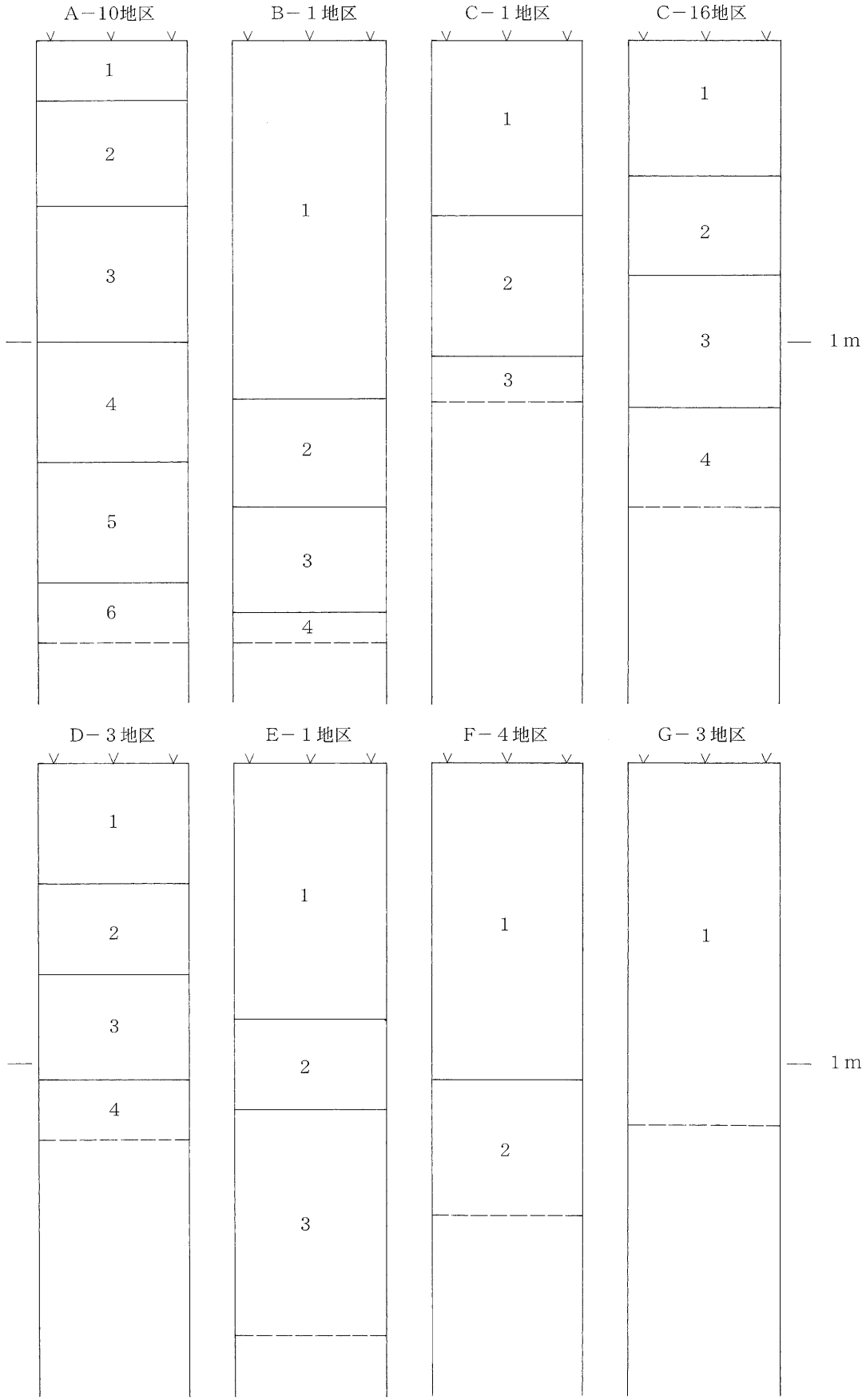
第２層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)中粒砂～大礫混じりシルト。

G－３地区の層序

第１層　盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

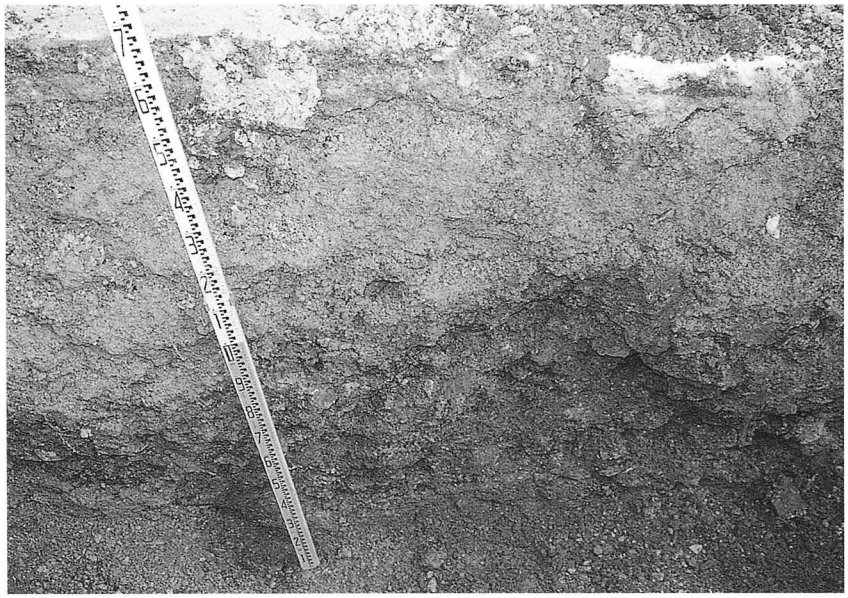

A－10地区
1
2
3
4
5
6
B－１地区
1
2
3
4
C－１地区
1
2
3
C－16地区
1
2
3
4
1m
D－３地区
1
2
3
4
E－１地区
1
2
3
F－４地区
1
2
G－３地区
1
1m

土層断面柱状図

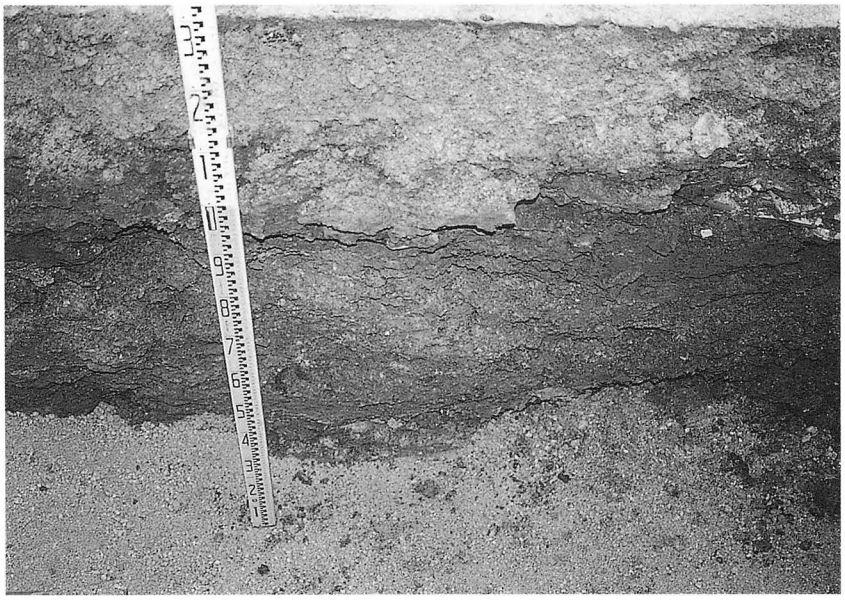
調査地遠景

A－10地区土層断面

C－1地区土層断面



C－16地区土層断面

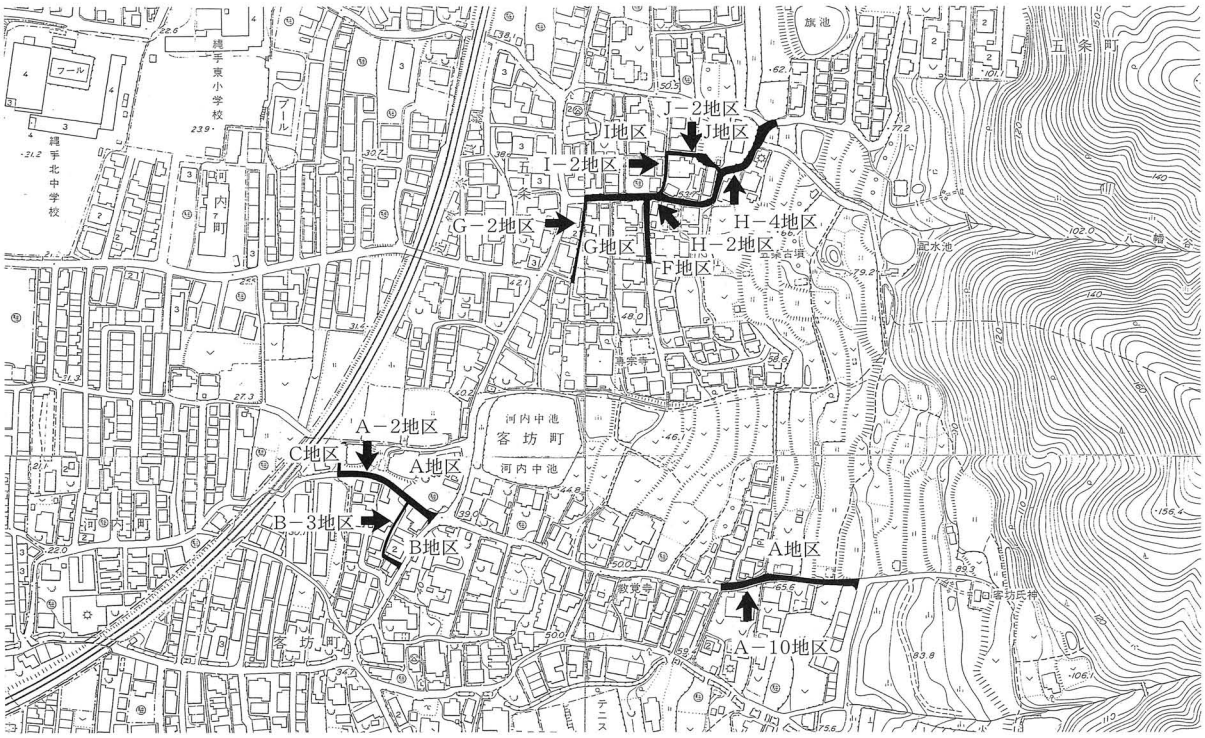


D－３地区土層断面

E－１地区土層断面

第３章　水走氏館跡（みずはやしやかた）・河内寺跡（かわちでら）・客坊山遺跡群（きゃくぼうやま）の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成12年度公共下水道第12－３工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市五条町・客坊町
3	調 査 面 積	732㎡
4	調 査 期 間	平成14年３月14日～平成15年６月５日（延べ54日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線額田駅の南東である。当地点は水走氏館跡・河内寺・客坊山遺跡群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ851mの間であり、開削と推進工法である。



調査地点位置図（１/5000）

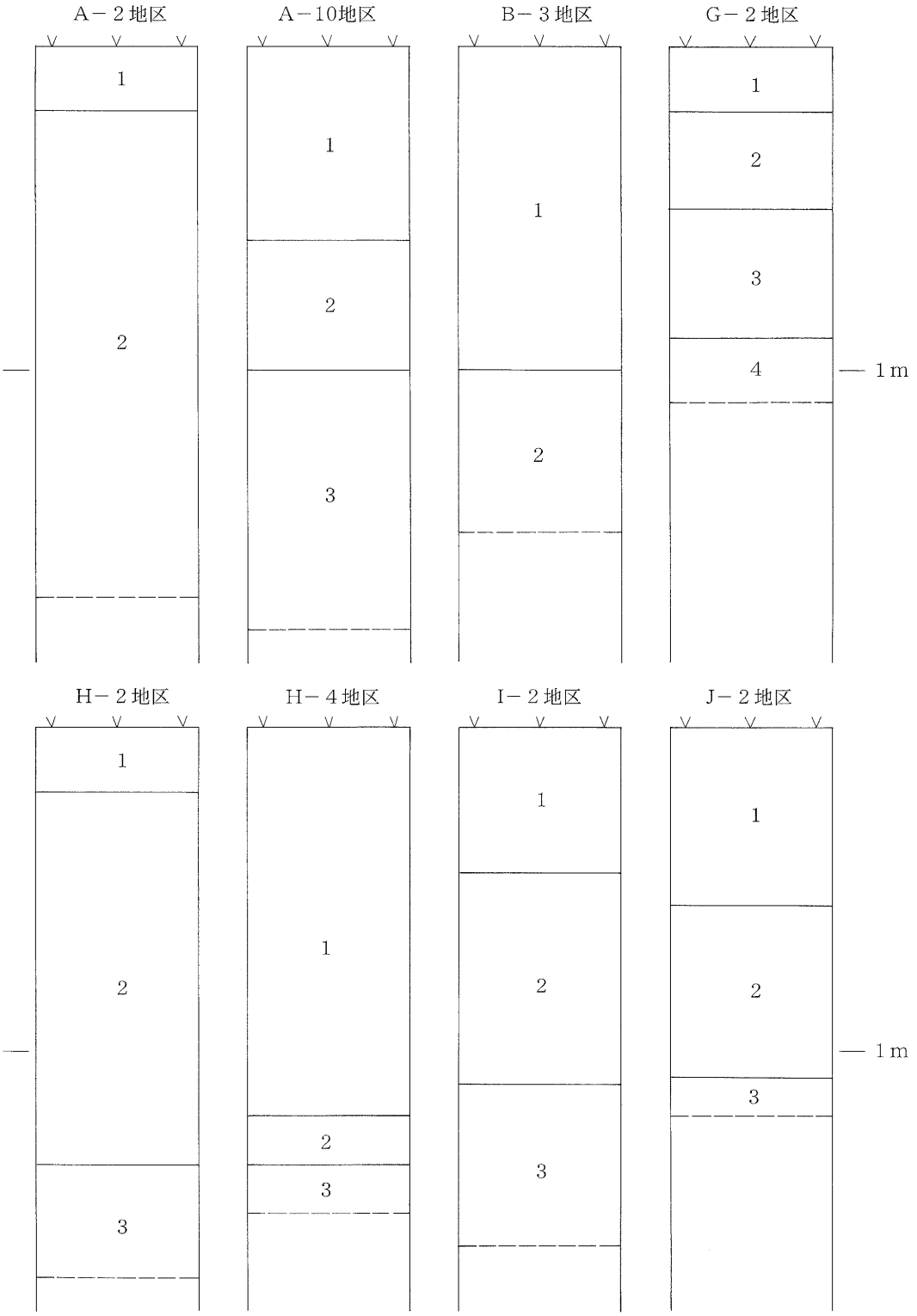
1. 調査の概要

A－２地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(10YR2/3)大礫混じり粘質シルト。

A－10地区の層序



土層断面柱状図

第１層　盛土。

第２層　暗オリーブ色(5Y4/3)粘質シルト。

第３層　灰オリーブ色(5Y5/2)大礫混じり粘土。

Ｂ－３地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(2.5Y3/2)粘土。

Ｇ－２地区の層序

第１層　盛土。

第２層　オリーブ黒色(5Y3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

第３層　黒褐色(10YR3/2)粗粒砂混じり粘土。

第４層　黒褐色(5Y3/2)粘土。

Ｈ－２地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒灰色(10YR4/1)中粒砂～中礫混じり粘質シルト。

第３層　灰色(5Y4/1) 中粒砂～中礫混じり粘質シルト。

Ｈ－４地区の層序

第１層　盛土。

第２層　灰オリーブ色(7.5Y5/2)細粒砂混じりシルト。

第３層　オリーブ黒色(7.5Y3/2)細粒砂混じり粘質シルト。

Ｉ－２地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(10YR3/2)中～粗粒砂混じりシルト。

第３層　黒褐色(2.5Y3/1)細～大礫混じり粘質シルト。

Ｊ－２地区の層序

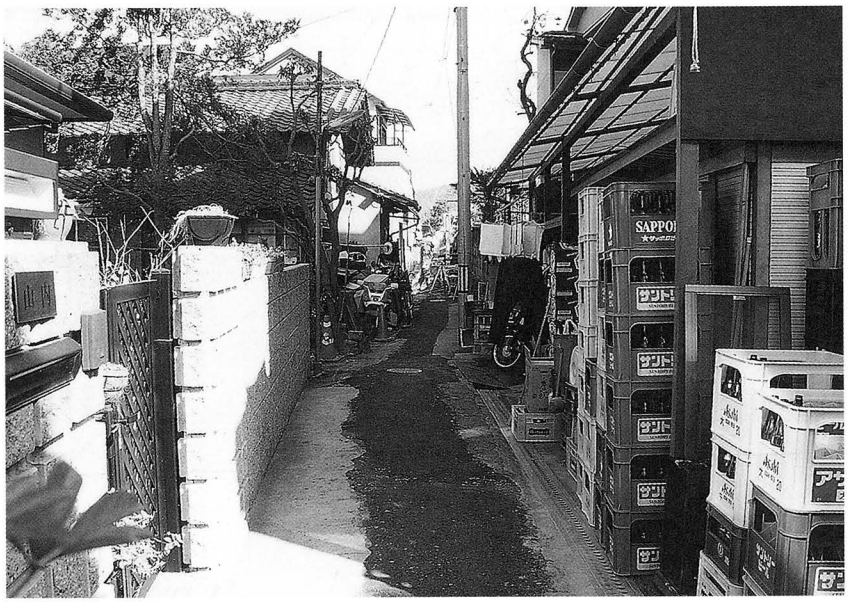
第１層　盛土。

第２層　黒色(2.5Y3/1)粗粒砂～細礫混じり粘質シルト。

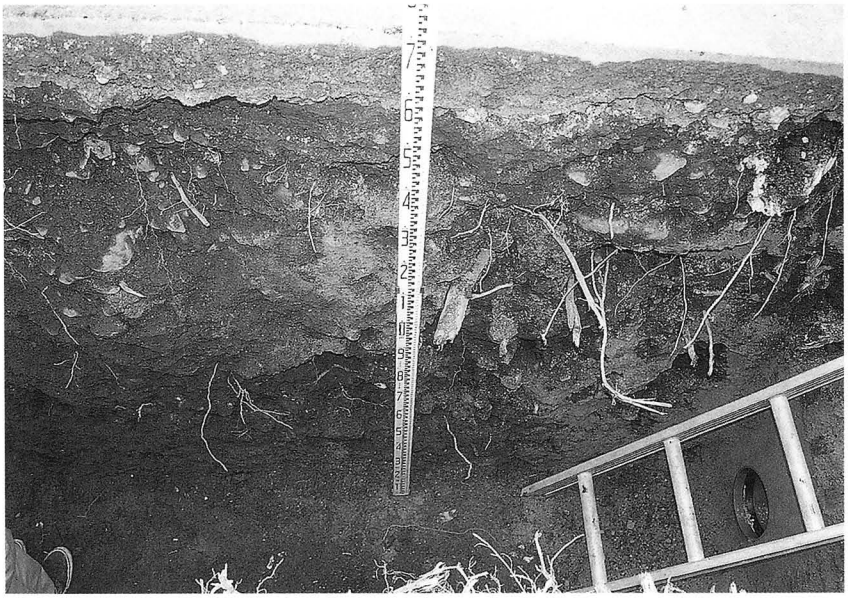
第３層　黒褐色(2.5Y3/1)大礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



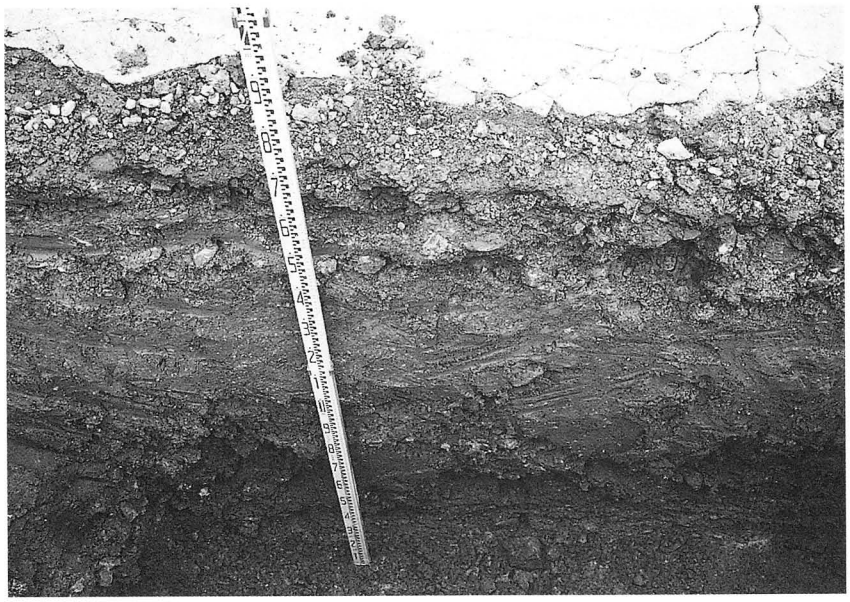
調査地遠景



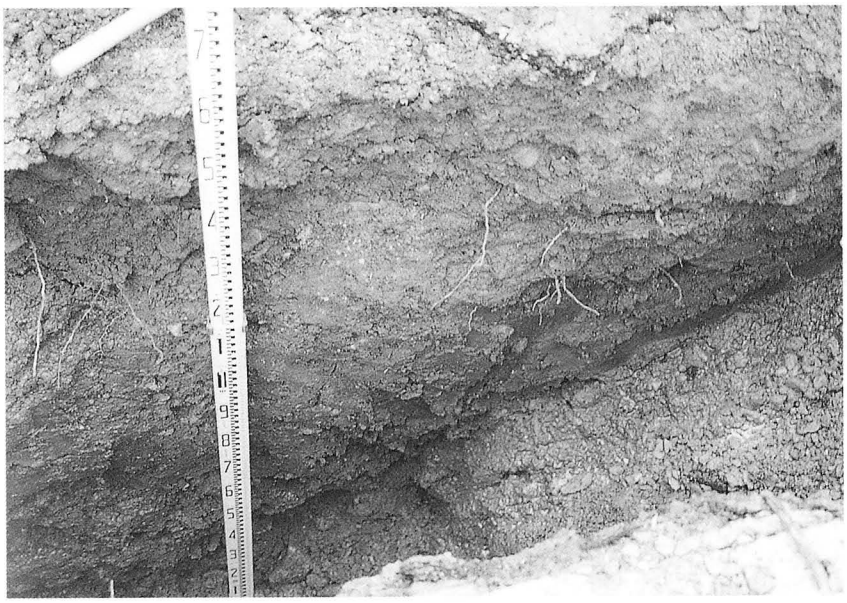
A－２地区土層断面

A－10地区土層断面

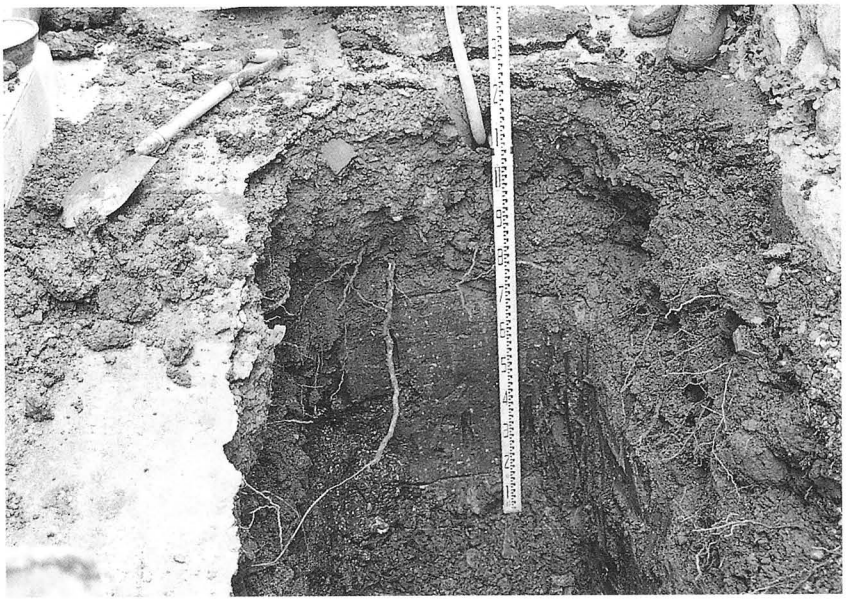
G－２地区土層断面



Ｈ－２地区土層断面



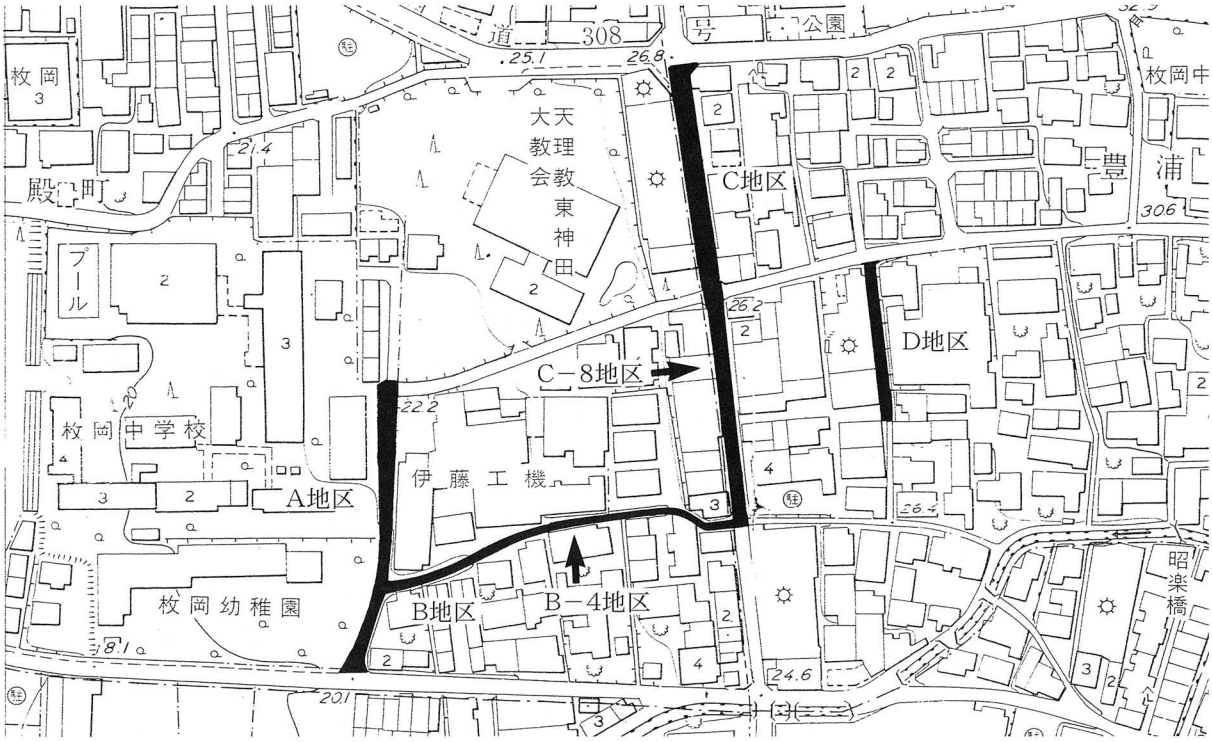
Ｉ－２地区土層断面



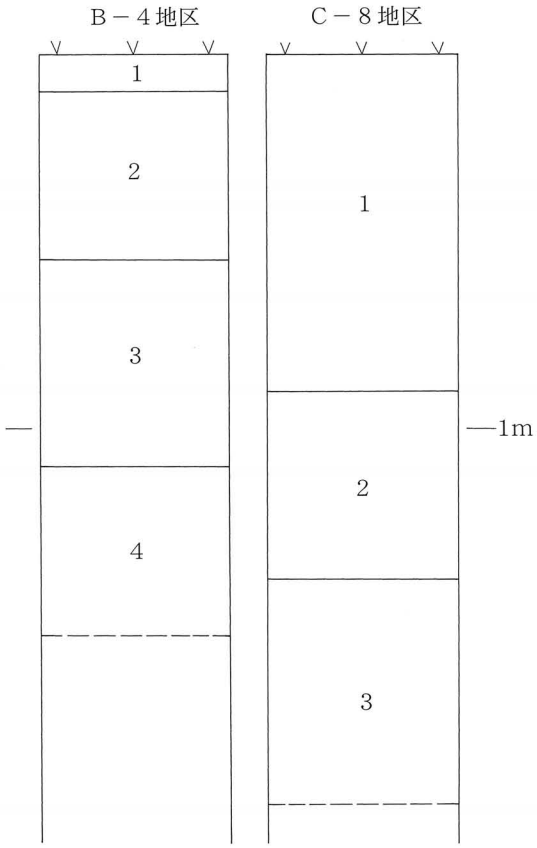
Ｊ－２地区土層断面

第４章　鬼塚（おにづか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第59工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市箱殿町515～609、豊浦町628
3	調査面積	418㎡
4	調査期間	平成14年６月19日～15年１月10日（延べ22日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡幼稚園の東である。当地点は鬼塚遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9～1.1mで長さ446mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（１/2500）



土層断面柱状図

1. 調査の概要

B－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　浅黄色(2.5Y7/3)シルト。

第3層　黒褐色(10YR3/1)粗粒砂混じりシルト。

第4層　黒褐色(2.5Y3/1)粘土質シルト。

C－8地区の層序

第1層　盛土。

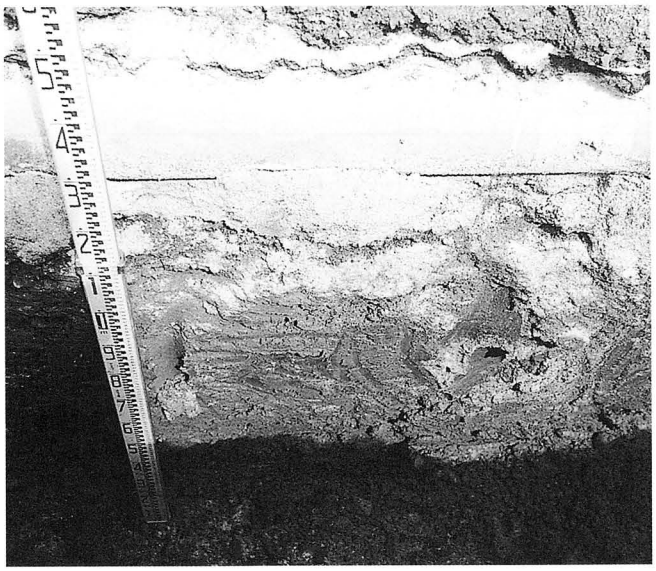
第2層　黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト。

第3層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト。

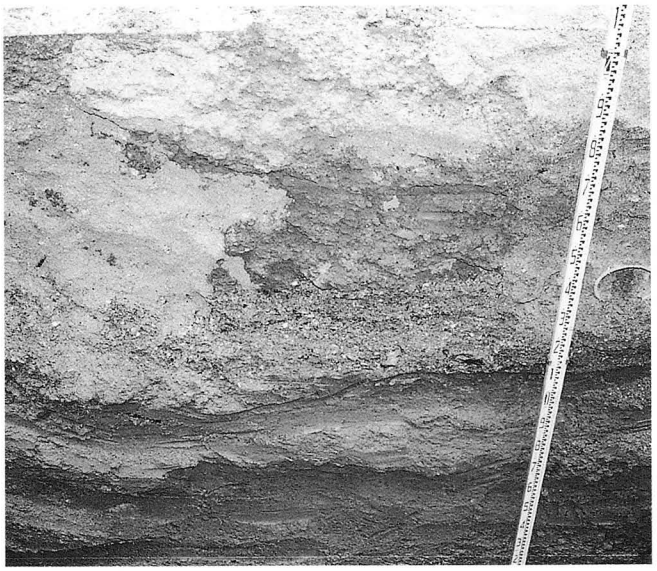
2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

調査地遠景



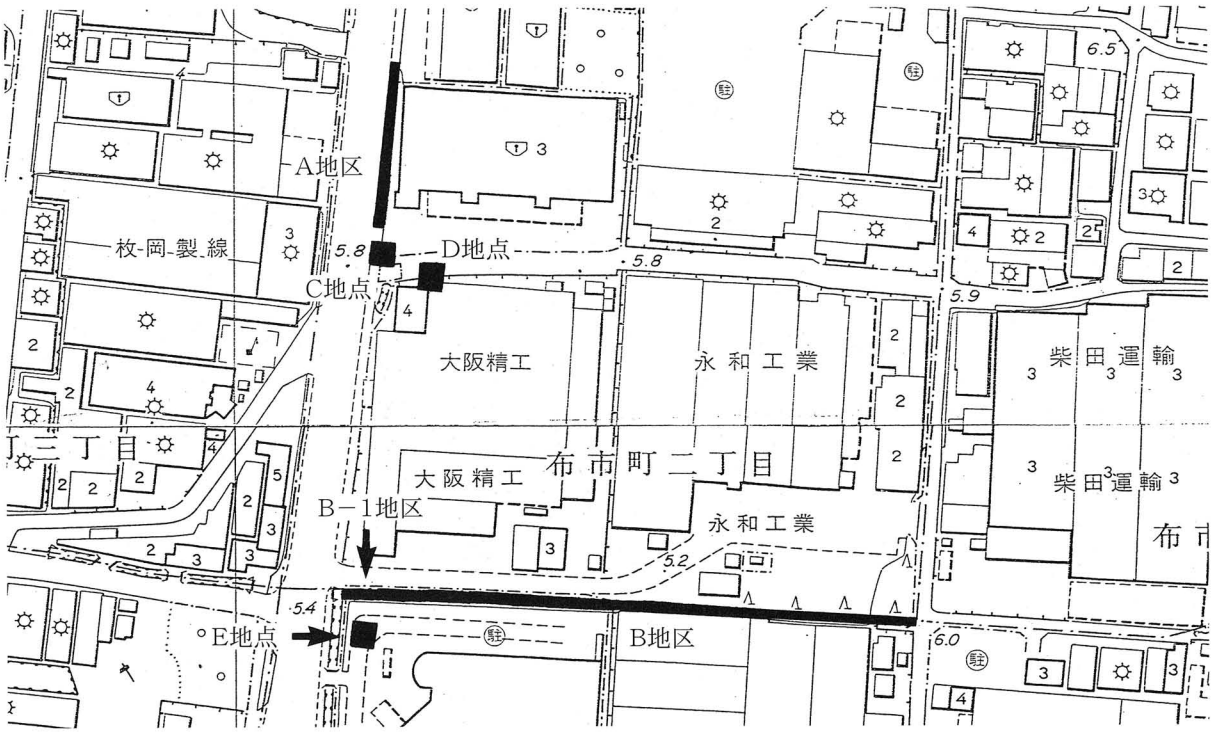
B－4地区土層断面



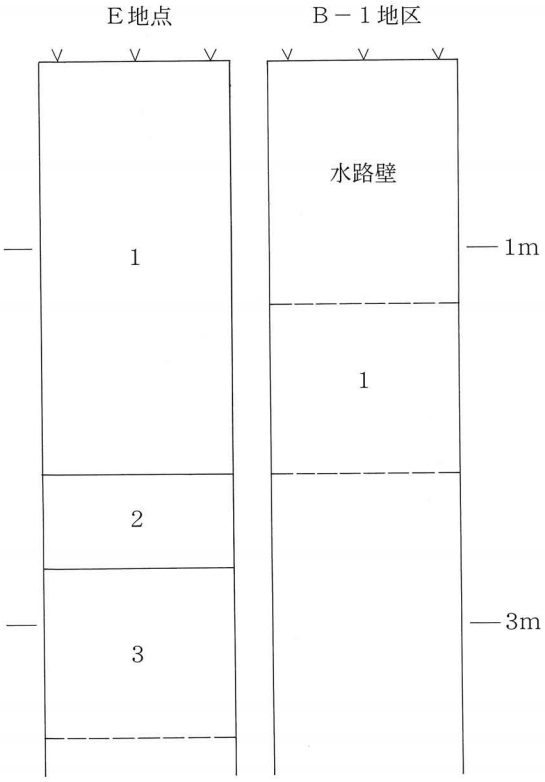
C－8地区土層断面

第５章　和泉（いずみ）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第56工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市布市町２丁目567－1～558－1、554－2～553－1、2904－1～2882
3	調査面積	273㎡
4	調査期間	平成14年８月19日～15年１月24日（延べ10日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は中石切公園の北である。当地点は和泉遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、発掘調査と立会調査をおこなうことになった。発掘調査は推進工法の発進立坑(2.8×６m)部分である。立会調査は幅約0.9mで長さ227mの間であり、開削工法である。



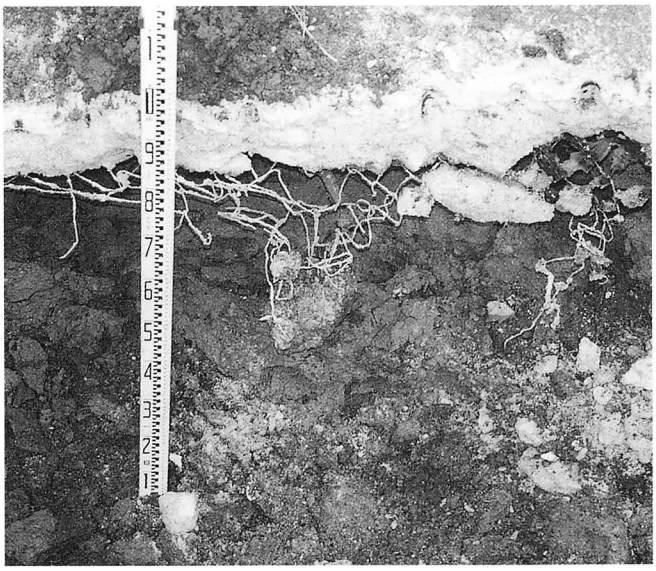
調査地点位置図（１/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

E地点土層断面



B－1地区土層断面

1. 調査の概要

E地点の層序

第1層　盛土。

第2層　緑黒色(5G2/1)粘土。

第3層　青灰色(10BG6/1)粘土。

B－1地区の層序

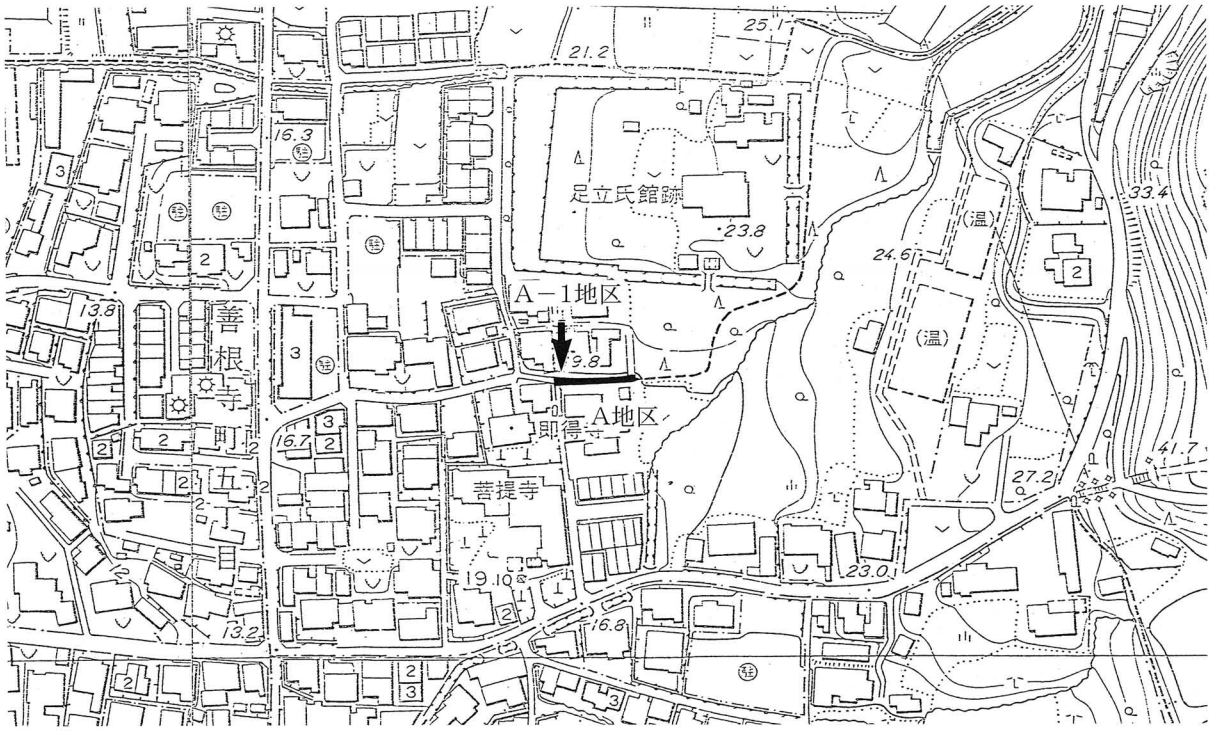
第1層　盛土。

2. まとめ

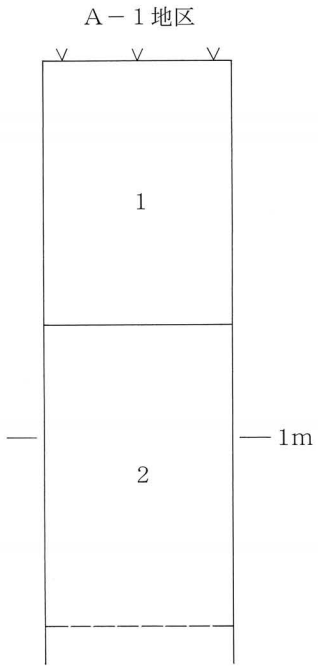
調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第６章　足立氏館跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第71工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市善根寺町６丁目26・27
3	調査面積	20㎡
4	調査期間	平成15年１月28日～１月29日（延べ２日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は善根寺春日神社の西である。当地点は足立氏館跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ23mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（１/2500）



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(5Y4/1)細礫混じり粘土質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

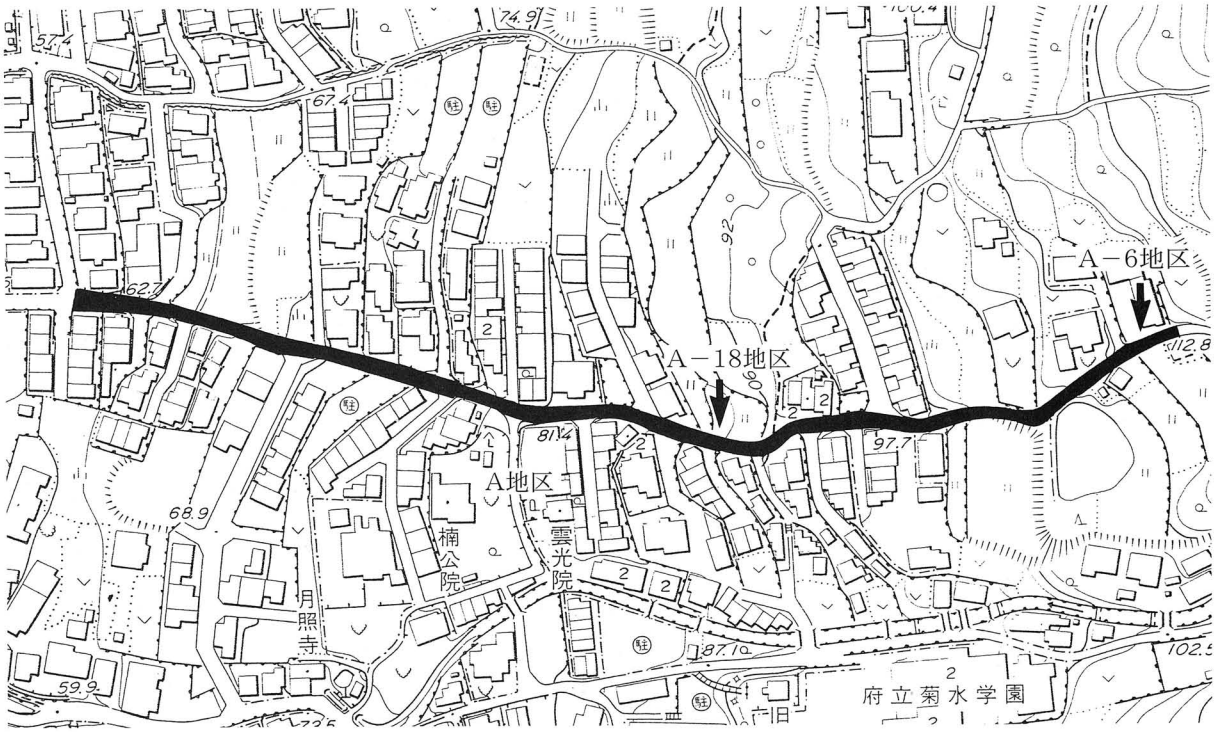
調査地遠景

調査状況

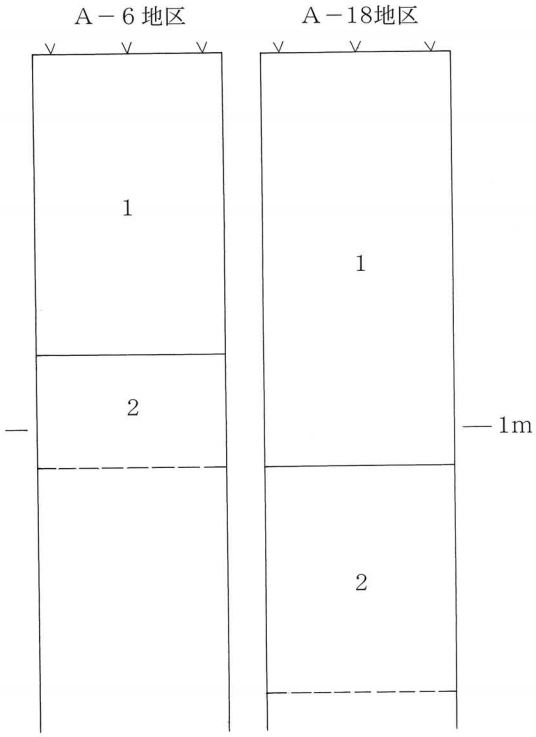
A－1地区土層断面

第７章　花草山古墳群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成13年度公共下水道第69工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市上四条町1202－7～1415－3
3	調査面積	196㎡
4	調査期間	平成14年11月27日～15年１月24日（延べ19日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上四条小学校の東である。当地点は花草山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ231mの間であり、開削工法である。

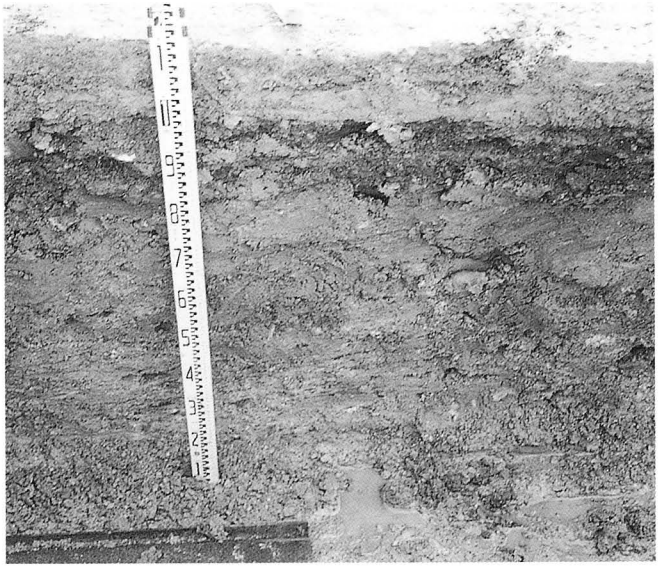


調査地点位置図（１/2500）

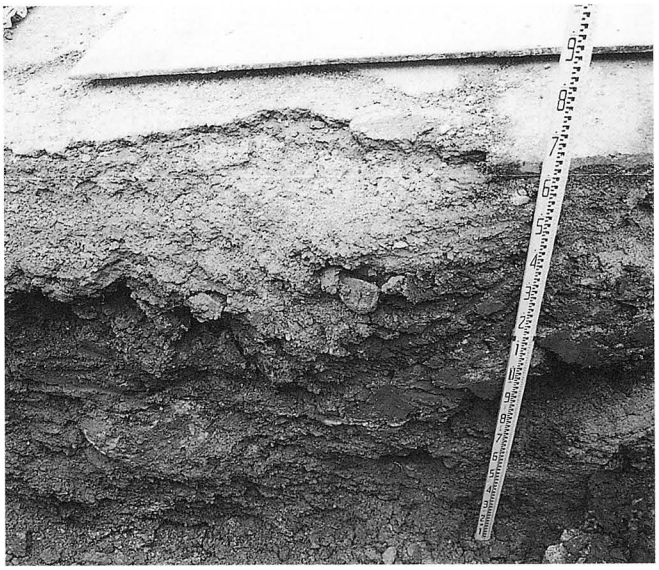


土層断面柱状図

調査地遠景



A－6地区土層断面



A－18地区土層断面

1. 調査の概要

A－6地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黄橙色(10YR7/8)粘土。

A－18地区の層序

第1層　盛土。

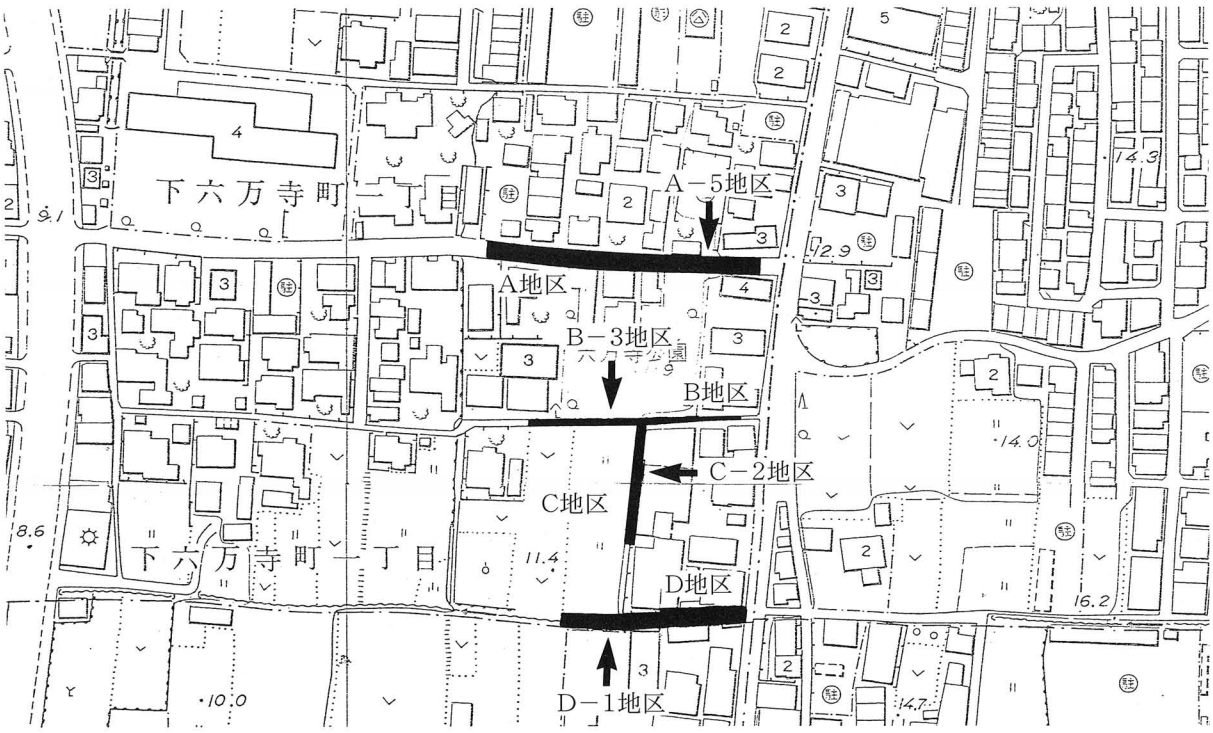
第2層　暗緑灰色(7.5GY5/1)粗粒砂。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第８章　コモ田（だ）遺跡の第４次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第104工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市下六万寺町１丁目
3	調査面積	170㎡
4	調査期間	平成14年９月26日～15年２月14日（延べ24日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は六万寺公園の周辺である。当地点はコモ田遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ201mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A－5地区の層序

第1層　盛土。

B－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質シルト。

第3層　黒色(10YR2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。弥生時代の遺物包含層。

第4層　灰色(7.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

第5層　暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)微～粗粒砂。

第6層　暗緑灰色(7.5GY4/1)微粒砂。

C－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR2/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

第3層　黒色(10YR2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

第4層　灰色(7.5Y4/1)粗粒砂混じりシルト。

D－1地区の層序

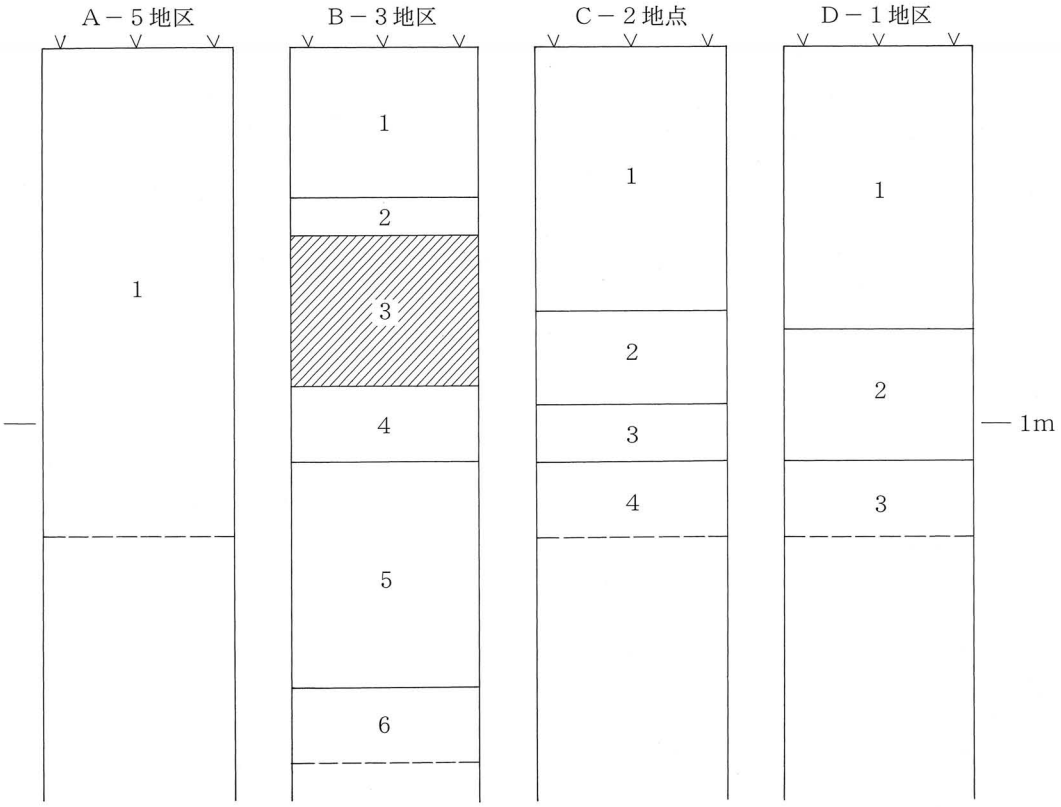
第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト。

第3層　暗オリーブ色(2.5GY4/1)シルト。

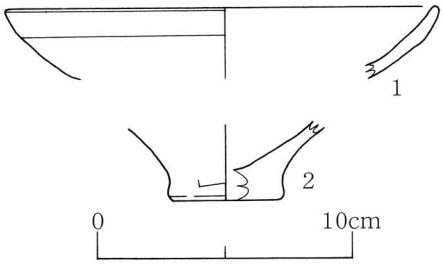
2. 遺物

B－3地区の第3層より弥生時代後期の土器が出土した。遺物の出土量は少ない。



土層断面柱状図

1は高坏である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、浅い皿状を呈する坏部である。2は平底を呈する底部である。器種は不明である。1・2は風化が著しく調整法は不明である。3～5は壷の頸部から体部、6は甕の体部である。すべて胎土中に石英、長石、角閃石、雲母を含む。生駒西麓産。



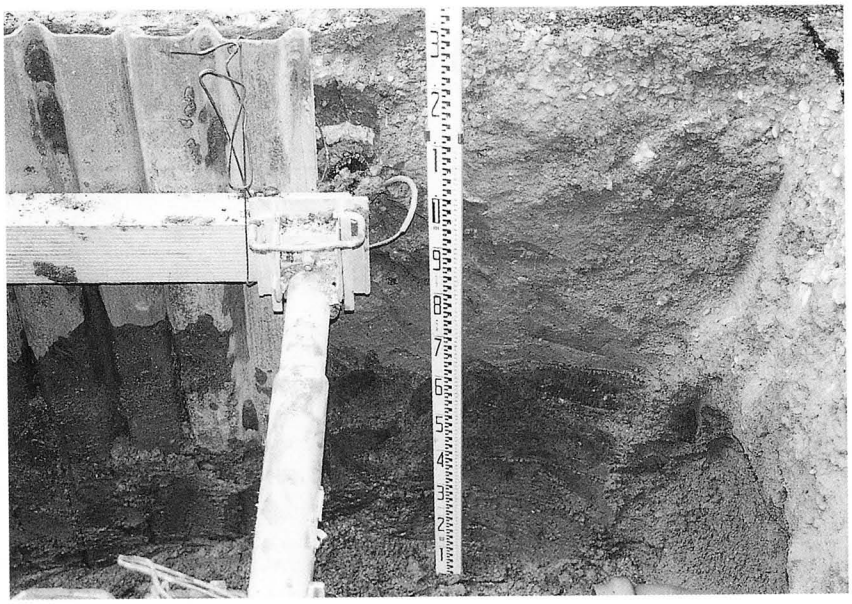
出土遺物実測図

3. まとめ

今回の調査ではB－3地区で弥生時代後期の遺物包含層を検出した。当遺跡では第1次調査で弥生時代後期の土器が採集されている。今回の調査地は第1次調査地の南に位置し、当時期の遺物包含層が広がっている可能性が高い。

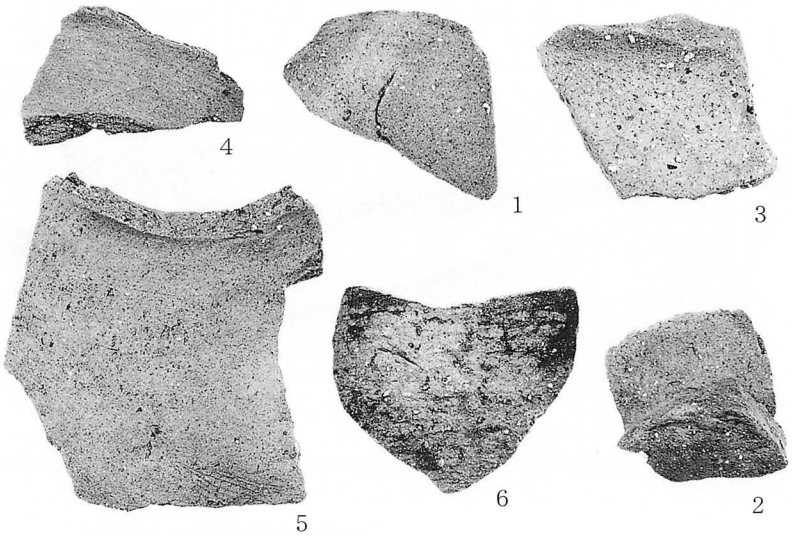
調査地遠景

A－5地区土層断面



C－２地区土層断面

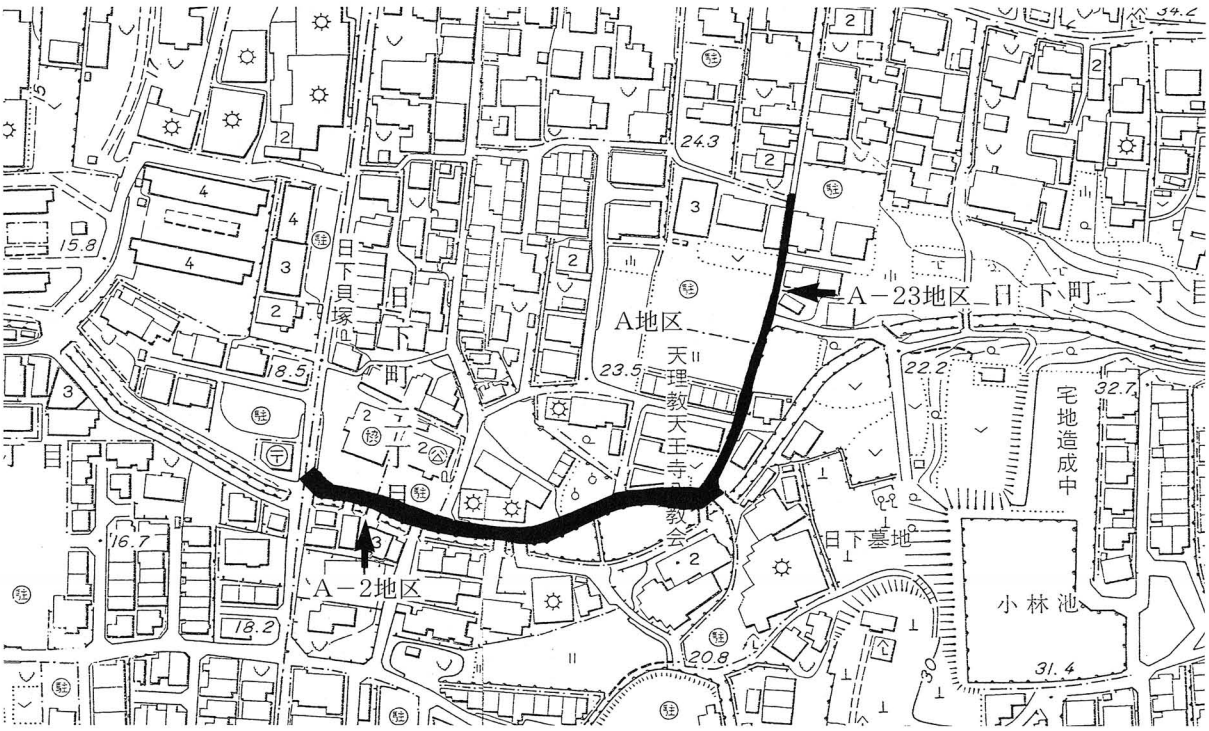
D－１地区土層断面



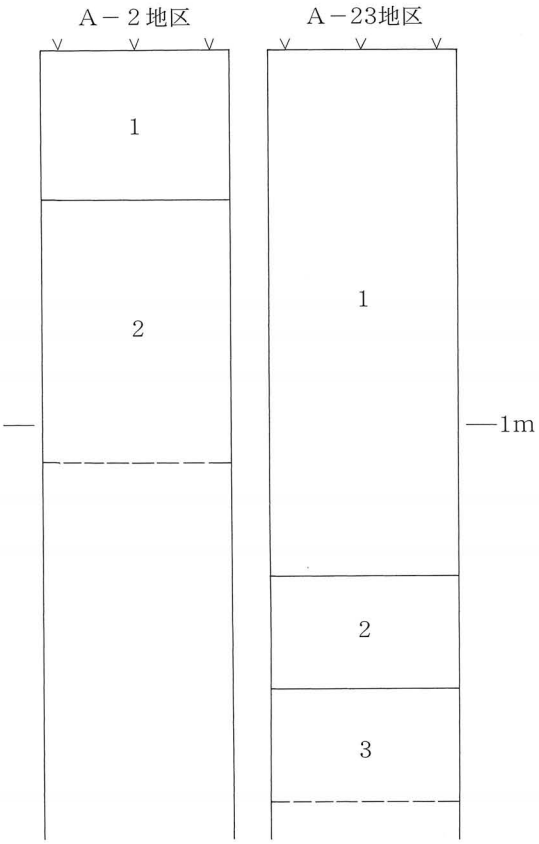
出土遺物（弥生土器）

第９章　日下（くさか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第８工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市日下町２丁目1122－2～1421－1
3	調 査 面 積	307㎡
4	調 査 期 間	平成15年１月６日～３月６日（延べ29日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衛東小学校の南である。当地点は日下遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ349mの間であり、開削工法である。

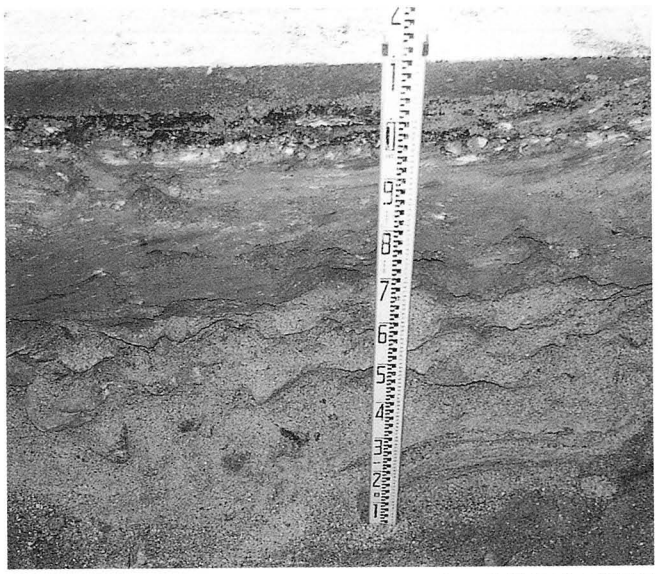


調査地点位置図（１/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景



A－2地区土層断面

A－23地区土層断面

1. 調査の概要

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　明黄褐色(2.5Y6/3)微粒砂。

A－23地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(7.5YR3/1)細礫混じり中粒砂。

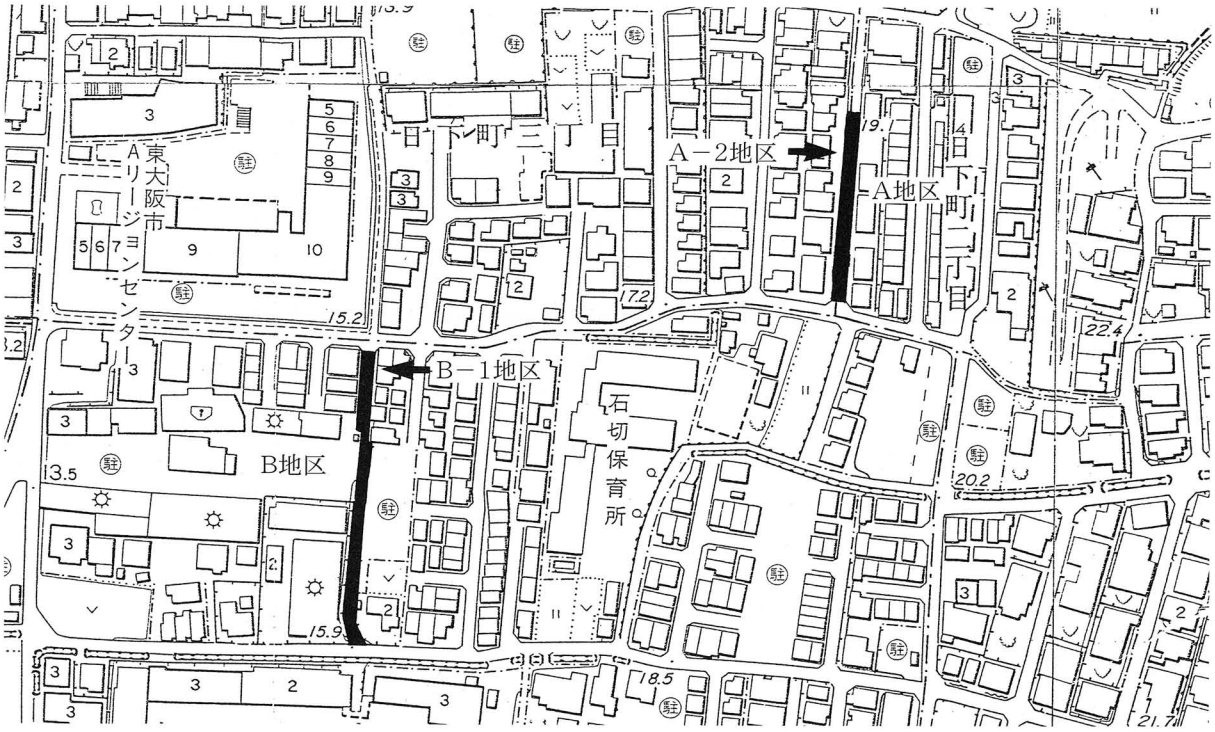
第3層　灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

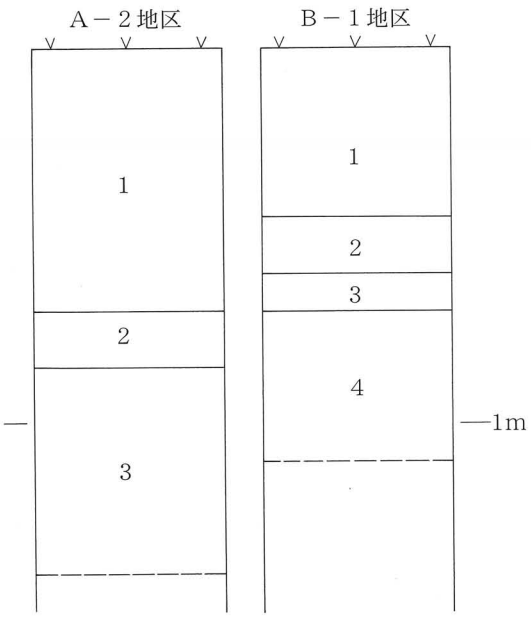
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第10章　芝ヶ丘（しばがおか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第20工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市中石切町４丁目1413－9～31、2325－4～2327
3	調査面積	183㎡
4	調査期間	平成14年11月29日～平成15年１月20日（延べ14日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の北である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ185mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

A－2地区土層断面

B－1地区土層断面

1. 調査の概要

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

第3層　黒褐色(10YR3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

B－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(5Y3/2)粗粒砂混じりシルト。

第3層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗粒砂。

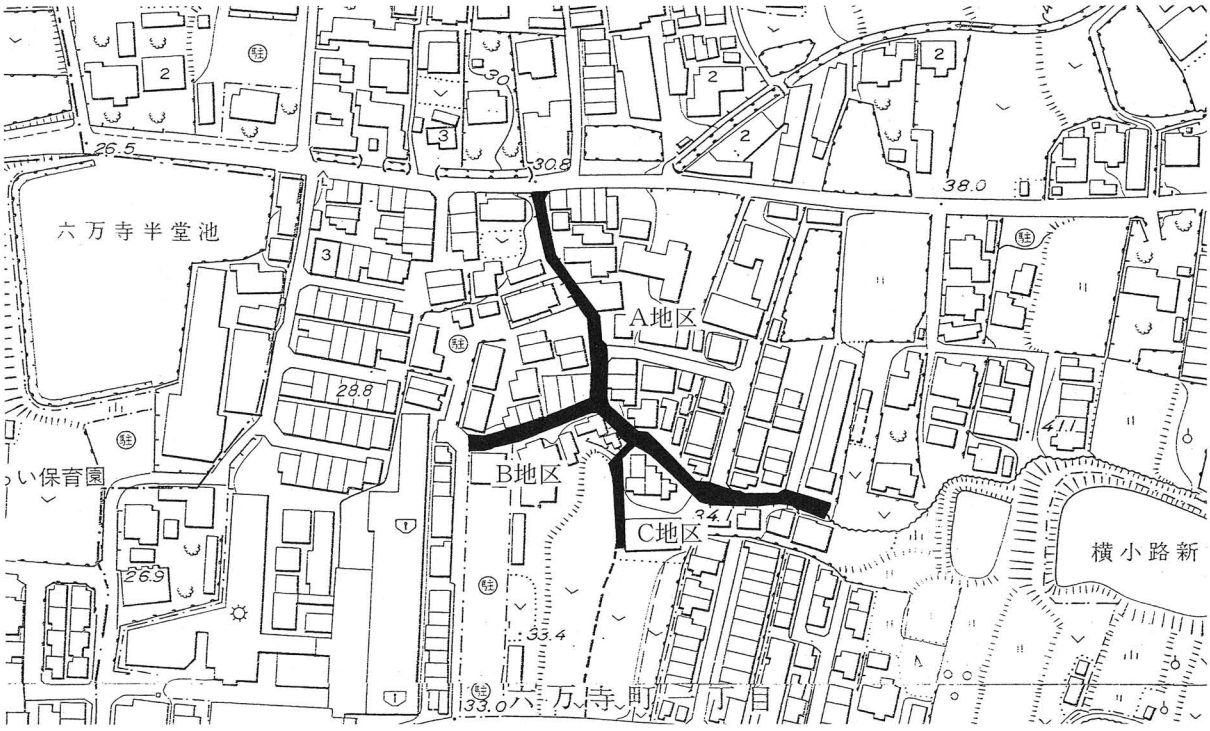
第4層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第11章　半堂（はんどう）遺跡の第３次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第12工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市六万寺町１丁目172－2～198、189～192－3他
3	調査面積	232㎡
4	調査期間	平成15年３月４日～５月７日（延べ35日）
5	報告担当	吉岡
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は大賀世神社の北である。当地点は半堂遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ273mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

調査地は六万寺半堂池の東に位置する。調査地は便宜上A・B・C区に分割して行なった。A地区は中世期の土器、B・C地区からは弥生～古墳時代の土器が出土した。

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(7.5YR3/2)細粒砂混じりシルト。

第3層　灰色(7.5GY3/1)微粒砂混じりシルト。

第4層　灰色(10Y4/1) 細粒砂混じり粘土質シルト。

第5層　灰色(10Y4/1) 細粒砂混じりシルト。

A－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)シルト。中世期の遺物が出土。

A－6地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(10Y4/1) 細粒砂。

第3層　灰オリーブ色(5Y5/3) 細粒砂混じり中粒砂。

第4層　灰色(7.5Y4/1) 中粒砂。

第5層　灰色(10Y4/1) 細粒砂混じりシルト。

B－9地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘土質シルト。

第3層　灰色(5Y4/1)中粒砂混じりシルト。

第4層　灰オリーブ色(5Y4/2)小礫混じり中粒砂。

B－10地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘土質シルト。

第3層　暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じりシルト。

第4層　褐灰色(10YR4/1)中粒砂混じり粘土質シルト。

第5層　灰色(5Y4/1)中粒砂混じりシルト。埴輪が出土。

第6層　黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂。

C－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)細礫混じり粘土質シルト。埴輪が出土。

第3層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土質シルト。

第3層　オリーブ黒色(2.5Y3/1)細粒砂混じりシルト。

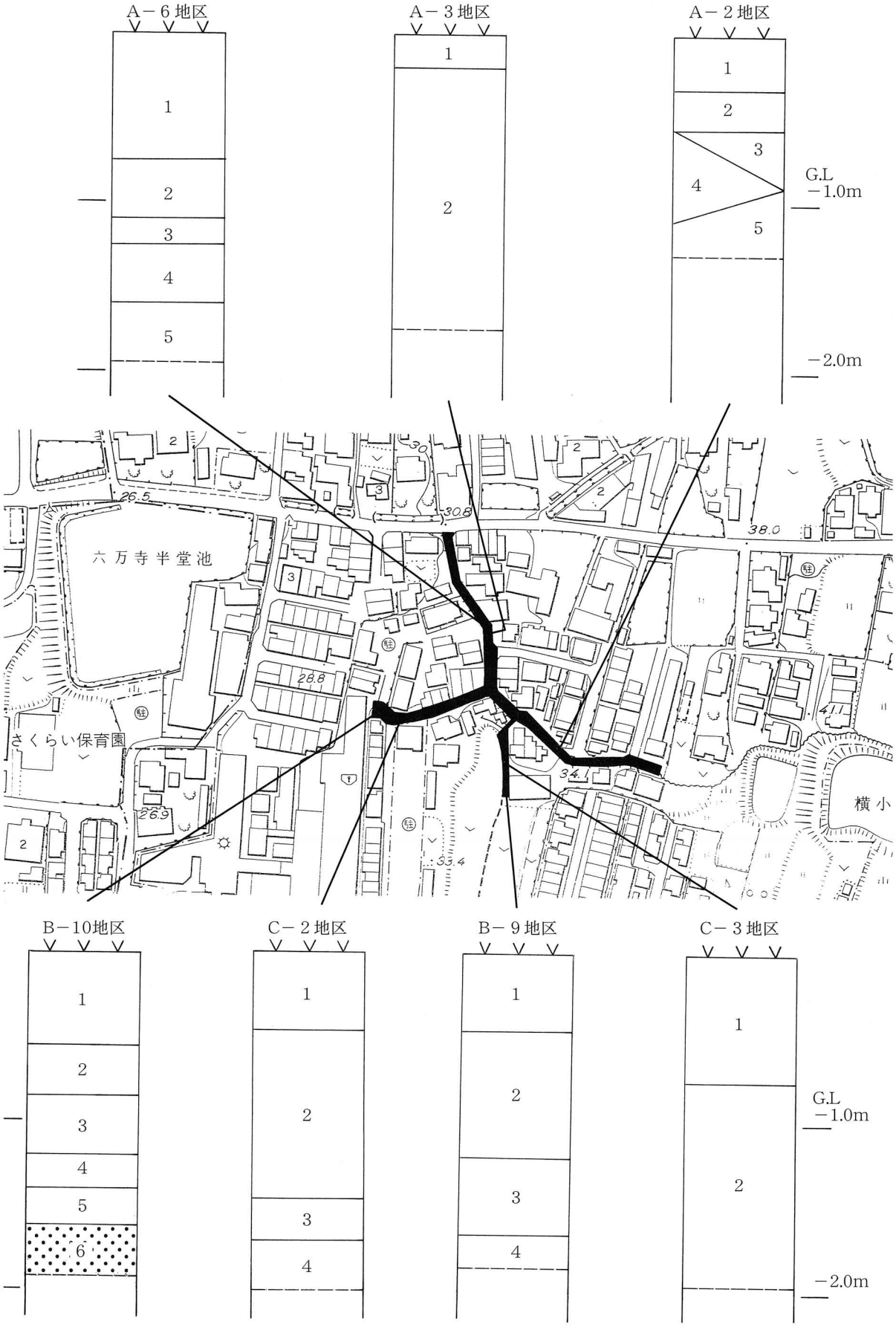
C－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR3/2)中礫混じり粘土質シルト。

2. 出土遺物

弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、埴輪が出土した。そのうち図化しえたものは18点である。以下、


A－6地区
A－3地区
A－2地区
G.L
－1.0m
－2.0m
六万寺半堂池
さくらい保育園
横小
B－10地区
C－2地区
B－9地区
C－3地区
G.L
－1.0m
－2.0m

土層断面柱状図

概要を記す。

1は土師器の甕である。口縁端部は上下に拡張し、面をもつ。口縁部はヨコナデ調整、他はナデ調整する。口径30.4cm、残存高7.1cmを測る。奈良～平安時代である。A－3地区より出土した。

2は土師器の皿である。体部は内弯し、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は13.2cm、残存高1.0cmを測る。13～14世紀である。A－3地区より出土した。

3は東播系の捏鉢である。体部から口縁部にかけて外上方に立ち上がる。口縁端部は外側に拡張し、面をもつ。内外面は回転ナデ調整する。12世紀である。B地区より出土した。

4は瓦器の椀である。体部は内弯しながら立ちあがる。口縁部内側に1条の沈線が廻り、口縁端部は丸く終わる。外面は分割のヘラミガキ調整、内面は密なヘラミガキ調整する。口径14cm、残存高4cmを測る。12世紀前～中葉である。B地区より出土した。

5は瓦器の羽釜である。口縁部は内弯し、口縁端部は丸く終わる。口縁部には段を施し、5段ある。外面はヨコナデ調整、内面はハケメの後ヨコナデ調整する。口径14cm、残存高6.1cmを測る。14世紀である。B地区より出土した。

6は円筒埴輪である。内外面はナデ調整する。胎土中に石英、長石を含む。色調は内外面が浅黄橙色（7.5ＹＲ8/4）を呈する。古墳時代後期である。C－2地区より出土した。

7は火舎である。体部から口縁部にかけて内弯しながら立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。調整法は不明である。口径37.4cm、残存高7.1cmを測る。14世紀である。A－3地区より出土した。

8は弥生土器の甕である。口縁部は受け口状の口縁をもち、口縁端部は丸くおわる。口縁部はヨコナデ調整する。外面はタタキ調整、内面はナデ調整する。口径18cm、残存高2.7cmを測る。胎土中に角閃石を多く含むことから生駒西麓産である。後期である。B－10地区より出土した。

9は弥生土器の高坏である。脚部から坏部にかけてくの字形に広がる。内面はナデ調整、外面の調整法は不明である。胎土中に角閃石を多く含むことから生駒西麓産である。後期である。B－10地区より出土した。

10は弥生土器の高坏である。裾部は八の字形に広がり。端部は丸く終わる。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。底径6cm、残存高3.5cmを測る。胎土中に角閃石を多く含むことから生駒西麓産である。後期である。B－10地区より出土した。

11は弥生土器の甕である。平底の底部から体部は外上方に伸びる。外面はタタキの後ナデ調整、内面は縦方向のハケメの後ナデ調整する。胎土中に角閃石を多く含むことから生駒西麓産である。後期である。B－10地区より出土した。

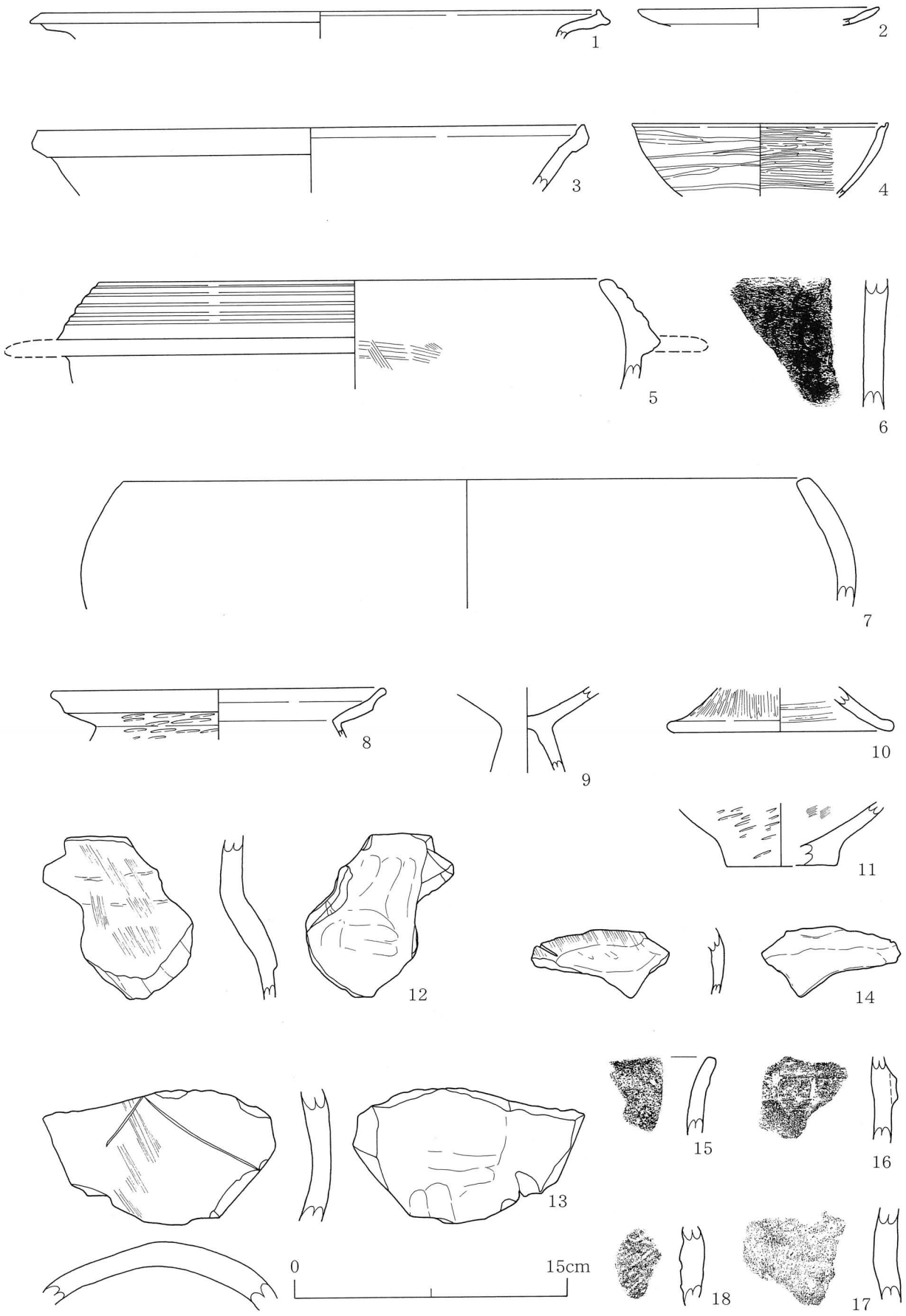
12は形象埴輪である。頚部から肩部にかけての破片である。頭部は欠損している。肩部はやや張り出し、頚部はほぼ垂直方向に伸びる。外面は縦方向のハケメ調整を施し、内面は縦と横のユビナデ調整を施す。胎土中に石英、長石を含む。色調は内外面が橙色（7.5ＹＲ7/6）を呈する。古墳時代後期である。B－10地区より出土した。

13は形象埴輪である。部位は不明である。2本の線刻を施す。外面はハケメ調整、内面はユビナデ調整する。12と同一個体である。古墳時代後期である。B－10地区より出土した。

14は形象埴輪である。部位は不明である。1本の線刻を施す。外面はハケメ調整する。12と同一個体である。古墳時代後期である。B－10地区より出土した。

15は円筒埴輪の口縁部である。内外面はナデ調整する。胎土中に石英、長石、雲母、くさり礫を含む。色調は内外面が橙色（7.5ＹＲ7/6）を呈する。古墳時代後期である。B－10地区より出土した。

16は円筒埴輪である。突帯が低い明瞭な台形を呈する。外面はナデ調整、内面は横方向のハケメ調



出土遺物実測図

整する。胎土中に石英、長石を含む。色調は内外面が橙色（7.5ＹＲ7/6）を呈する。古墳時代後期である。Ｂ－10地区より出土した。

17は円筒埴輪である。円形と思われる透かし孔が１個ある。外面はナデ調整、内面はハケメ調整する。16と同一個体である。古墳時代後期である。Ｂ－10地区より出土した。

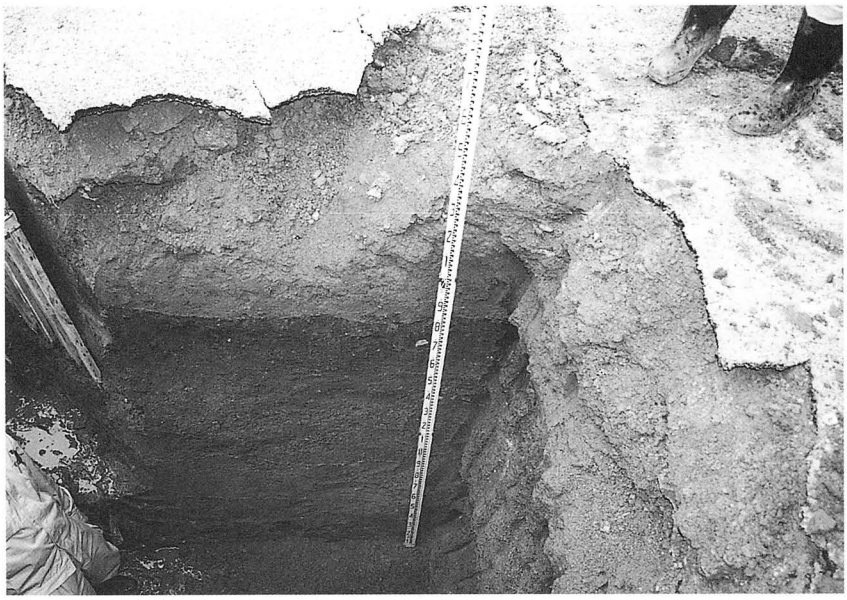
18は円筒埴輪である。外面に斜め方向のハケメ調整する。15と同一個体である。古墳時代後期である。Ｂ－10地区より出土した。

3. まとめ

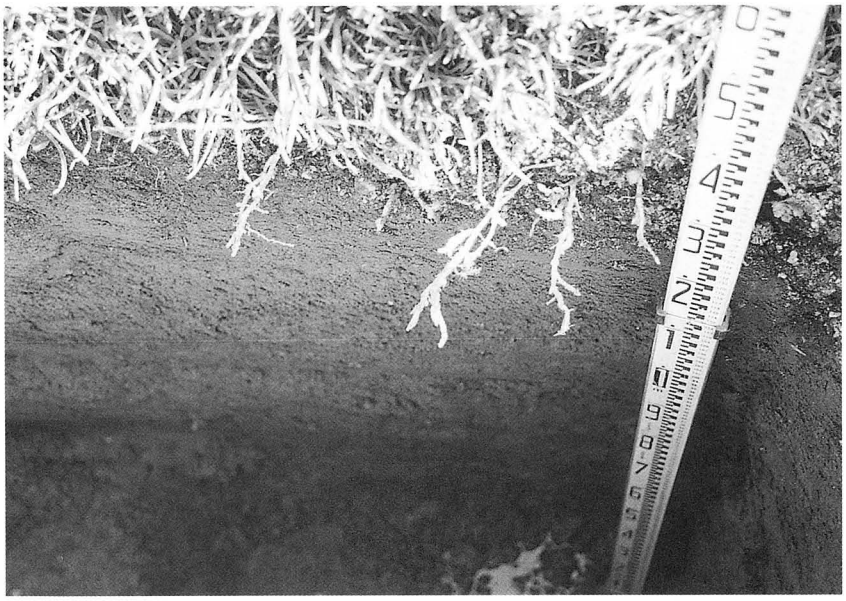
今回の調査ではＡ・Ｃ地区で明確な遺物包含層を確認できなかった。Ｂ地区ではＢ－10地区の５層より古墳時代後期の埴輪が出土した。Ａ地区では散発的に中世期の土器が出土した。また、層位は確認できなかったが、Ｂ地区周辺で弥生時代後期の土器を採集した。Ｃ地区では中世の土器、古墳時代後期の埴輪が少量ではあるが出土した。半堂遺跡は東大阪市六万寺町一帯に広がる弥生時代から古墳時代にかけての遺跡で、古墳が３基確認されている。Ｂ－10地区は大賀世２号墳から北に約100ｍの地点にある。出土した埴輪は大賀世古墳と同じ時代のものである。当地周辺にも古墳が存在した可能性が考えられる。

調査地遠景

Ａ－２地区土層断面

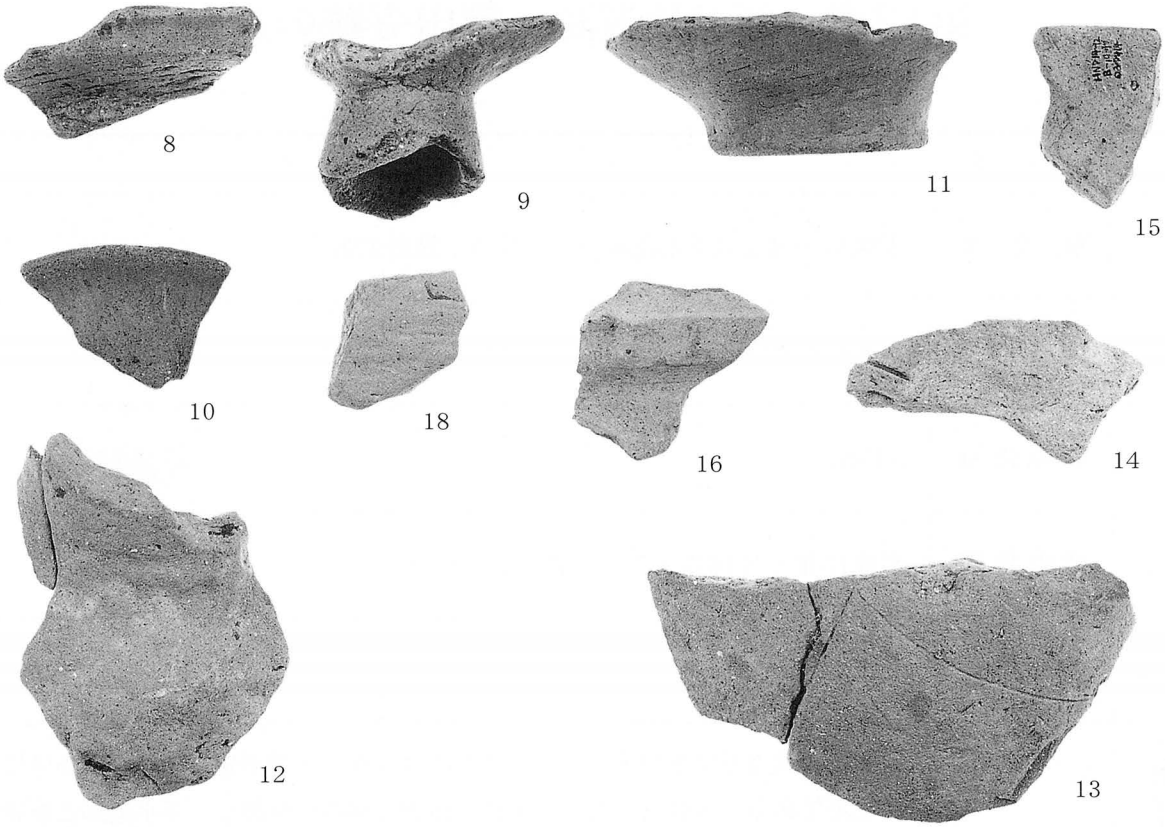


B－２地区土層断面

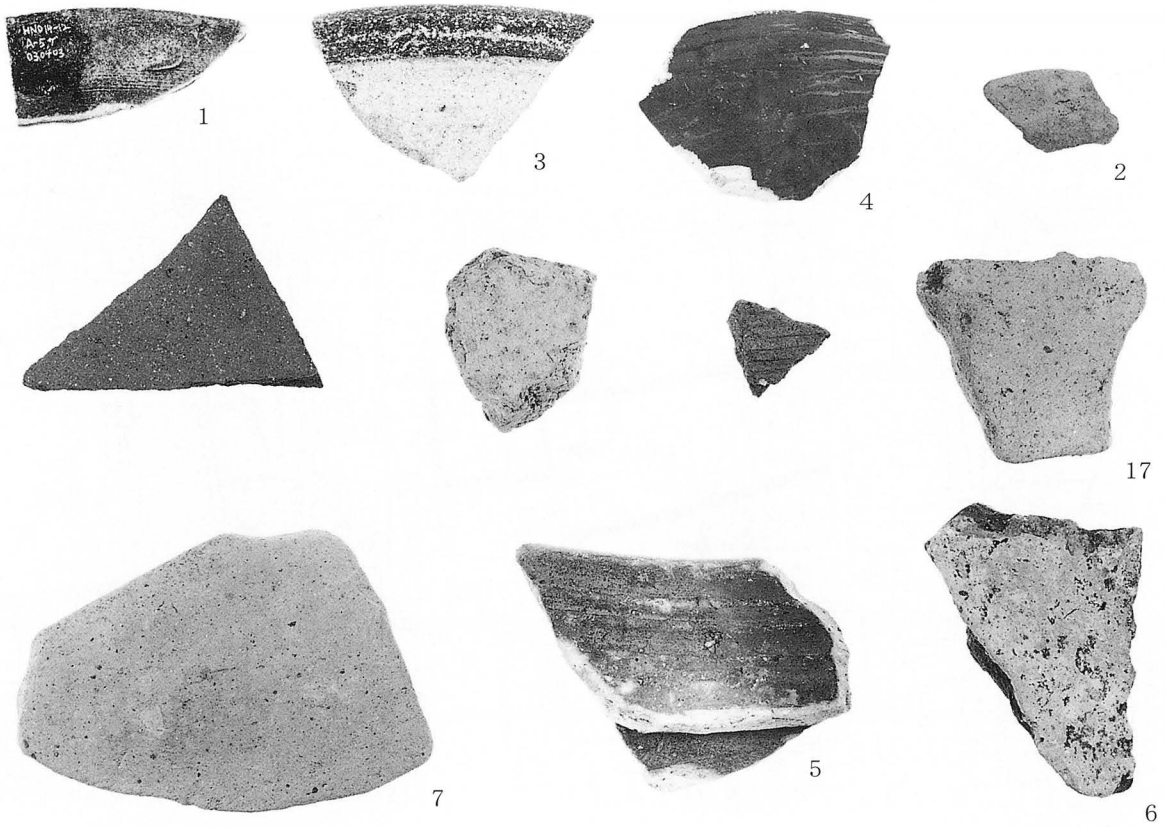


C－２地区土層断面

C－３地区土層断面



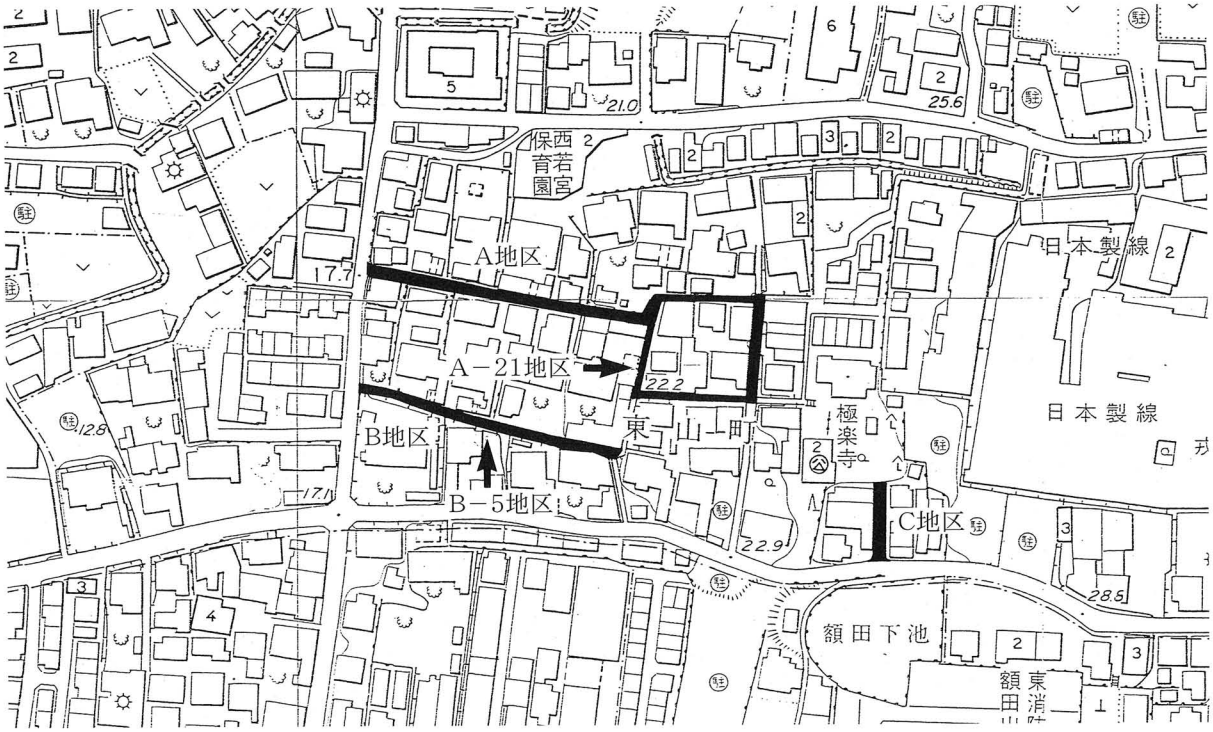
出土遺物（弥生土器・埴輪）



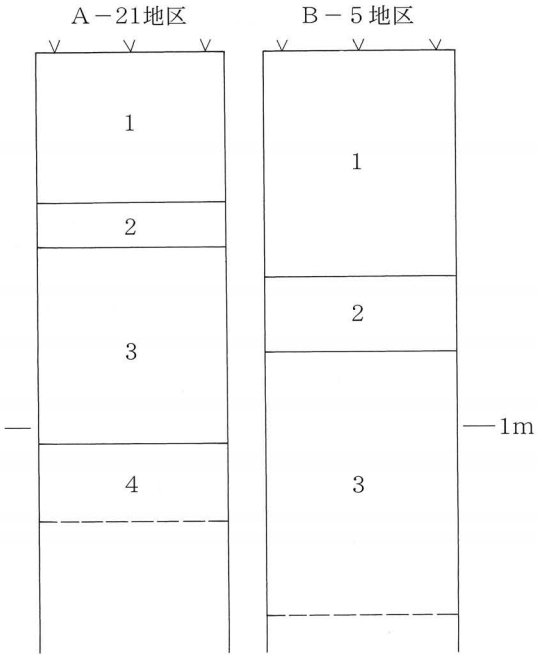
出土遺物（弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・埴輪）

第12章　西ノ辻遺跡・額田寺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第11工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東山町728～739－1、739－3～746－3他
3	調 査 面 積	549㎡
4	調 査 期 間	平成15年１月14日～５月23日（延べ61日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡西小学校の北東である。当地点は西ノ辻遺跡・額田寺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ646mの間であり、開削工法である。



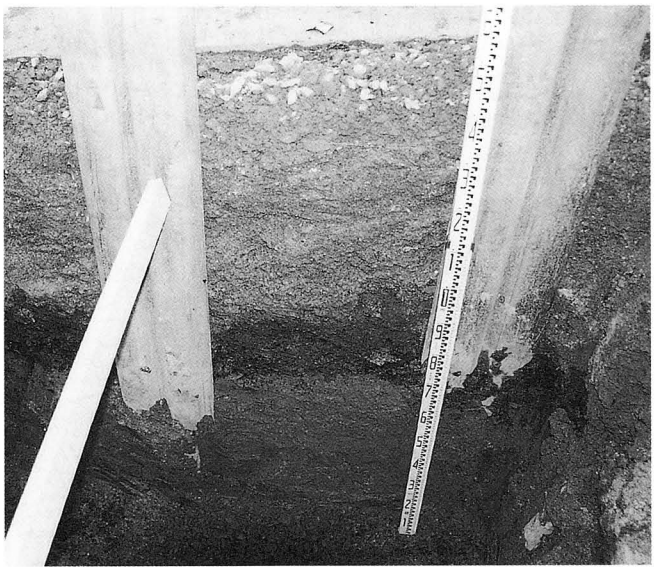
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

A－21地区土層断面



B－5地区土層断面

1. 調査の概要

A－21地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じりシルト。

第3層　黒褐色(10YR3/2)中粒砂混じりシルト。

第4層　黄褐色(2.5Y5/4)中粒砂混じりシルト。

B－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(5Y3/1)粘土質シルト。

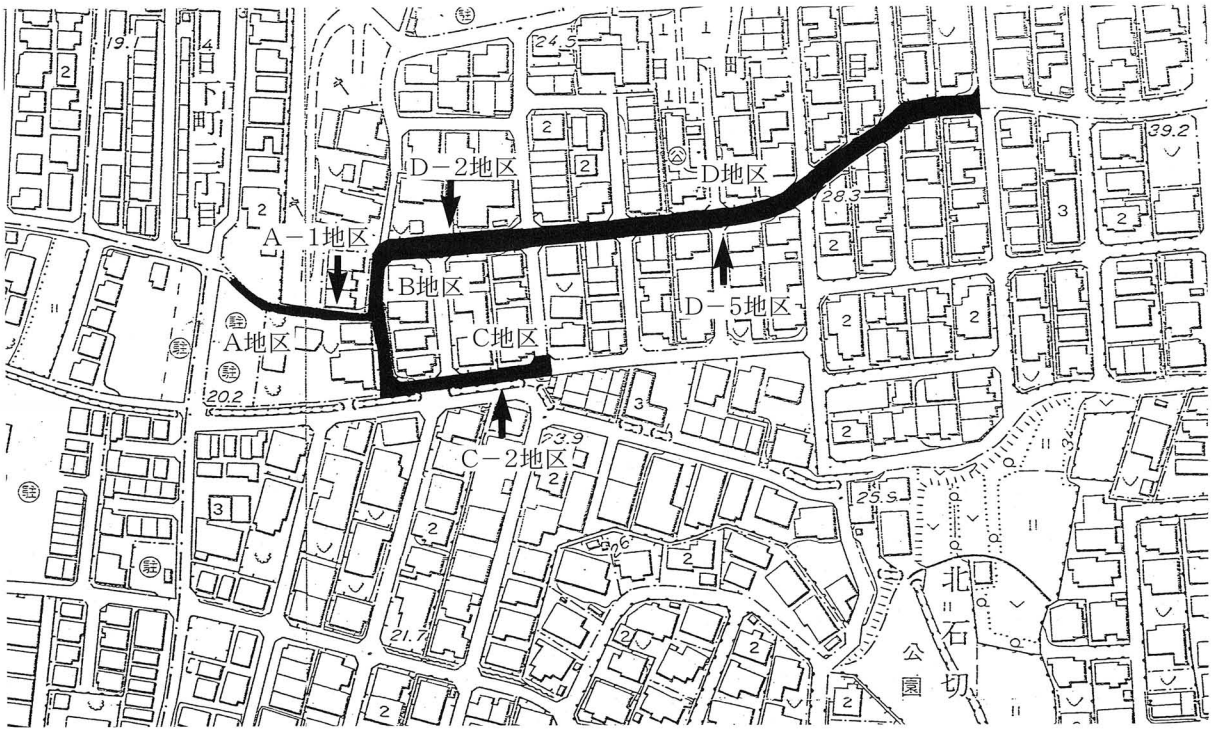
第3層　黒褐色(2.5Y3/1)微粒砂混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第13章　馬場（ばば）・芝ヶ丘（しばがおか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第25工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市北石切町1428－7～1872－2、2276－23～2293
3	調査面積	302㎡
4	調査期間	平成15年４月４日～５月16日（延べ16日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の東である。当地点は馬場・芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ355mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(10Y4/1)細礫混じりシルト。

第3層　灰オリーブ色(5Y5/2)細礫混じりシルト。

第4層　灰色(5Y5/1)細礫混じりシルト。

C－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(10Y4/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第3層　緑灰色(10GY5/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第4層　灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第5層　黄褐色(2.5Y5/3)粘質シルト。

D－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰色(5Y4/1)中粒砂～中礫混じりシルト。

第3層　オリーブ黒色(10Y3/2)中粒砂混じりシルト。

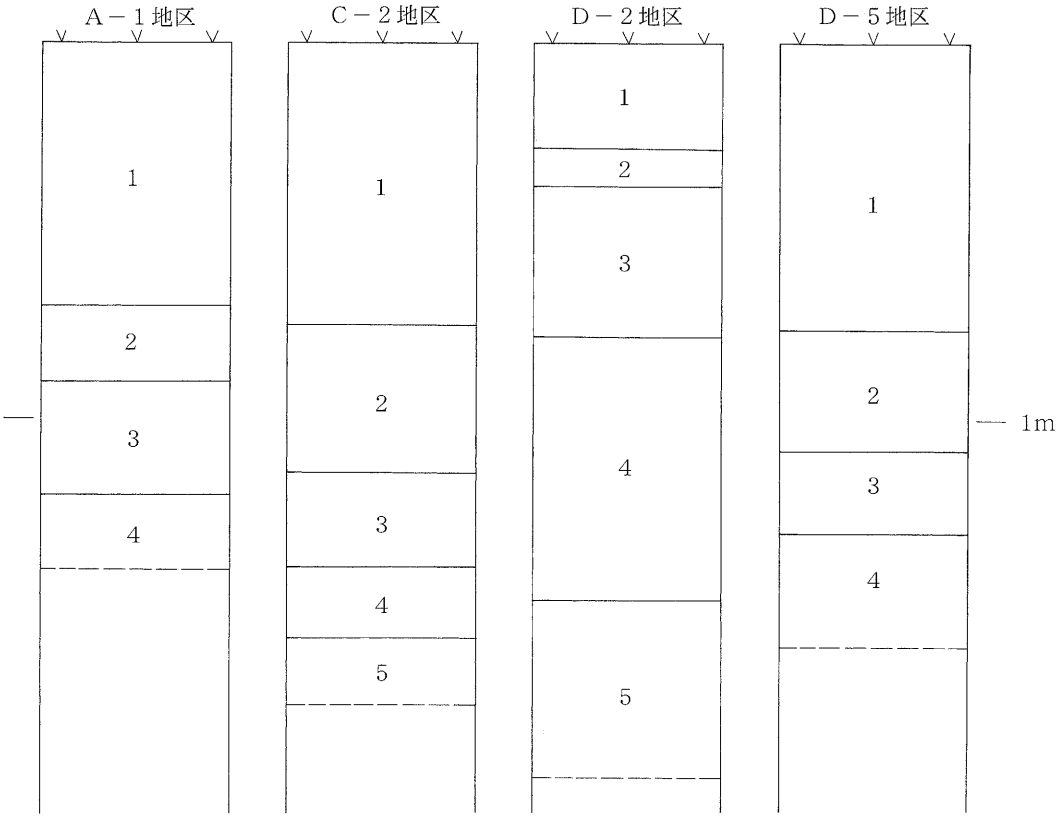
第4層　灰オリーブ色(7.5Y5/2)細粒砂混じりシルト。

第5層　灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂混じりシルト。

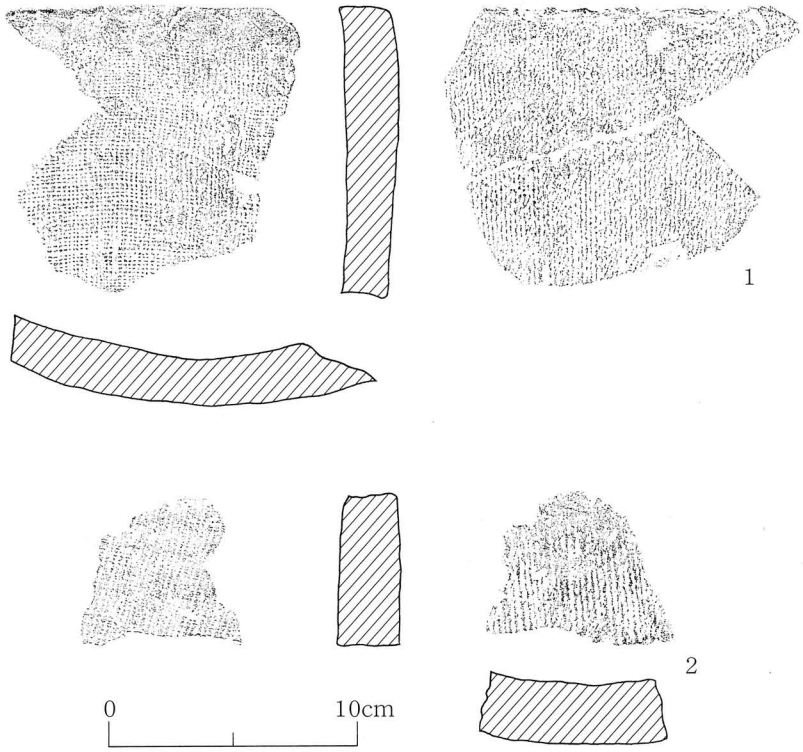
D－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黄褐色(2.5Y5/4)細粒砂～小礫混じりシルト。



土層断面柱状図



出土遺物実測図

調査地遠景

第３層　黄褐色(2.5Y5/3)
中粒砂～中礫混じり
シルト。

第４層　灰オリーブ色
(5Y5/2)中粒砂。

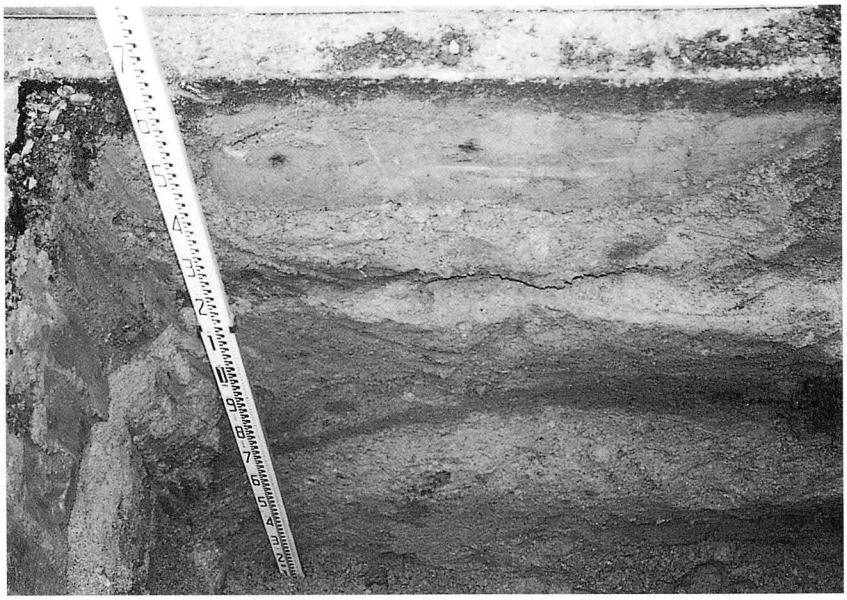
2. 出土遺物

Ｂ－３地区で奈良時代の瓦と須恵器を採集した。Ｂ地区は壁面の崩壊が著しく、土層断面を作成することはできなかった。

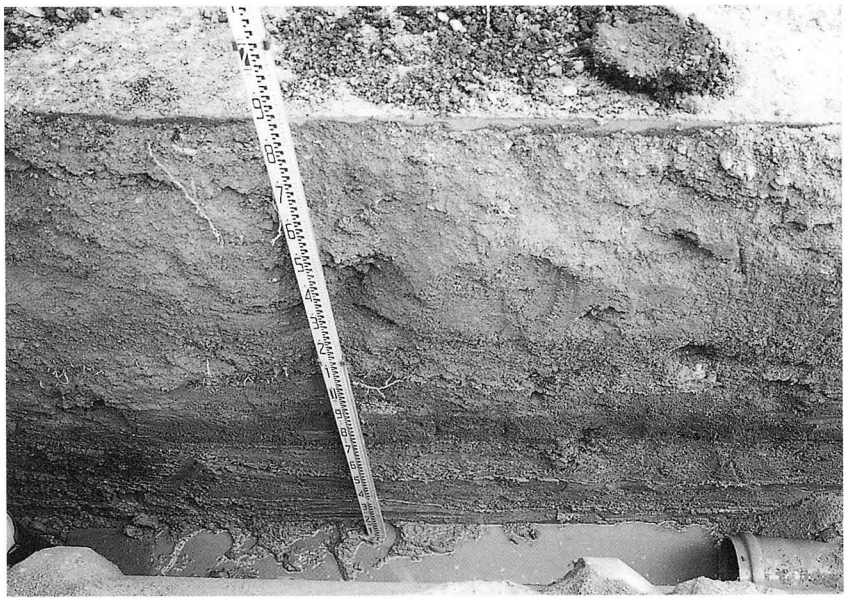
１・２は平瓦である。凸面は縄目のタタキ調整、凹面には布目痕が残る。胎土中に石英、長石、角閃石を含む生駒西麓産の粘土を使用する。３は須恵器である。甕の体部であり、外面を平行のタタキ調整の後、ナデ調整する。内面には青海波の当て具痕が残る。

3. まとめ

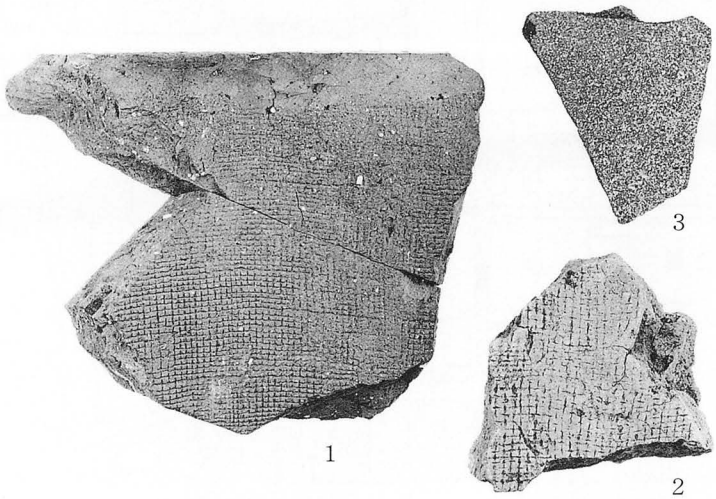
Ｂ－３地区で奈良時代の瓦と土器を採集した。当地点の東には石凝寺跡があることから採集した瓦は同寺との関連が考えられる。



Ａ－１地区土層断面



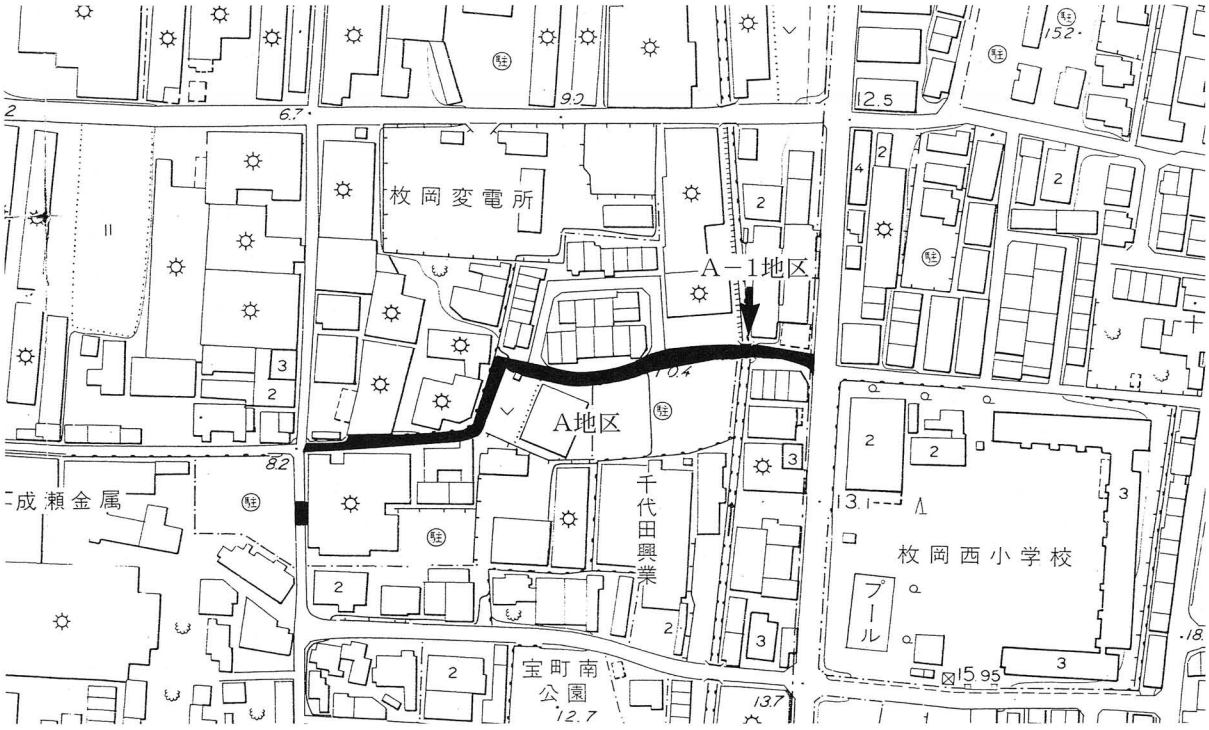
Ｃ－２地区土層断面



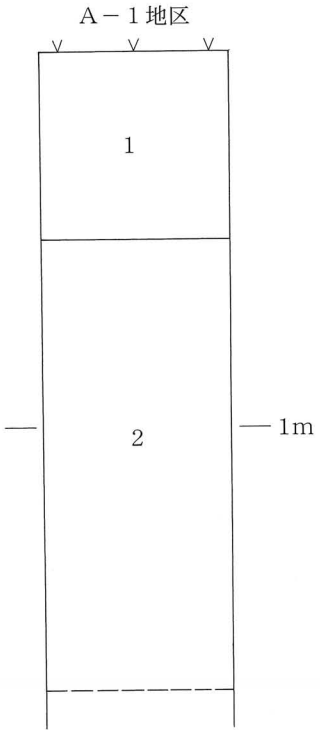
出土遺物（瓦）

第14章　鬼虎川・鬼塚・西ノ辻遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第７工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市宝町1747－4～1767－4、1841－2
3	調 査 面 積	201㎡
4	調 査 期 間	平成15年１月31日（延べ１日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡西小学校の西である。当地点は鬼虎川・鬼塚・西ノ辻遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事は推進と開削工法の部分があった。推進部の立坑は夜間工事のため調査できなかった。開削部は幅約0.9mで長さ199mの間である。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

調査状況

A－1地区土層断面

1. 調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

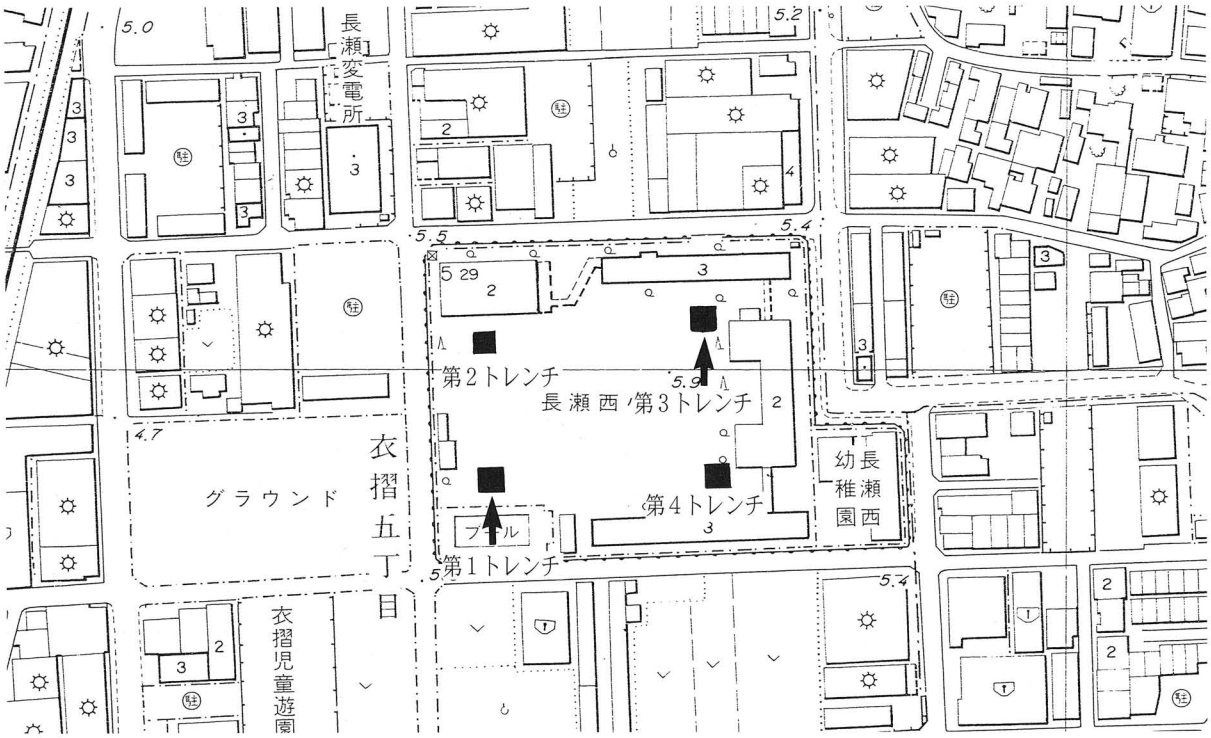
第2層　黒褐色(10YR3/1)粗粒砂混じりシルト。

2. まとめ

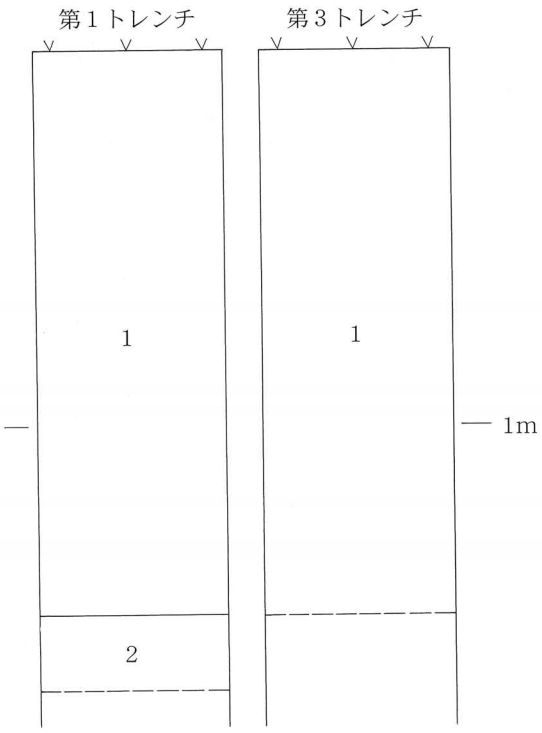
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第15章　衣摺（きずり）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成15年度長瀬西小学校貯留浸透工事
2	調査地点	東大阪市衣摺５丁目110－1、2他
3	調査面積	８㎡
4	調査期間	平成15年２月６日（延べ１日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は長瀬西小学校の運動場である。当地点は衣摺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、確認調査をおこなうことになった。調査は１×２ｍの範囲でトレンチを設定し、４ヶ所おこなった。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図

調査地遠景

調査状況

第１トレンチ土層断面

1. 調査の概要

第１トレンチの層序

第１層　盛土。

第２層　暗赤褐色(5YR3/2)細粒砂混じり粘質シルト。

第３トレンチの層序

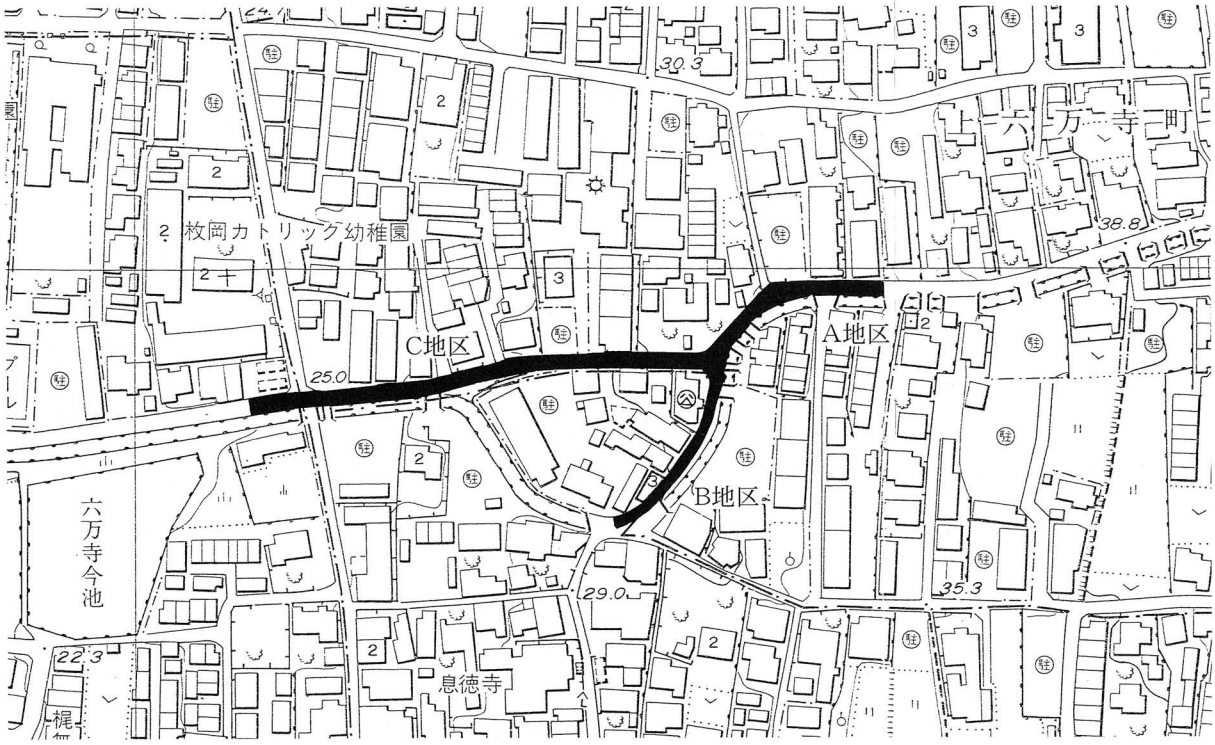
第１層　盛土。

2. まとめ

工事予定地の運動場に４ヶ所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。調査は約1.5mまでおこなったが遺構・遺物は確認できなかった。工事の掘削深度は１mであり、埋蔵文化財への影響はないと考えられる。

第16章　上六万寺（かみろくまんじ）遺跡の第８次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第16工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市上六万寺町1421－2～1429－16、1387－3～1945－6他
3	調 査 面 積	242㎡
4	調 査 期 間	平成15年５月１日～11月27日（延べ34日）
5	報 告 担 当	福瀬
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手中学校の南東である。当地点は上六万寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ285mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（１/2500）

1. 調査の概要

調査地は便宜上A～C地区に分け、A地区から調査を開始した。A地区の東側半分は遺跡範囲外であり、A地区のほとんどは河川に隣接していることと既設の下水道管の埋設によってすでに撹乱をうけていた。B・C地区で、弥生時代から中世期の遺物が多く出土した。特にB地区は多い。

2. 層位

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗褐色(10YR3/3)細～中粒砂。

B－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗褐色(10YR3/3)粗粒砂混じりシルト。

第3層　暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)細粒砂混じり粘質シルト。平安時代～中世期の遺物が出土。

C－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3) 細粒砂混じりシルト。

第3層　暗黄灰色(2.5Y4/2) 細粒砂混じり粘質シルト。

第4層　にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂。中世期の遺物が出土。

第5層　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂。中～大礫を含む。

第6層　黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂混じりシルト。

第7層　黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じり粘土。古墳～奈良時代の遺物が出土。

第8層　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。古墳～奈良時代の遺物が出土。

C－8地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(5Y2/2)中粒砂混じり粘質シルト。

第3層　オリーブ黒色(5Y3/2)中粒砂混じりシルト。

第4層　暗緑灰色(10G3/1)細粒砂混じり粘質シルト。古墳～奈良時代の遺物が出土。

3. 出土遺物

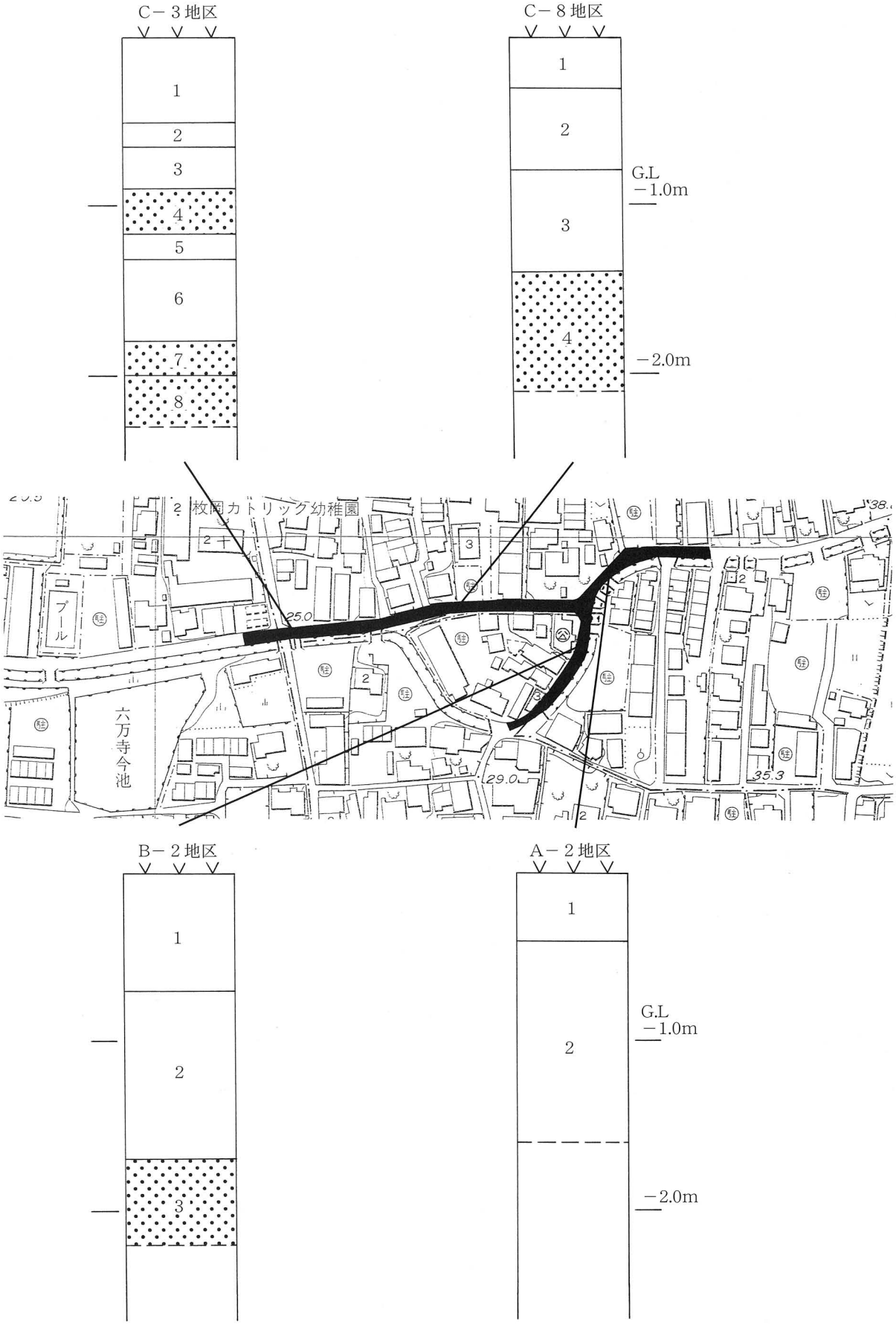
今回の調査では、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器などが出土した。

1、2は須恵器である。1は杯である。平底の底部である。立ち上がり部が短く外反して立ち上がる。外面の上部は回転ナデ調整、下部は回転ヘラケズリ調整する。内面は回転ナデ調整する。口径12.5cm、残存高3.3cmである。古墳時代中頃のものと思われる。2は器台の脚部である。裾部から斜めに狭まりながら立ち上がる。外面に3条と1条の凹線を施し、その間に斜め方向のキザミ目を施す。外内面とも回転ナデ調整する。裾部径24cm、残存高6.7cmである。古墳時代中頃のものと思われる。

3、4は土師器である。3は杯である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。外面に指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。4は椀である。体部は内弯気味に体部は立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。外面は指頭圧痕が残る。内面に暗文が残る。3は口径13.5cm、残存高4cmである。4は口径16cm、残存高4cmである。3、4とも平安時代中頃のものと思われる。

5は弥生土器の底部である。平底の底部である。内外面はナデ調整する。底径4cm、残存高2.5cmである。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。詳細な時期は不明である。

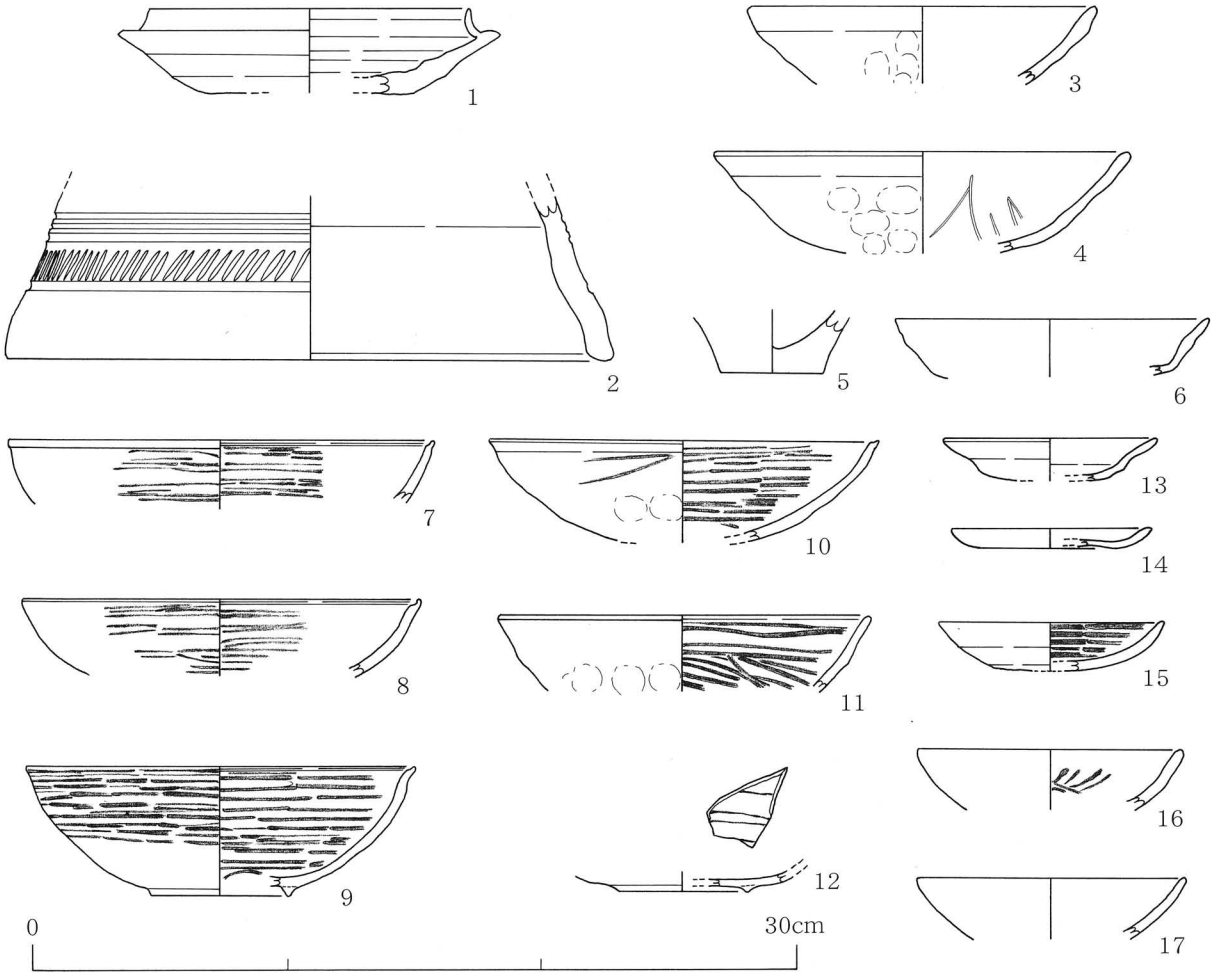
6は土師器の大皿である。体部が外上方に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整


C－３地区
1
2
3
4
5
6
7
8
C－８地区
1
2
3
4
G.L
－1.0m
－2.0m
枚岡カトリック幼稚園
プール
六万寺今池
25.0
29.0
35.3
B－２地区
1
2
3
A－２地区
1
2
G.L
－1.0m
－2.0m

土層断面柱状図

する。口径12.2cm、残存高2.3cmである。室町時代頃のものと思われる。

7～12、15～17は瓦器である。7～10は椀である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部がわずかに外反する。内面に1条の沈線を巡らす。大和型である。7は口縁部の立ち上がりが直線的である。内外面は密なヘラミガキ調整する。口径16.5cm、残存高2.5cmである。川越編年(川越1983)のⅠ－C期に相当する。8は体部が傾きながら外上方に伸びる。内外面のヘラミガキ調整は密である。口径15.5cm、残存高3cmである。9は8と同様の形状である。断面三角形の貼り付け高台を持つ。外面は体部の中央部から口縁部にかけて密にヘラミガキ調整する。内面は全体に亘って密にヘラミガキ調整する。見込み部に連結輪状の暗文が少し残る。口径15cm、残存高5cmである。8、9はⅡ－A期に相当する。10は体部が8、9に比べてより傾きながら外上方に伸びる。外面のヘラミガキ調整はわずかである。指頭圧痕が残る。内面は密なヘラミガキ調整する。口径15cm、残存高4cmである。Ⅲ－C期に相当する。11は体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。外面はヘラミガキ調整が消失し、指頭圧痕を残す。内面は粗いヘラミガキ調整する。口径14.5cm、残存高3cmである。和泉型である。尾上編年(尾上1983)のⅢ－3期に相当する。12は高台部分である。低い断面三角形の貼り付け高台である。見込み部に平行線文の暗文が認められる。底径5cm、残存高0.8cmである。和泉型と思われるが詳細は不明である。7～9は平安時代末～鎌倉時代初め頃のものと思われる。10、11は鎌倉時代前半～中頃のものと思われる。16、17は椀である。16は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。外面はナデ調整する。内面は粗いヘラミガキ調整する。口径10.5cm、残存高2.5cm



出土遺物実測図

である。器形的に小型である。和泉型でⅣ－3期に相当する。17は体部が外上方に伸び、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径10.5cm、残存高2.5cmである。和泉型のⅣ期頃のものと思われるが詳細は不明である。16、17は室町時代前半頃のものと思われる。

15は皿である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部で丸く終わる。外面は剥離のため不明である。内面は密なヘラミガキ調整する。口径8.7cm、残存高1.9cmである。時期は不明である。

13、14は、土師器の皿である。13は体部が外上方に広がりながら伸び、口縁端部で丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径8.3cm、残存高1.7cmである。平安時代末頃のものと思われる。14は底部がくぼむ。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径８cm、残存高0.8cmである。鎌倉時代頃のものと思われる。

4. まとめ

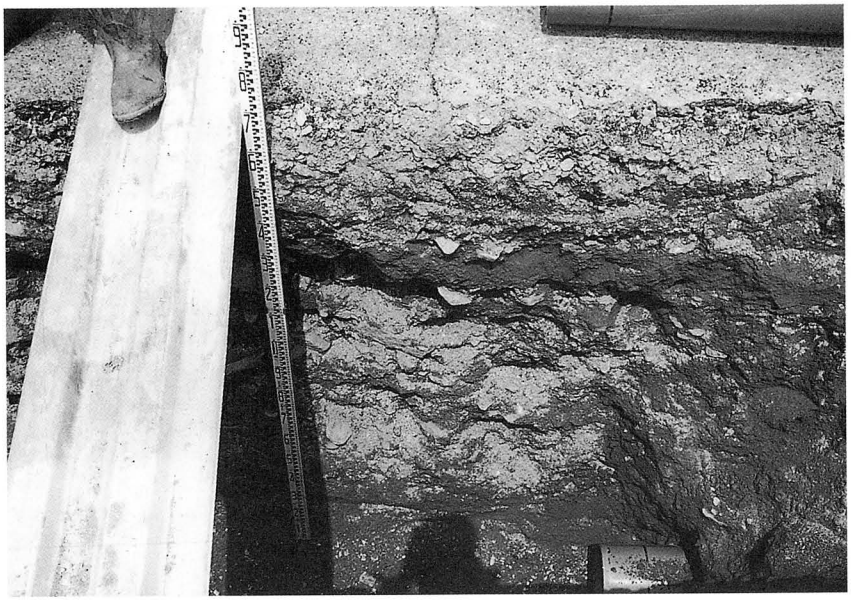
今回の調査では、Ｂ地区において弥生時代～中世期の遺物が多く出土した。特にＢ－２～Ｂ－４地区の区間で集中的に出土した。調査地は隣接する河川や既設の下水管などの埋設による撹乱を受けた箇所が多く、遺構などの存在は確認出来なかった。調査地周辺では下水道関係の調査を繰り返し行なっており、弥生時代後期から中世期の遺物を多く確認している。今回の調査地周辺においても、概調査の成果を追認することが出来た。

調査地遠景（Ｂ地区）

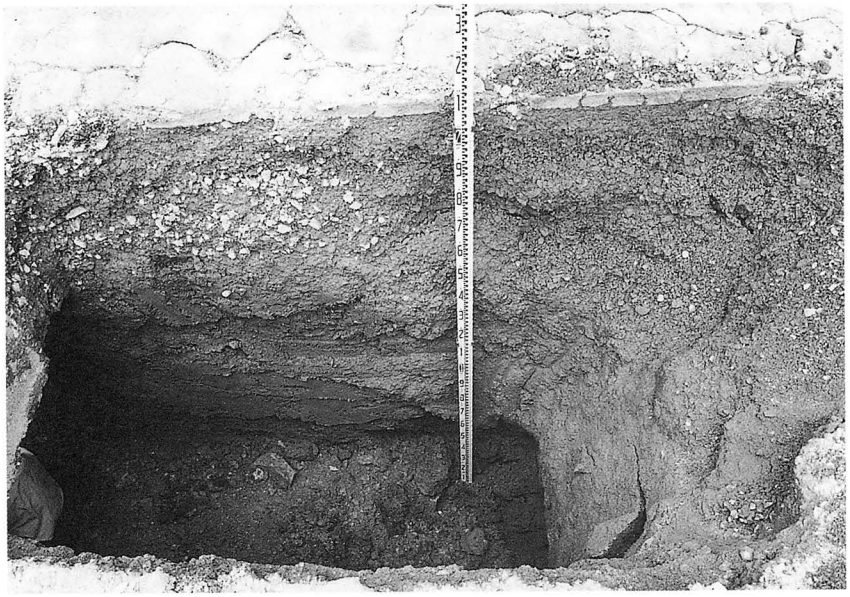
調査地遠景（Ｃ地区）

参考文献

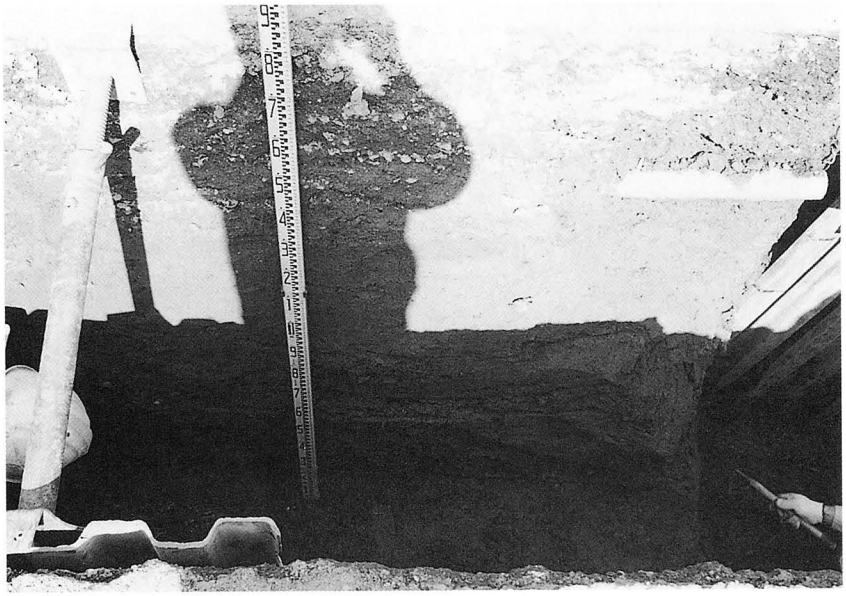
川越1983、尾上1983（『概説　中世の土器・陶磁器』　中世土器研究会編　1995）



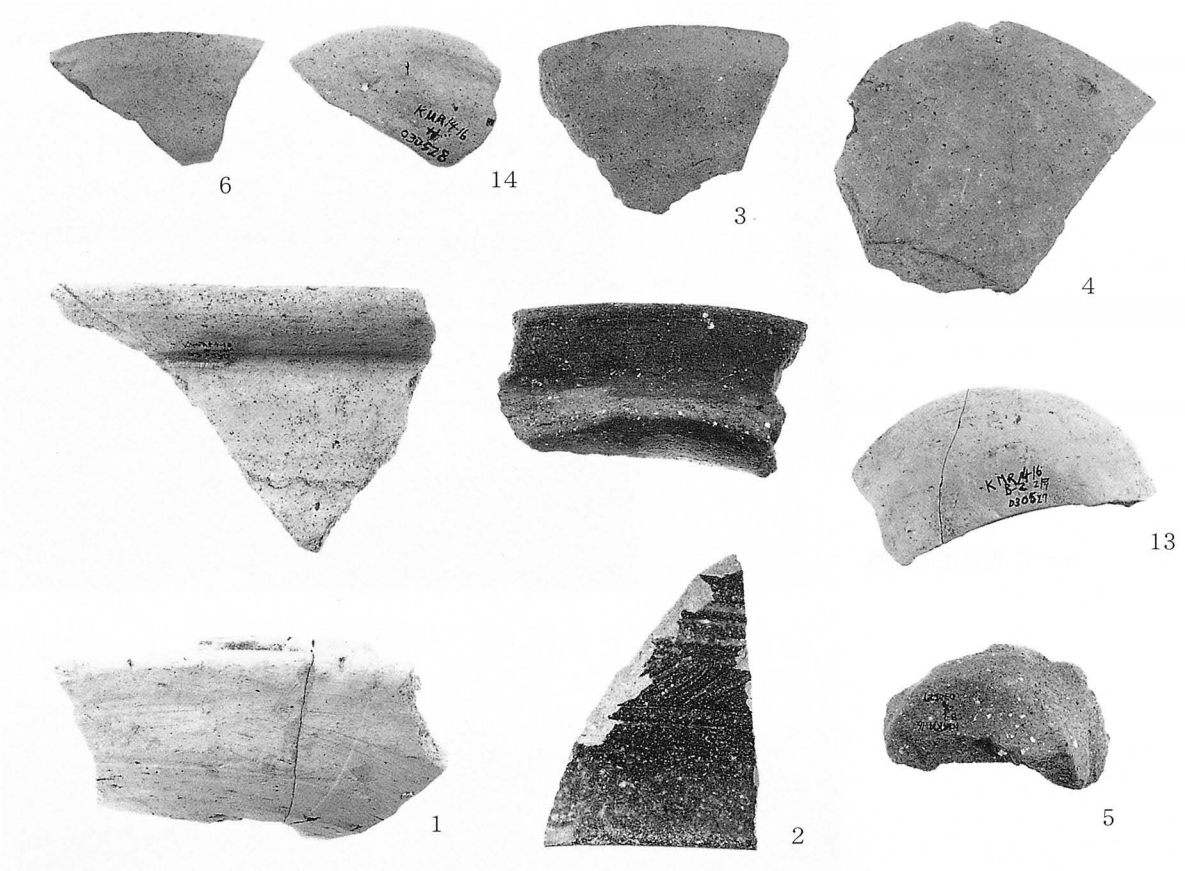
A－２地区土層断面



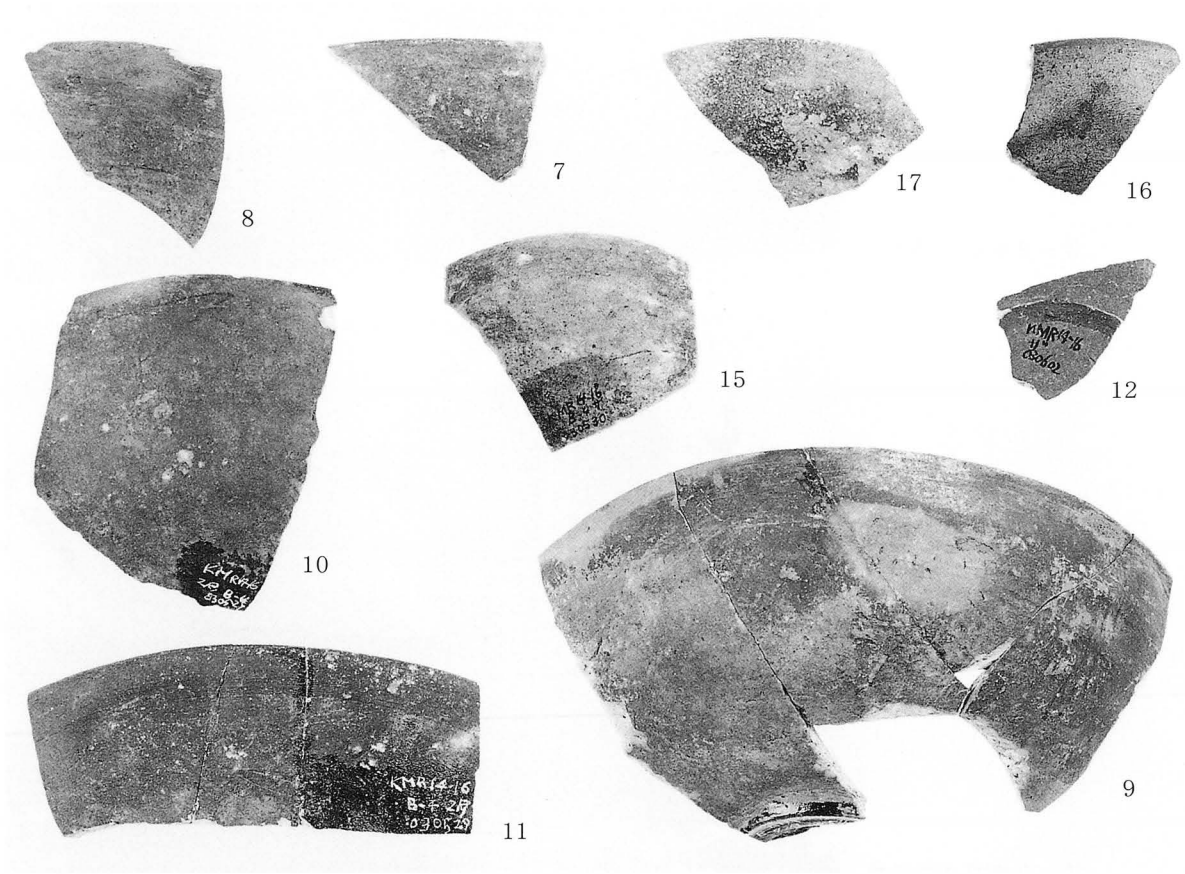
B－２地区土層断面



C－３地区土層断面



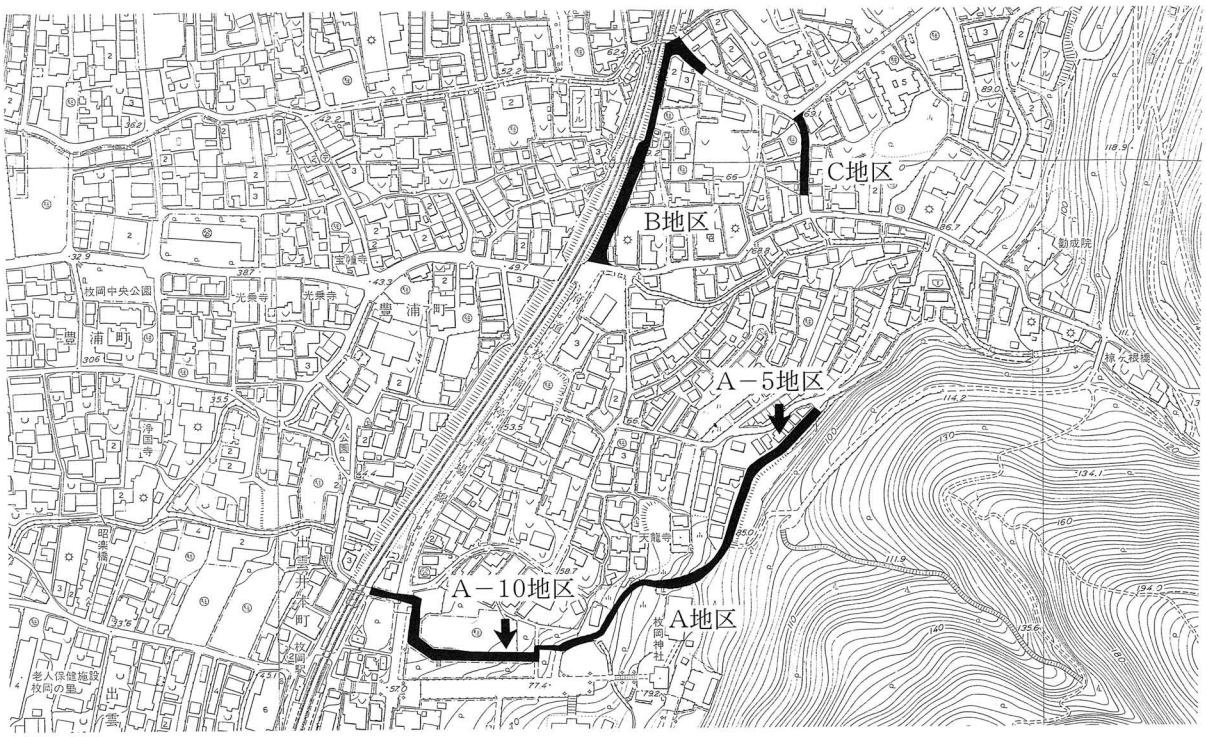
出土遺物（弥生土器・土師器・須恵器）



出土遺物（瓦器）

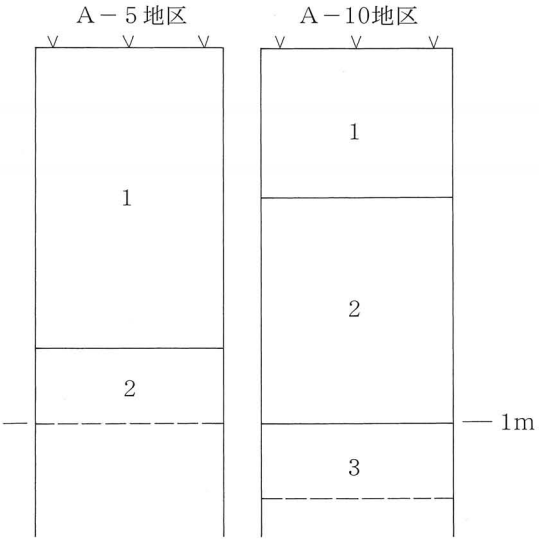
第17章　出雲井遺跡群・みかん山古墳群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第30工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東豊浦町443－25～931－2他
3	調 査 面 積	406㎡
4	調 査 期 間	平成15年５月13日～10月28日（延べ31日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡神社の東と北東である。当地点は出雲井遺跡群・みかん山古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ471mの間であり、開削と推進工法である。

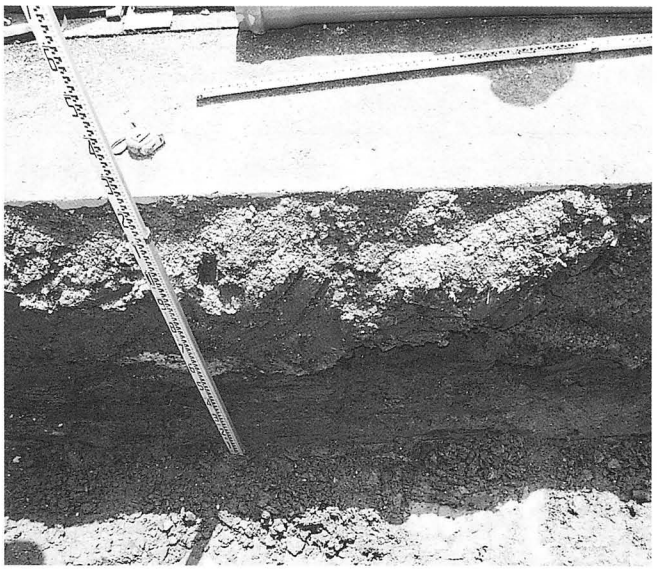


調査地点位置図（１/5000）

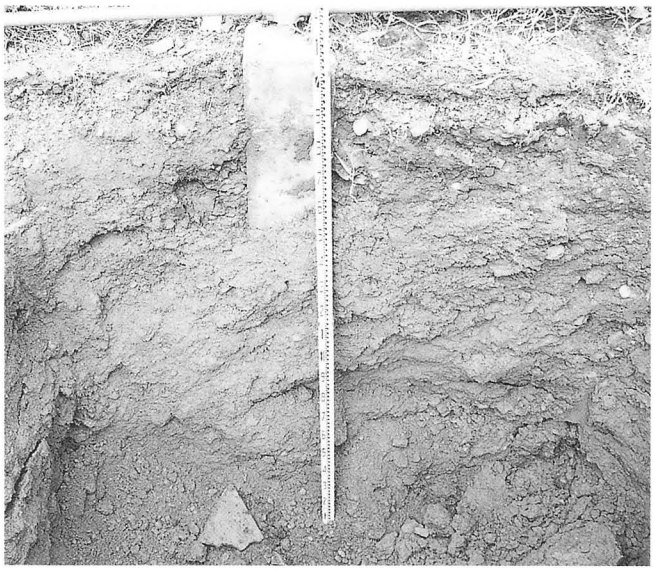
調査地遠景



土層断面柱状図



A－5地区土層断面



B－3地区土層断面

1. 調査の概要

A－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗緑灰色(5G4/1)細粒砂混じり粘質シルト。

A－10地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じり粘質シルト。

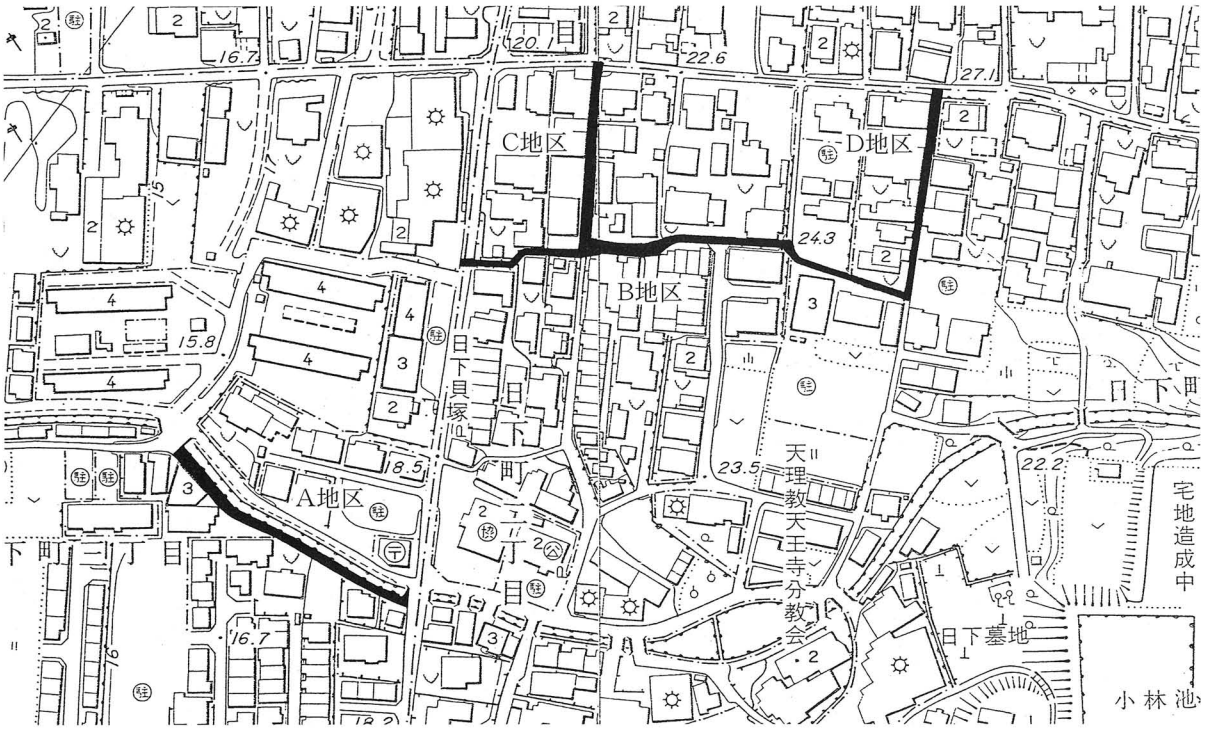
第3層　暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。B・C地区は壁崩壊の危険性があり、土層断面は作成できなかった。

第18章　日下（くさか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第51工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市日下町３丁目1410－1～1420他
3	調査面積	426㎡
4	調査期間	平成15年５月６日～９月30日（延べ48日）
5	報告担当	川本
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衙東小学校の南と南西である。当地点は日下遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ493mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

B－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗褐色(10YR3/3)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)中粒砂混じり粘質シルト。遺物包含層。

第4層　黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

第5層　黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

B－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　暗オリーブ灰色(5GY/1)中粒砂混じり粘質シルト。

第4層　黒色(2.5GY2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

B－7地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰黄褐色(10YR5/2)中粒砂混じり粘質シルト。遺物包含層。

第3層　灰黄褐色(10Y4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

B－11地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR3/2)中粒砂混じり粘質シルト。

第3層　オリーブ褐色(2.5YR4/3)粗粒砂混じり粘質シルト。

第4層　黒褐色(2.5YR3/2)中粒砂混じり粘質シルト。

C－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黄褐色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　暗緑灰色(5G3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第4層　黒褐色(10YR3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

D－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(5G3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　黒褐色(2.5Y3/2)バラス。

D－6地区の層序

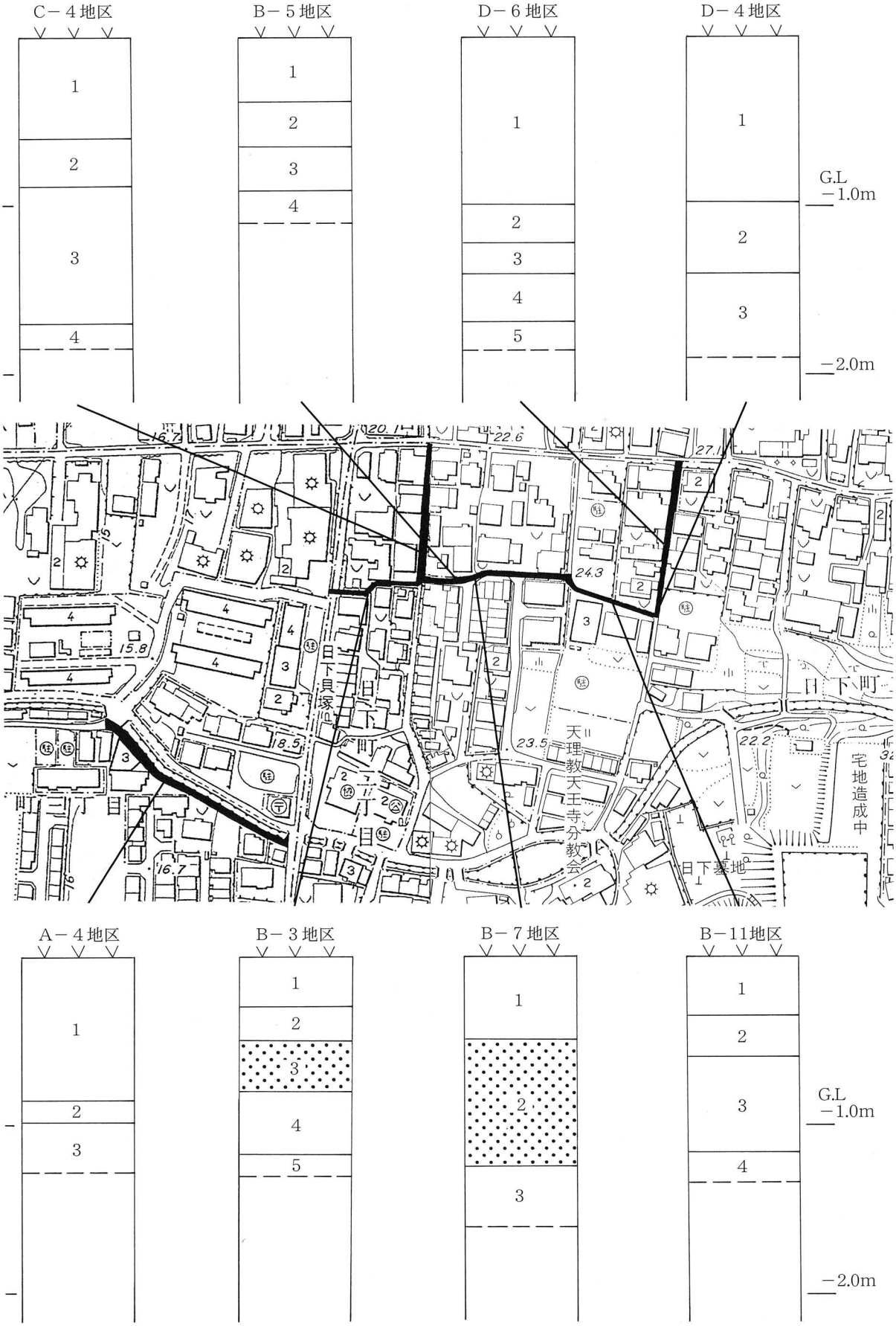
第1層　盛土。

第2層　暗緑灰色(5G3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　黒色(2.5Y2/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第4層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。中礫を含む。

第5層　黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂混じり粘質シルト。


C－4地区
B－5地区
D－6地区
D－4地区
G.L
－1.0m
－2.0m
日下貝塚
日下町
天理教天王寺分教会
日下墓地
宅地造成中
A－4地区
B－3地区
B－7地区
B－11地区
G.L
－1.0m
－2.0m

土層断面柱状図

2. 出土遺物

今回の調査では、古墳から中世期の遺物が出土した。遺物は須恵器、土師器、瓦器椀・羽釜などがある。

1～6は須恵器である。1は杯身である。立ち上がり部は高く、やや内弯する。口縁端部は丸く終わる。全体的に器壁が薄い。内外面は回転ナデ調整する。口径13.2cm、残存高3.6cmである。2は無蓋高杯の杯部である。口縁部はゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。外面は体部上半を回転ナデ調整し、下半はナデ調整する。内面は回転ナデ調整する。体部は凸帯と沈線で区画し、その間に原体数4本の波状文を施す。口径14.0cm、残存高4.0cmである。1、2は6世紀中葉から後半のものである。3は台付杯である。高台の高さは低く、やや内弯する。端部は面をもつ。体部は高台から角をもって屈曲する。内外面は回転ナデ調整する。高台部は回転ナデ調整する。高台径12.0cm、残存高2.0cmである。奈良時代のものである。4は甕の体部である。外面はタタキ調整する。内面は青海波文の当て具痕を残す。内面に酸化鉄が付着する。5、6は器台の脚部である。5は外面に沈線がめぐる。その下に波状文を施す。内面は回転ナデ調整する。6は外面に1条の凸帯で区画し、上下に原体数10本の波状文を2帯施す。内面は回転ナデ調整する。透かし孔の一部が残っており、外側は面取りする。

7は土師器の高杯の脚部である。裾部が一部欠損する。外面は摩滅しており、調整法が不明である。内面には粘土の接合痕が残る。残存高9.9cmである。胎土中に長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は橙色である。古墳時代のものである。

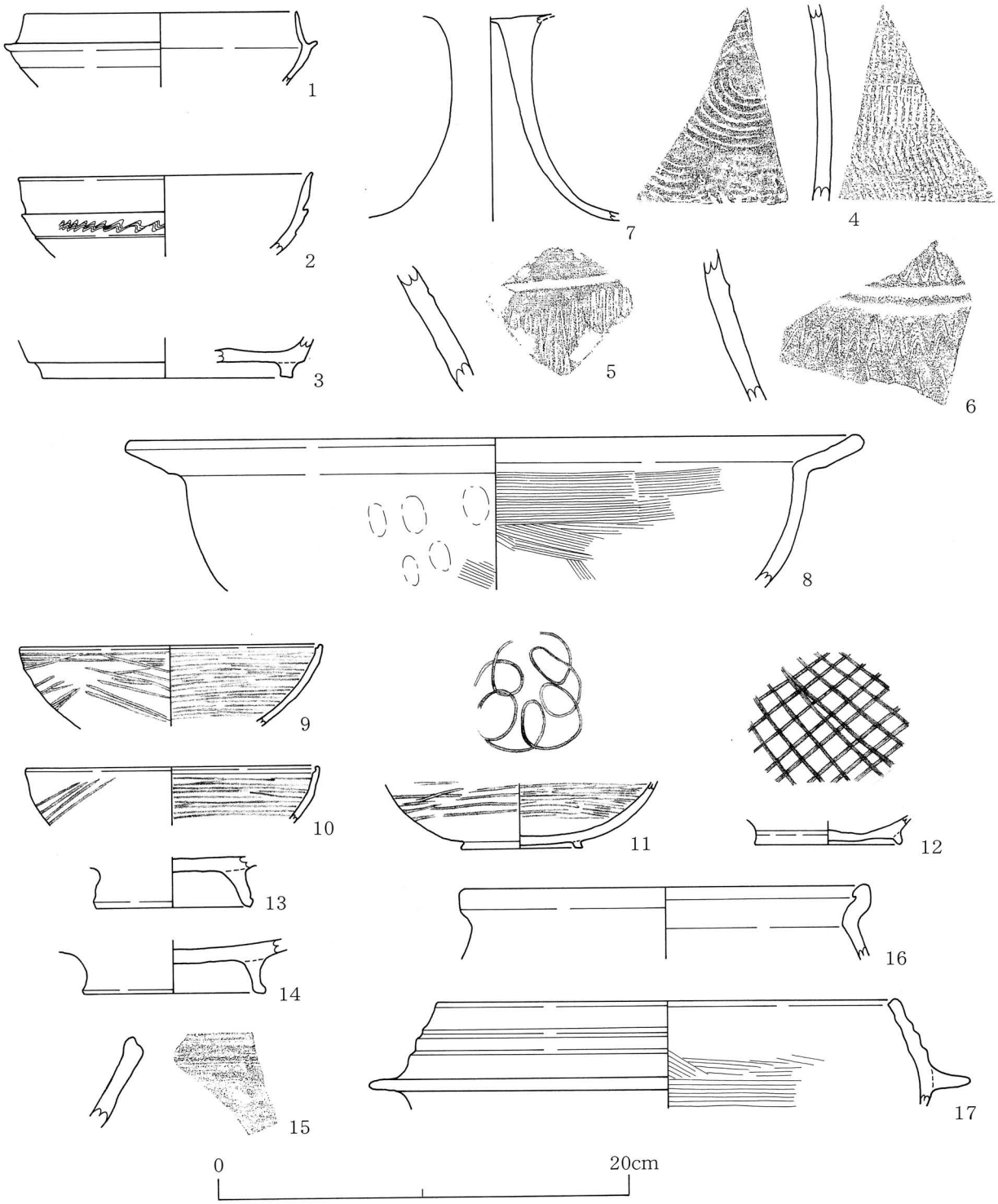
8は土師器の鍋である。体部はやや丸みをおびる。口縁部はくの字に屈曲し大きく開く。端部は面取りする。内面の口縁部と体部境に強い稜をもつ。体部外面は調整法が不明である。指頭圧痕が残る。内面は横の方向にハケメ調整する。口縁部内外面は横ナデ調整する。胎土中に石英、長石、雲母、クサリ礫、角閃石を含む。生駒西麓産である。色調は黒褐色である。口径24.0cm、残存高8.6cmである。平安時代のものである。

9～12は瓦器椀である。9は体部が丸みをもち、口縁部がやや外反する。口縁端部内面に沈線がめぐる。外面は分割のヘラミガキ調整する。内面は口縁部に細いヘラミガキ調整する。口径14.4cm、残存高3.9cmである。10は口縁部に弱い稜をもち、やや外反する。口縁端部内面に沈線がめぐる。やや器壁が薄い。外面は口縁部が横ナデ調整する。体部は斜めにヘラミガキ調整する。内面は口縁部に細いヘラミガキ調整する。口径14.0cm、残存高3.8cmである。11は体部が丸みをもって大きく開く。高台がほぼ直立するものである。端部は面をもつ。外面は体部下半まで分割のヘラミガキ調整し、下半はナデ調整する。口縁部内面は細いヘラミガキ調整する。見込み部には右まわりの連結輪状の暗文を施す。高台径5.8cm、残存高3.2cmである。12は高台がハの字に開く。端部は丸く終わる。見込み部には格子状の暗文を施す。高台径7.0cm、残存高1.2cmである。9～11は12世紀初め頃、12は12世紀頃のものである。

13、14は土師器の椀である。13は高台がハの字状に広がる。端部は面をもつ。外内面ともにナデ調整する。高台径7.4cm、残存高2.5cmである。14は高台がほぼ直立し、端部近くで外反する。内外面はナデ調整する。高台径8.6cm、残存高2.6cmである。平安時代のものとおもわれる。

15は須恵器の捏鉢である。東播系である。口縁端部はやや内上方へ拡張し、面をもつ。内外面はナデ調整する。12世紀中頃のものである。

16は土師器の羽釜である。大和型である。口縁部は内弯し、丸みをもつ。口縁端部は内側に巻き込む。内面の口縁部と体部境に強い稜をもつ。内外面は口縁部が横ナデ調整する。体部がナデ調整する。口径19.4cm、残存高3.5cmである。12世紀中頃のものである。



出土遺物実測図

17は瓦器の羽釜である。口縁部はやや内弯する。段が３段めぐる。口縁端部は面をもつ。鍔は水平である。口縁部内外面は横ナデ調整する。体部内面は横の方向にハケメ調整する。口径22.0cm、残存高5.2cmである。14世紀中頃のものである。

3. まとめ

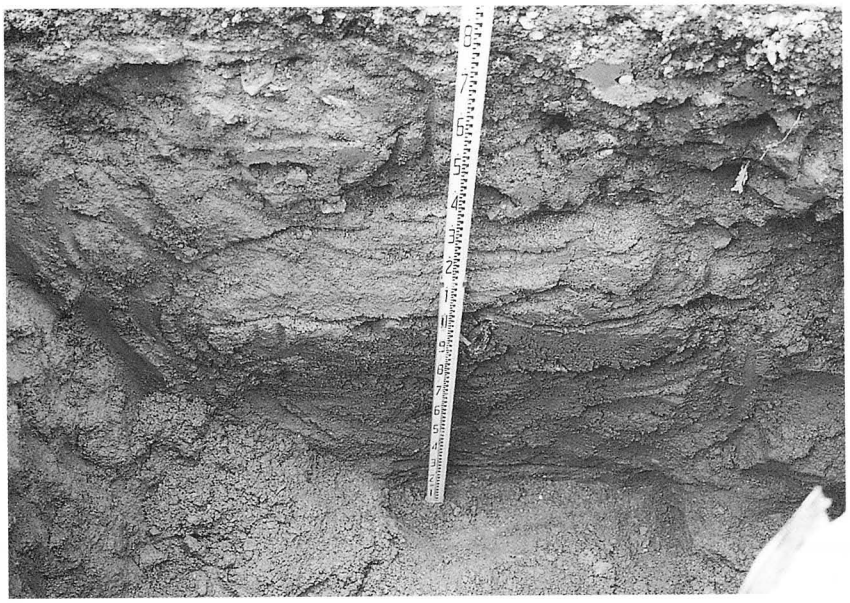
日下遺跡は過去の調査で、縄文～古墳時代の遺構、遺物が出土している。貝塚や人骨などが広く知られている。今回の調査ではＢ地区で古墳～中世期の遺物が出土した。調査例では発見の少ない平安～中世期の遺物包含層を新たに確認することができた。当時期の集落が広がっている可能性がある。

調査地遠景

Ａ－４地区土層断面

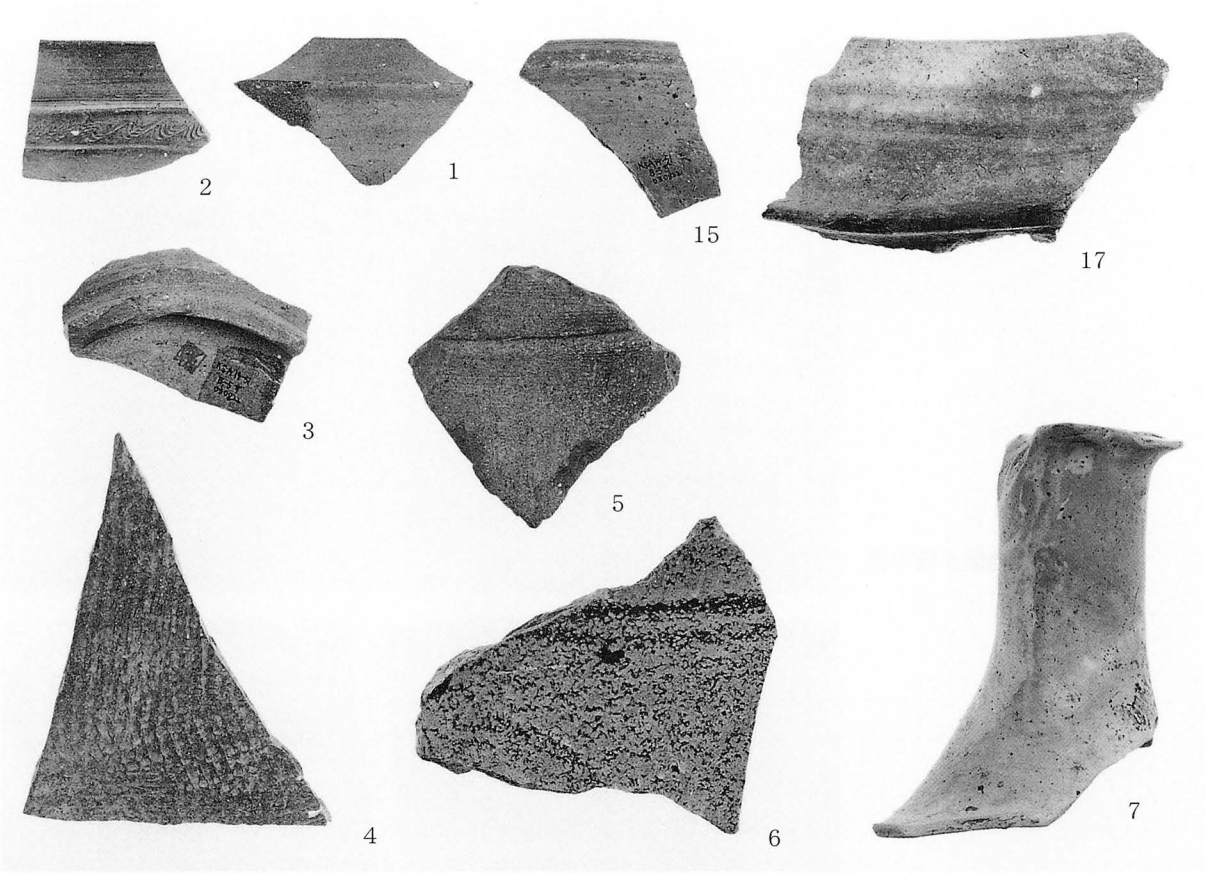
Ｂ－３地区土層断面

B－11地区土層断面

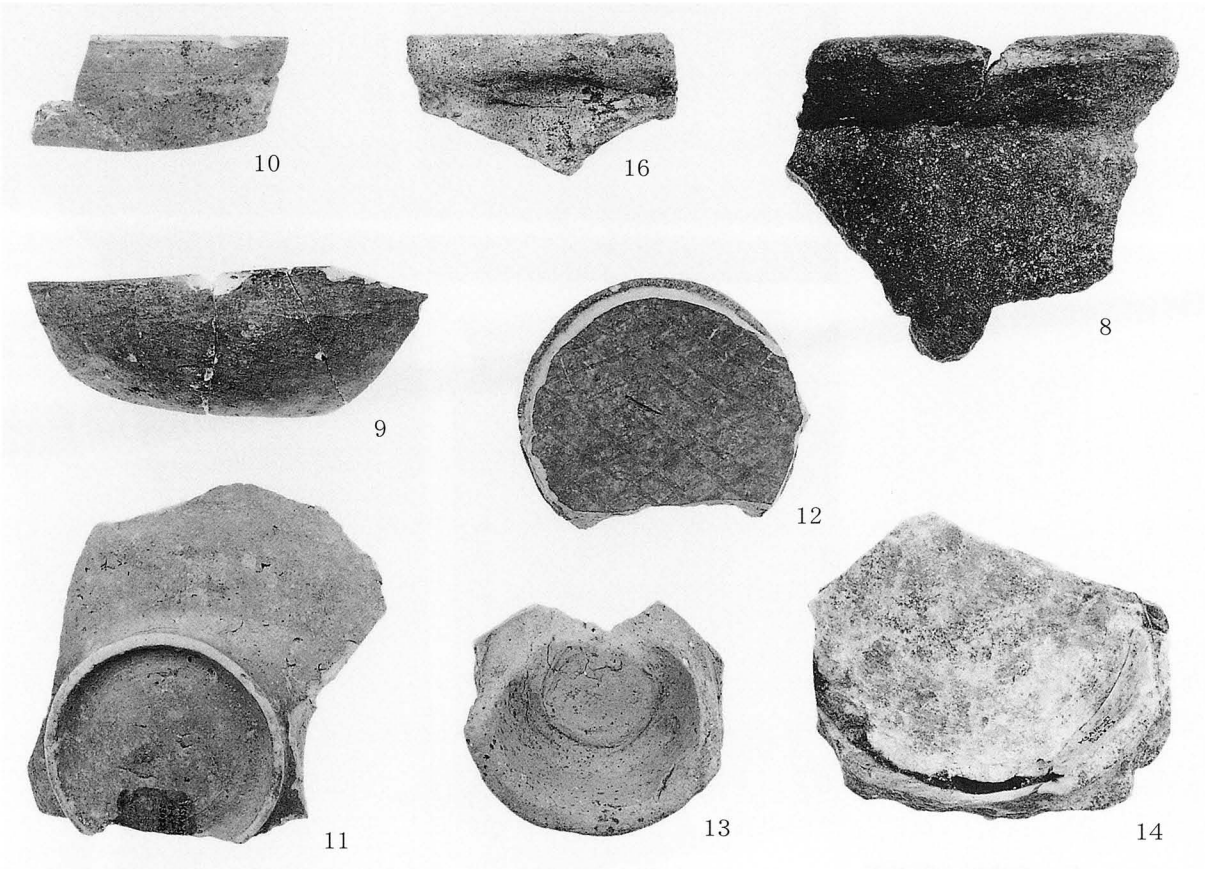


C－4地区土層断面

D－6地区土層断面



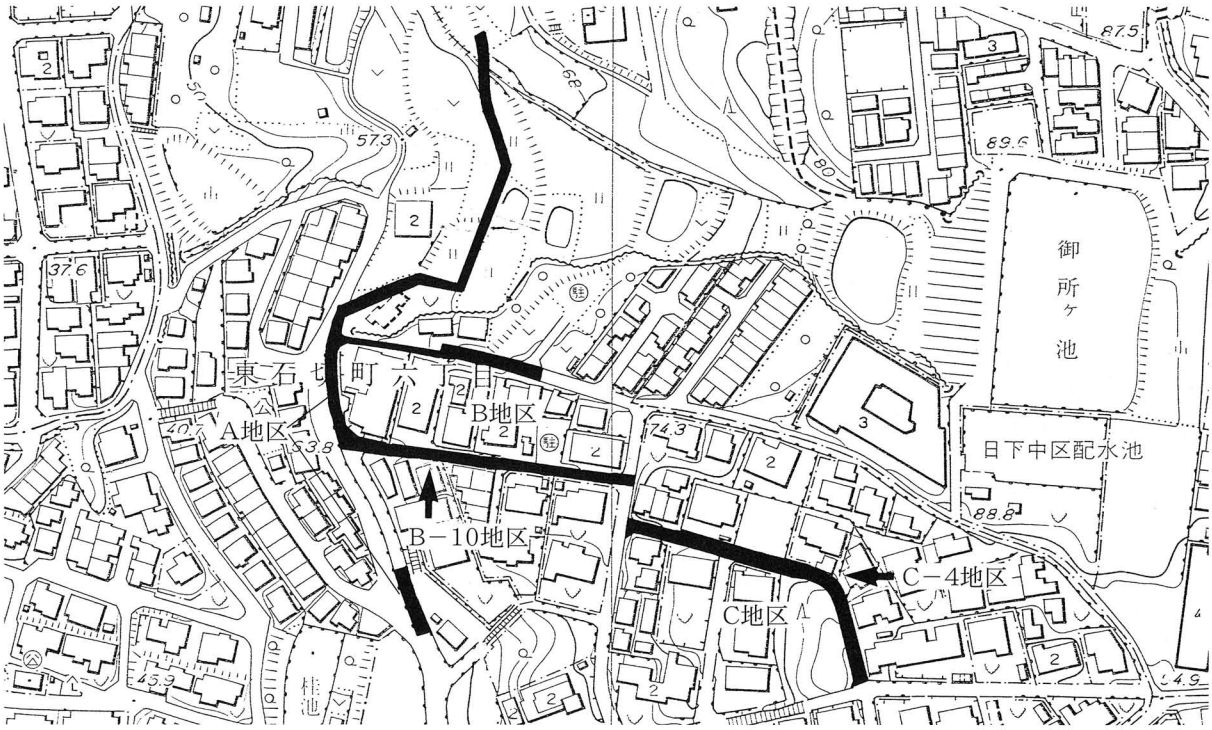
出土遺物（須恵器・土師器・瓦器）



出土遺物（土師器・瓦器）

第19章　芝坊主山（しばぼうずやま）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第48工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市東石切町６丁目1672－41～1672－49
3	調査面積	481㎡
4	調査期間	平成15年４月３日～11月21日（延べ32日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切山手幼稚園の北西である。当地点は芝坊主山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9～1.0mで長さ601mの間であり、開削と推進工法である。

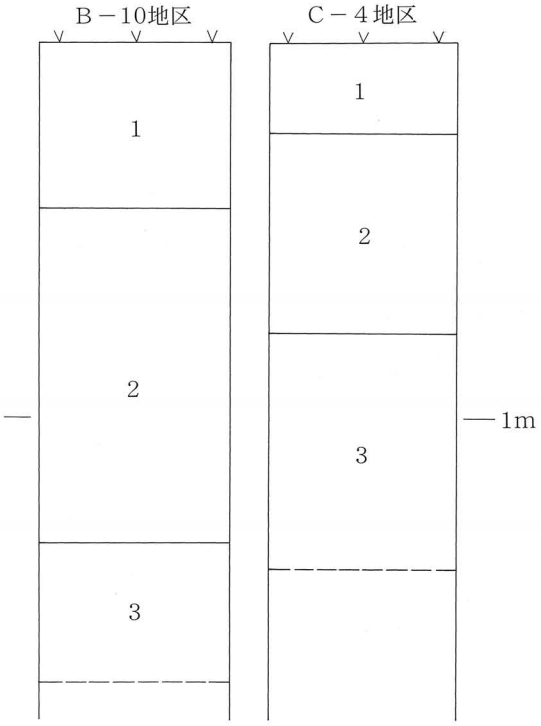


調査地点位置図（1/2500）

調査状況

Ｂ－10地区土層断面

Ｃ－４地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ｂ－10地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黄褐色(10YR5/6)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第３層　にぶい黄橙色(10YR6/4)細粒砂混じり粘質シルト。

Ｃ－４地区の層序

第１層　盛土。

第２層　明黄褐色(10YR7/6)中粒砂混じり粘質シルト。

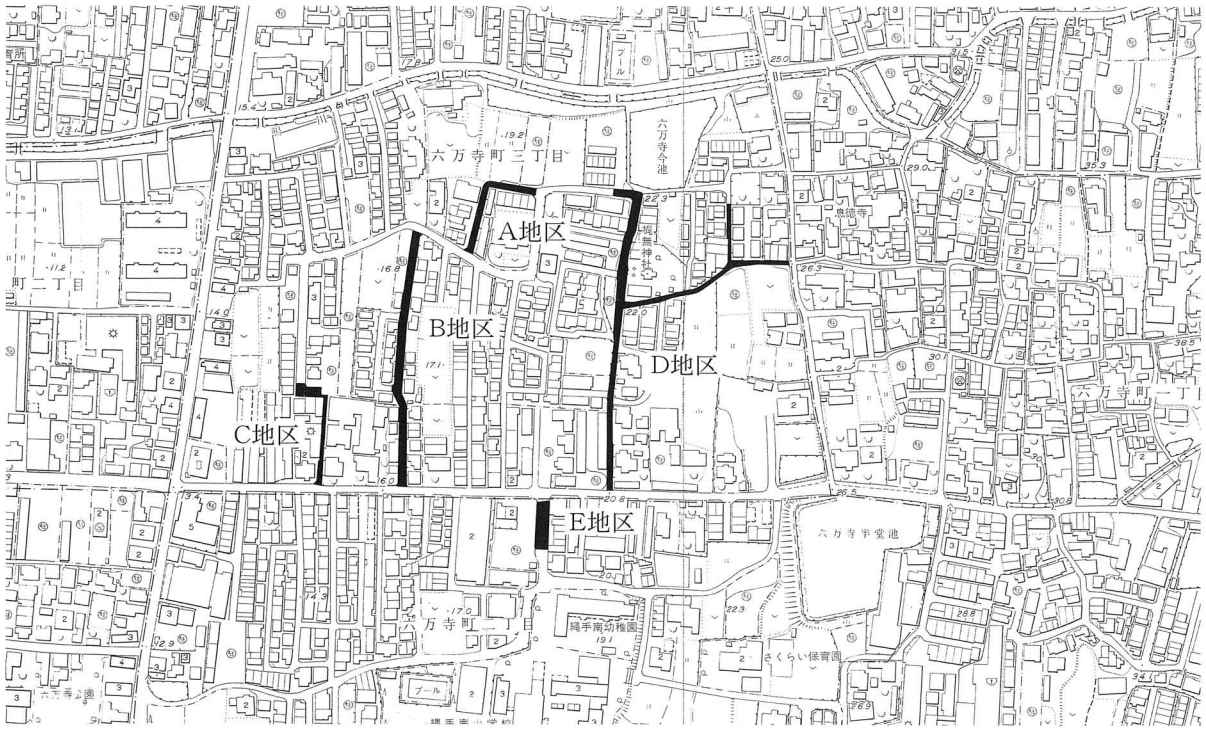
第３層　黄褐色(10YR5/6)中粒砂～巨礫混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第20章　船山（ふなやま）遺跡の第６次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第33工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町３丁目599－11～603－8他
3	調 査 面 積	654㎡
4	調 査 期 間	平成15年５月27日～11月７日（延べ51日）
5	報 告 担 当	福瀬
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手南幼稚園の北である。当地点は船山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ769mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（１/5000）

1. 調査の概要

調査地は便宜上A～E地区に分け、A地区より調査を開始した。A地区はほとんど撹乱を受けていた。B～D地区において弥生時代～中世期の遺物が出土した。特にD地区は多い。

2. 層位

B－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR3/2)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層　暗褐色(10YR3/3)粘質シルト。

第4層　灰色(10Y4/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

B－6地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層　黒色(2.5Y2/1)中粒砂混じり粘質シルト。中世期の遺物が出土。

第4層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)細粒砂混じり粘土。

C－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒色(7.5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第4層　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混じり粘質シルト。

D－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗緑灰色(5G3/1)粗粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層　オリーブ黒色(7.5Y3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

D－7地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じりシルト。

第3層　オリーブ黒色(5Y3/2)中粒砂混じり粘質シルト。中世期の遺物が出土。

第4層　暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第5層　黒褐色(10YR3/2)粗粒砂混じりシルト。

D－8地区の層序

第1層　盛土。

第2層　にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂混じりシルト。

第3層　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じりシルト。

第4層　暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

D－24地区の層序

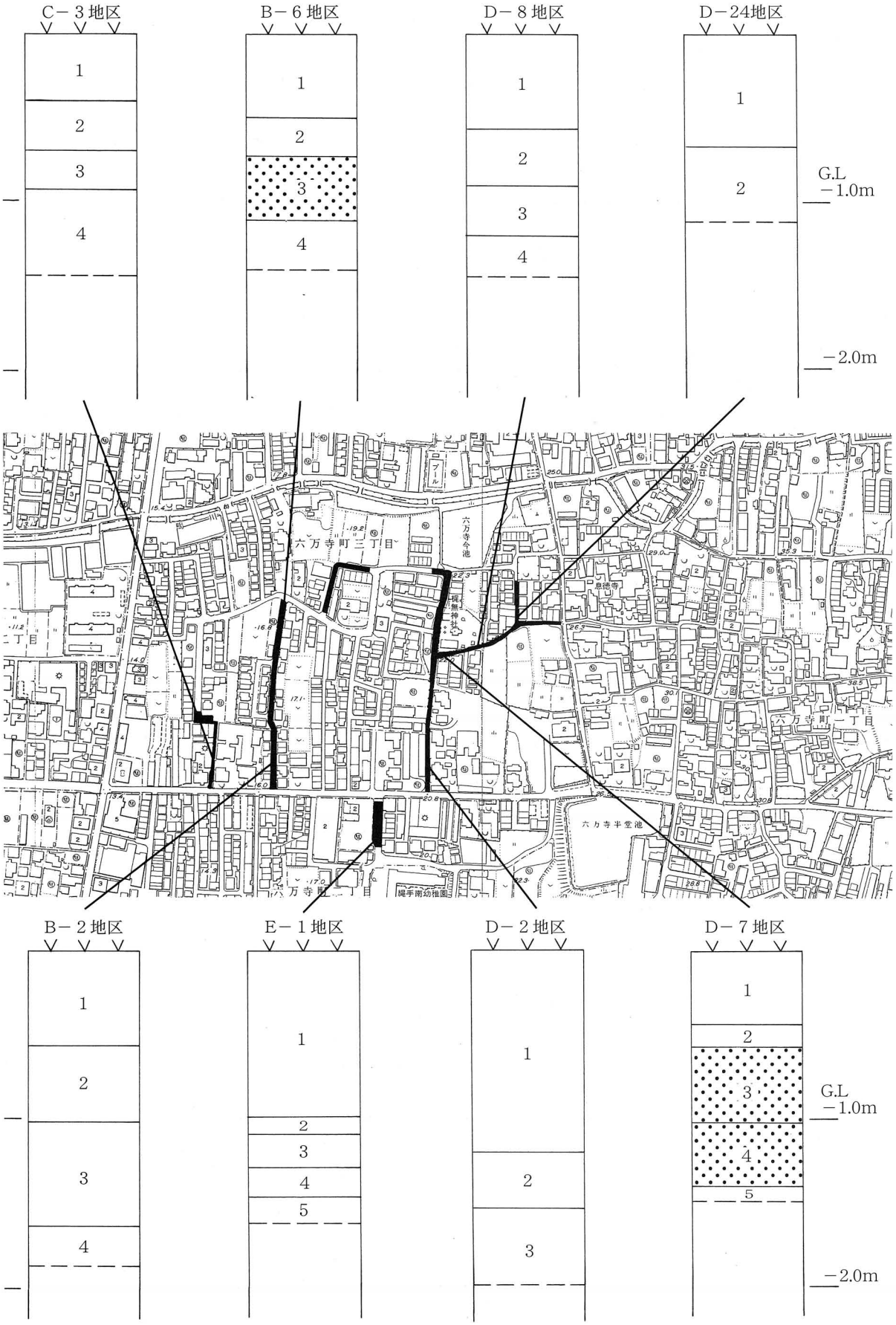
第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じり粘質シルト。

E－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂。


C－3地区
B－6地区
D－8地区
D－24地区
G.L
－1.0m
－2.0m
六万寺町三丁目
六万寺今池
六万寺町一丁目
六万寺半堂池
B－2地区
E－1地区
D－2地区
D－7地区
G.L
－1.0m
－2.0m

土層断面柱状図

第３層　黒褐色(10YR3/2)細粒砂混じりシルト。

第４層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細粒砂。

第５層　暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘質シルト。

3. 出土遺物

今回の調査では、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、瓦などが出土した。

１、２、９、10は須恵器である。１は杯である。体部が内弯気味に立ち上がる。立ち上がり部は内傾する。口縁端部と底部は欠損する。外面の上部は回転ナデ調整、下部は回転ヘラケズリ調整する。内面は回転ナデ調整する。残存高は2.5cmである。古墳時代中期頃のものと思われる。２は蓋杯である。天井部はやや丸みを持ち、口縁端部は丸く終わる。つまみは欠損する。内外面は回転ナデ調整する。口径12cm、残存高1.5cmである。飛鳥時代のものと思われる。９は甕である。口縁部が外反し、口縁端部はつまみあげる。内外面はナデ調整する。口径19cm、残存高６cmである。古墳時代中期頃のものと思われる。10は東播系の捏鉢である。体部が外上方に伸びる。口縁端部は上方に大きく拡張し、面を持つ。内外面はナデ調整する。口径27.5cm、残存高５cmである。鎌倉時代終り頃のものと思われる。

３～６、11～13は土師器である。３は甕である。口縁部がゆるやかに外反して立ち上がり、口縁端部で丸く終わる。外面はナデ調整する。口縁部内面は横方向のハケメ調整する。口径8.5cm、残存高3cmである。４、５は高杯の杯部である。４は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径16cm、残存高2.7cmである。５は体部が外上方に立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径18cm、残存高2.5cmである。６は口縁部が外反して立ち上がり、口縁端部で丸く終わる。上部外面はナデ調整、下部に縦方向のハケメ調整する。内面は横方向のハケメ調整する。口径17.5cm、残存高４㎝である。古墳時代のものと思われる。11、12は羽釜である。11は鍔部である。鍔は水平に伸び、端部が丸く終わる。外面はナデ調整する。内面は斜め方向のハケメ調整する。体部最大径29.6cm、残存高4.5cmである。詳細な時期は不明である。12は鍔部から体部の上部が残存する。狭い鍔が水平に付く。体部は直線的に立ち上がり、上部で狭まる。内外面はナデ調整する。体部最大径24.5cm、残存高5cmである。形状から大和型である。詳細な時期は不明である。13は移動式竈の脚部である。脚部上面部分である。残存高は11cmである。欠損している部分が多いため時期などの詳細は不明である。

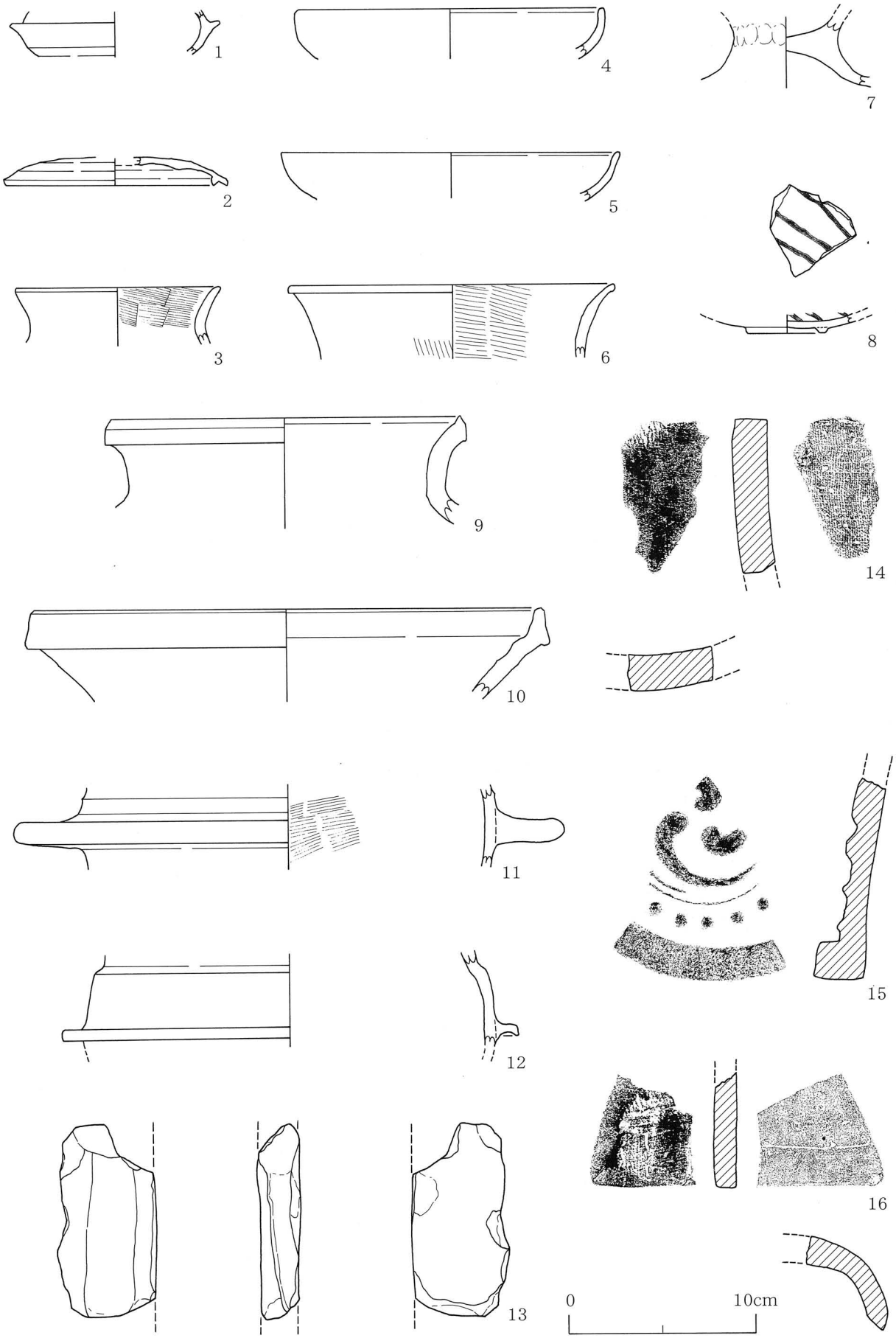
７は弥生土器の甕蓋である。口縁部が内傾して狭まり、つまみ部で外反する。端部は上下で欠損する。外面は指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。残存高４cmである。胎土中に角閃石を多く含むことから、生駒西麓産である。詳細な時期は不明である。

８は瓦器の椀である。高台部分である。低い台形の貼り付け高台である。見込み部に平行線文の暗文が認められる。底径４cm、残存高１cmである。型式などの詳細は不明である。鎌倉時代頃のものと思われる。

14～16は瓦である。14は平瓦である。凹面に布圧痕を残す。凸面は縄目のタタキ調整する。残存長8.5cm、厚さ1.8cmである。奈良時代頃と思われる。15は軒丸瓦である。瓦当部分である。内縁に珠文と左巻き巴文を持ち、その間に圏線を施す。瓦当裏面はナデ調整する。残存高11cm、厚み1.5cmである。室町時代後半頃のものである。16は丸瓦である。凹面に布圧痕を残す。凸面はヘラケズリ調整する。残存長7.3cm、厚み1.2cmである。中世期のものと思われるが、詳細は不明である。

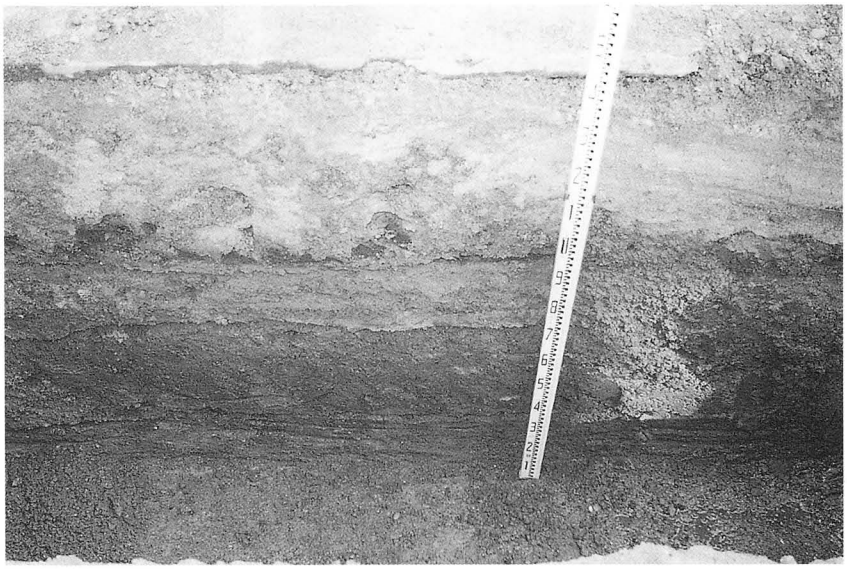
4. まとめ

今回の調査では、Ｂ地区とＤ地区において弥生時代～中世期の遺物を多く出土した。特に梶無神社に隣接するＤ－５～Ｄ－７地区で中世期の遺物が集中的に多く出土した。これまでの下水道関係の調



出土遺物実測図

調査地遠景

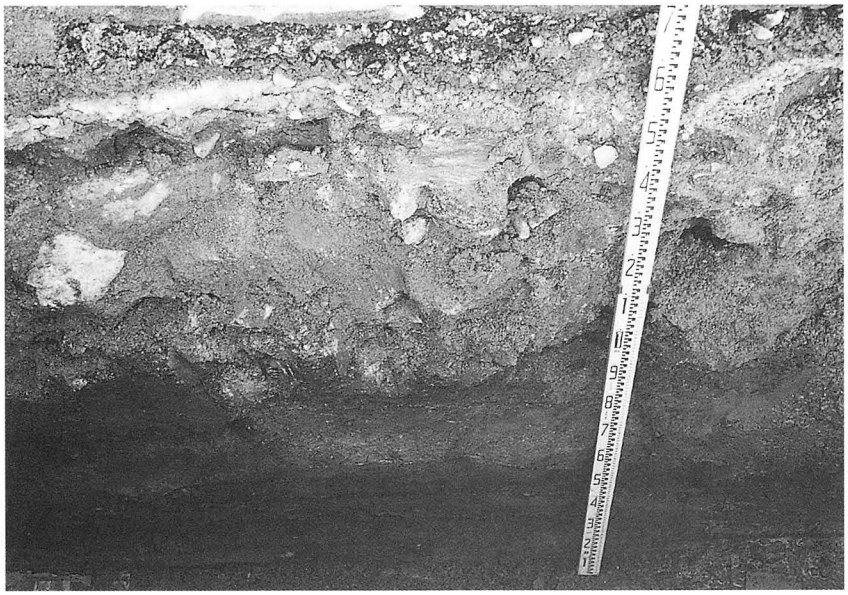

B－6地区土層断面

C－3地区土層断面

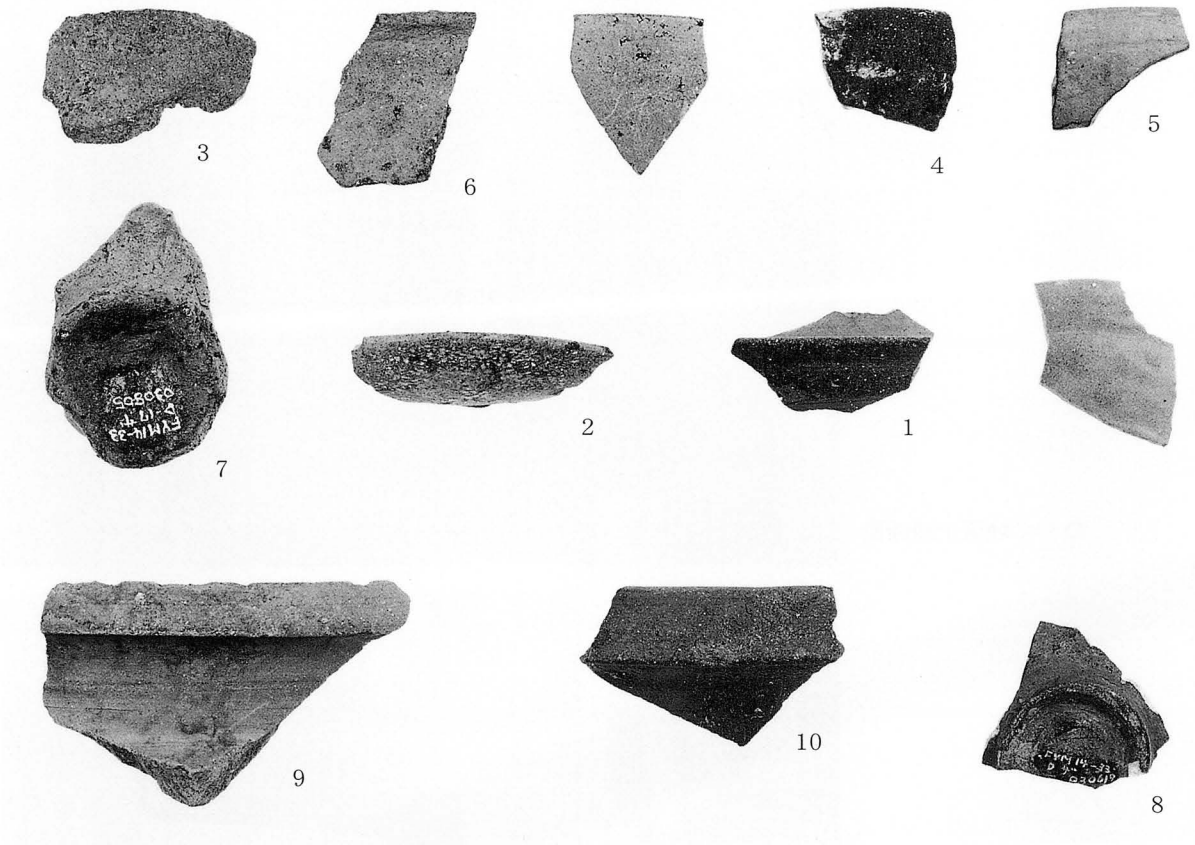
査で、弥生時代～中世期の遺構、遺物を多く確認している。D地区の調査区周辺では以前の調査において、中世期の遺物が多く出土している。今回の調査においても、これを追認することが出来た。調査位置や出土品から見ると、「延喜式」の神名帳に載せられている梶無神社に関係する遺物の可能性が考えられる。

D－７地区土層断面

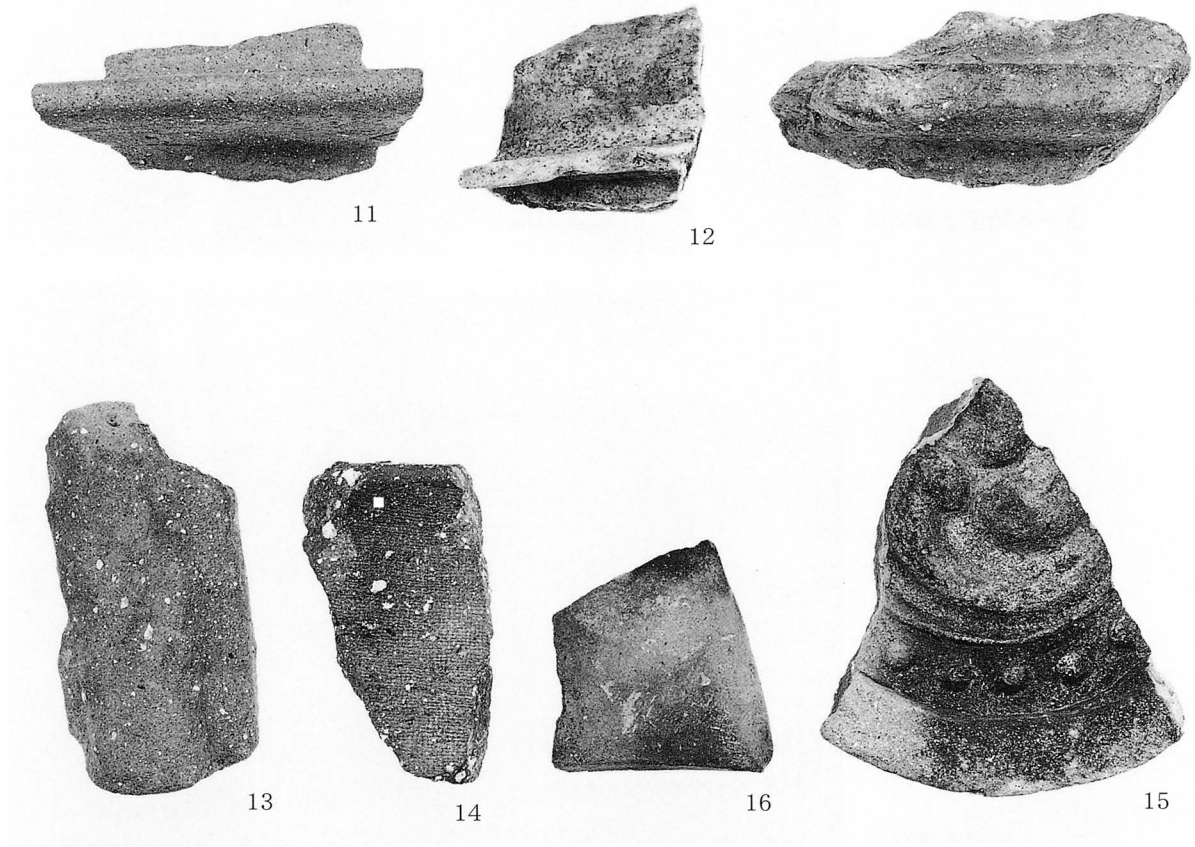
D－８地区土層断面



E－１地区土層断面



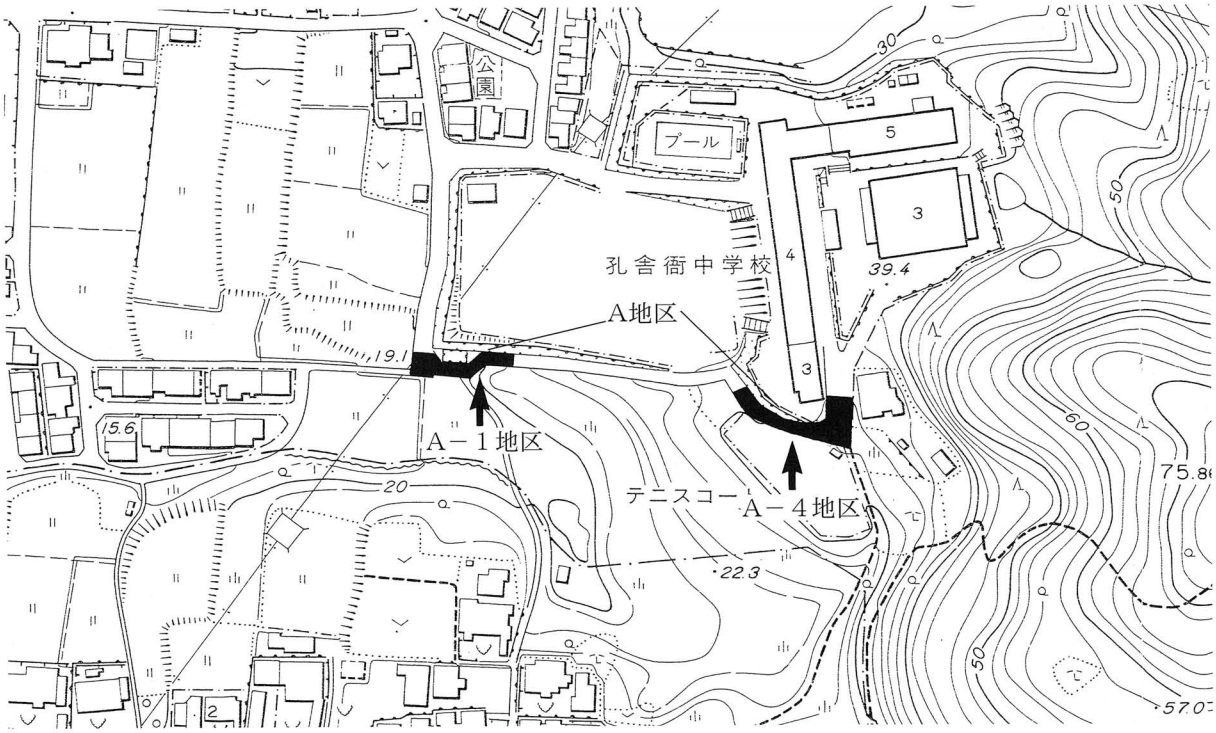
出土遺物（弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・陶器）



出土遺物（土師器・瓦）

第21章　善根寺（ぜんごんじ）・池端（いけのはた）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第59工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市善根寺町１丁目784～801
3	調査面積	121㎡
4	調査期間	平成15年５月９日～６月27日（延べ12日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衙中学校の南である。当地点は善根寺・池端遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ142mの間であり、開削工法である。

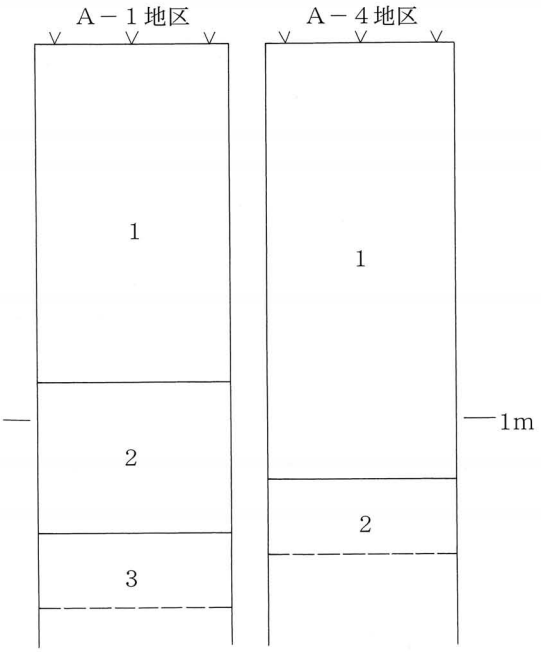


調査地点位置図（１/2500）

調査状況

Ａ－１地区土層断面

Ａ－４地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－１地区の層序

第１層　盛土。

第２層　暗緑灰色(7.5GY4/1)細粒砂混じりシルト。

第３層　暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)細粒砂混じりシルト。

Ａ－４地区の層序

第１層　盛土。

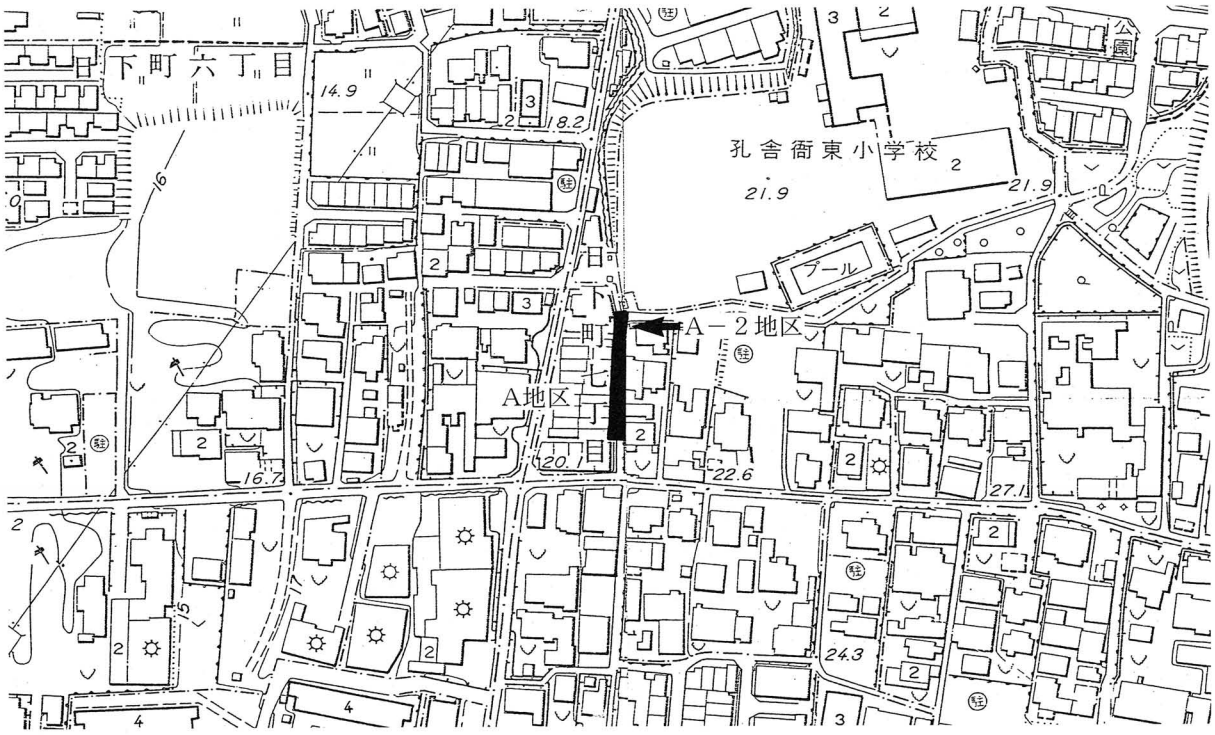
第２層　灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第22章　日下（くさか）遺跡の調査

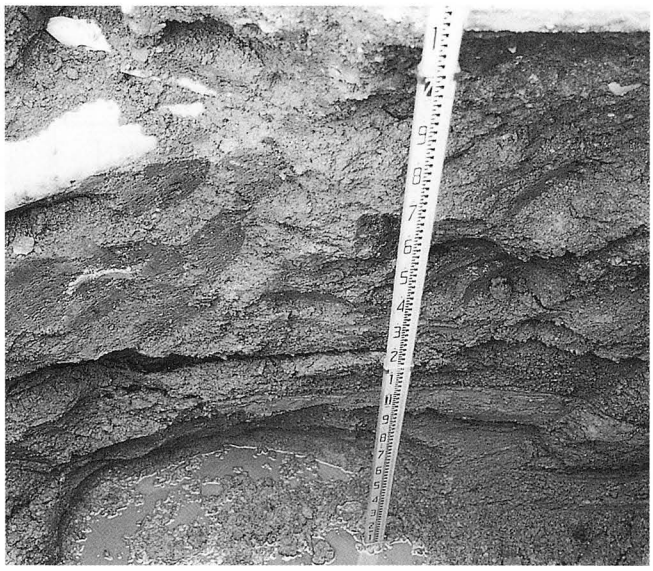
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第26工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市日下町７丁目767－7～767－24
3	調査面積	37㎡
4	調査期間	平成15年６月９日～６月27日（延べ５日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衙東小学校の南西である。当地点は日下遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ44mの間であり、開削工法である。



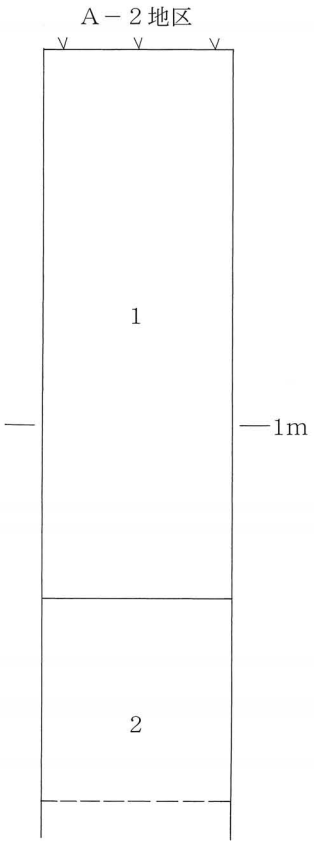
調査地点位置図（１/2500）

調査地遠景

調査状況



Ａ－２地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－２地区の層序

第１層　盛土。

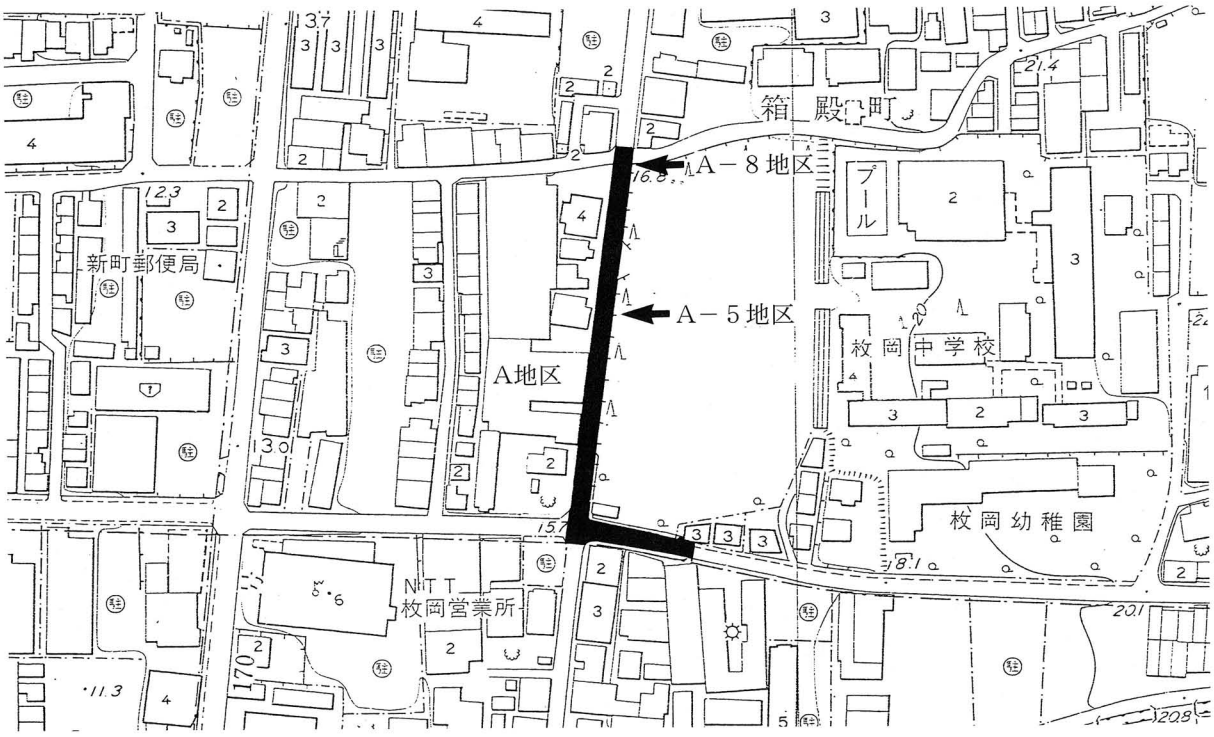
第２層　暗褐色(10YR3/3)中粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

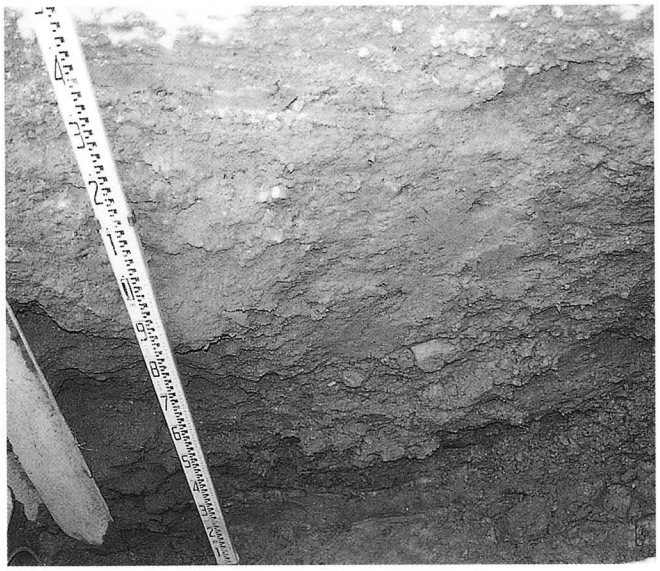
第23章　鬼塚遺跡（おにづか）・東高野街道（ひがしこうや）の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第14－８工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市箱殿町
3	調 査 面 積	54㎡
4	調 査 期 間	平成15年９月３日～10月９日（延べ７日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡中学校の西である。当地点は鬼塚遺跡・東高野街道内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ63mの間であり、開削工法である。

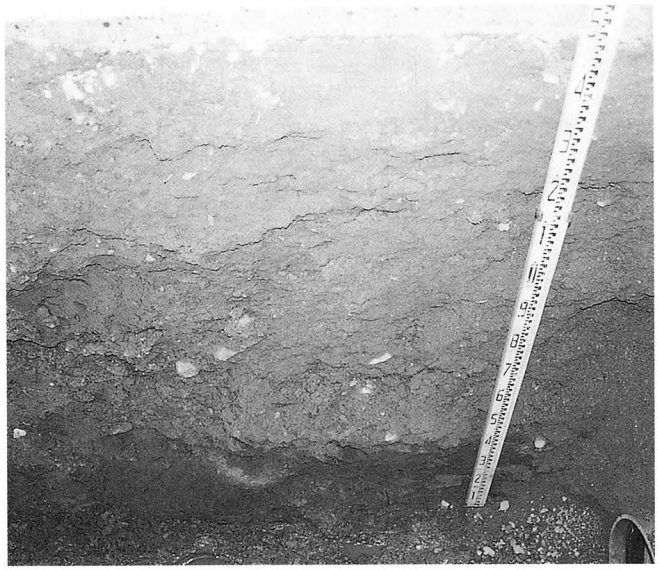


調査地点位置図（１/2500）

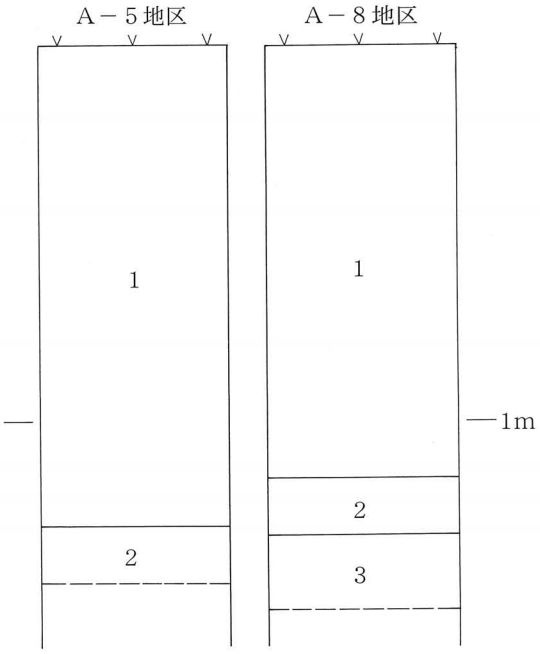
調査地遠景



Ａ－５地区土層断面



Ａ－８地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－５地区の層序

第１層　盛土。

第２層　暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。

Ａ－８地区の層序

第１層　盛土。

第２層　灰色(7.5Y4/1) 細粒砂～小礫混じり粘質シルト。

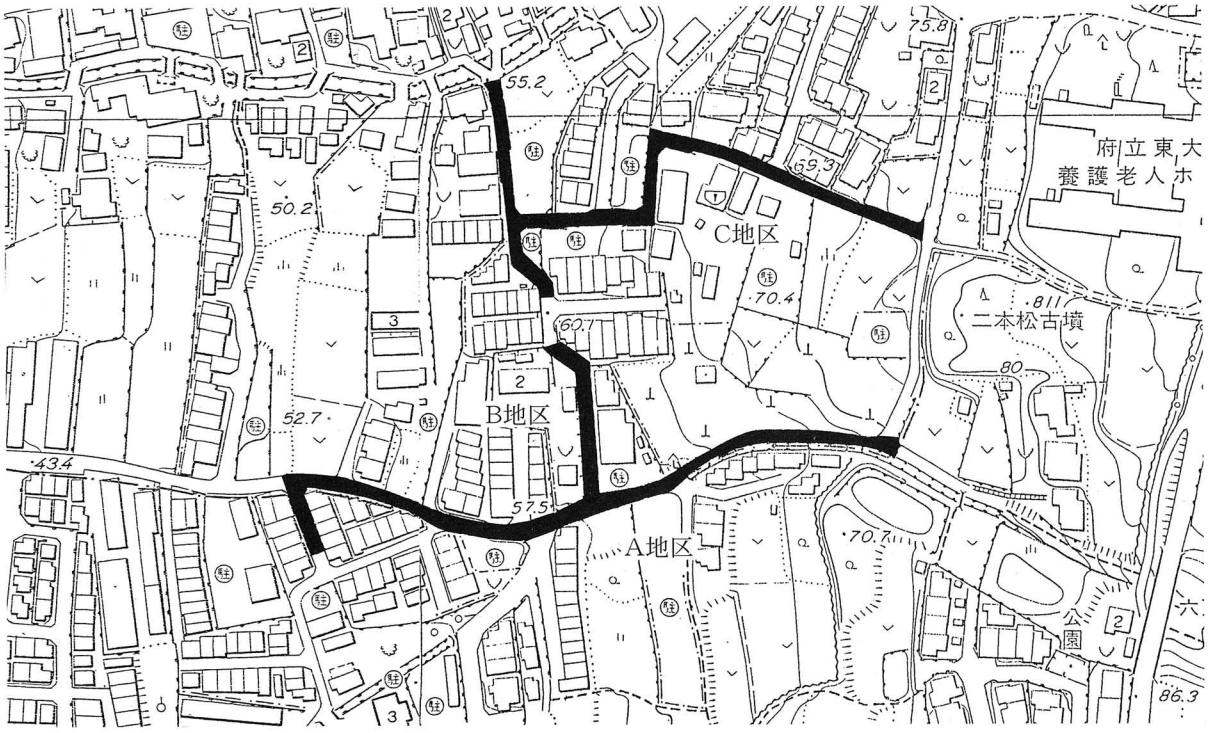
第３層　オリーブ黒色(10Y3/1)中粒砂～中礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第24章　岩滝山（いわたきやま）遺跡の第９次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第23工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市上六万寺町1519－3～1548－2、1597－2～1515－12他
3	調 査 面 積	516㎡
4	調 査 期 間	平成15年５月30日～８月７日（延べ34日）
5	報 告 担 当	川本
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は二本松古墳の西である。当地点は岩滝山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ607mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（１/2500）

1. 調査の概要

A－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　巨礫。

A－9地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。中～大礫を含む。

第4層　にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂混じりシルト。中～巨礫を含む。

B－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10GR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。中～大礫を多く含む。須恵器が出土。

第3層　にぶい黄褐色(10YR4/3)中～大礫混じり粗粒砂。

B－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。細～中礫を含む。埴輪が出土。

第3層　にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂混じり粘質シルト。細～中礫を含む。

第4層　暗灰黄色(2.5YR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。細～中礫を含む。

B－9地区の層序

第1層　盛土。

第2層　にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。埴輪・須恵器・弥生土器が出土。

第4層　にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂混じりシルト。小～巨礫を含む。

C－8地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　黒褐色(10YR3/2)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第4層　黒褐色(10YR2/3)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

C－11地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層　黄褐色(10YR5/6)粗粒砂。小礫を多く、巨礫を少量含む。

C－13地区の層序

第1層　盛土。

第2層　にぶい黄褐色(10YR5/3)中粒砂。

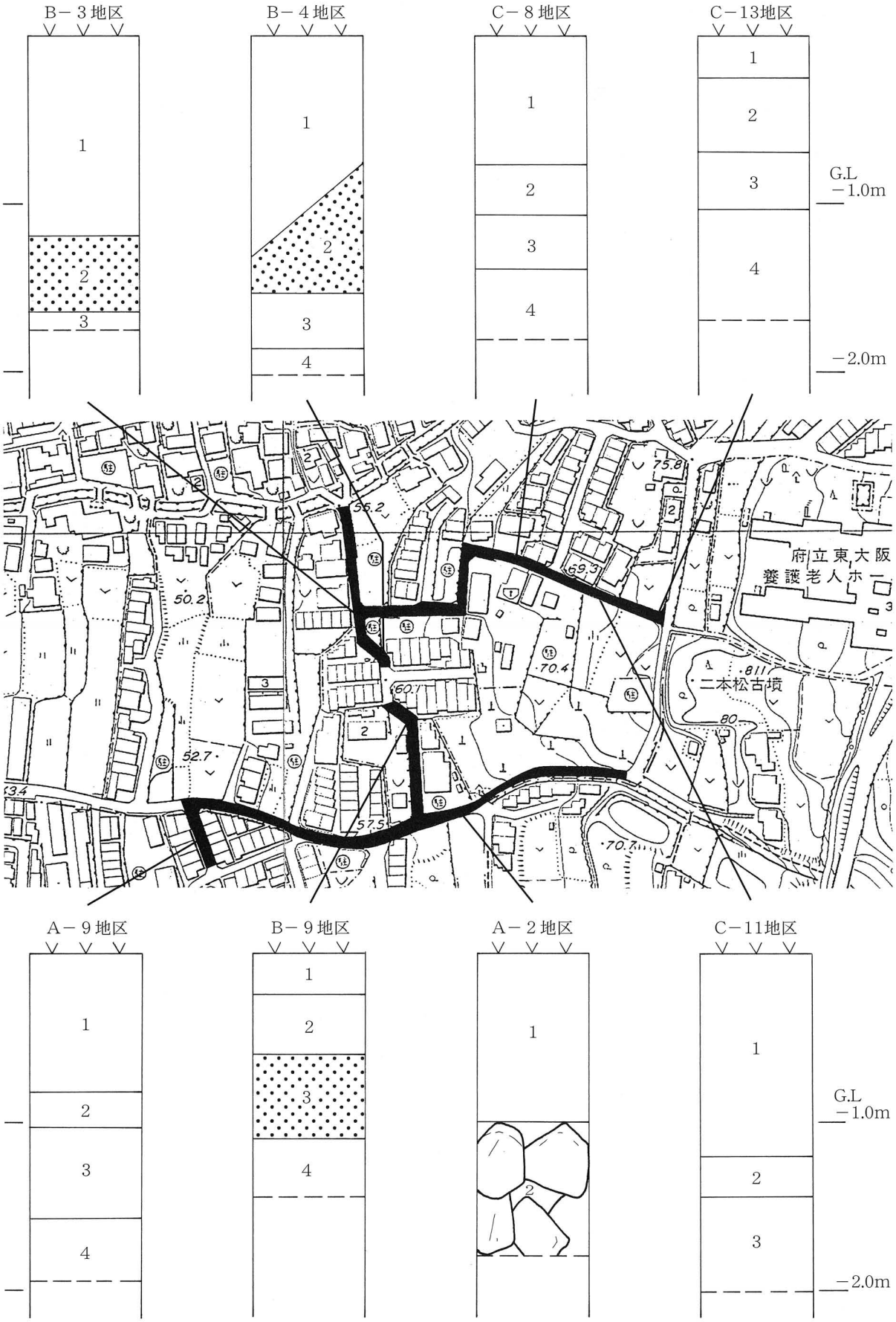
第3層　にぶい黄褐色(2.5Y5/4)中粒混じりシルト。

第4層　黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂。

第5層　オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗粒砂混じりシルト。小礫を含む。

2. 出土遺物

今回の調査では、B地区から弥生土器、埴輪、須恵器、土師器が出土した。特に埴輪がB－3地区、


B－3地区
B－4地区
C－8地区
C－13地区
G.L
－1.0m
－2.0m
府立東大阪
養護老人ホー
二本松古墳
A－9地区
B－9地区
A－2地区
C－11地区
G.L
－1.0m
－2.0m

土層断面柱状図

Ｂ－４地区、Ｂ－９地区より多く出土した。

１～39は埴輪である。

１～８は円筒埴輪の口縁部であり、３タイプに分けられる。1～３は口縁部が直立し、口縁端部が平らなもの、４～６は口縁部が短く外反し、口縁端部が窪むもの、７、８は口縁部が短く外反し、口縁端部が平らなものである。口縁部内外面は横ナデ調整する。体部外面は斜めの方向にハケメ調整し、内面はナデ調整するものが多い。３、７はハケメ原体が粗い。３は内面を横の方向にハケメ調整する。胎土中には石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は橙色である。

９～12は基底部であり、２タイプに分けられる。９、10は直立するもの、11、12はやや外反するものである。外面は斜め方向にハケメ調整し、内面はナデ調整する。９、10はハケメ原体が粗い。胎土中に石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は橙色である。

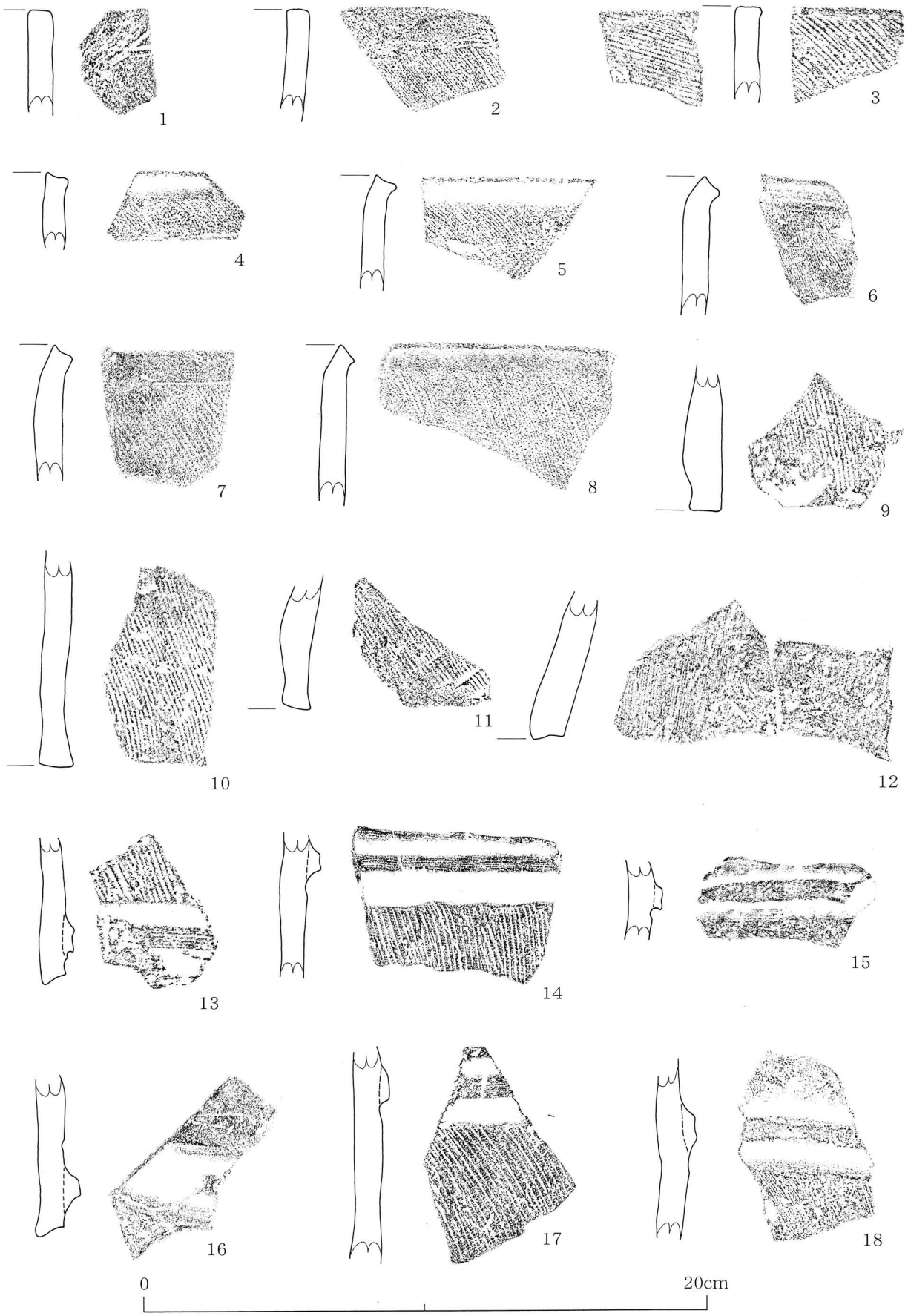
13～30はタガ部の体部であり、タガの形状などにより５タイプに分けられる。13、14は断面が台形を呈し、やや窪みをもつもの、15、16は断面が台形を呈するもの、17～21は断面が台形であるが低いもの、22～24は断面が三角形を呈するもの、25、26～30はタガを板状の工具で押圧するもの、27はタガを指で断続的に押圧するものである。タガ部は横ナデ調整する。体部外面は斜めの方向にハケメ調整し、内面はナデ調整するものが多い。14は縦の方向にハケメ調整後、斜め方向にハケメ調整する。13、14、17、24、25はハケメ原体が粗い。27は内面を部分的に斜めの方向にハケメ調整する。16、23、20、23、30は円形の透かし孔を有する。胎土中には石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は橙色である。

31～33は体部である。内面は全てナデ調整である。31は外面を縦の方向にハケメ調整後、斜めの方向にハケメ調整する。32は外面を縦の方向にハケメ調整する。ハケメ原体が粗い。33は外面に工具を止めながら横の方向にハケメ調整する。円形の透かし孔を有する。胎土中には石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は橙色である。

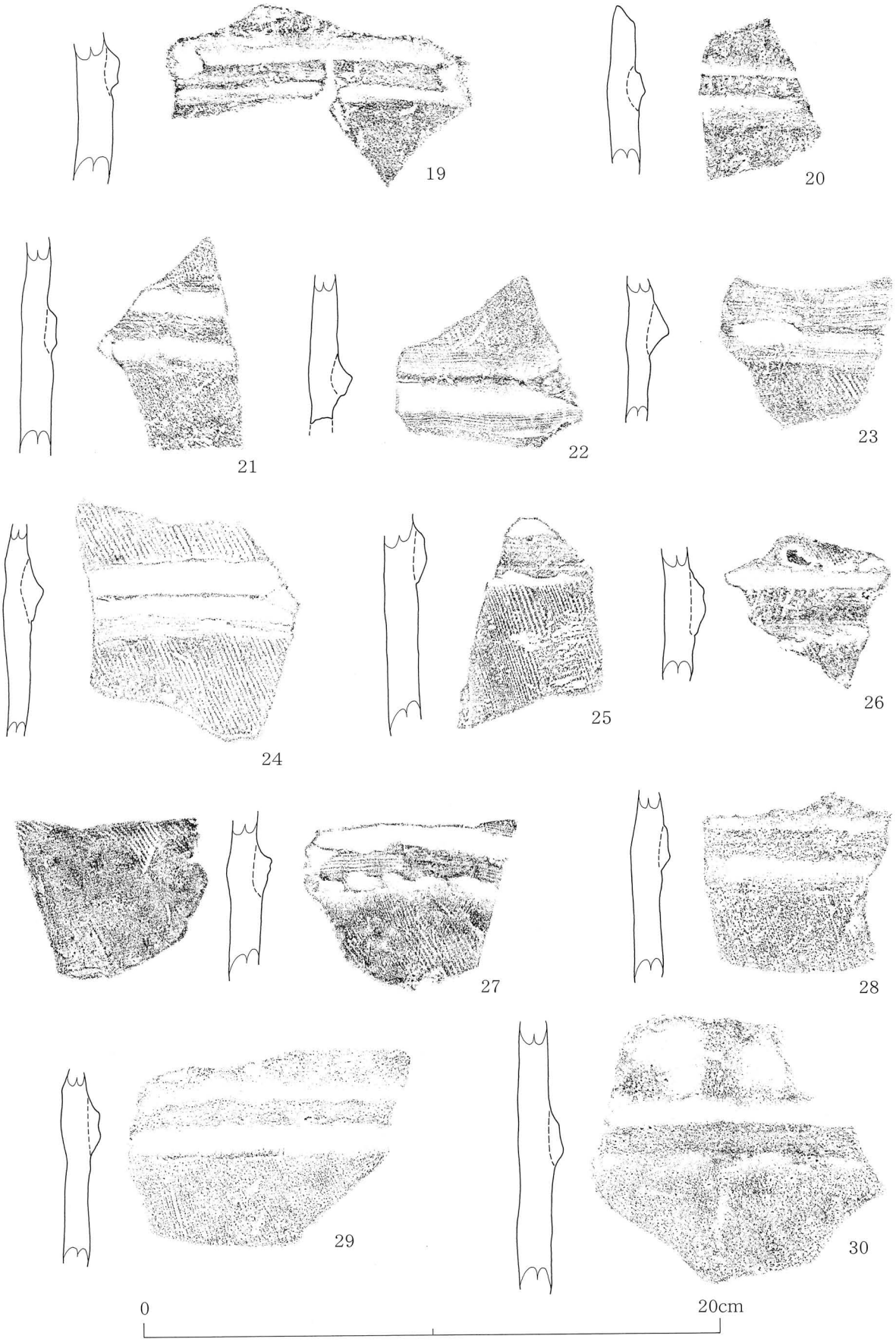
34～37は朝顔形埴輪である。34は口縁部と円筒部の境部分のものと思われる。タガ部の断面は台形を呈する。外面はタガ部を横ナデ調整し、内面はナデ調整する。35、36は肩部である。35は丸みをもち、タガ接合部が残る。外面はタガ接合部を横ナデ調整し、斜めの方向にハケメ調整する。内面は横ナデ調整する。36は丸みをもつ。タガ部は断面の台形を呈する。外面はタガ部を横ナデ調整し、肩部内外面はナデ調整である。粘土接合痕が残る。37は口縁部の部分である。タガ部は一部欠損のため不明である。外面はタガ部を横ナデ調整し、肩部は斜めの方向にハケメ調整する。内面は横の方向にハケメ調整する。胎土中には石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は橙色である。

38～40は形象埴輪である。38は盾形の埴輪である。外区の線刻が残り、内区に斜めの方向に５本の線刻を施す。内面はナデ調整である。粘土接合痕が残る。胎土中には石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は橙色である。39は人物埴輪の肩部である。全体に丸みをもち、特に肩上半は大きく内弯する。腕部が一部残る。外面は肩部上半をナデ調整する。下半は斜めの方向に粗いハケメ調整し、一部ナデ消す。内面はナデ調整する。粘土接合痕が残る。胎土中に石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は明黄褐色である。40は全体に丸みをもつ。細い線刻と思われる線を施す。外面は斜めの方向に粗いハケメ調整を施す。内面はナデ調整する。胎土中に石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は明黄褐色である。器形は不明である。

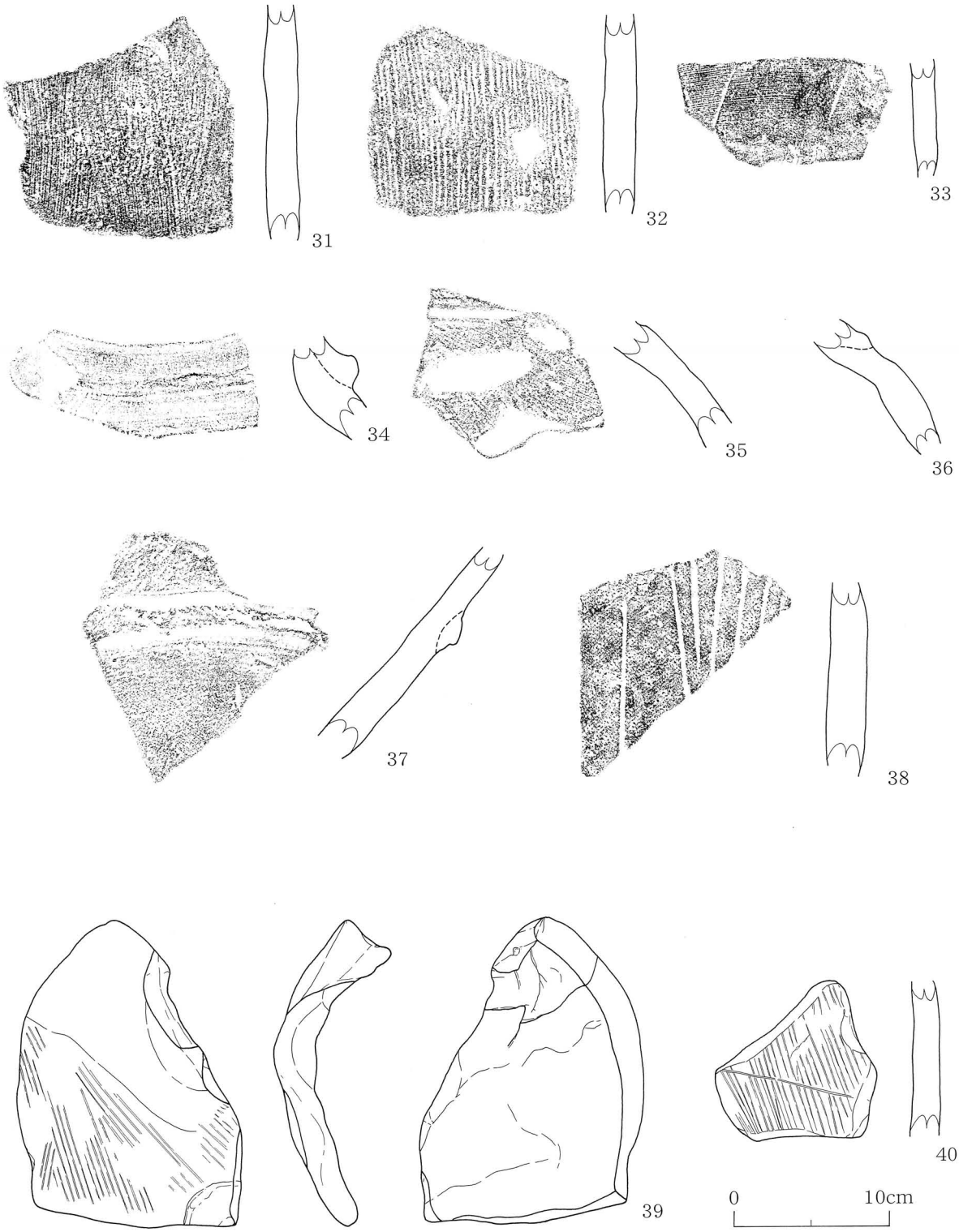
41、42は土師器である。41は甕である。口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。外面は横ナデ調整し、指頭圧痕を残す。内面は横の方向にハケメ調整する。胎土中に石英、長石、雲母、クサリ礫、角閃石を含む。生駒西麓産である。口径21.0cm、残存高4.4cmである。42は羽釜である。



出土遺物実測図



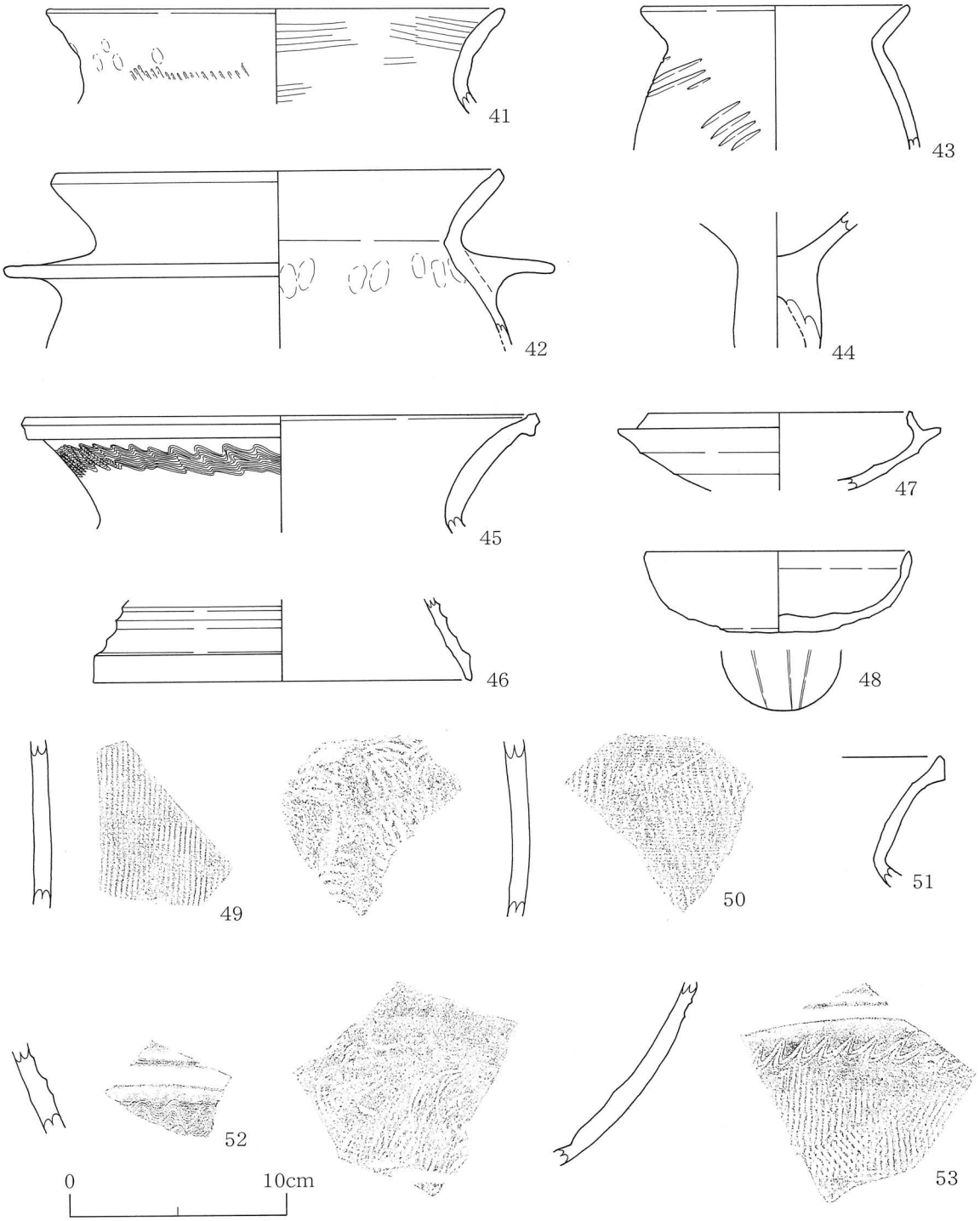
出土遺物実測図



出土遺物実測図

口縁部が大きく外反する。口縁端部は面をもつ。鍔部はやや下向きである。内面は口縁部と体部の境に稜をもつ。外面は口縁端部を横ナデ調整し、口縁部と体部はナデ調整する。内面はナデ調整する。指頭圧痕を残す。胎土中に石英、長石、雲母、クサリ礫、角閃石を含む。生駒西麓産である。口径10.4cm、残存高8.1cmである。古墳から奈良時代のものである。

43は弥生土器の甕である。体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。外面は口縁部を横ナデ調整し、体部を斜めにタタキ調整する。内面はナデ調整する。胎土中に石英、



出土遺物実測図

長石、雲母、クサリ礫、角閃石を含む。生駒西麓産である。口径12.0cm、残存高6.6cmである。弥生後期頃のものである。

44は高杯の脚である。摩滅しており、調整法が不明である。胎土中に石英、長石、雲母、クサリ礫、角閃石を含む。生駒西麓産である。時期は不明である。

45～53は須恵器である。45は口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方に拡張する。口縁端部内面に稜をもつ。口縁部に原体数14～15本の櫛描波状文を施す。口縁端部外面は回転ナデ調整し、口縁

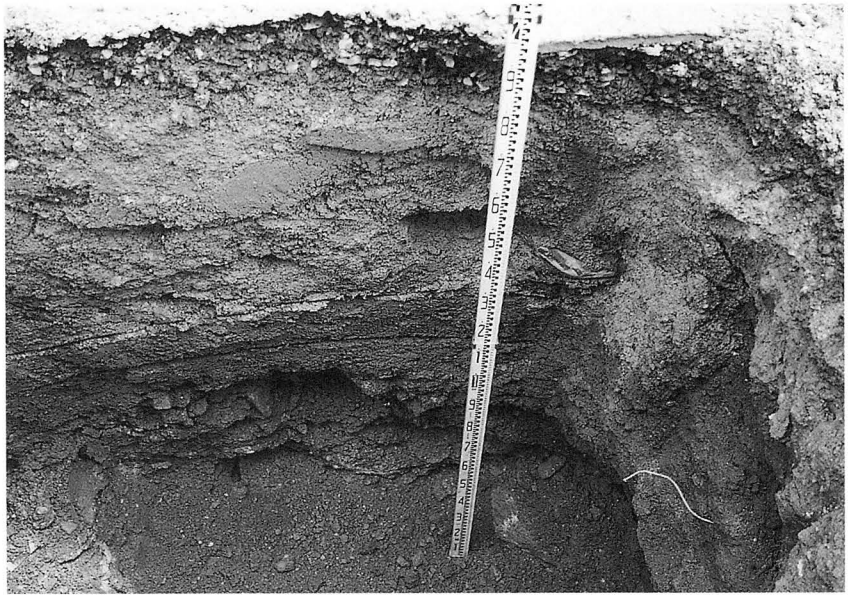
部はナデ調整する。内面はナデ調整する。口径は23.6cm、5.4cmである。46は器台の脚部である。脚部はハの字状に広がり、裾部はほぼ垂直に曲がる。端部は丸く終わる。２条の凸帯がめぐる。外面は回転ナデ調整する。内面はナデ調整する。底径は17.4cm、残存高3.8cmである。47、48は杯身である。47は受け部をもつものである。体部は鋭角である。立ち上がり部は短く、内傾する。端部は丸く終わる。外面は体部上半を回転ナデ調整し、下半を回転ヘラケズリ調整する。口径6.0cm、残存高3.6cmである。48は受け部をもたないものである。体部は丸みをもつ。口縁端部を丸く終わる。底部は平らな面をもつ。内外面は回転ナデ調整し、底部をナデ調整する。底部外面にヘラ記号を施す。口径12.0cm、器高3.8cmである。49、50は甕の体部である。49は外面をタタキ調整し、内面は当て具痕をナデ消す。50は外面をタタキ調整し、内面に青海波文の当て具痕を残す。51は甕である。口縁部が外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。52、53は器台である。52は脚部である。２条の凸帯がめぐり、原体数９～10本の櫛描波状文を施す。透かし孔が一部残る。内外面はナデ調整する。53は杯部である。外面は２条の凸帯がめぐり、原体数４本の櫛描波状文を施す。その下はタタキ調整する。内面に青海波文の当て具痕を残す。45、46は古墳時代のものである。47、48は古墳後期のものである。

調査地遠景（Ａ地区）

調査地遠景（Ｂ地区）

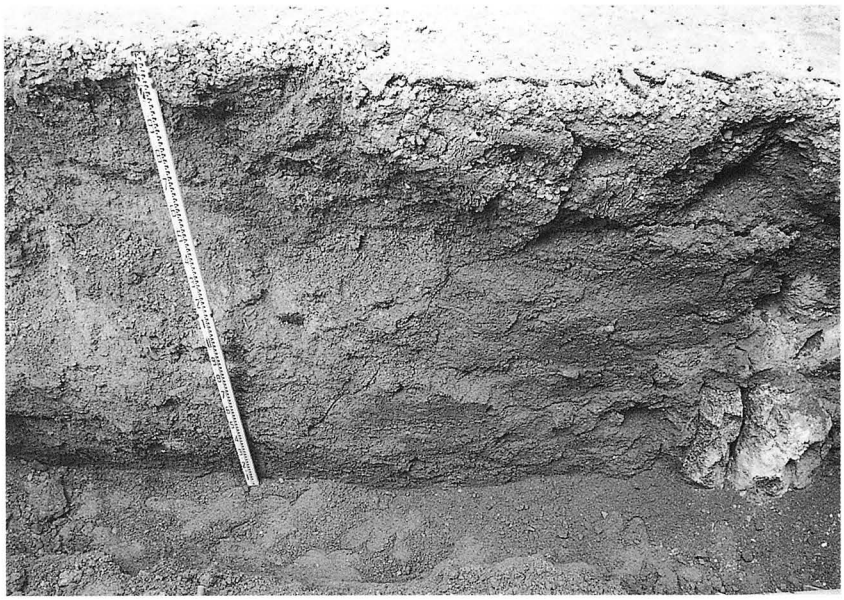
3. まとめ

岩滝山遺跡は弥生時代後期の高地性集落として古くから知られている。また、二本松古墳や高塚古墳などの六万寺古墳を包括している。今回の調査では、Ｂ－３、Ｂ－４、Ｂ－９地区より埴輪が集中して出土した。埴輪の時期は５世紀末から６世紀初めと考えられる。今までに、同遺跡内では埴輪の出土例がなく、今回新しい知見を得ることができた。埴輪の出土状況から考えられると削平された古墳が周辺に残っている可能性が高い。また、近辺では南西の大賀世古墳を含む半堂遺跡から円筒埴輪、人物埴輪等の形象埴輪が出土した例があり、今回、岩滝山遺跡から出土した埴輪と同じ時期のものと考えられる。埴輪をもつ削平された古墳が広範囲に広がることも考えられる。



A－９地区土層断面

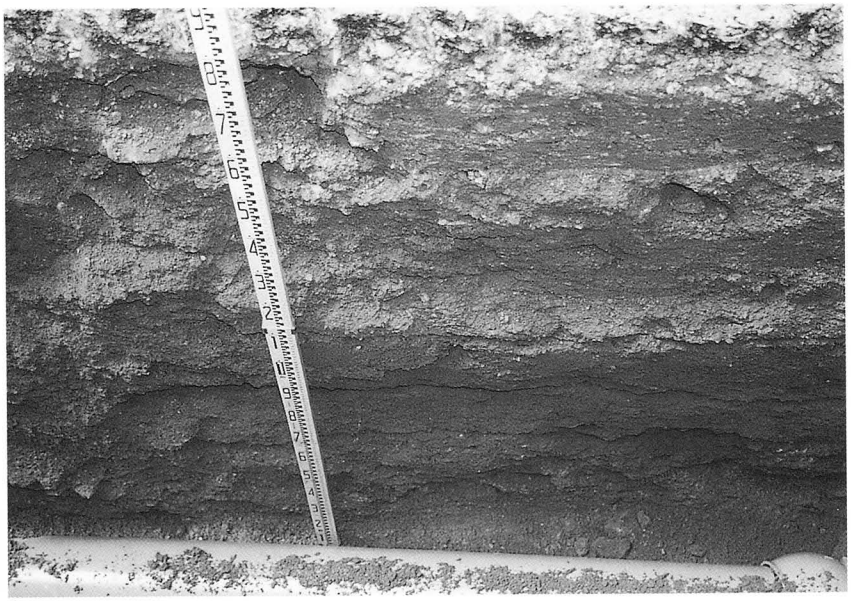
B－３地区土層断面



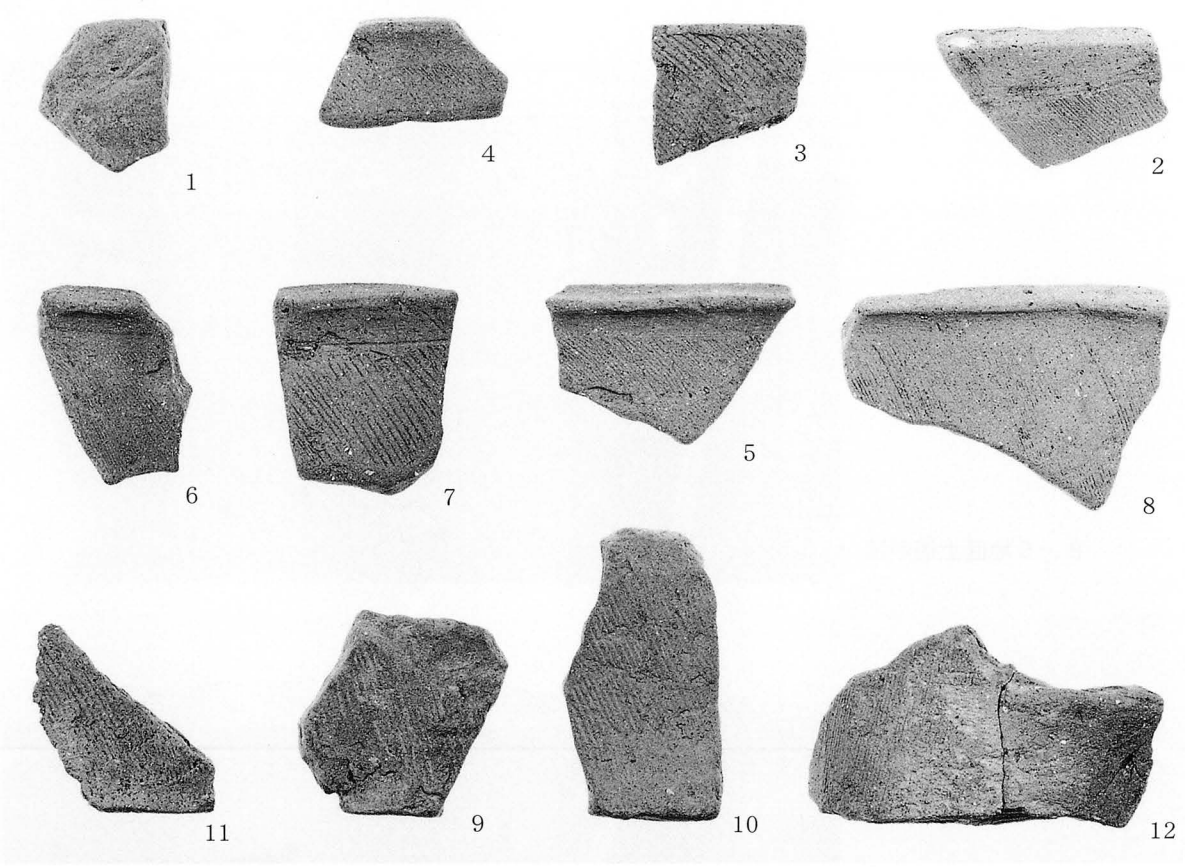
B－４地区土層断面

B－９地区土層断面

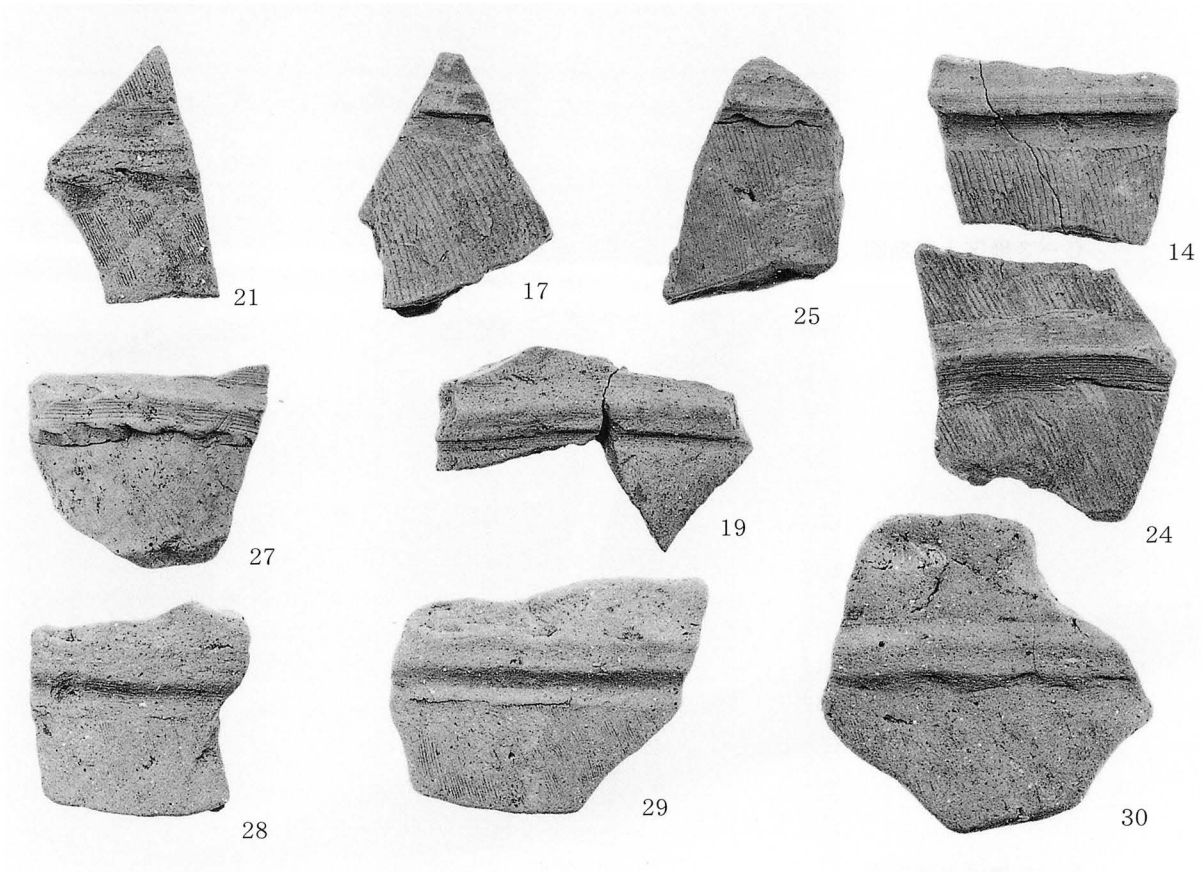
C－３地区土層断面



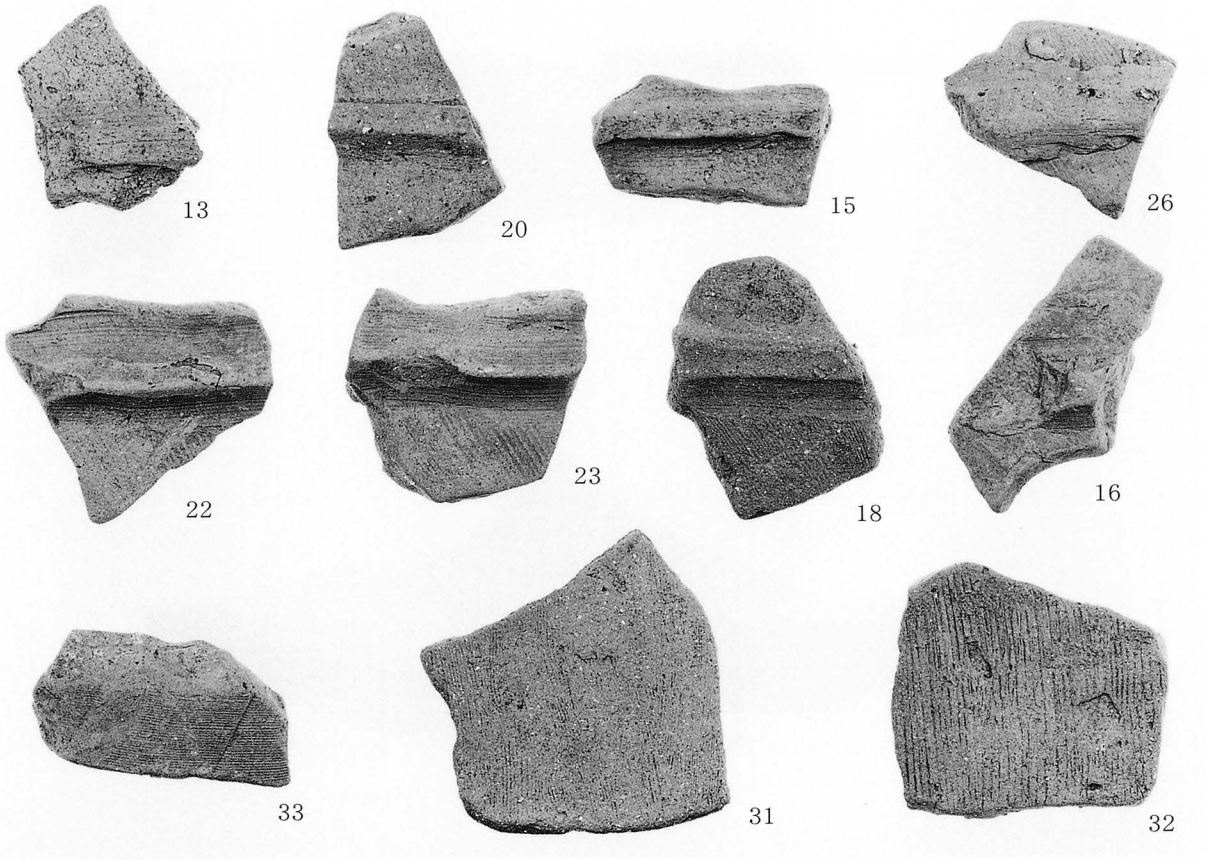
C－８地区土層断面



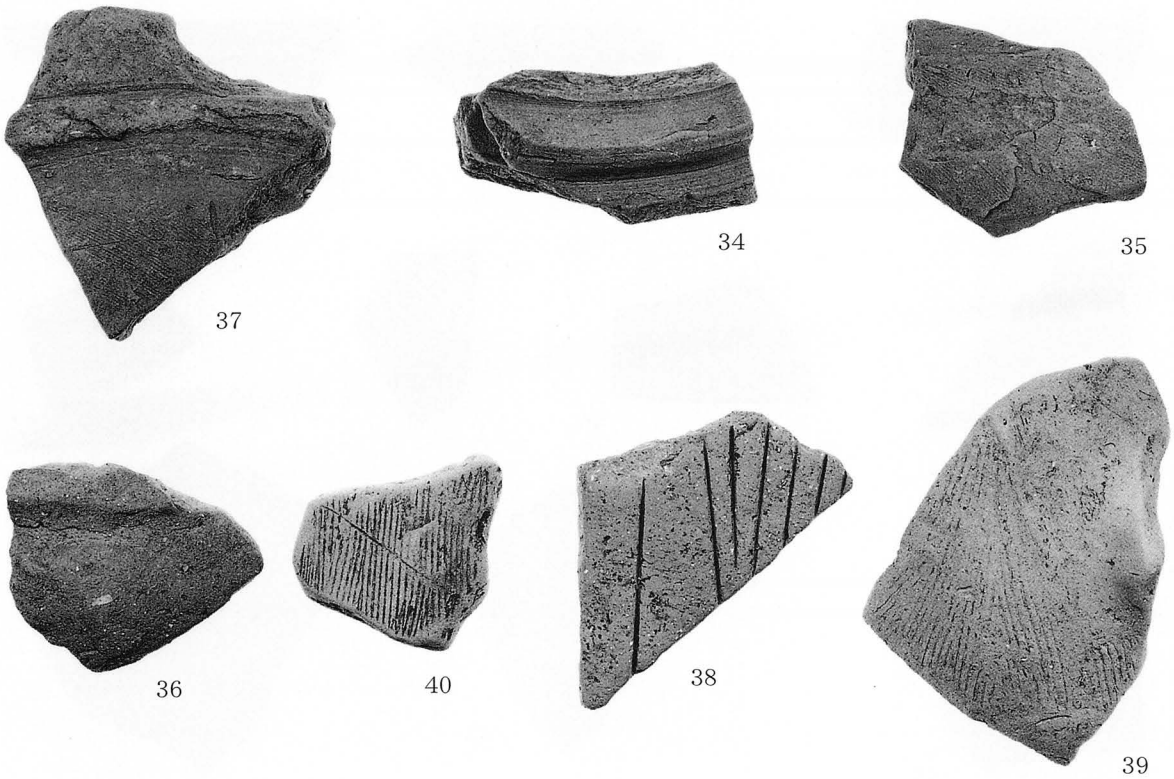
出土遺物（埴輪）



出土遺物（埴輪）



出土遺物（埴輪）

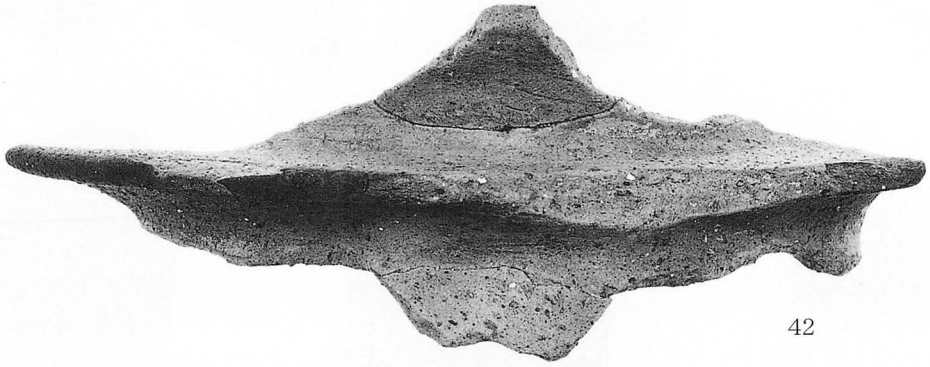


出土遺物（埴輪）

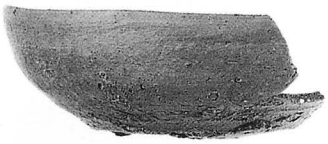
43

41

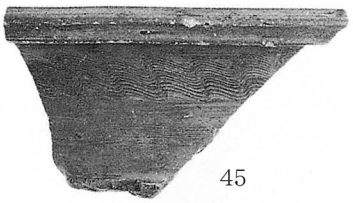
44


42

出土遺物（弥生土器・土師器）


48

47

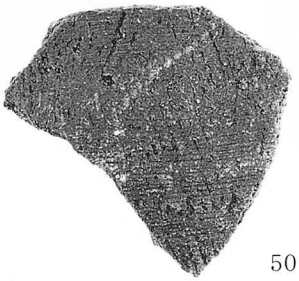

45

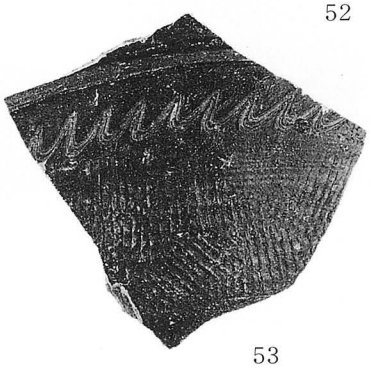
51

46

52

49

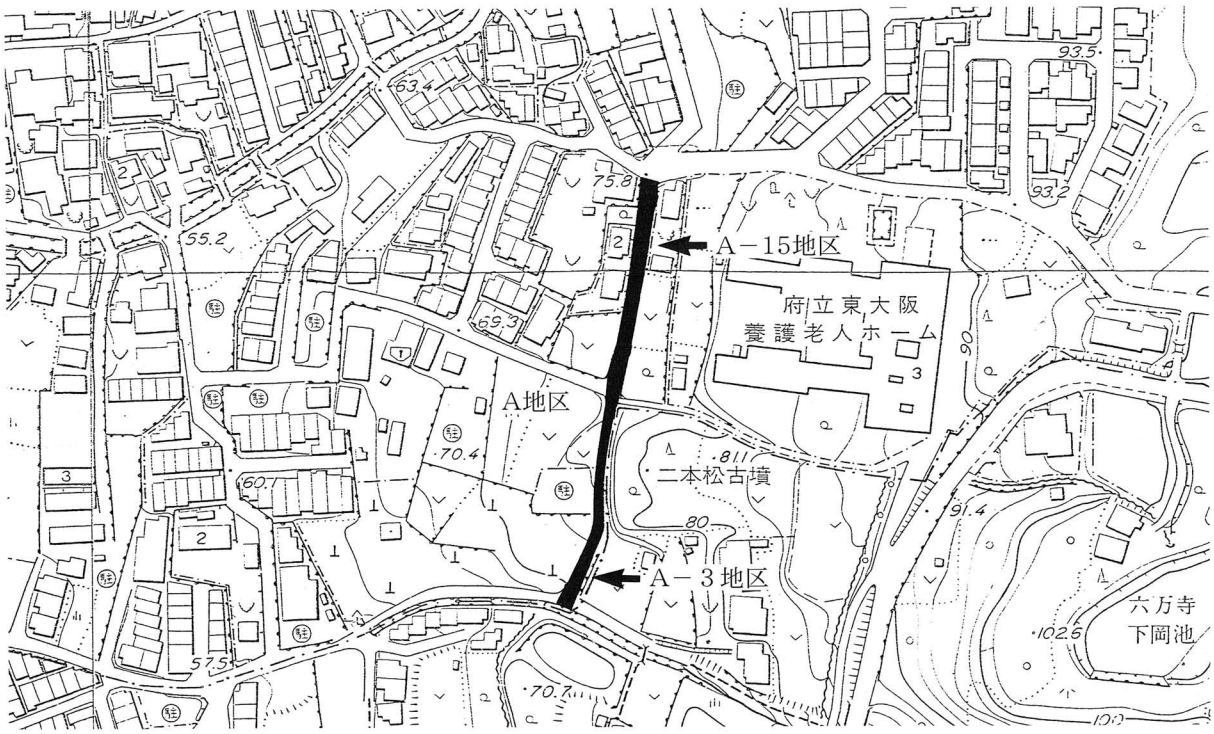

50


53

出土遺物（須恵器）

第25章　岩滝山（いわたきやま）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道管きょ築造工事（２－５）
2	調査地点	東大阪市上六万寺町1563－3～1569
3	調査面積	122㎡
4	調査期間	平成15年８月４日～10月17日（延べ22日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は二本松古墳の西である。当地点は岩滝山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ144mの間であり、開削工法である。

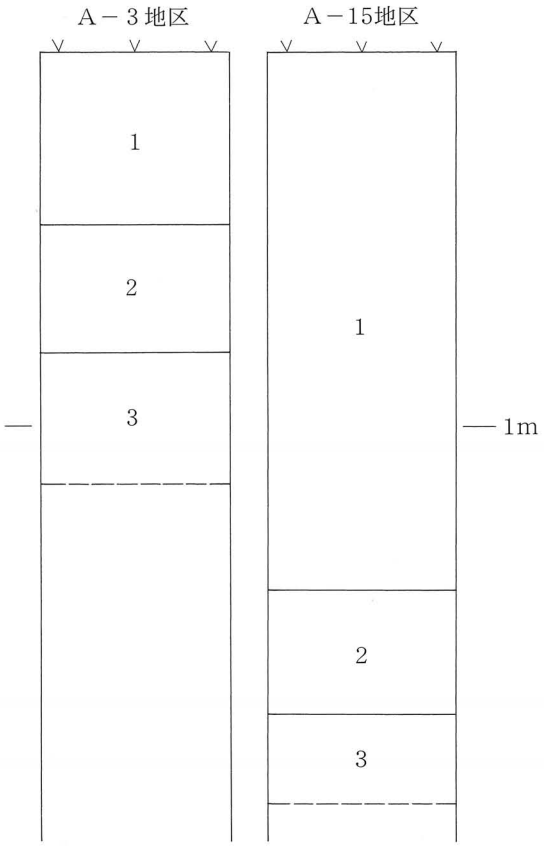


調査地点位置図（１/2500）

調査地遠景

Ａ－３地区土層断面

Ａ－15地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－３地区の層序

第１層　盛土。

第２層　暗褐色(7.5YR3/4)粗粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第３層　褐色(7.5YR4/4) 粗粒砂～大礫混じり粘質シルト。

Ａ－15地区の層序

第１層　盛土。

第２層　暗褐色(7.5YR3/4)細粒砂混じり粘質シルト。

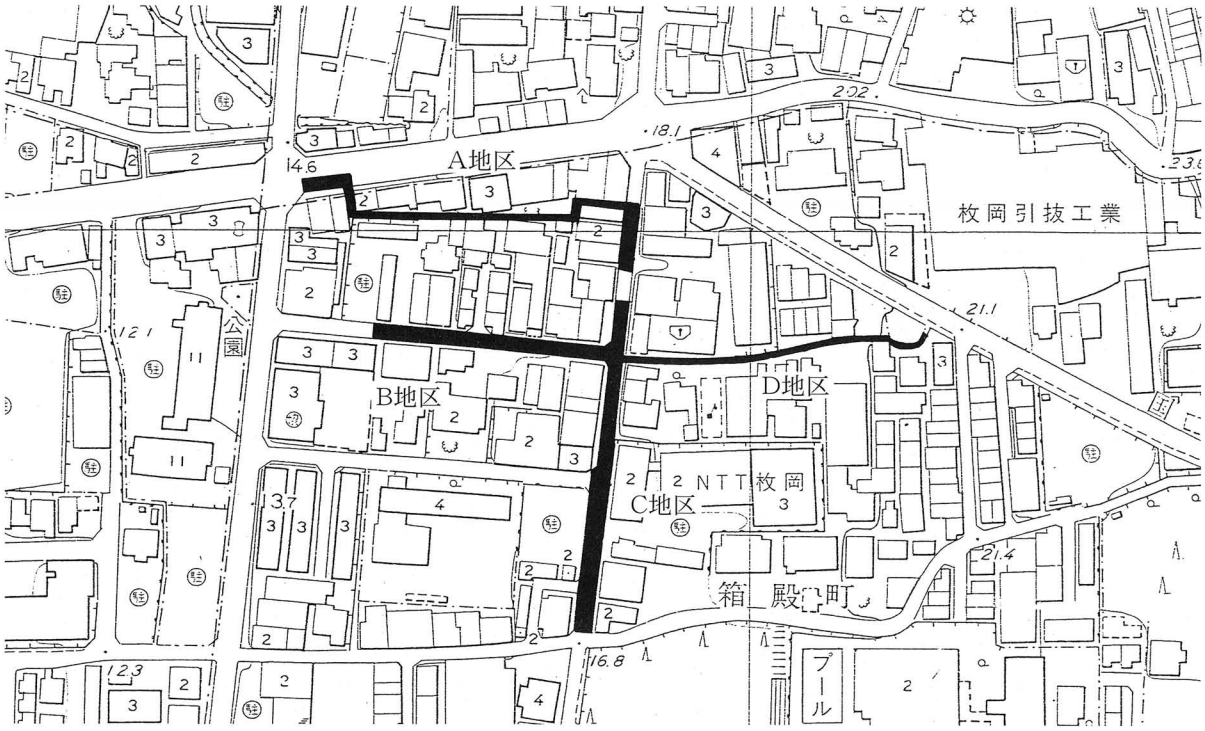
第３層　にぶい黄褐色(10YR5/4)中粒砂～巨礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第26章　鬼塚（おにづか）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第24工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市箱殿町469－19～469－24、458－11～458－19他
3	調 査 面 積	341㎡
4	調 査 期 間	平成15年６月４日～10月31日（延べ36日）
5	報 告 担 当	福瀬
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡中学校の北である。当地点は鬼塚遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ401mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

調査地は便宜上A～D地区に分け、A地区から調査を開始した。A地区は既設の下水道管の埋設による撹乱を受けている箇所が多い。B地区の西端部分は遺跡範囲外であった。全地区で古墳時代～中世期の遺物が出土した。特にC、D地区は多い。B～D地区は地層が良好に残る。

2. 層位

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(7.5YR3/1)中粒砂。小礫を含む。

第3層　灰褐色(7.5YR3/2)細粒砂混じり粘質シルト。

第4層　暗緑灰色(5G3/1)細粒砂混じりシルト。

A－16地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層　黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混じり粘質シルト。

B－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒色(2.5GY2/1)中粒砂混じり粘質シルト。

第3層　オリーブ黒色(5GY2/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第4層　黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第5層　黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂混じり粘土。小礫を含む。

C－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(5Y3/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層　緑黒色(5G2/1)中粒砂混じりシルト。奈良時代～中世期の遺物が出土。

C－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じりシルト。

第3層　黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂混じり粘質シルト。奈良時代～中世期の遺物が出土。

D－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　褐灰色(10YR4/1)粗粒砂混じりシルト。

第3層　黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂混じり粘質シルト。中世期の遺物が出土。

第4層　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じり粘土。

D－6地区の層序

第1層　盛土。

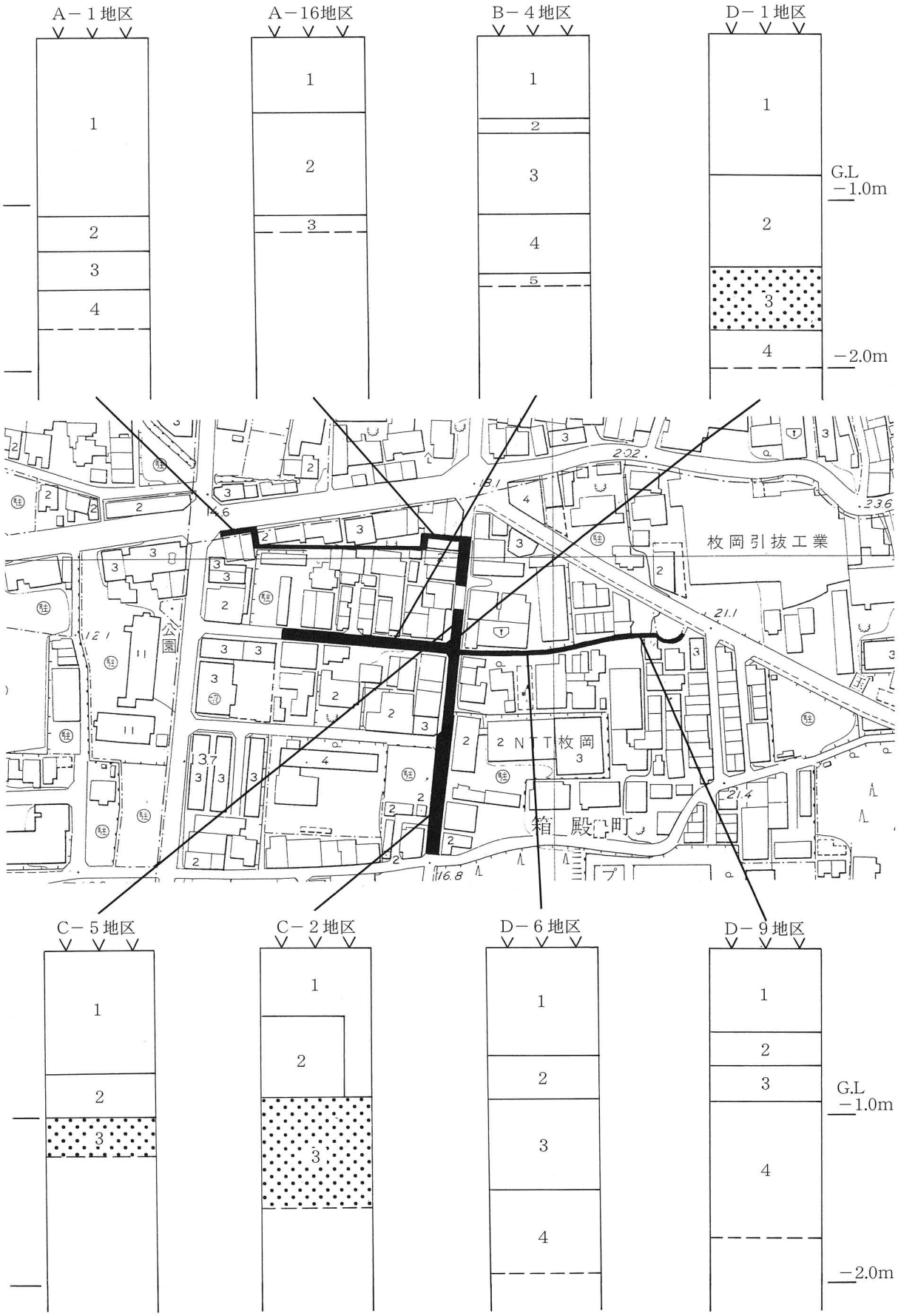
第2層　黒色(5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層　黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

第4層　黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じりシルト。

D－9地区の層序

第1層　盛土。


A－1地区
A－16地区
B－4地区
D－1地区
G.L
－1.0m
－2.0m
枚岡引抜工業
公園
NTT枚岡
箱殿町
C－5地区
C－2地区
D－6地区
D－9地区
G.L
－1.0m
－2.0m

土層断面柱状図

第２層　オリーブ黒色(7.5YR2/2)中粒砂混じり粘質シルト。

第３層　緑黒色(10G2/1)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

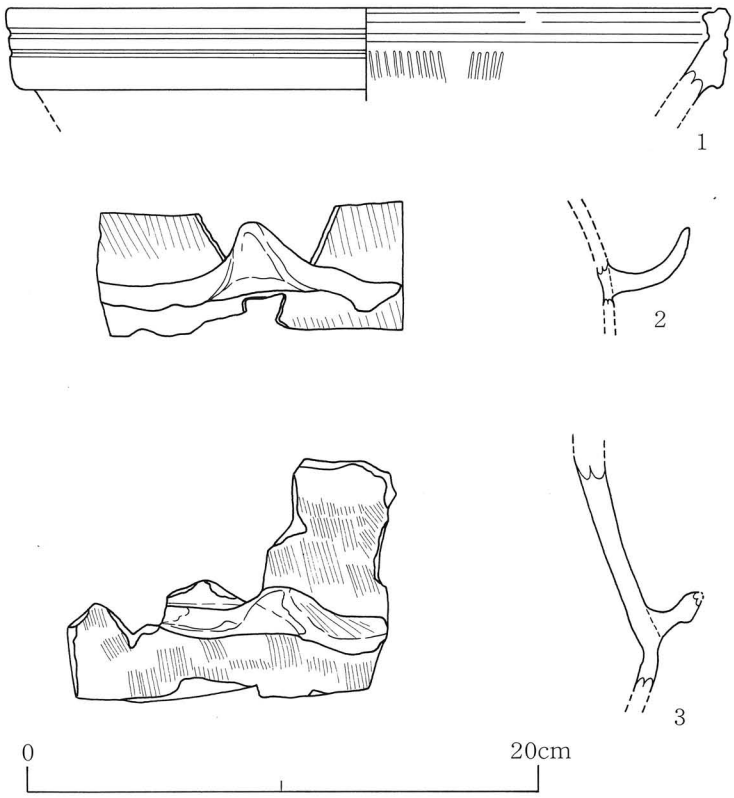
第４層　緑黒色(5G2/1)細粒砂混じりシルト。

3. 出土遺物

今回の調査では、土師器、須恵器、陶器などが出土した。細片が多く、図化できたものは３点である。

１は備前焼の擂鉢である。口縁部を上方に拡張し、幅広の面をもつ。外面に２条の凹線を施す。おろし目は縦方向に５本単位で間隔をあけて施す。内外面はナデ調整する。口径28cm、残存高3.8cmである。江戸時代後半頃のものと思われる。

２、３は土師器の鍋の把手である。２は内弯する体部に扁平な把手が付く。把手は内弯気味に外上方へ伸びる。外面は粗いハケメ調整する。内面は指頭圧痕が残る。残存高５cmである。３は直線的に内傾する体部に短い把手が付く。外面はハケメ調整する。内面は指頭圧痕が残る。残存高９cmである。奈良～平安時代のものと思われる。

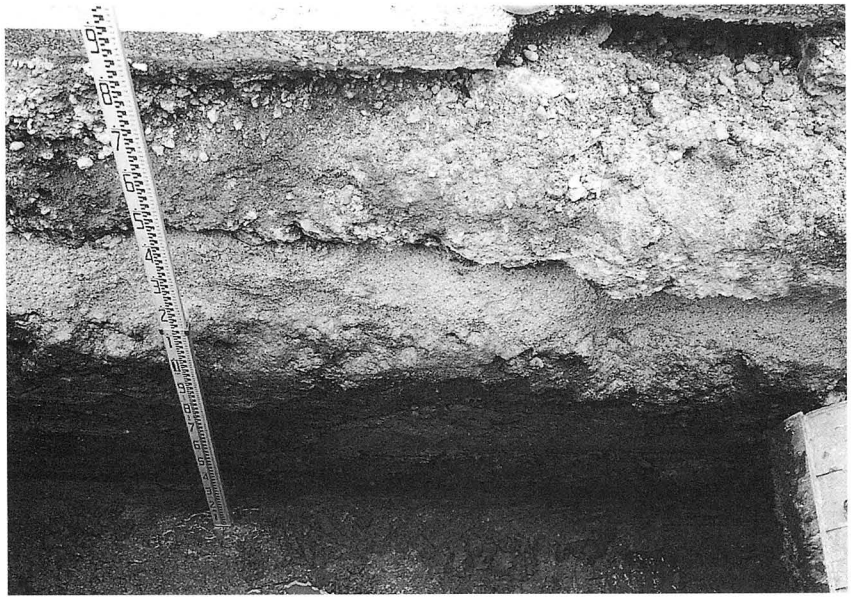


出土遺物実測図

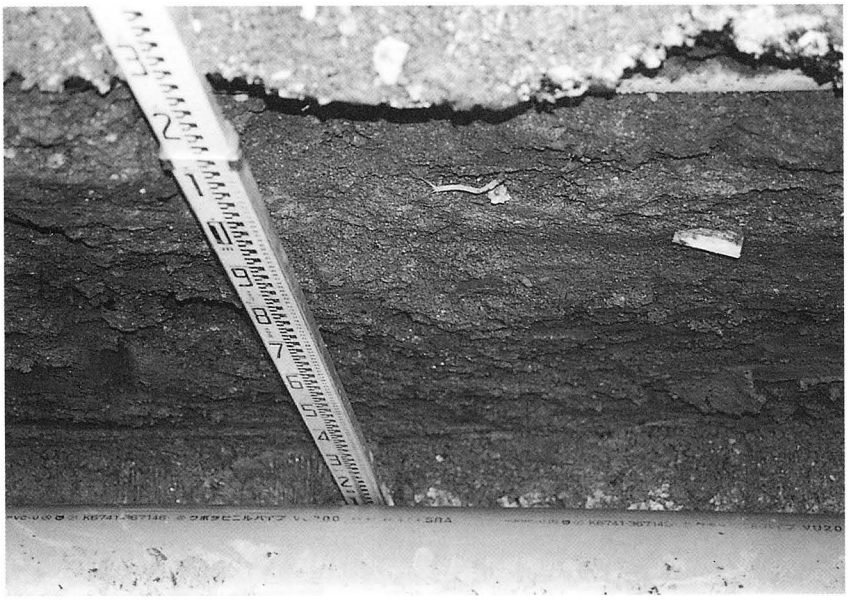
4. まとめ

今回の調査では、Ｂ～Ｄ地区で遺物が出土しているが、細片が多く図化できるものは少なかった。遺物は中世期のものもあるが、須恵器、土師器などの古墳～奈良時代ものが大部分である。今回の調査では、Ｃ、Ｄ地区で遺物を確認しているが、Ｃ地区は特に多い。遺構は確認できなかったが、Ｃ、Ｄ地区周辺には存在する可能性が考えられる。

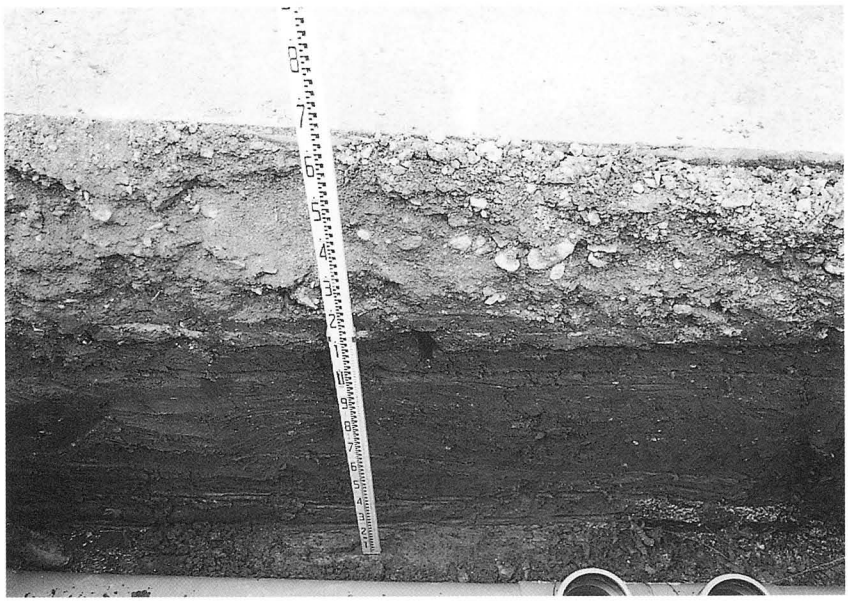
調査地遠景



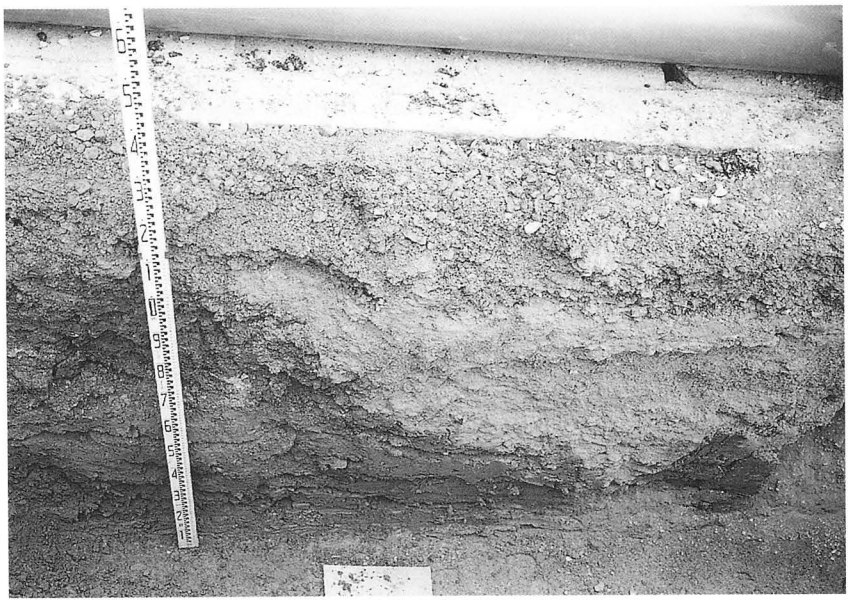
Ａ－１地区土層断面



Ａ－16地区土層断面



Ｂ－４地区土層断面



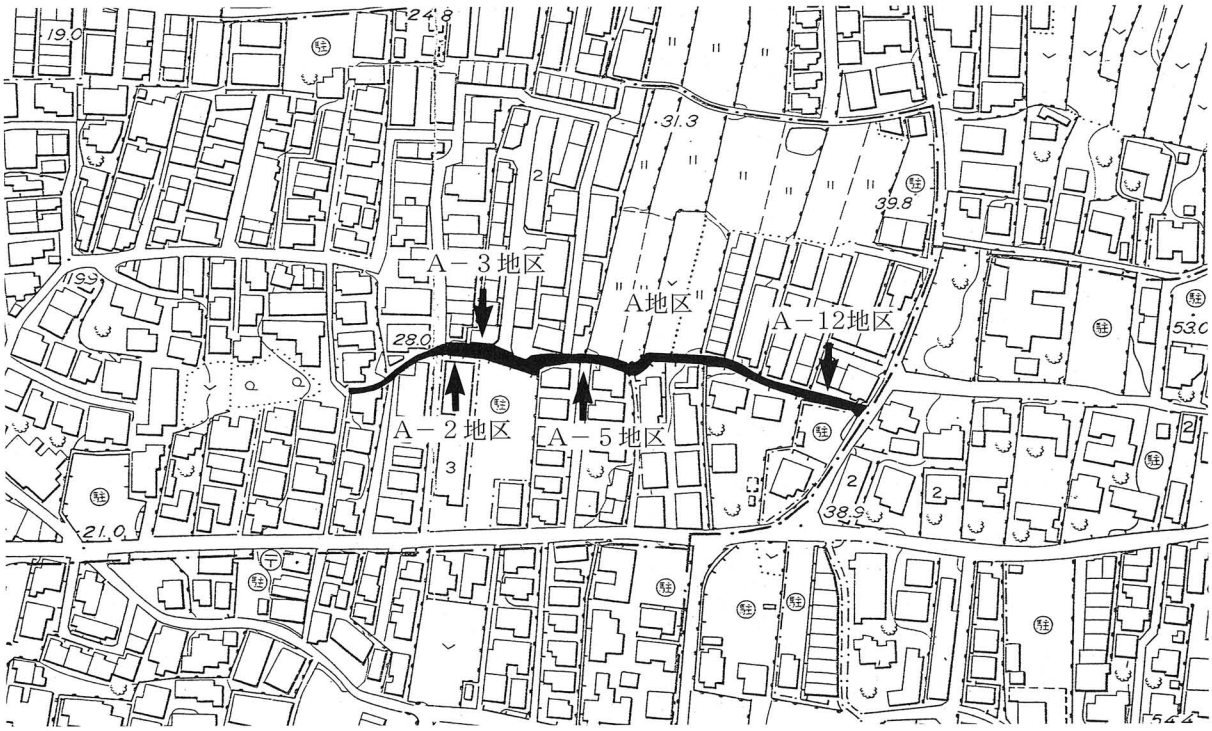
C－５地区土層断面

D－９地区土層断面

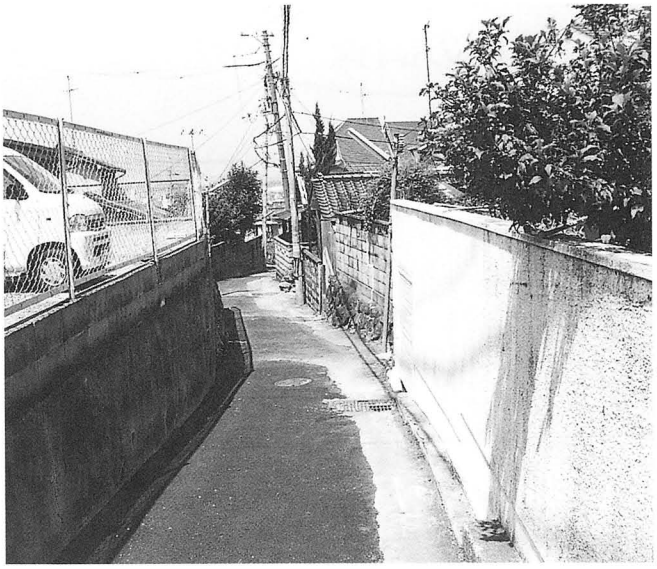
出土遺物（土師器・陶器）

第27章　山畑（やまはた）古墳群の調査

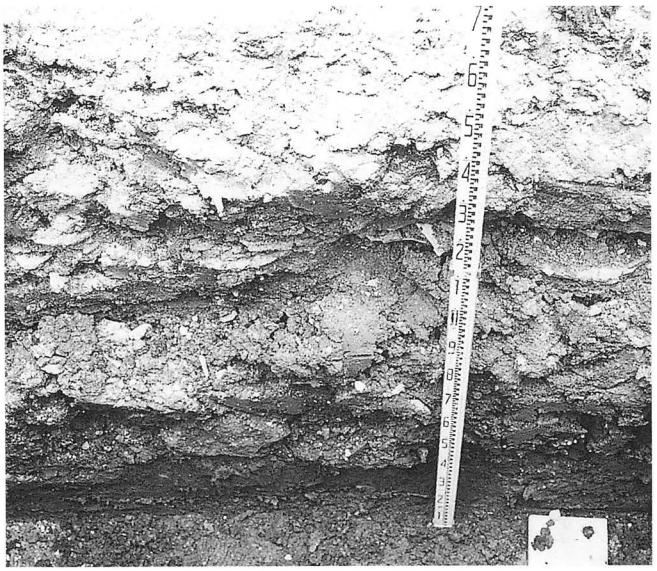
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第34工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市瓢箪山町４～34
3	調査面積	152㎡
4	調査期間	平成15年６月９日～８月８日（延べ24日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線瓢箪山駅の東である。当地点は山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ179mの間であり、開削工法である。



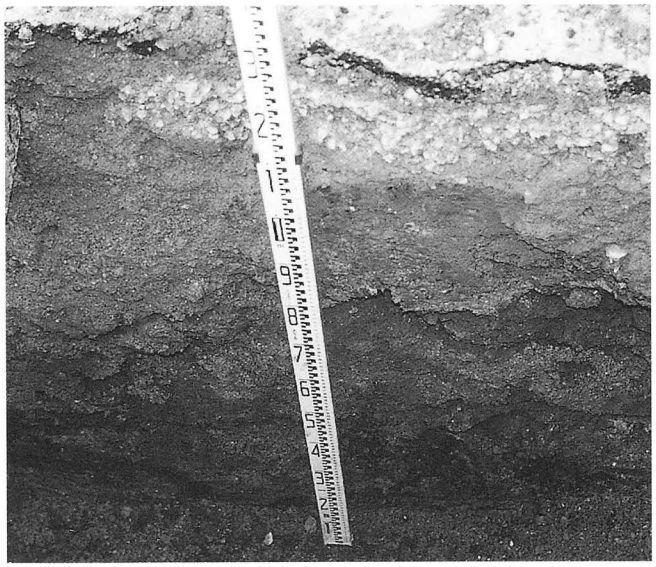
調査地点位置図（１/2500）



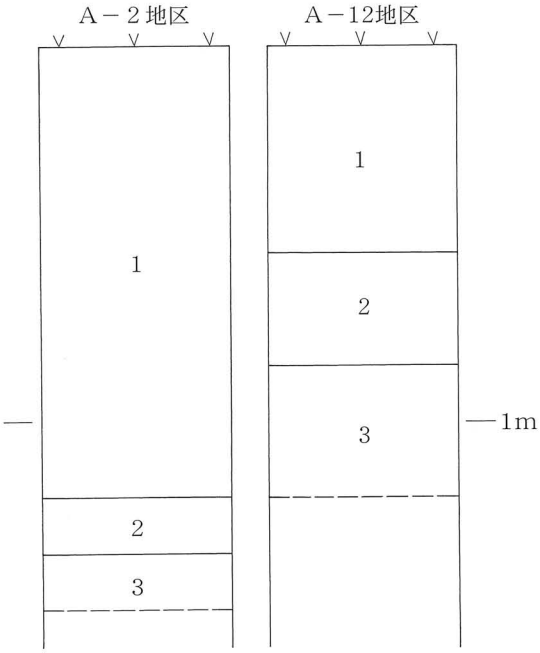
調査地遠景



Ａ－２地区土層断面



Ａ－12地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－２地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒色(2.5Y2/1)細～中粒砂混じり粘質シルト。

第３層　黒色(10YR1.7/1)礫混じり粘質シルト。

Ａ－12地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

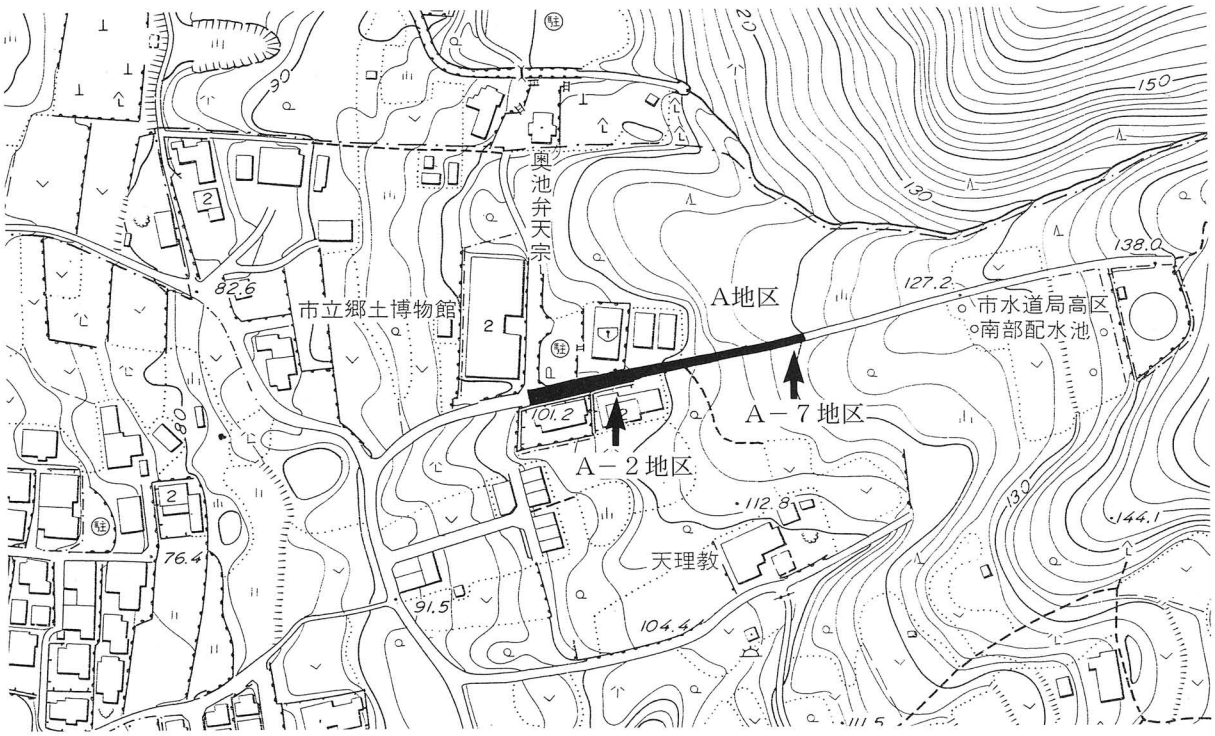
第３層　黒色(2.5Y2/1) 粗粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

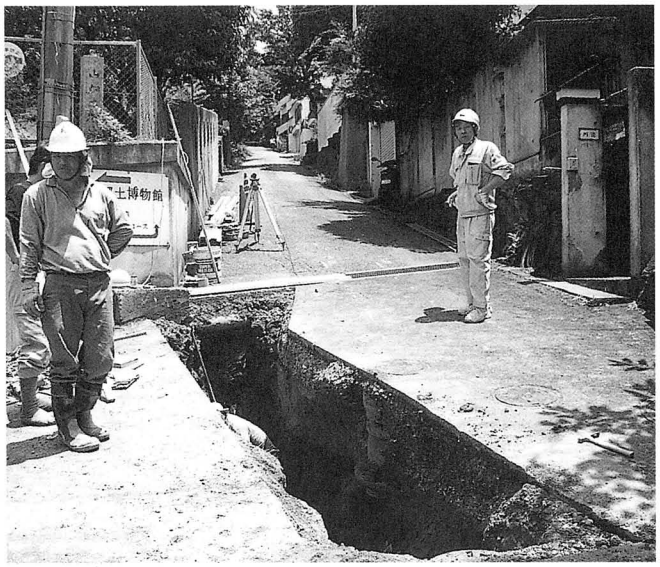
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第28章　山畑（やまはた）古墳群の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第56工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市上四条町2044～2079－10
3	調査面積	74㎡
4	調査期間	平成15年７月２日～７月17日（延べ10日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は東大阪市立郷土博物館の南東である。当地点は山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ88mの間であり、開削工法である。



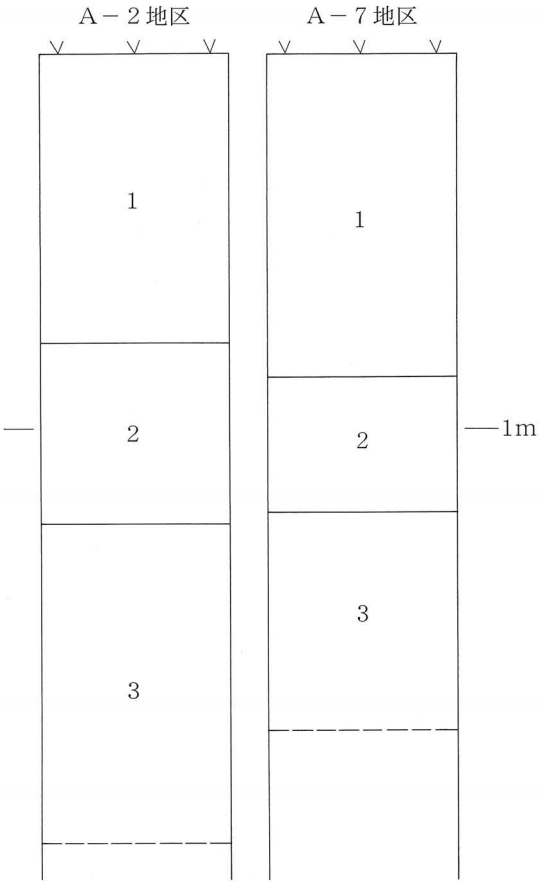
調査地点位置図（１/2500）



調査状況

Ａ－２地区土層断面

Ａ－７地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－２地区の層序

第１層　盛土。

第２層　暗褐色(10YR3/3)中粒砂～中礫混じり粘質シルト。

第３層　褐色(10YR4/4)細粒砂～巨礫混じり粘質シルト。

Ａ－７地区の層序

第１層　盛土。

第２層　褐色(10YR4/4)細粒砂～巨礫混じり粘質シルト。

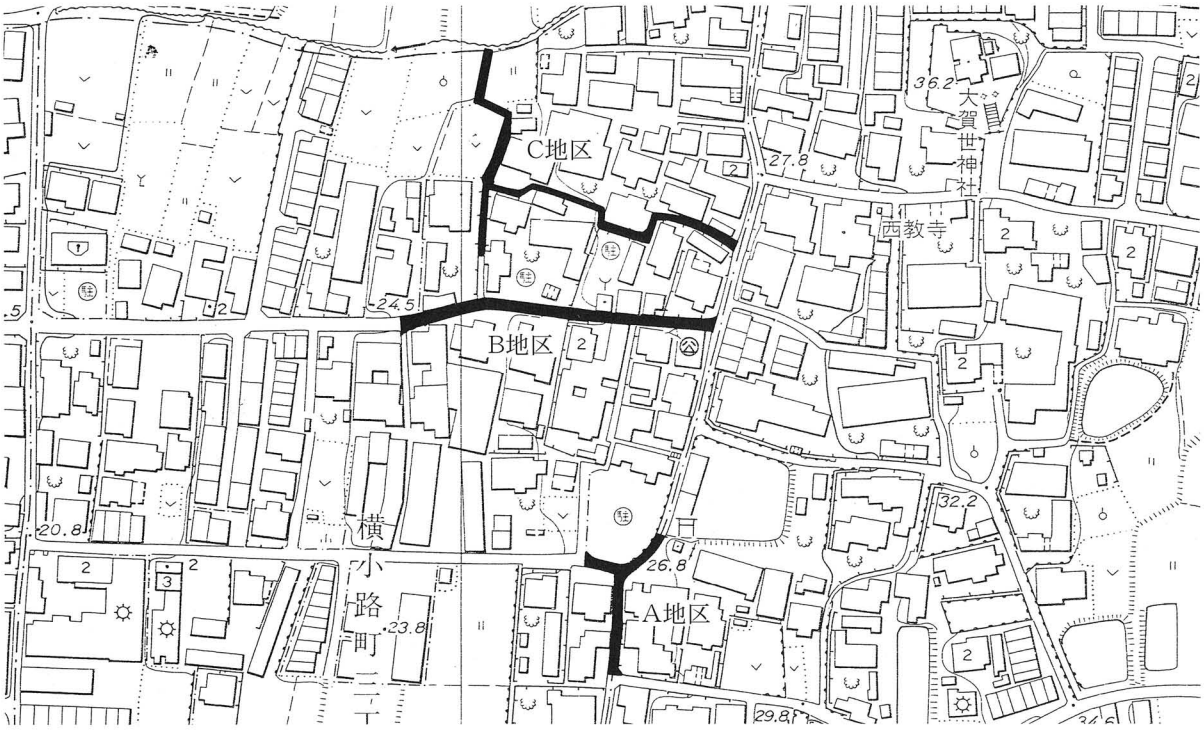
第３層　黄褐色(10YR5/6)細粒砂～小礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第29章　馬場川（ばばがわ）・北屋敷（きたやしき）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第27工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市横小路町３丁目125～144、127～147
3	調 査 面 積	410㎡
4	調 査 期 間	平成15年６月９日～10月２日（延べ42日）
5	報 告 担 当	川本
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手南小学校の南東である。当地点は馬場川・北屋敷遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ483mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗緑灰色(5G3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

A－6地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗オリーブ灰色(5GY4/1)中粒砂。

第3層　黒色(5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第4層　灰色(10Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

第5層　黒色(10Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第6層　黒色(2.5GY2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

A－22地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層　灰黄褐色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘質シルト。

第4層　暗オリーブ灰色(5GY4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

C－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

第3層　黒褐色(10YR3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

C－15地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黄灰色(2.5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

第3層　灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂。小礫を含む。

C－20地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘質シルト。中世期の遺物などが出土。

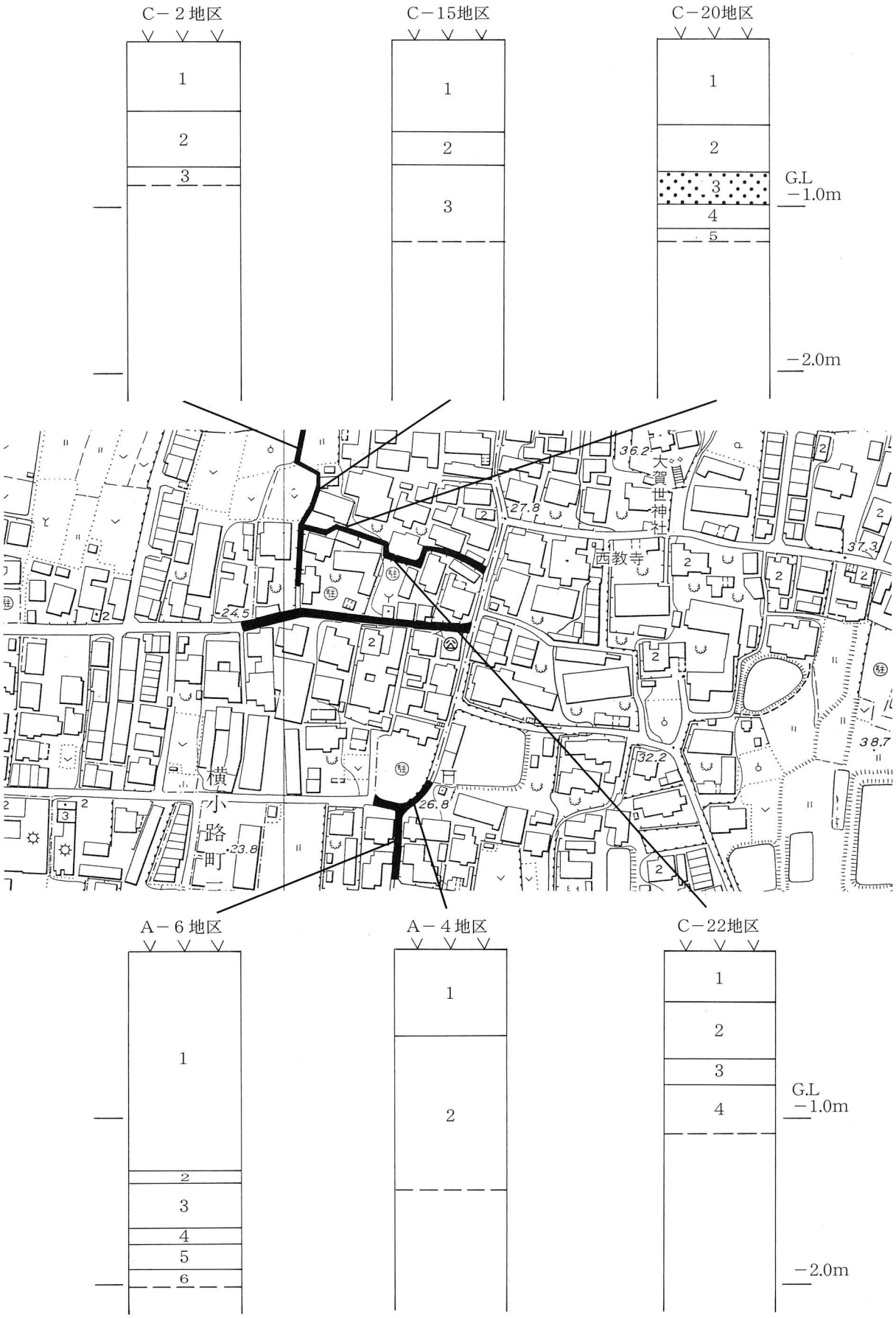
第3層　灰色(2.5Y4/1)中粒砂混じり粘質シルト。粘土塊を含む。

第4層　灰色(5Y4/1)粗粒砂。

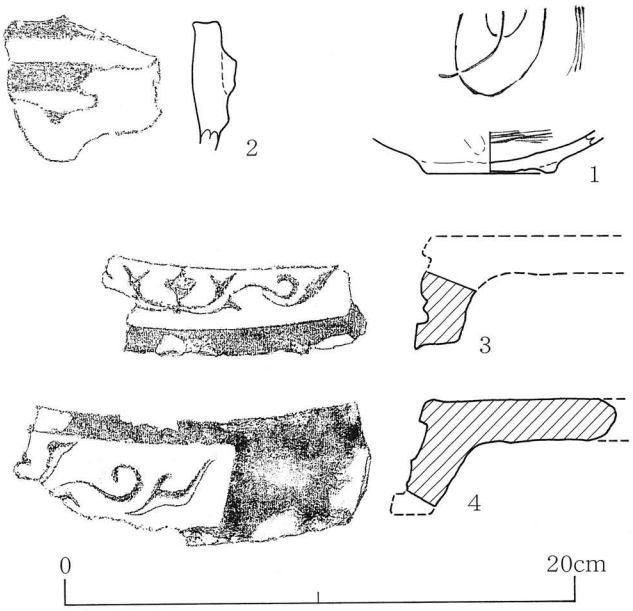
2. 出土遺物

C－20地区から埴輪、瓦器椀、瓦が出土している。

1はタガの部分を残す円筒埴輪である。タガの断面は突出の少ない台形を呈する。調整法は摩滅しており不明である。古墳時代のものである。2は高台から体部がわずかに残る瓦器椀である。高台は低く、高台端部は面をもつ。断面は台形を呈する。外面は摩滅しており調整法が不明である。体部内面にヘラミガキ調整する。見込み部には連結輪状の暗文を施す。底径5.0cmである。中世のものである。3、4は軒平瓦である。3は内区から顎凸面まで残す。顎は段顎形式のもので、顎凸面を横方向にヘラナデ調整する。文様は中心飾りに花飾りを置き、一部欠損しているが、左右とも2回転する唐草文がのびるものと思われる。胎土中には長石、雲母を含む。色調は灰色である。4は上端面から顎凸面まで残す。段顎形式のものである。顎凸面を横方向にヘラナデ調整し、顎凹面はナデ調整するが、部分的に縦の方向にヘラナデ調整が残る。文様は中心飾りと唐草文が一部欠損しているが、3と同じ


C－2地区
C－15地区
C－20地区
G.L
－1.0m
－2.0m
大賀世神社
西教寺
横小路町
A－6地区
A－4地区
C－22地区
G.L
－1.0m
－2.0m

土層断面柱状図



出土遺物実測図

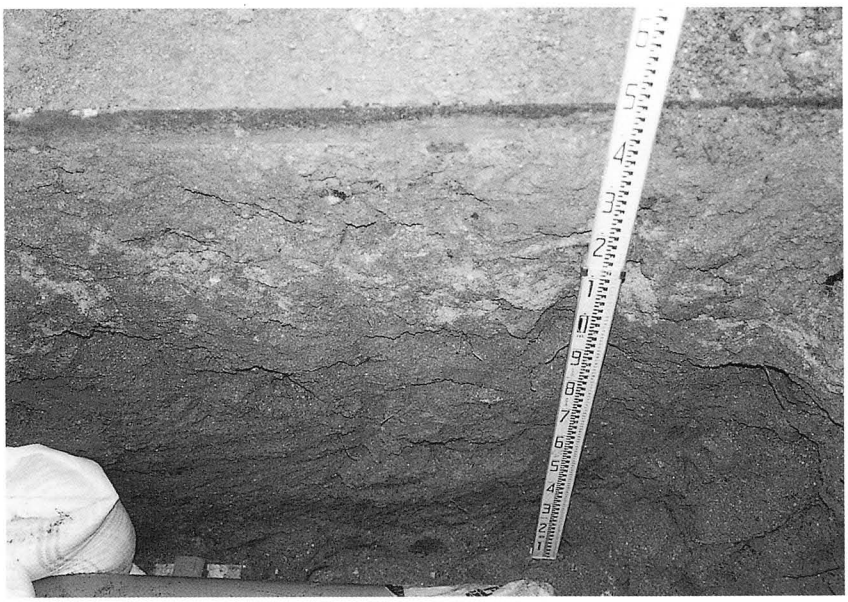
文様を施す。側縁幅は5.1cmである。文様区が著しく縮小している。胎土中には石英、長石、雲母、クサリ礫を含む。色調は黄褐色である。江戸時代のものである。

3. まとめ

今回の調査では、数点の遺物しか出土しなかったが、C－20地区で２点確認した。瓦は室町時代のものであり、当時期の建物が近辺にあったと考えられる。

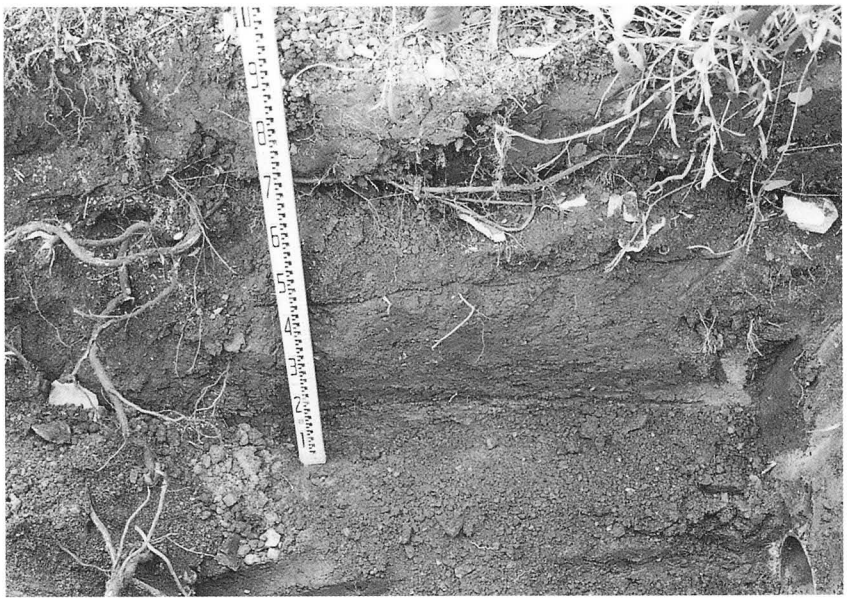
調査地遠景（A地区）

調査地遠景（C地区）



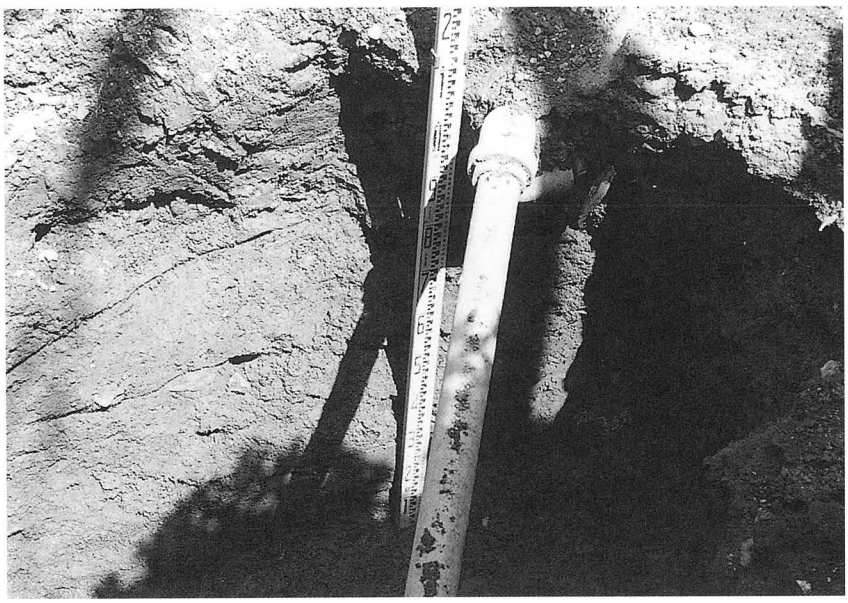
Ａ－４地区土層断面

Ａ－６地区土層断面



Ｃ－２地区土層断面

C－15地区土層断面

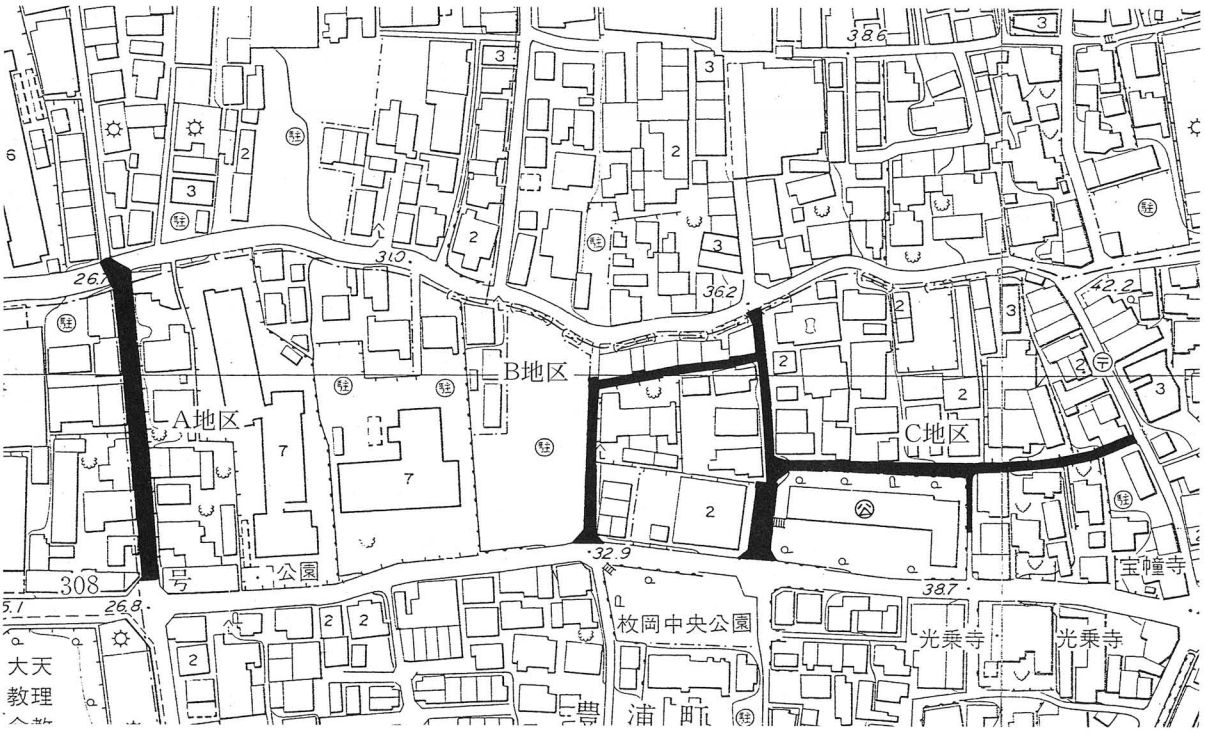


C－20地区土層断面

出土遺物（埴輪・瓦器・瓦）

第30章　鬼塚（おにづか）遺跡の第28次調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第53工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市豊浦町635～636、649～655他
3	調 査 面 積	272㎡
4	調 査 期 間	平成15年５月27日～10月28日（延べ41日）
5	報 告 担 当	福瀬
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡中央公園の北と北西である。当地点は鬼塚遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ320mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

調査地は便宜上A～C地区に分け、A地区より開始した。B地区は撹乱を受けている箇所が多く遺物の出土量は少ない。A、C地区で遺物が多く出土した。特にA地区は多い。

2. 層位

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。

第3層　暗緑灰色(5G3/1)粗粒砂混じりシルト。小礫を含む。

A－3地区の層序

第1層　盛土。

第2層　黒褐色(10YR2/2)中粒砂混じりシルト。弥生時代の遺物が出土。

第3層　黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり粘質シルト。

第4層　黒色(10YR2/1)粘質シルト。

B－4地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。中世期の遺物が出土。

C－2地区の層序

第1層　盛土。

第2層　灰オリーブ色(5Y5/3)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層　オリーブ黒色(5Y3/2)中粒砂。小～中礫を含む。

C－8地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂混じり粘質シルト。巨礫を含む。

C－10地区の層序

第1層　盛土。

第2層　オリーブ黒色(5Y3/1)細粒砂混じりシルト。奈良時代の遺物が出土。

第3層　灰オリーブ色(7.5Y6/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

C－15地区の層序

第1層　盛土。

第2層　明褐色(7.5YR5/8)粗粒砂混じり粘質シルト。

C－18地区の層序

第1層　盛土。

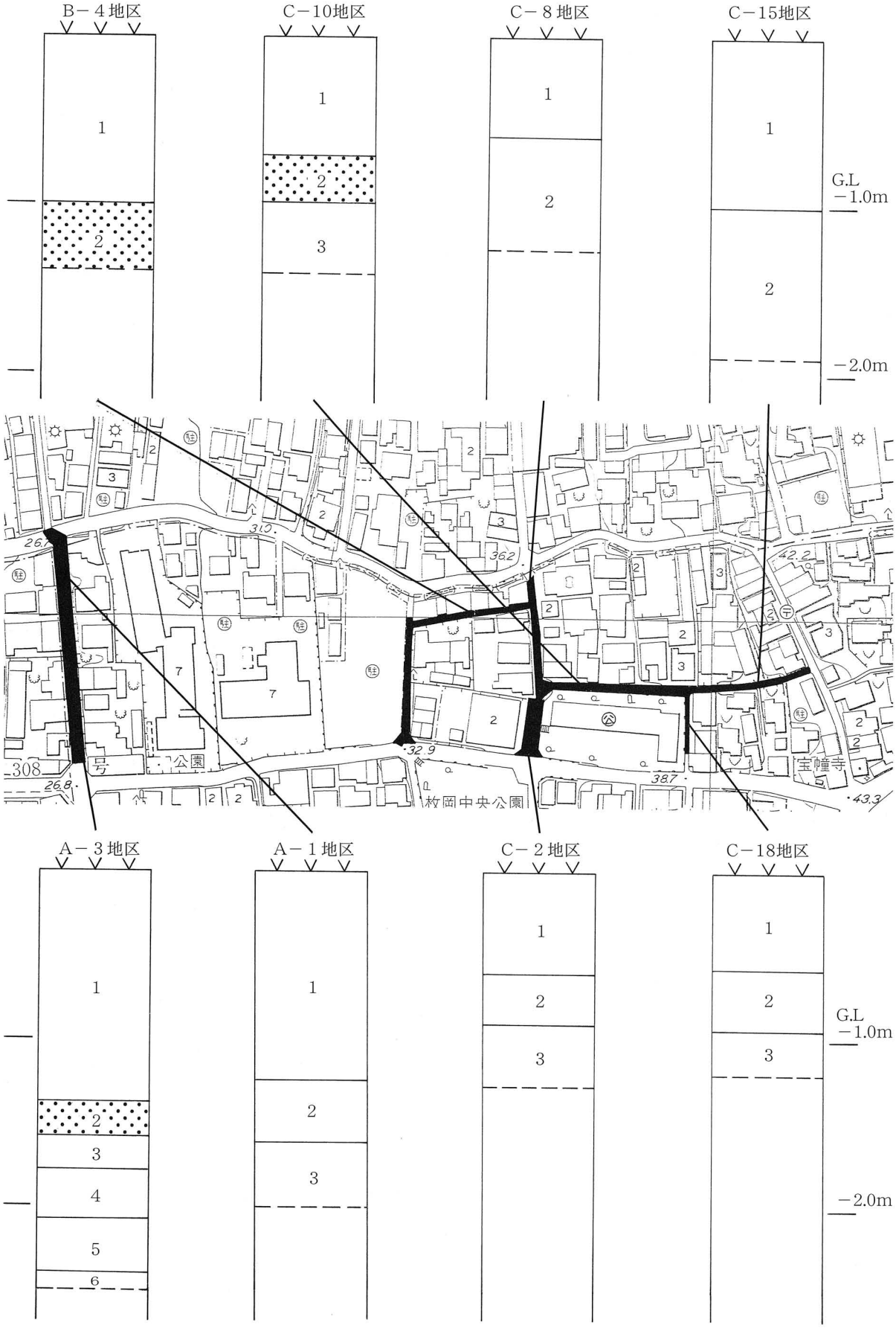
第2層　黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。

3. 出土遺物

今回の調査では、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器などが出土した。

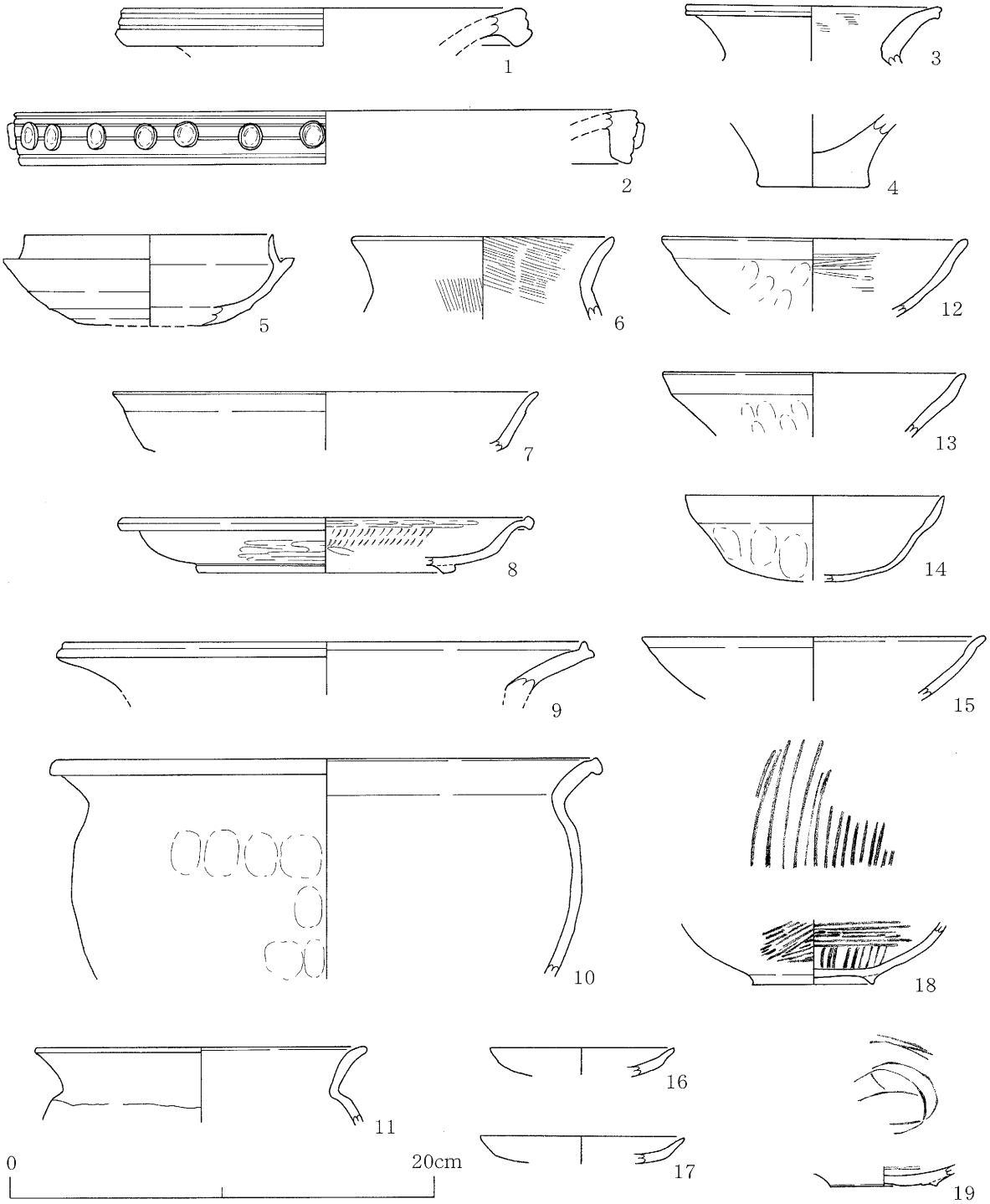
1～4は弥生土器である。1は壷である。口縁部は大きく外反し、口縁端部を下方に拡張する。口縁端部に2条の凹線を施す。内外面はナデ調整する。口径19cm、残存高1.8cmである。2は器台である。口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方に拡張する。口縁端部に4条の凹線文をした後、円形浮文を貼り付ける。円形浮文の上に竹管文を施す。内外面はナデ調整する。内外面に赤色顔料がわずか


B－4地区
C－10地区
C－8地区
C－15地区
G.L
－1.0m
－2.0m
A－3地区
A－1地区
C－2地区
C－18地区
公園
枚岡中央公園
宝幢寺

土層断面柱状図

に残る。口径29.5cm、残存高2.5cmである。３は壷である。口縁部が大きく外反し、口縁端部は少し面をもつ。外面はナデ調整する。口縁部内面の上部は横方向のハケメ調整する。口径11.8cm、残存高2.8cmである。４は平底の底部である。内外面はナデ調整する。底径5.5cm、残存高3.5cmである。１～４は胎土中に角閃石を多く含むことから、生駒西麓産である。１～３は後期、４は詳細な時期は不明である。

５、７は須恵器である。５は杯である。丸底の底部より体部が内弯気味に立ち上がる。立ち上がり部は長く外反して伸びる。口縁端部は丸く終わる。外面は上部を回転ナデ調整、下部を回転ヘラケズ



出土遺物実測図

リ調整する。内面は回転ナデ調整する。口径11.5cm、残存高4.3cmである。古墳時代中頃のものと思われる。７は杯である。体部が外上方に立ち上がる。口縁部はわずかに外反し、口縁端部は丸く終わる。内外面は回転ナデ調整する。口径20cm、残存高2.8cmである。飛鳥時代頃のものと思われる。

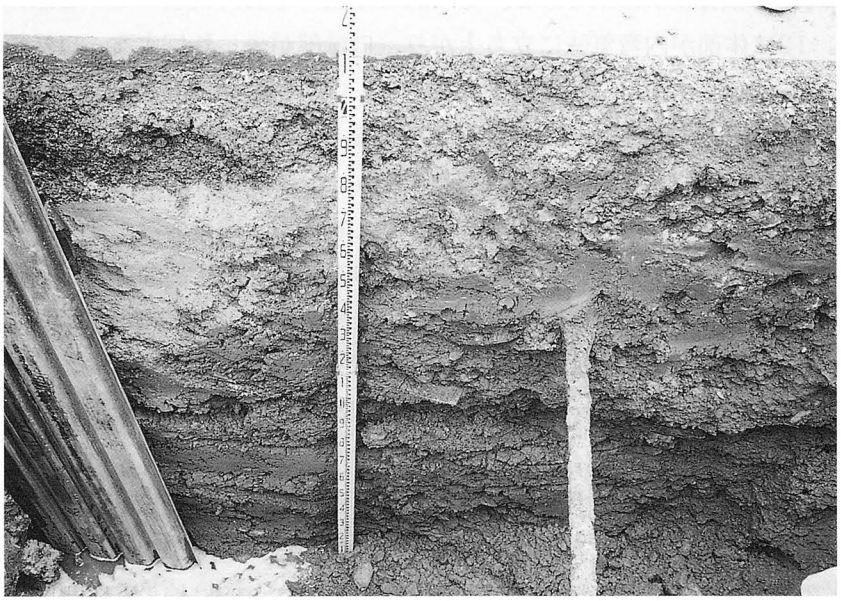
６、８～17は土師器である。6は甕である。口縁部はゆるく外反して、口縁端部が丸く終わる。体部外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面は横方向のハケメ調整する。口径12cm、残存高4cmである。古墳時代のものと思われる。８は高台の付く皿である。平底の底部から体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部で大きく外反する。口縁端部は丸く肥厚する。高台は台形の貼り付け高台である。体部外面はヘラミガキ調整する。内面は見込み部に螺旋文、体部に2段の放射状の暗文を施す。口径19cm、器高2.6cmである。９～11は甕である。９は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上方へ拡張し、面をもつ。内外面はナデ調整をする。口径24.5cm、残存高2.6cmである。10は体部が内傾気味に立ち上がり、口縁部で外反する。口縁端部はわずかに下方へ拡張し、面をもつ。外面は指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。口径25.5cm、残存高10.3cmである。11は体部が内傾して立ち上がり、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部と口縁部の境に接合痕を残す。内外面はナデ調整する。口径15.5cm、残存高3.5cmである。９～11は奈良～平安時代頃のものと思われる。12、14、15は椀である。12は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部が少し外反する。口縁端部は丸く終わる。外面は指頭圧痕が残る。内面はヘラミガキ調整する。口径14.2cm、残存高3.6cmである。14は丸底の底部から体部が内弯気味に立ち上がる。口縁部で屈曲し、口縁端部はつまみあげ気味に終わる。外面は指頭圧痕が残る。内面はナデ調整する。口径12cm、残存高4cmである。15は体部が内弯気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反し、口縁端部が丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径16cm、残存高3cmである。13は杯である。体部が外上方に伸び、口縁部で屈曲する。口縁端部は丸く終わる。外面は指頭圧痕が残る。内面はナデ調整をする。口径14cm、残存高3cmである。11～15は平安時代頃のものと思われる。16、17は皿である。16、17は丸底の底部である。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。16は口径9cm、残存高1.3cmである。17は口径9.8cm、残存高1.2cmである。鎌倉時代頃のものと思われる。

18、19は瓦器の椀である。18は底部から体部が内弯気味に立ち上がる。高台は断面三角形の貼り付け高台である。体部上半は欠損する。内外面はヘラミガキ調整する。見込み部に平行線文の暗文を施す。底径5.5cm、残存高３cmである。和泉型と思われるが詳細は不明である。19は椀の高台部分である。断面三角形の低い貼り付け高台である。外面は残存が少なく不明である。見込み部に圏線状の暗文を施す。底径５cm、残存高0.9cmである。大和型と思われるが詳細は不明である。18、19は鎌倉時代頃のものと思われる。

4. まとめ

今回の調査では、Ａ、Ｃ地区において弥生時代～中世期の遺物が多く出土した。Ａ地区は弥生～古墳時代にかけての遺物が多く出土する。遺構などの確認は出来なかったが、Ａ－３地区で弥生時代の包含層を確認することが出来た。Ｃ地区は奈良時代～中世期の遺物が多く出土した。特にＣ－５地区、Ｃ－９地区は集中的に遺物が出土する。奈良～平安時代の遺物を多く確認できた。遺構などは確認できなかったが、この周辺で集落などの遺構が存在する可能性は考えられる。

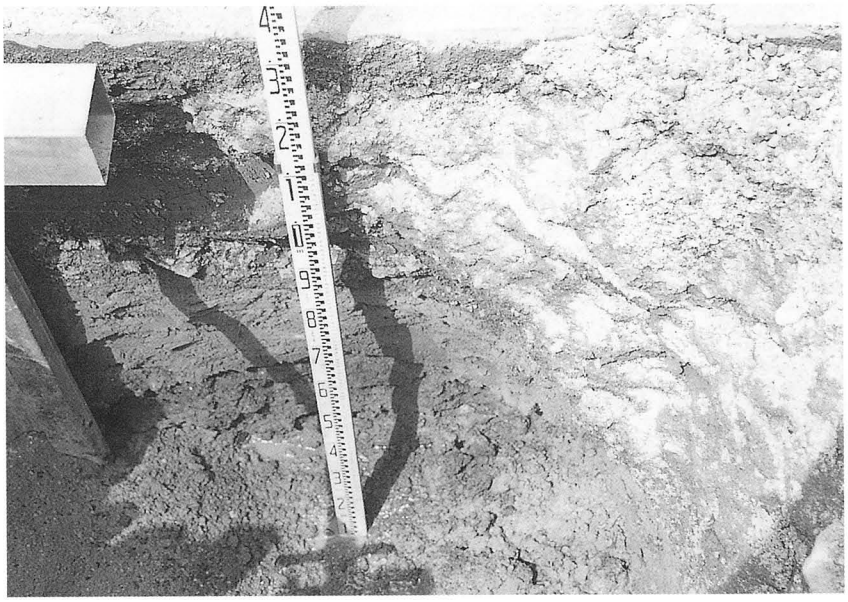
調査地遠景



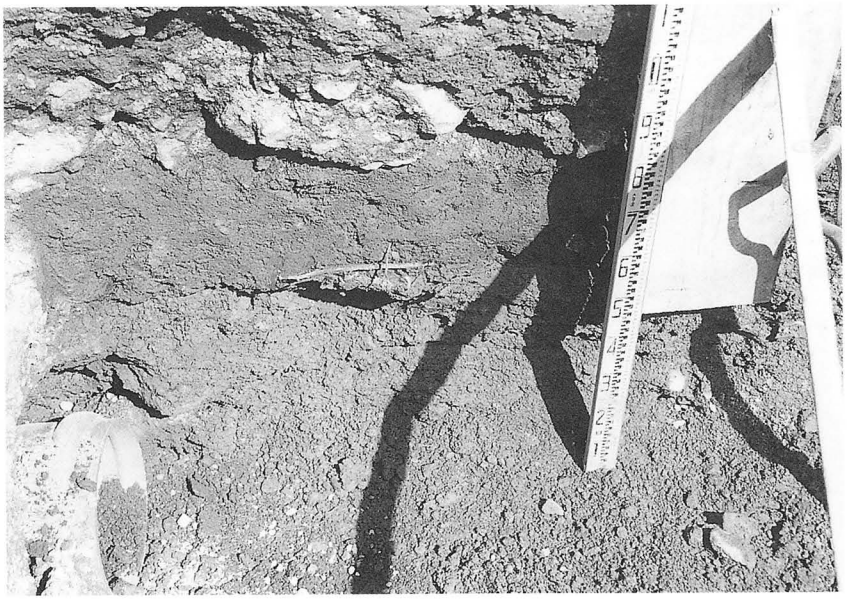
Ａ－１地区土層断面

Ａ－３地区土層断面

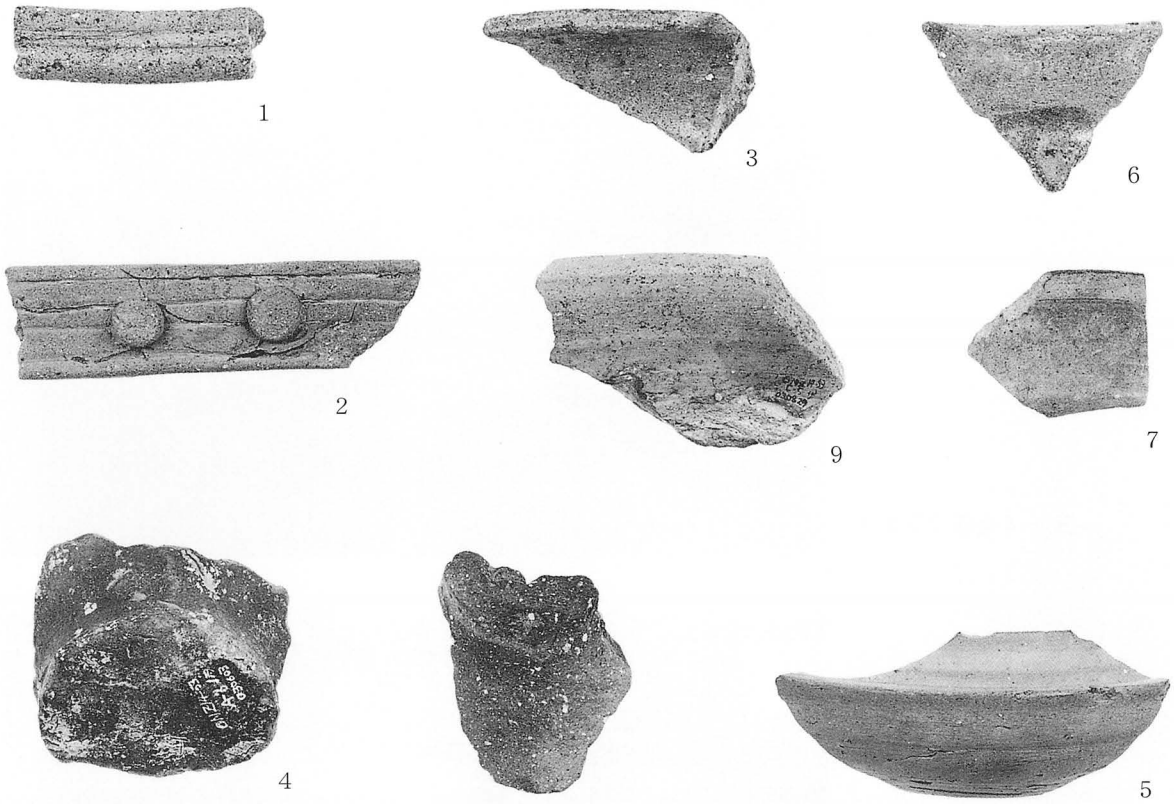
B－4地区土層断面



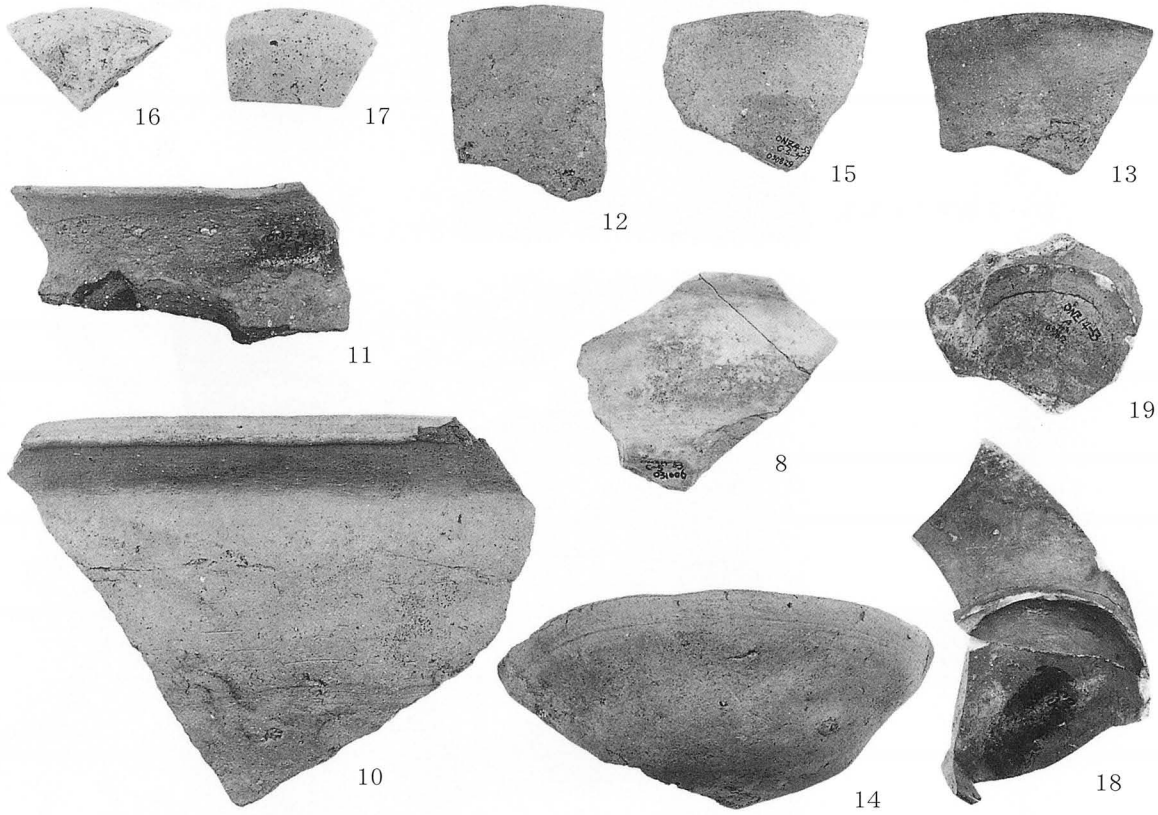
C－2地区土層断面



C－10地区土層断面



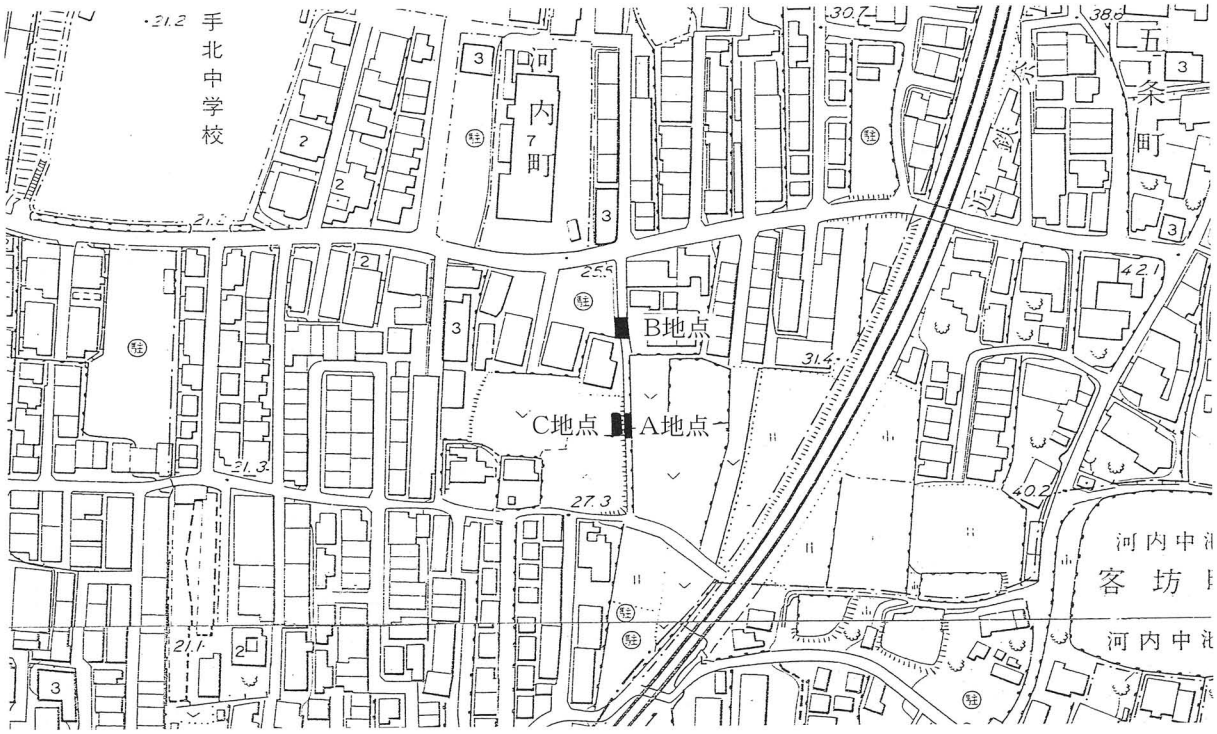
出土遺物（弥生土器・須恵器・土師器）



出土遺物（土師器・瓦器）

第31章　河内寺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第117工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市河内町414－7～416
3	調査面積	6㎡
4	調査期間	平成15年８月27日～12月１日（延べ11日）
5	報告担当	川本
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手北中学校の南東である。当地点は河内寺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事は推進工法であり、３ヶ所でおこなわれた。



調査地点位置図（１/2500）

1. 調査の概要

C地点の層序

第１層　盛土。

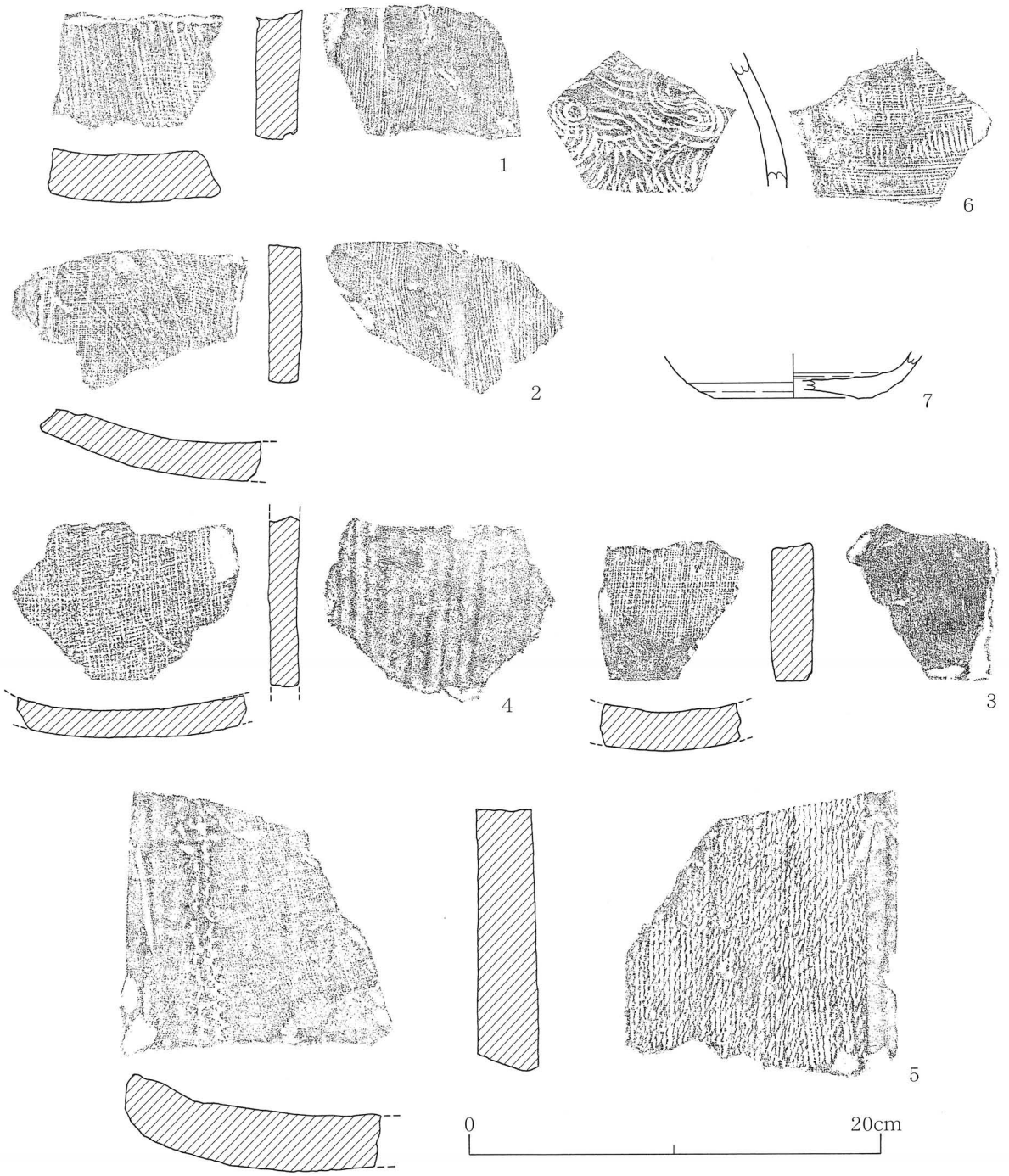
第２層　暗緑灰色(10GY3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。巨礫を含む。土器、瓦が出土。

第３層　緑黒(5G2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

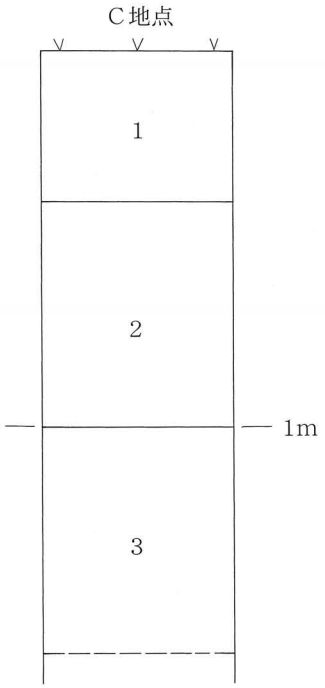
2. 出土遺物

今回の調査は、Ａ～Ｃ地点の立坑である。Ｃ地点しか土層を確認することしかできなかった。Ａ、Ｃ地点からは須恵器、瓦が出土した。

１～５は平瓦である。１は凸面をハケメ調整し(７本/cm)、凹面に布目痕(７本/cm×７本/cm)を残す。

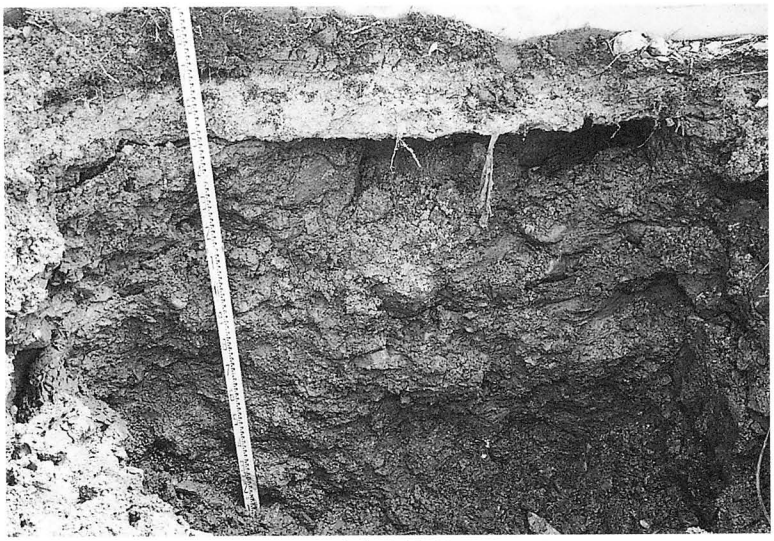


出土遺物実測図



土層断面柱状図

調査地遠景



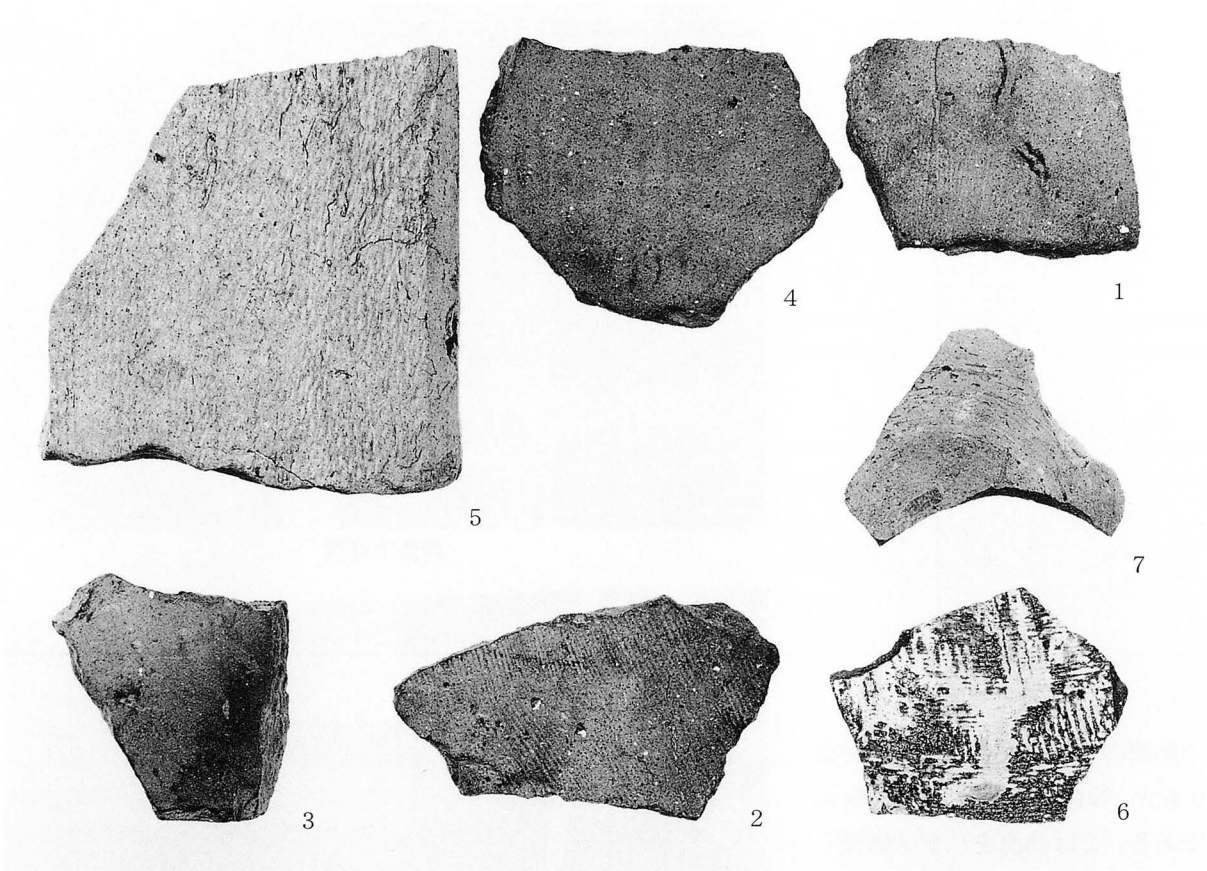
C地点土層断面

一部縦の方向にナデ消す。残存長6.4cm、残存幅8.3cm、厚さ1.9cmである。2は凸面をハケメ調整し(7本/cm)、凹面に布目痕(8本/cm×8本/cm)を残す。一部縦の方向にナデ消す。残存長6.7cm、残存幅11.0cm、厚さ1.6cmである。3は凸面にハケメ調整を残すが、摩滅しており、原体数は不明である。凹面は布目痕(8本/cm×8本/cm)。端面がわずかに残存し、ヘラケズリ調整する。残存長7.0cm、残存幅7.0cm、厚み1.8cmである。4は凸面を縦の方向に縄目タタキ調整後、一部横の方向にナデ消す。凹面に布目痕(5本/cm×5本/cm)を残す。残存長8.2cm、残存幅11.8cm、厚さ1.2cmである。5は凸面を縄目タタキ調整し、凹面に布目痕(10本/cm×7本/cm)を残す。また、粘土紐巻上げ痕、粘土板合わせ目の痕が残る。酸化鉄が付着する。側面は面取りする。残存長13.1cm、残存幅13.0cm、厚さ2.7cmである。1～5は、すべて石英、長石、雲母、角閃石を含む。生駒西麓産である。

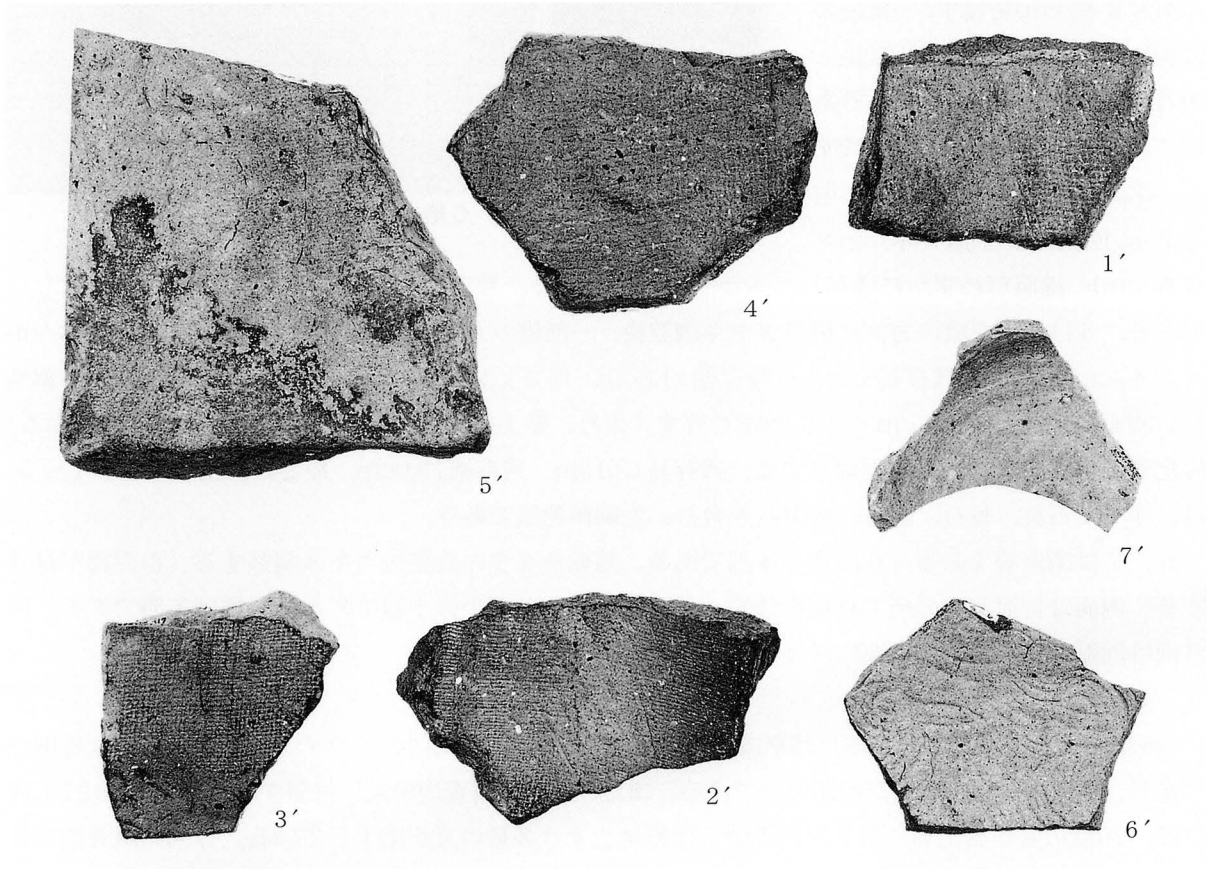
6、7は須恵器である。6は甕の体部である。外面をタタキ調整後カキメ調整する。自然釉が付着する。内面は青海波文の当て具痕を残す。7は底部か体部下半の土器であるが器種は不明である。内外面は回転ナデ調整し、底部内面はさらにナデ調整する。

3. まとめ

今回、調査したA地点、B地点は平成13年度公共下水道第21工区のCラインの調査区と重なる地点であり、C地点はそのラインの西地点である。また、第9次調査地の東に位置する。13年度の21工区では、10点の瓦が出土し、第9次調査地では整地土より多量の瓦が出土している。今回の調査地でも同様の遺物などが出土しており、河内寺関係の遺物が広がっている可能性が高い。



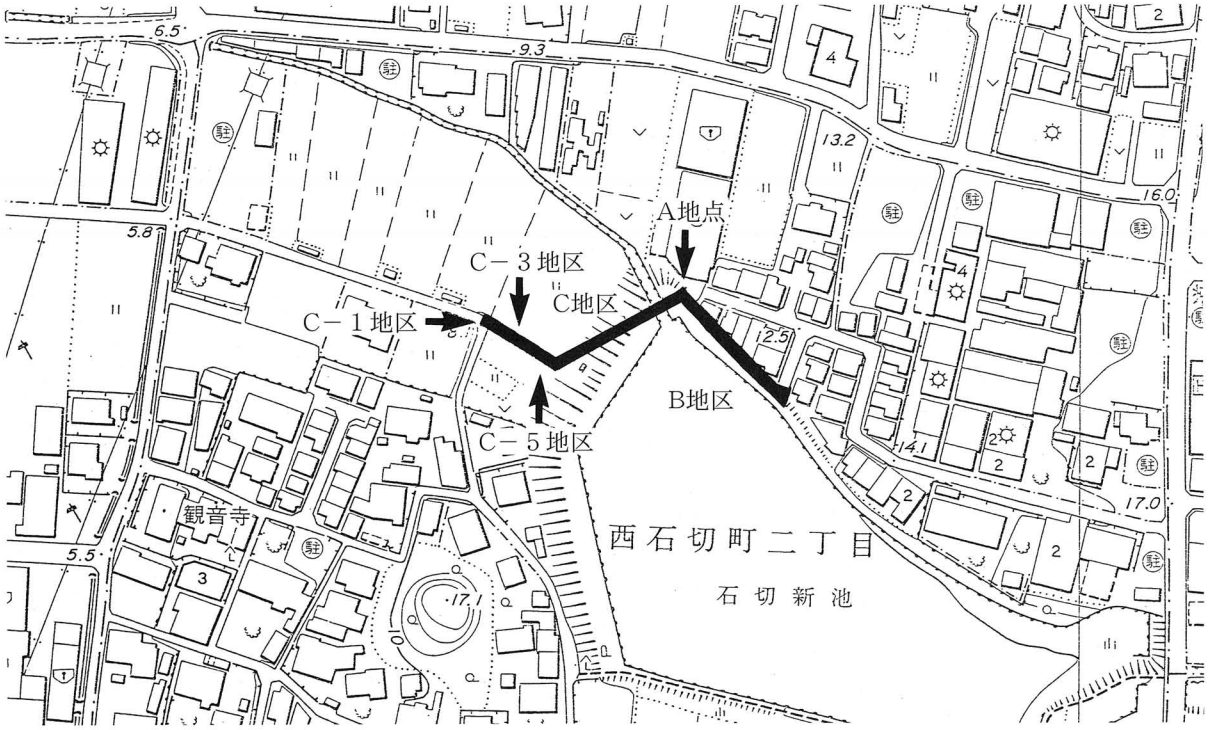
出土遺物（須恵器・瓦）（表）



出土遺物（須恵器・瓦）（裏）

第32章　植附（うえつけ）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道第52工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市西石切町２丁目487－17～603
3	調査面積	164㎡
4	調査期間	平成15年９月１日～10月24日（延べ17日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の北である。当地点は植附遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立坑部を発掘調査、開削部を立会調査することになった。立坑部は6.4×3.2m、開削部は幅約1.0～1.5mで長さ105mの間である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A地点の層序

第１層　耕土。

第２層　床土。

第３層　黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第４層　黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第５層　暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂混じり粘質シルト。

第６層　黒褐色(10YR3/1)粗粒砂～中礫混じり粘質シルト。

第７層　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト。

C－１地区の層序

第１層　盛土。

第２層　灰色(5Y4/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第３層　オリーブ黄色(7.5Y6/3)細粒砂混じり粘質シルト。

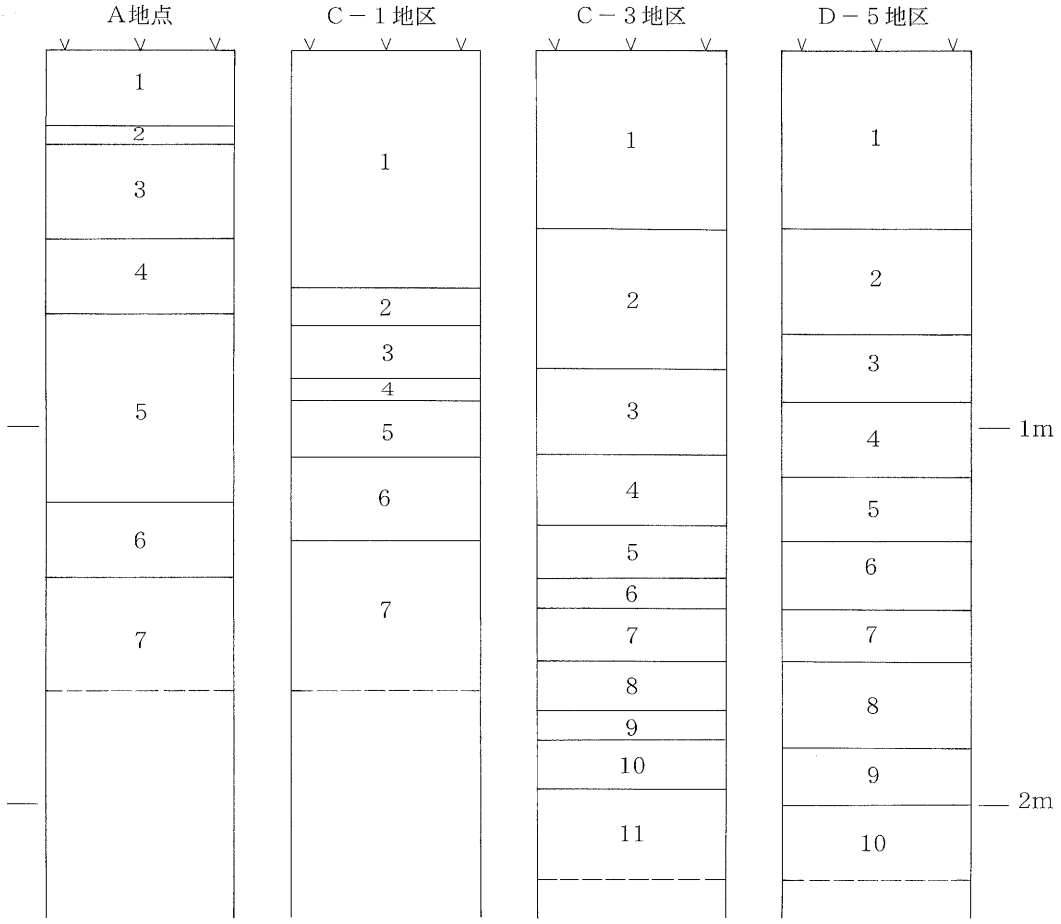
第４層　緑灰色(7.5GY5/1)細粒砂。

第５層　灰色(7.5Y4/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第６層　灰色(5Y4/1)細粒砂。

第７層　オリーブ黒色(5Y3/1)中粒砂。

C－３地区の層序



土層断面柱状図

第１層　盛土。
第２層　暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じり粘質シルト。
第３層　暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘質シルト。
第４層　灰色(10Y4/1)細粒砂混じり粘質シルト。
第５層　灰色(7.5Y4/1)粘質シルト。
第６層　オリーブ灰色(2.5GY4/1)細粒砂。
第７層　灰色(7.5Y4/1)細粒砂。
第８層　黒色(2.5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。
第９層　灰黄色(2.5Y6/2)細粒砂。
第10層　黒色(2.5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。
第11層　灰色(10Y4/1)細粒砂。

Ｃ－５地区の層序

第１層　盛土。
第２層　暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)中粒砂混じり粘質シルト。
第３層　灰色(7.5Y4/1)粗粒砂。
第４層　黒色(5Y2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
第５層　暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
第６層　灰色(7.5Y4/1)粘質シルト。
第７層　暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粘質シルト。

Ａ地点土層断面

第８層　黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じり粘質シルト。
第９層　灰色(7.5Y4/1)細粒砂。
第10層　緑灰色(7.5GY5/1)粗粒砂。

2. まとめ

調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

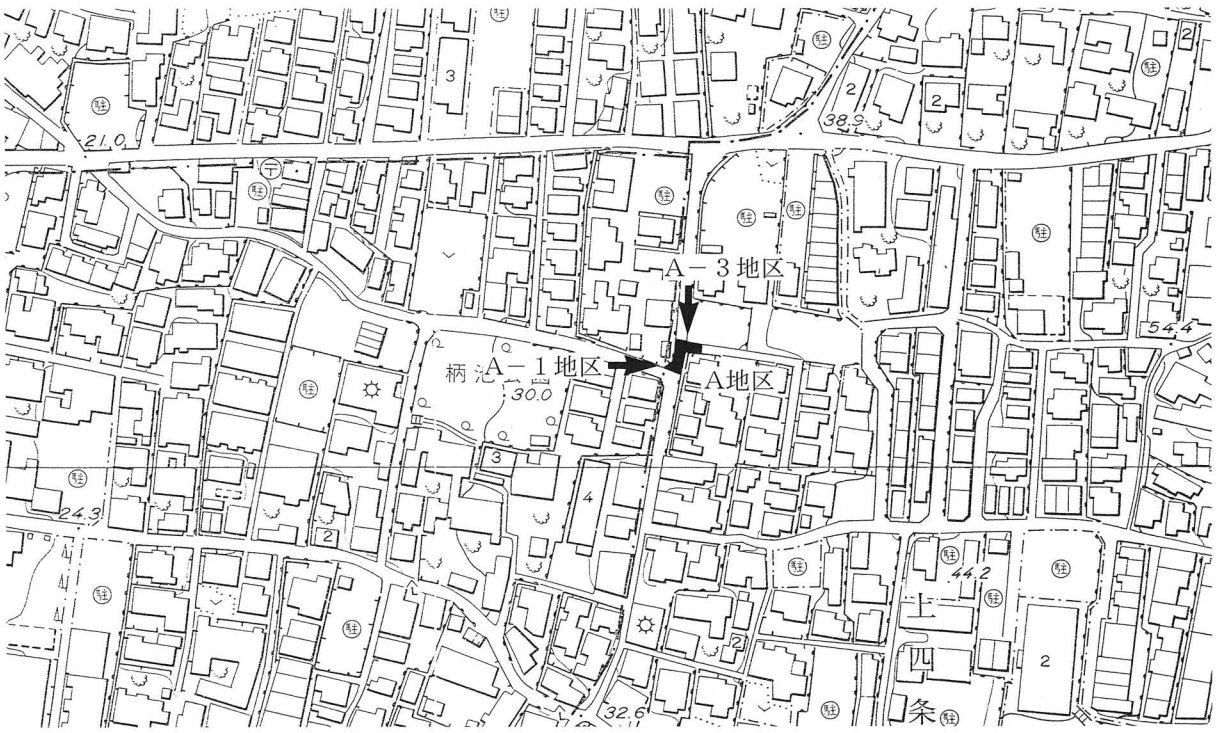
調査地遠景

Ｃ－３地区土層断面

Ｃ－５地区土層断面

第33章　山畑（やまはた）古墳群の調査

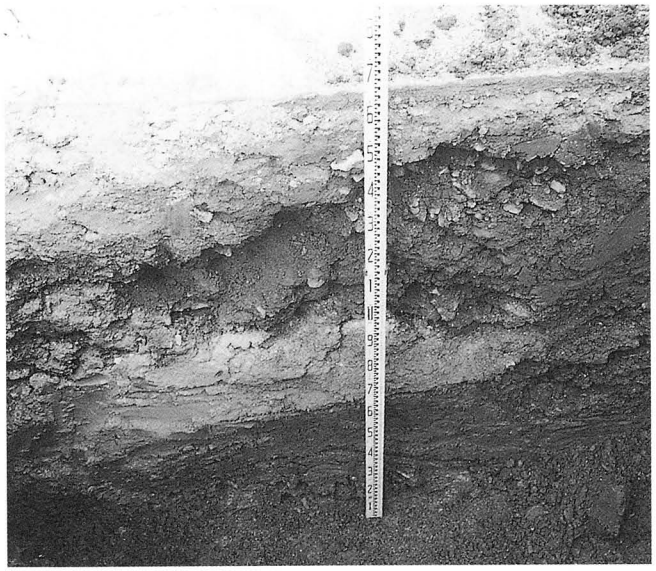
	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道管きょ築造工事（１－７）
2	調査地点	東大阪市上四条町376
3	調査面積	23㎡
4	調査期間	平成15年９月26日～９月29日（延べ２日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は柄池公園の東である。当地点は山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ27mの間であり、開削工法である。



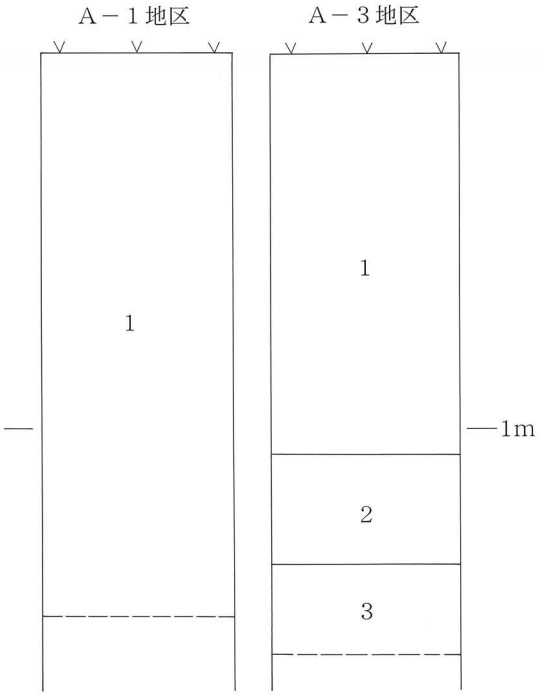
調査地点位置図（１/2500）

調査地遠景

Ａ－１地区土層断面



Ａ－３地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－１地区の層序

第１層　盛土。

Ａ－３地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(10YR2/2)細粒砂混じり粘質シルト。

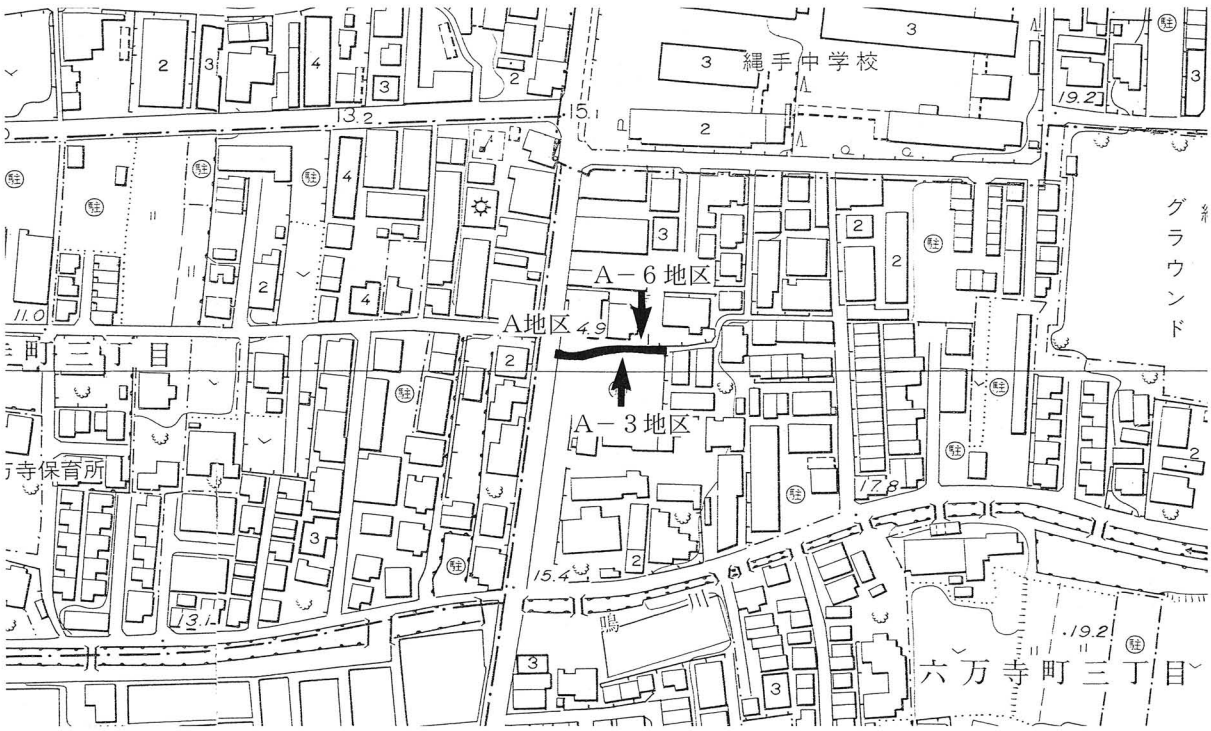
第３層　黒褐色(10YR2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第34章　段上（だんのうえ）・縄手（なわて）遺跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成14年度公共下水道管きょ築造工事（1－11）
2	調査地点	東大阪市六万寺町３丁目1329～1330
3	調査面積	48㎡
4	調査期間	平成15年10月１日～10月17日（延べ９日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手中学校の南である。当地点は段上・縄手遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ55mの間であり、開削工法である。

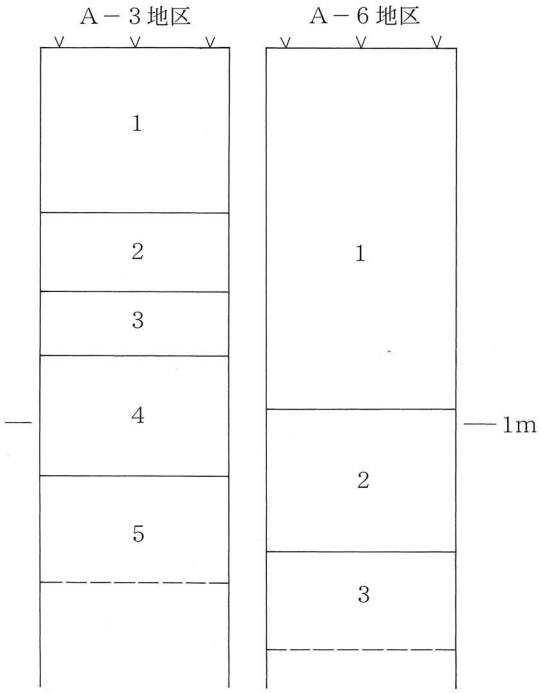


調査地点位置図（1/2500）

調査地遠景

Ａ－３地区土層断面

Ａ－６地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－３地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。

第３層　黒褐色(2.5GY3/1)中粒砂～中礫混じり粘質シルト。

第４層　黒色(2.5GY2/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第５層　黒色(2.5GY2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

Ａ－６地区の層序

第１層　盛土。

第２層　緑黒色(5G2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

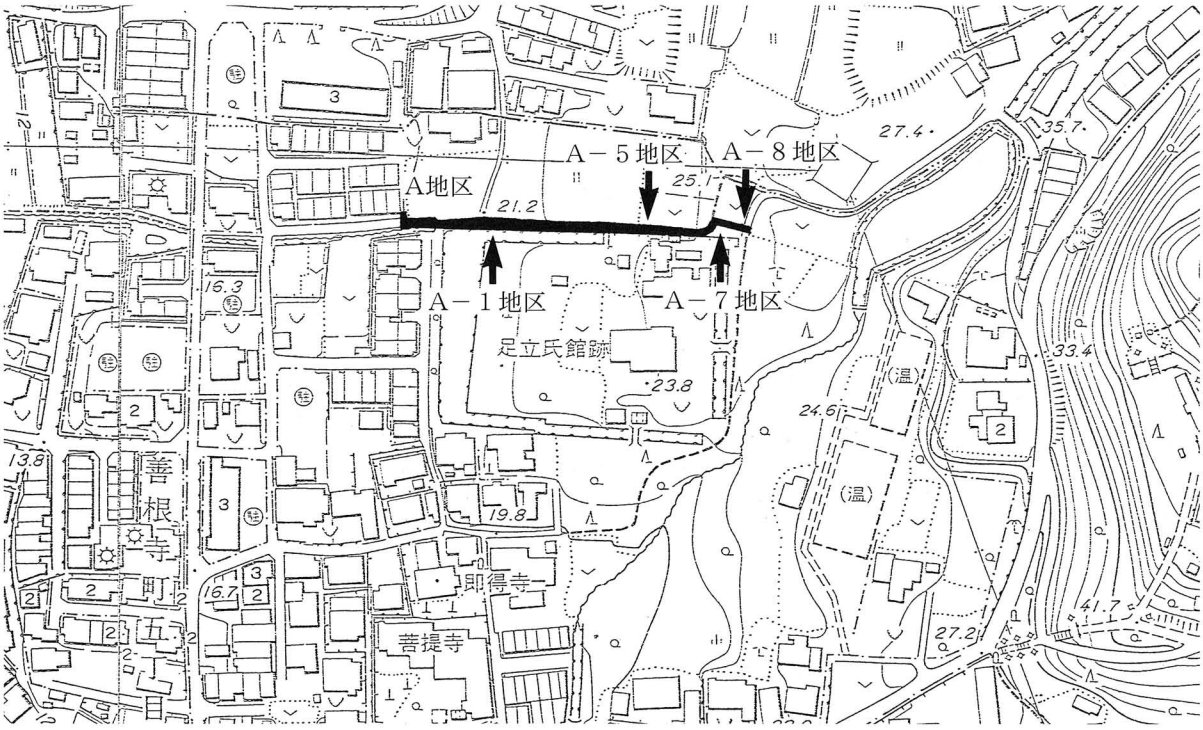
第３層　暗緑灰色(5G3/1)中粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

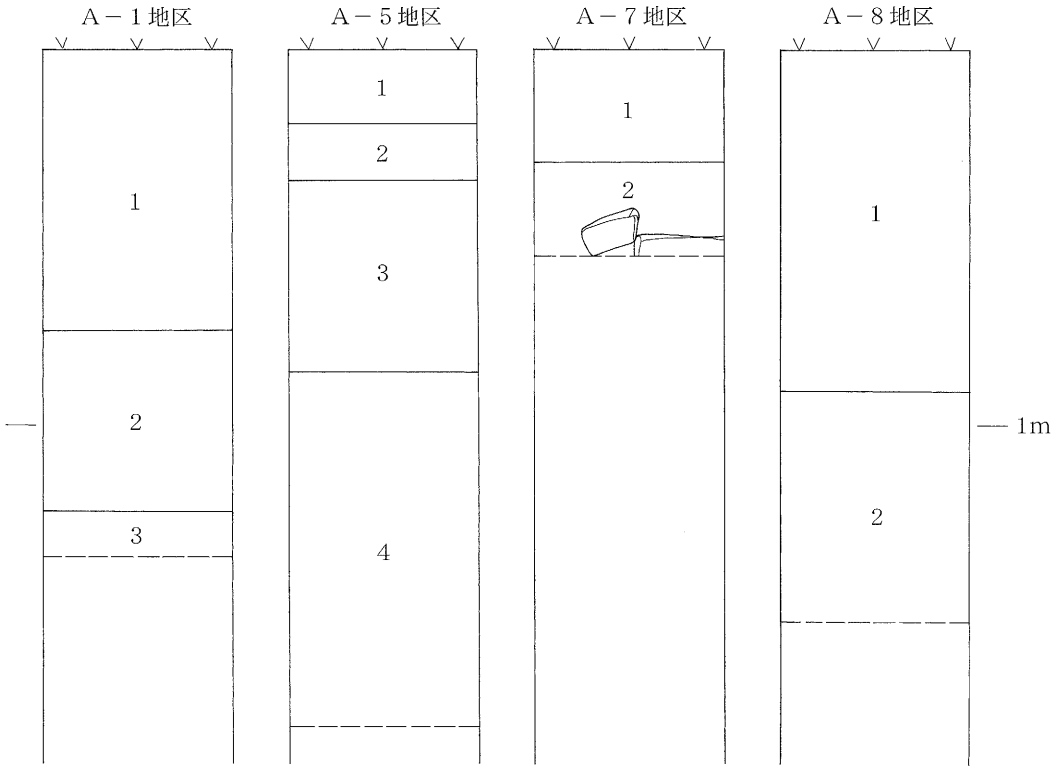
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第35章　足立氏館跡の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成15年度公共下水道第22工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市善根寺町６丁目9～13
3	調 査 面 積	98㎡
4	調 査 期 間	平成15年10月17日～11月４日（延べ８日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は善根寺春日神社の西でである。当地点は足立氏館跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ115mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（１/2500）



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A－1地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y5/2)小礫混じり中粒砂。

第3層　褐灰色(10YR4/1)小礫混じり粘質シルト。

A－5地区の層序

第1層　盛土。

第2層　暗灰黄色(2.5Y5/2)中粒砂混じり粘質シルト。

第3層　暗灰黄色(2.5Y5/2)粗粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第4層　黄褐色(10YR5/6)小礫混じり粗粒砂。

A－7地区の層序

第1層　盛土。

第2層　明赤褐色(5YR5/6)粗粒砂。

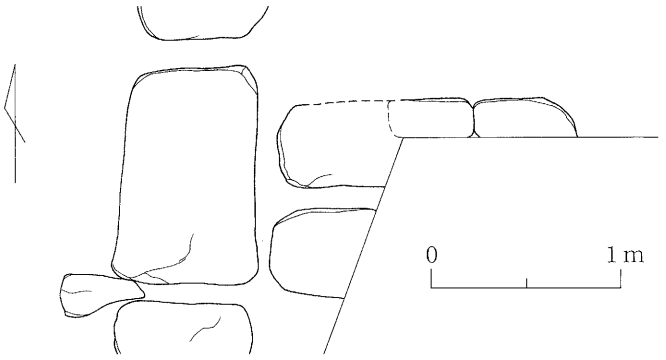
A－8地区の層序

第1層　盛土。

第2層　明赤褐色(5YR5/6)粗粒砂～中礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

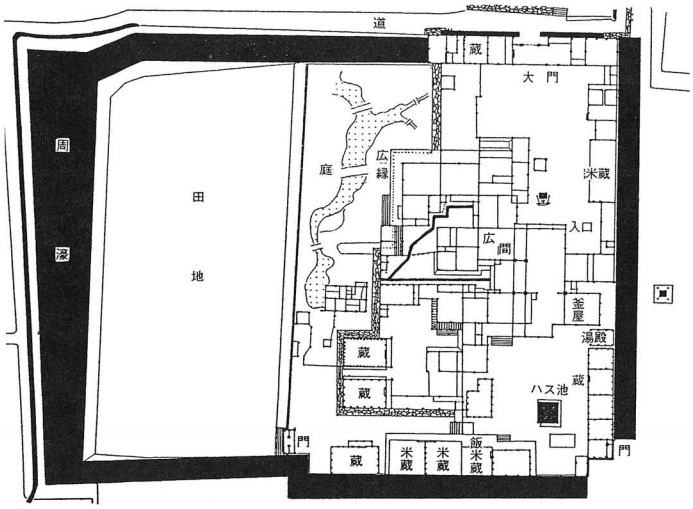
A－7地区で南から北に伸びる石敷きを検出した。立会調査のため詳細は確認できなかったが幅約2mを測る。石は大小合わせて8個確認した。大きい石で1.2mの



石敷き遺構平面略図

ものを使用していた。

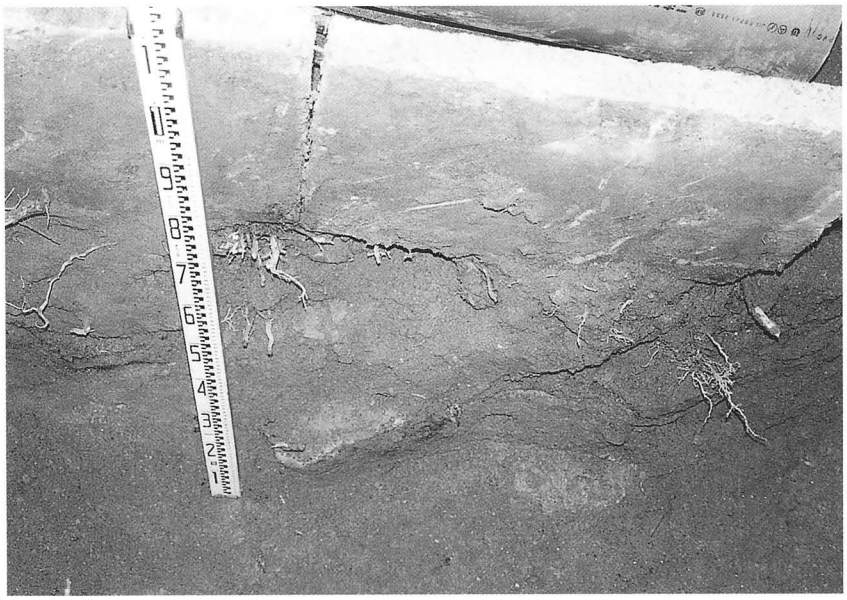
足立氏屋敷跡は江戸時代の遺跡であり、現在でも堀が残っている。延宝８(1680)年の足立氏屋敷古図を見るとＡ－７地区は大門に位置する。門より北に向かって石敷きが描かれており、今回、検出した遺構の可能性が高い。



足立氏屋敷古図

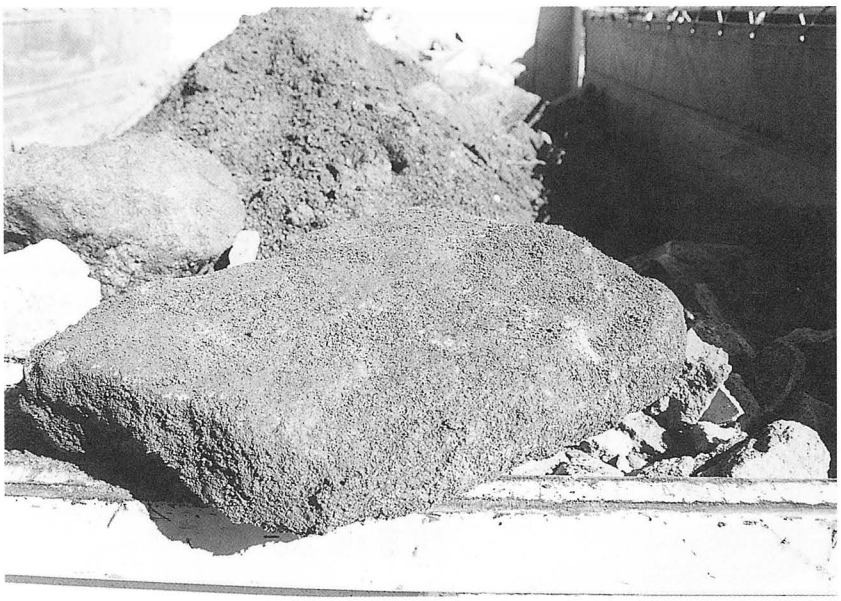
調査地遠景

Ａ－１地区土層断面



Ａ－７地区土層断面

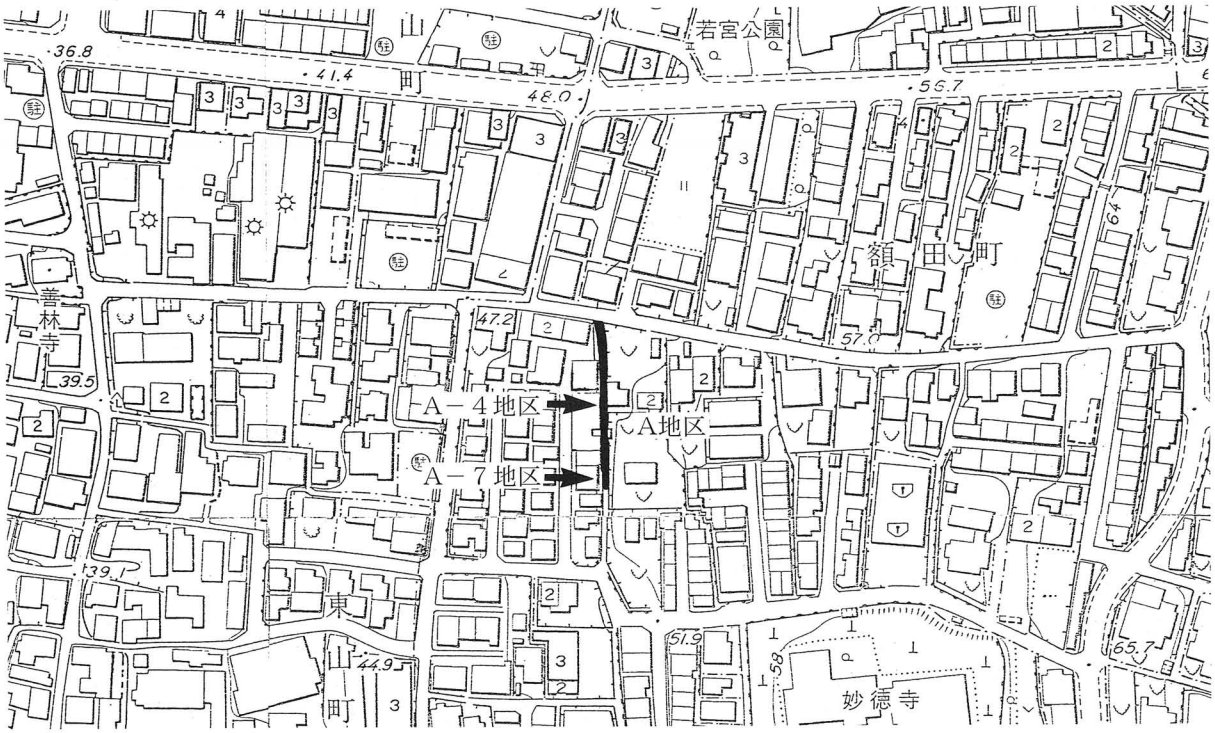
石敷き検出状況



石敷き取り上げ状況

第36章　若宮古墳群（わかみや）の調査

	名　　称	内　　容
1	事　業　名	平成15年度公共下水道第27工区管きょ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市箱殿町867～988
3	調 査 面 積	74㎡
4	調 査 期 間	平成15年10月30日～11月13日（延べ６日）
5	報 告 担 当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線額田駅の西である。当地点は若宮古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ86mの間であり、開削工法である。

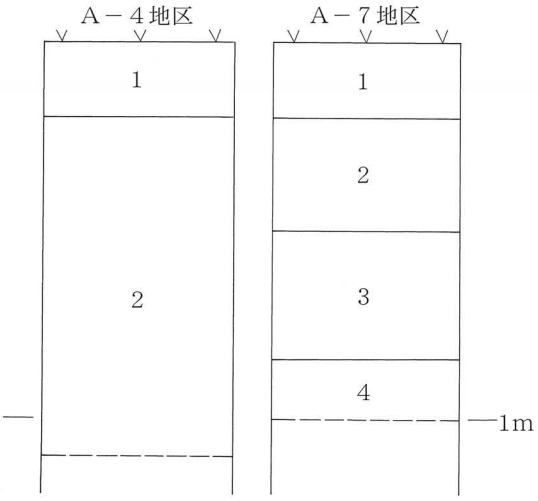


調査地点位置図（１/2500）

調査地遠景

調査地遠景

Ａ－４地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

Ａ－４地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(10YR3/2)細粒砂～大礫混じり粘質シルト。

Ａ－７地区の層序

第１層　盛土。

第２層　黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第３層　黒色(5Y2/1)細粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第４層　オリーブ黒色(5Y2/2)中粒砂～中礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告
－平成15年度－
平成16年３月31日
発行所　東大阪市教育委員会
印刷所　グランド印刷株式会社